

加古川市子どもの生活に関する アンケート調査結果報告書

平成30年3月

加古川市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の概要	2
2.	貧困に関する分析の視点について	3
3.	報告書の見方	6
II	保護者調査	7
1.	回答者について	8
2.	家庭の状況について	15
3.	暮らしの状況について	35
4.	子どもとの関わりかたについて	43
5.	必要な支援について	60
III	児童生徒調査	63
1.	回答者について	64
2.	学校や勉強について	70
3.	放課後のすごしかたについて	80
4.	平日（月曜日～金曜日）のすごしかたについて	82
5.	家でのことについて	86
6.	回答者の考えについて	97
IV	分析・考察	107
1.	全国調査との比較からみた加古川市の特徴	108
2.	家庭環境の影響について	121
3.	子どもの貧困問題に関する本市の現状と課題について	128

I 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本市における子育て世帯の生活や経済的な状況が、子どもとその家族の生活にどのように影響しているのかを調査・分析し、子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の可能性を追い求めることができるよう、さまざまな施策を検討するための基礎資料とすることを目的としています。

(2) 調査方法

加古川市の市立小中学校に通う子どもとその保護者を対象としたアンケート調査票を、学校を通じて配布・回収しました。

調査期間は平成 29 年 10 月 10 日から平成 29 年 10 月 25 日です。

(3) 調査対象者

アンケート調査の調査対象者は、加古川市立の小学校の 1 年生 1,127 人の保護者、5 年生 1,081 人の子どもと保護者、加古川市立の中学校の 2 年生 1,106 人の子どもと保護者の、計 5,501 人です。加古川市立の全小中学校を対象に学校規模等を考慮してクラス単位で対象を選定しています。なお、加古川市立の小・中学校に在籍する調査対象学年の児童・生徒数は、全体の 9 割以上となっています。

(4) 回収結果

アンケートの回収結果は以下のとおりです。小学 5 年生と中学 2 年生については、子どもと保護者のアンケートの両方に回答があるもの（親子ペア）を有効回答とし、本報告書の分析の対象としています。

■ アンケート回収結果

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
小学 1 年生調査	保護者：1,127	保護者：1,053	保護者：1,047	92.9%
小学 5 年生調査	子ども：1,081 保護者：1,081 計：2,162	子ども：1,005 保護者：1,005 計：2,010	子ども：983 保護者：983 計：1,966	90.9%
中学 2 年生調査	子ども：1,106 保護者：1,106 計：2,212	子ども：1,004 保護者：1,004 計：2,008	子ども：981 保護者：981 計：1,962	88.7%
合計	子ども：2,187 保護者：3,314 計：5,501	子ども：2,009 保護者：3,062 計：5,071	子ども：1,964 保護者：3,011 計：4,975	子ども：89.8% 保護者：90.9% 計：90.4%

2. 貧困に関する分析の視点について

(1) 相対的貧困世帯

①定義

平成 28 年国民生活基礎調査では、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した、世帯員 1 人あたりの可処分所得）の中央値の半分である 122 万円を貧困線としています。本調査では、この貧困線を基に算定した世帯収入を下回る世帯を「相対的貧困世帯」、それ以外の世帯を「非相対的貧困世帯」と定義し、アンケート調査の項目ごとにそれぞれの世帯を比較し、分析を行いました。

※可処分所得：給与などの収入から支払い義務のある税金や社会保険料などを除いた残りの手取り収入

②具体的な選定手法

本調査では、世帯収入について、可処分所得ではなく税込みの収入で回答を得ています。そこで、前述した貧困線に対応する税込みの世帯収入を概算し、相対的貧困世帯の区分を選定しました。

具体的には、内閣府「親と子の生活意識に関する調査」（平成 23 年）と同じ手法を用いています。

はじめに、平成 28 年国民生活基礎調査における所得 5 分位階級（全ての世帯を収入の低い方から順番に並べ、それを 5 等分して 5 つのグループを作った場合の各グループ）ごとに、平均可処分所得（手取り収入）に対する平均所得（税込み収入）の比となる係数を算出します（表 A）。

次に、平成 28 年国民生活基礎調査の貧困線（1 人あたり 122 万円）から、世帯人員別に貧困線を算出し、それぞれに対応する表 A の係数を乗じて貧困線の値に対応する世帯収入を概算します。この世帯収入を下回る区分を相対的貧困世帯としました（表 B）。

■表 A 所得 5 分位階級ごとの係数（平均可処分所得に対する平均所得の比）

	1 世帯あたり平均所得 (a) ※税込み収入	平均可処分所得 (b) ※手取り収入	係数 (a/b)
第 I (～200 万円)	126.2 万円	114.1 万円	1.11
第 II (200～347 万円)	271.9 万円	237.3 万円	1.15
第 III (347～529 万円)	431.3 万円	358.3 万円	1.20
第 IV (529～800 万円)	654.9 万円	528.8 万円	1.24
第 V (800 万円～)	1244.8 万円	952.7 万円	1.31

※平成 28 年国民生活基礎調査結果（調査年は平成 27 年）より作成。「1 世帯あたり平均所得」は税込み収入、「平均可処分所得」は手取り収入に該当します。

■表B 世帯人員ごとの相対的貧困となる区分

世帯人員	世帯人員別の貧困線	係数	対応する世帯収入	相対的貧困世帯となる区分
2人	173万円	1.11	192万円	200万円未満
3人	211万円	1.15	243万円	250万円未満
4人	244万円	1.15	281万円	250万円未満
5人	273万円	1.15	314万円	300万円未満
6人	299万円	1.15	344万円	350万円未満
7人	323万円	1.15	371万円	350万円未満
8人	345万円	1.15	397万円	400万円未満
9人	366万円	1.20	439万円	450万円未満
10人	386万円	1.20	463万円	450万円未満

※「係数」は表Aを参照。「世帯人員別の貧困線」は可処分所得（手取りの収入）に基づく基準であり、「対応する世帯収入」は税込み収入、「相対的貧困世帯となる区分」は本調査で回答を得た世帯全員の税込み収入です。

■参考 内閣府「親と子の生活意識に関する調査」（平成23年）における相対的貧困区分

世帯人員	世帯人員別の貧困線	係数	対応する世帯収入	相対的貧困世帯となる区分
2人	177万円	1.11	196万円	200万円未満
3人	217万円	1.15	249万円	250万円未満
4人	250万円	1.15	288万円	250万円未満
5人	280万円	1.15	321万円	300万円未満
6人	306万円	1.15	352万円	350万円未満
7人	331万円	1.18	390万円	350万円未満
8人	354万円	1.18	417万円	400万円未満

上記に基づいて算出した、本調査における相対的貧困世帯の割合は以下のとおりです。全体では、9.9%が相対的貧困世帯となっています。

なお、平成28年国民生活基礎調査では、子どもの相対的貧困率（貧困線を下回る18歳未満の子どもの割合）は13.9%ですが、調査方法が異なるため本調査との単純な比較はできません。

■学年別にみた相対的貧困世帯の件数と割合

調査区分	N	判定不能	有効数	相対的貧困世帯		非相対的貧困世帯	
				件	%	件	%
小学1年生	1,047	75	972	87	9.0	885	91.0
小学5年生	983	89	894	79	8.8	815	91.2
中学2年生	981	83	898	107	11.9	791	88.1
全体	3,011	247	2,764	273	9.9	2,491	90.1

※上記の数値は、相対的貧困世帯の判定に必要な世帯人員と世帯収入のいずれかが無回答のデータを判定不能とし、それらを除いたものを有効数として算定しています。

（２）ひとり親世帯

本調査で注目するもう一つの世帯類型が、「ひとり親世帯」です。ひとり親世帯のなかでも特に母子世帯については、経済的に厳しい状況にあることが多く、平成 28 年国民生活基礎調査においても、ひとり親世帯の相対的貧困率が 50.8%と半数を超えています。また、経済的な支援の必要性だけではなく、ひとり親世帯に特有の、暮らしや教育に関する課題があることも考えられます。そこで、相対的貧困世帯、非相対的貧困世帯に加えて、ひとり親世帯についても相対的貧困世帯、非相対的貧困世帯に区分し集計した結果を示しています。

本報告書では、以下の質問について、2～6の選択肢を回答した保護者の世帯を「ひとり親世帯」としています。

■保護者調査 質問１０ あなたのご家庭は、ひとり親家庭に該当しますか。

※法律上の婚姻でなくても、事実上の婚姻状態の場合は「１ 該当しない」に○

※離婚が成立していなくても、事実上の離婚状態の場合は「２ 該当する（別居）」に○

１ 該当しない	４ 該当する（離婚）
２ 該当する（別居）	５ 該当する（未婚）
３ 該当する（死別）	６ 該当する（その他）

本調査のひとり親世帯の件数と割合は以下のとおりです。全体では、母子世帯が 10.4%、父子世帯が 1.5%、ひとり親世帯の合計は 12.0%となっています。

■学年別にみたひとり親世帯の世帯数と割合

調査区分	N	母子世帯		父子世帯		判定不能		ひとり親世帯合計	
		件	%	件	%	件	%	件	%
小学１年生	1,047	92	8.8	18	1.7	1	0.1	111	10.6
小学５年生	983	99	10.1	16	1.6	2	0.2	117	11.9
中学２年生	981	121	12.3	12	1.2	1	0.1	134	13.7
全 体	3,011	312	10.4	46	1.5	4	0.1	362	12.0

※母子世帯か父子世帯かについては、回答者の子どもとの続柄や父母の就労に関する回答の状況から判定しています。ひとり親世帯合計には、母子世帯か父子世帯かの判定ができなかった世帯が含まれています。

また、ひとり親世帯に占める相対的貧困世帯の割合は、以下の表のとおりです。全体では、ひとり親世帯の相対的貧困率は 46.5%で、父子世帯より母子世帯の方が、相対的貧困世帯が多くなっています。

■ 学年別にみたひとり親世帯における相対的貧困世帯の数と割合

学年	世帯区分	N	判定 不能	有 効 世帯数	相対的貧困世帯		非相対的貧困世帯	
					件	%	件	%
小学 1 年生	母子世帯	92	4	88	35	39.8	53	60.2
	父子世帯	18	4	14	6	42.9	8	57.1
	判定不能	1	0	1	0	0.0	1	100.0
	合計	111	8	103	41	39.8	62	60.2
小学 5 年生	母子世帯	99	7	92	45	48.9	47	51.1
	父子世帯	16	0	16	4	25.0	12	75.0
	判定不能	2	0	2	0	0.0	2	100.0
	合計	117	7	110	49	44.5	61	55.5
中学 2 年生	母子世帯	121	4	117	66	56.4	51	43.6
	父子世帯	12	1	11	2	18.2	9	81.8
	判定不能	1	0	1	1	100.0	0	0.0
	合計	134	5	129	69	53.5	60	46.5
全 体	母子世帯	312	15	297	146	49.2	151	50.8
	父子世帯	46	5	41	12	29.3	29	70.7
	判定不能	4	0	4	1	25.0	3	75.0
	合計	362	20	342	159	46.5	183	53.5

※上記の数値は、相対的貧困世帯の判定に必要な世帯人員と世帯収入のいずれかが無回答のデータを除いたものです。なお、ひとり親世帯合計には、母子世帯か父子世帯かの判定ができなかった世帯が含まれています。

3. 報告書の見方

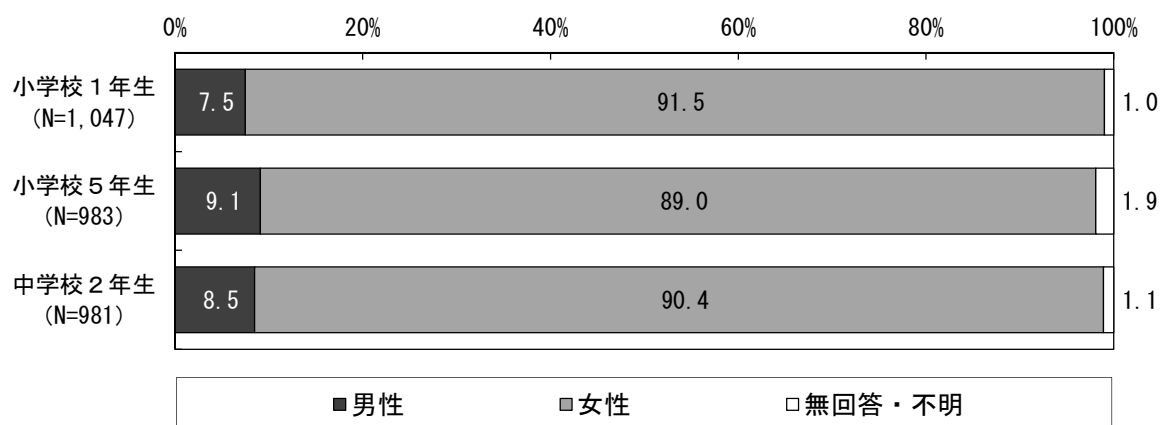
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答・不明」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（回答者を限定する設問の場合は限定条件に該当する人の総数）を表しています。
- 本文・図表中の設問の選択肢の表記は、スペースの都合等で簡略化している場合があります。

Ⅱ 保護者調査

1. 回答者について

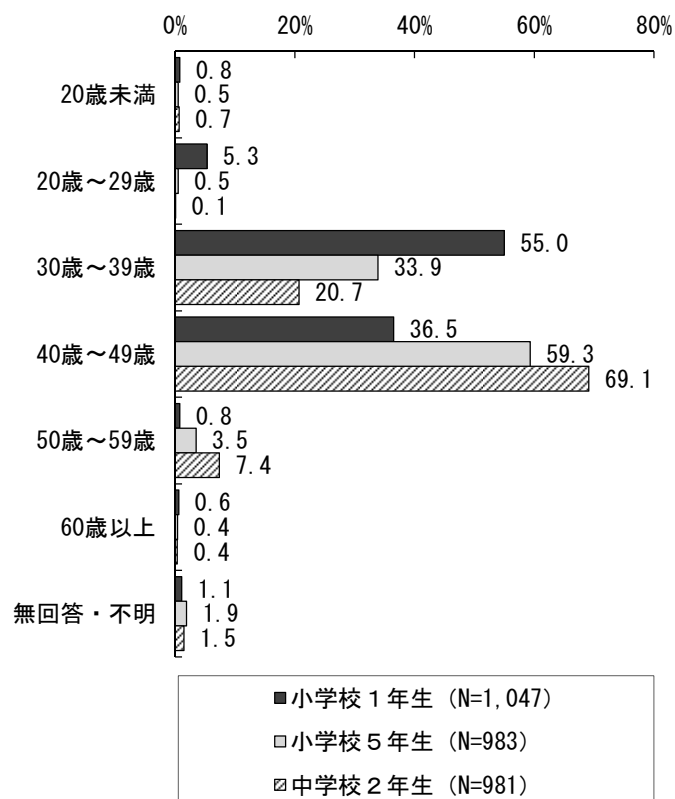
質問1 あなたの性別をお答えください。

いずれの学年も「女性」が9割前後となっています。



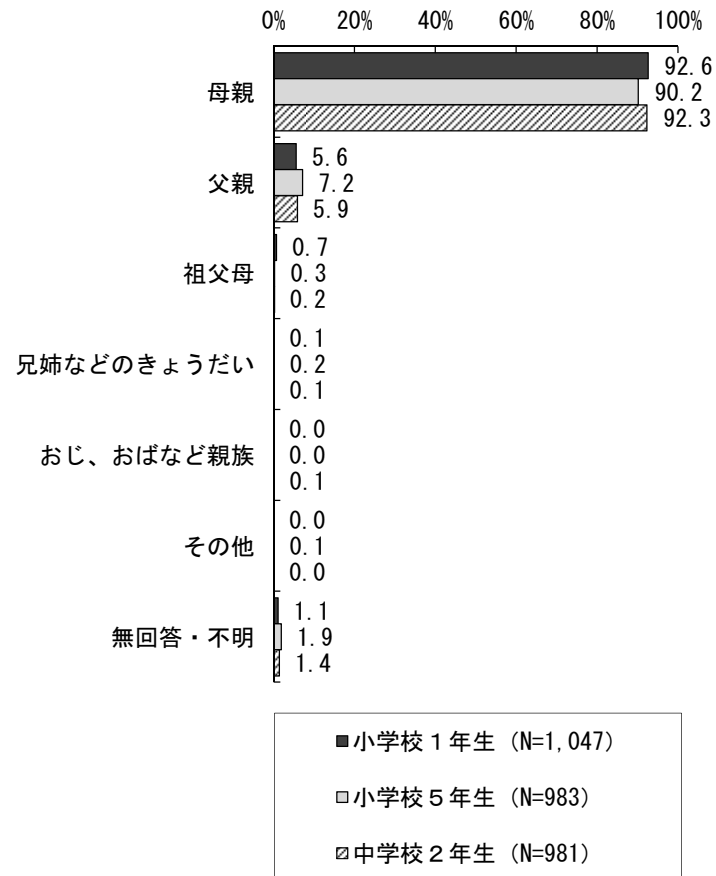
質問2 あなたの年齢をお答えください。

小学1年生では「30歳～39歳」が最も多く、小学5年生、中学2年生では「40歳～49歳」が最も多くなっています。



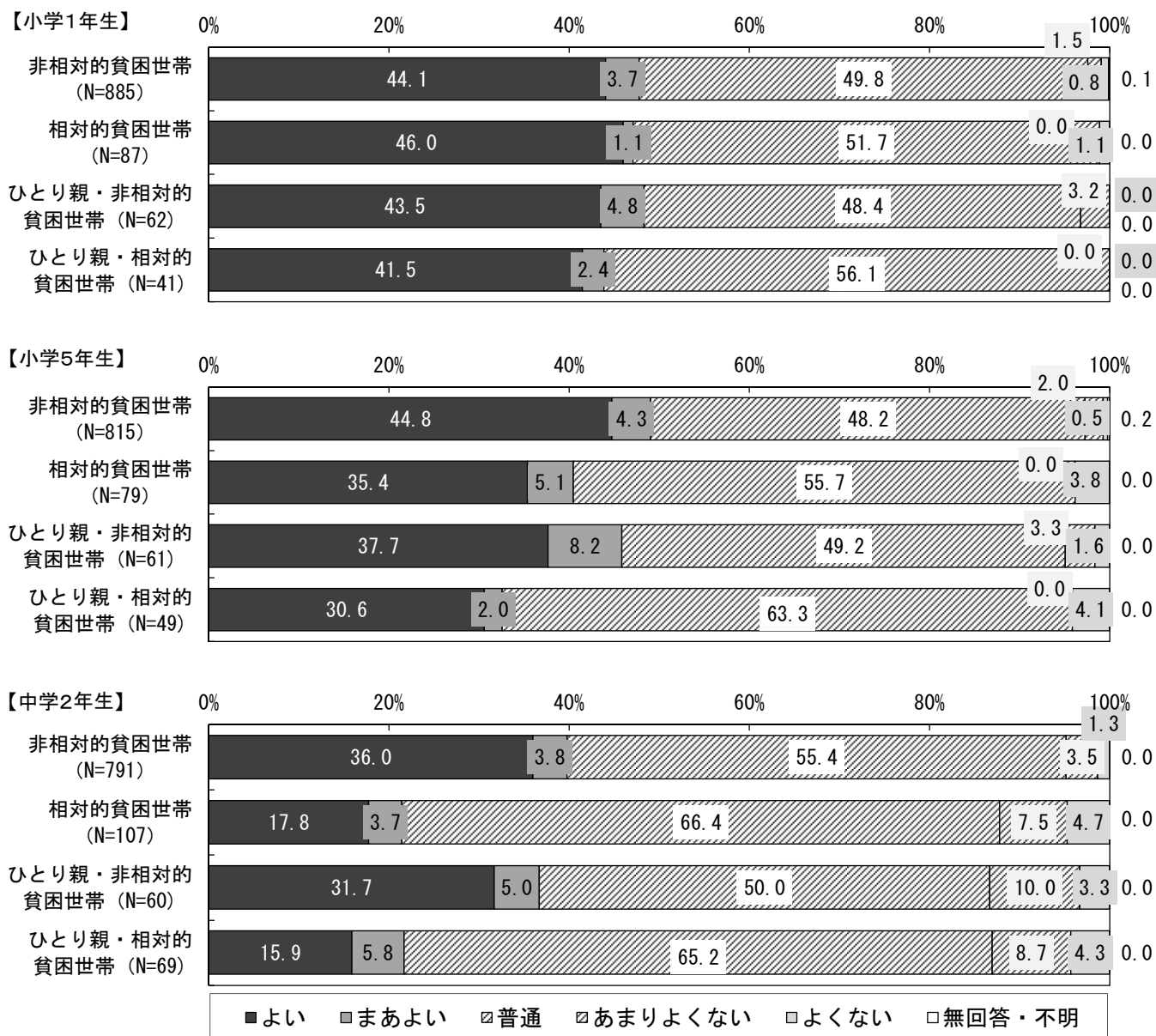
質問3 お子さんから見た、あなたの続柄をお答えください。

いずれの学年も、回答者の9割以上が「母親」となっています。



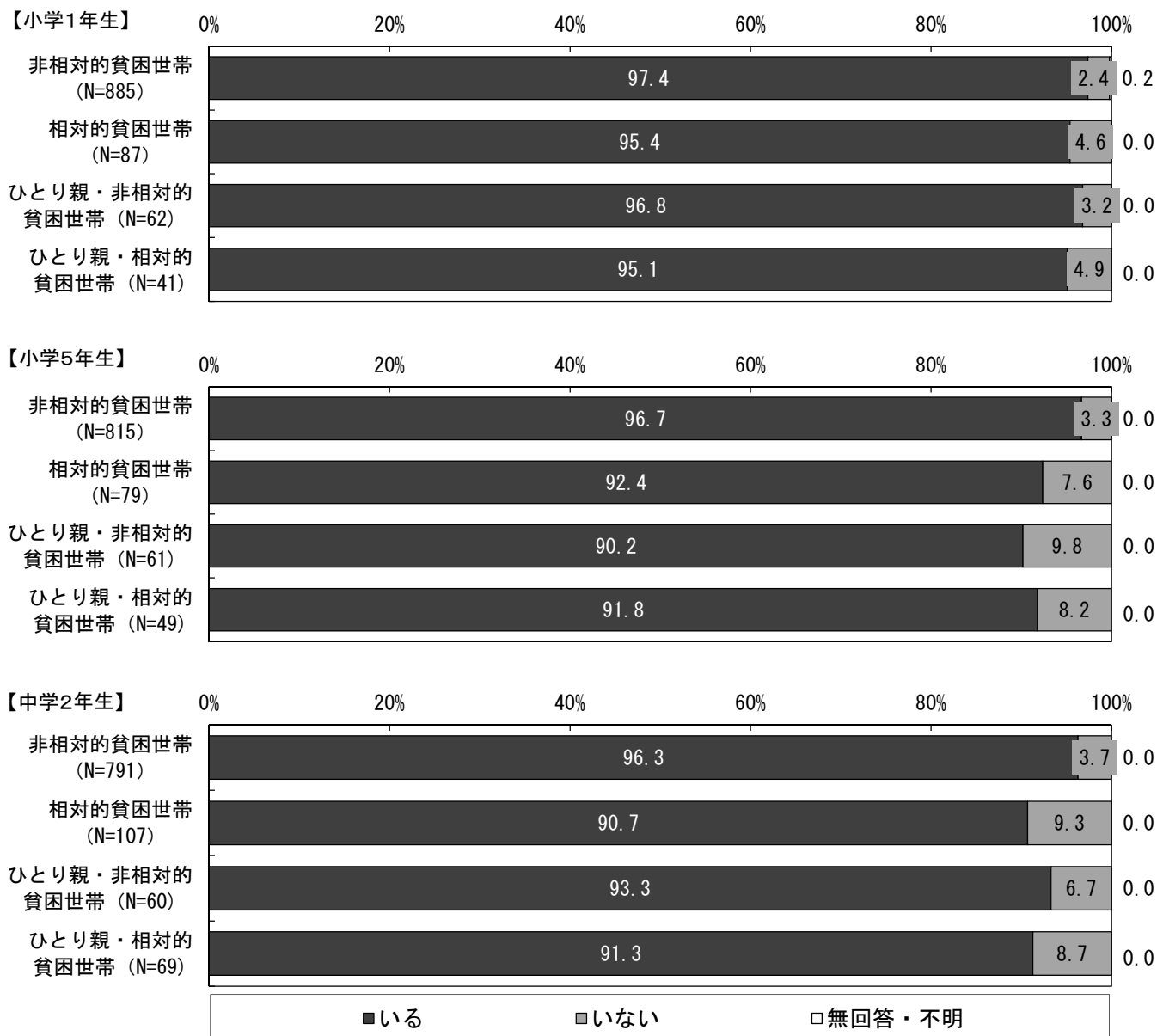
質問4 あなたの健康状態をお答えください。（1つに○）

小学1年生では世帯の状況による差は見られませんが、小学5年生、中学2年生では、相対的貧困世帯では「よい」が少なく、「普通」「あまりよくない」「よくない」が多くなっています。ひとり親世帯についても同様の傾向が見られます。



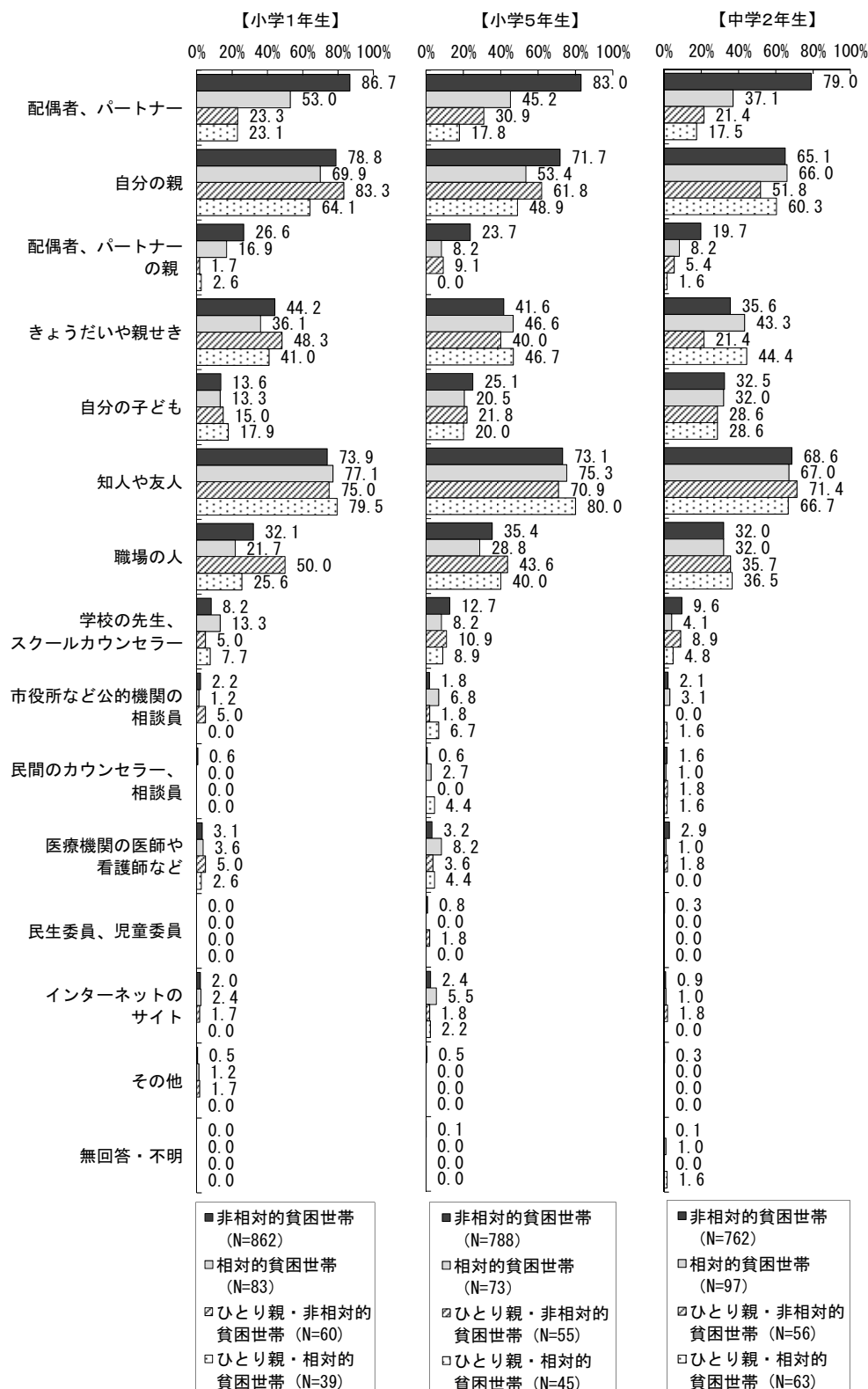
質問５－１ あなたは、困ったときや悩みがあるとき、相談できる人がいますか。

相談できる人が「いない」という回答は、非相対的貧困世帯では２～４％ですが、小学５年生、中学２年生の相対的貧困世帯、ひとり親世帯では６～１０％とやや多くなっています。



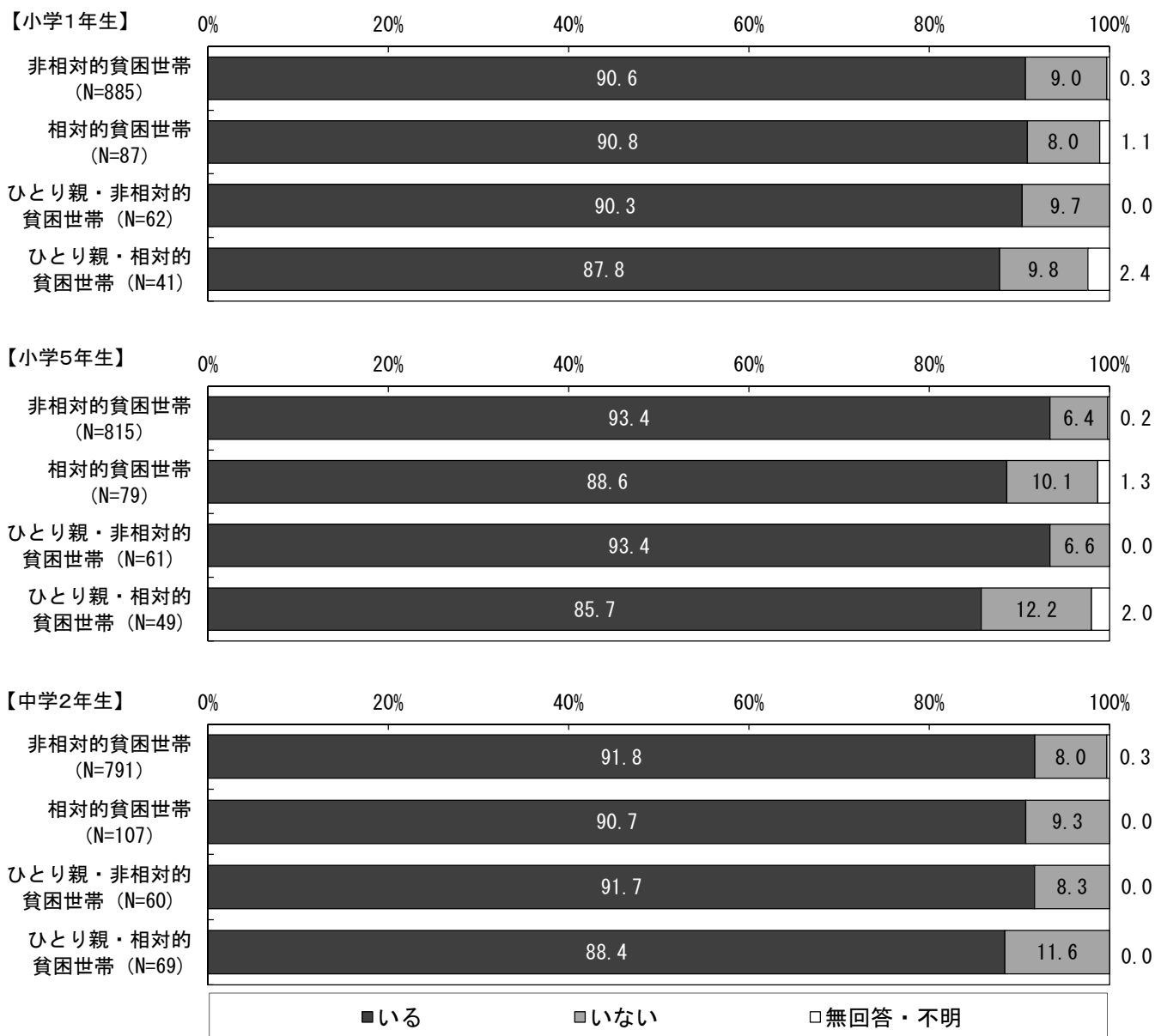
質問5-2 質問5-1で、「いる」と答えた方におたずねします。相談できる相手は、どのような人ですか。（当てはまるもの全てに○）

相対的貧困世帯では、「配偶者、パートナー」「配偶者、パートナーの親」という回答が少なく、「自分の親」という回答も、中学2年生を除くとやや少ない傾向です。ひとり親世帯でも同様の傾向が見られますが、ひとり親・非相対的貧困世帯では「職場の人」という回答が他の世帯類型より多くなっています。



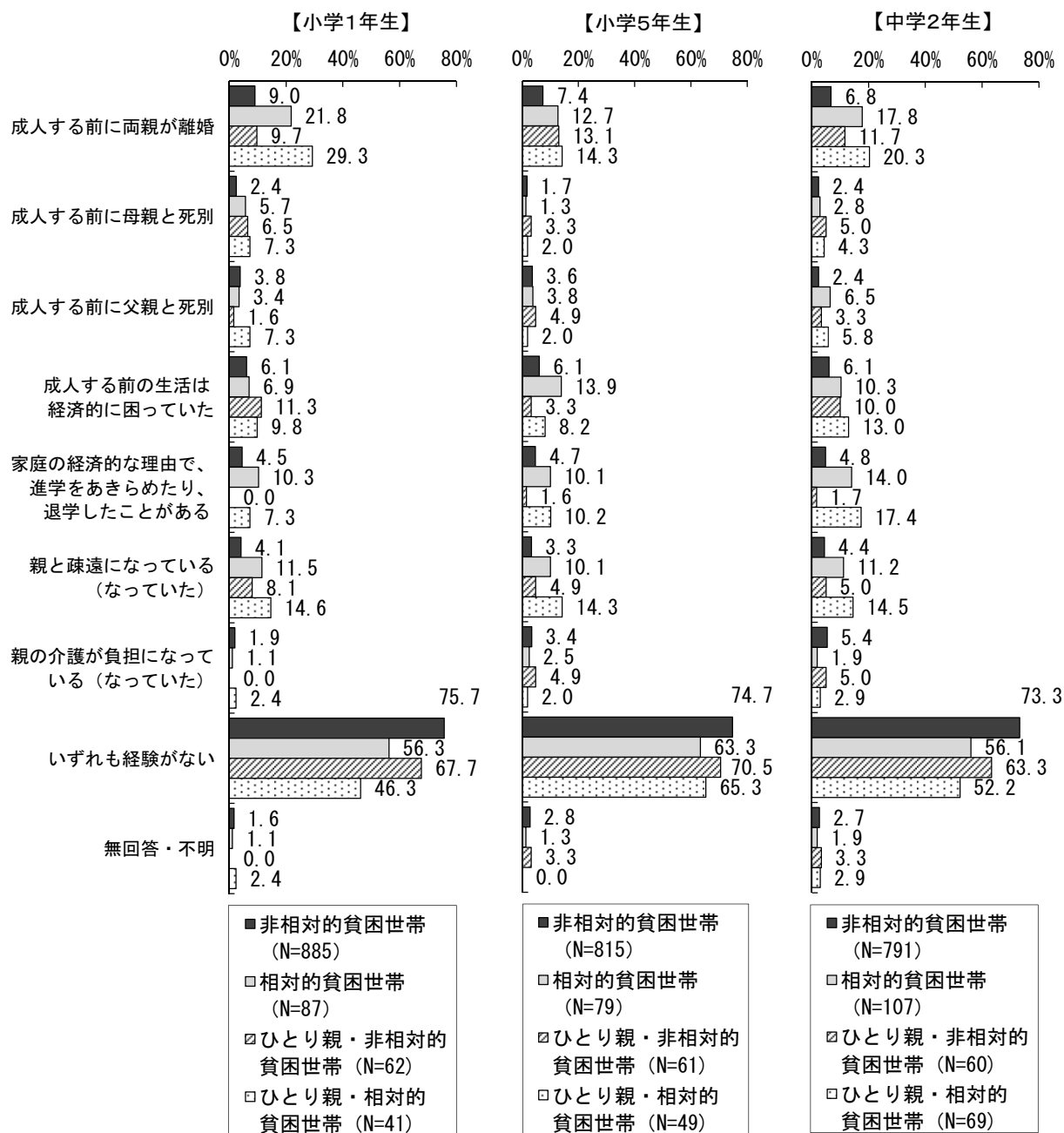
質問6 あなたは、緊急時にお子さんを預かったり、助けてくれる人がいますか。
(1つに○)

いずれの学年についても、約9割が「いる」と回答し、約1割が「いない」と回答しています。
ひとり親・相対的貧困世帯で、「いない」がやや多くなっています。



質問7 あなたは、次のような経験をしたことがありますか。(当てはまるもの全てに○)

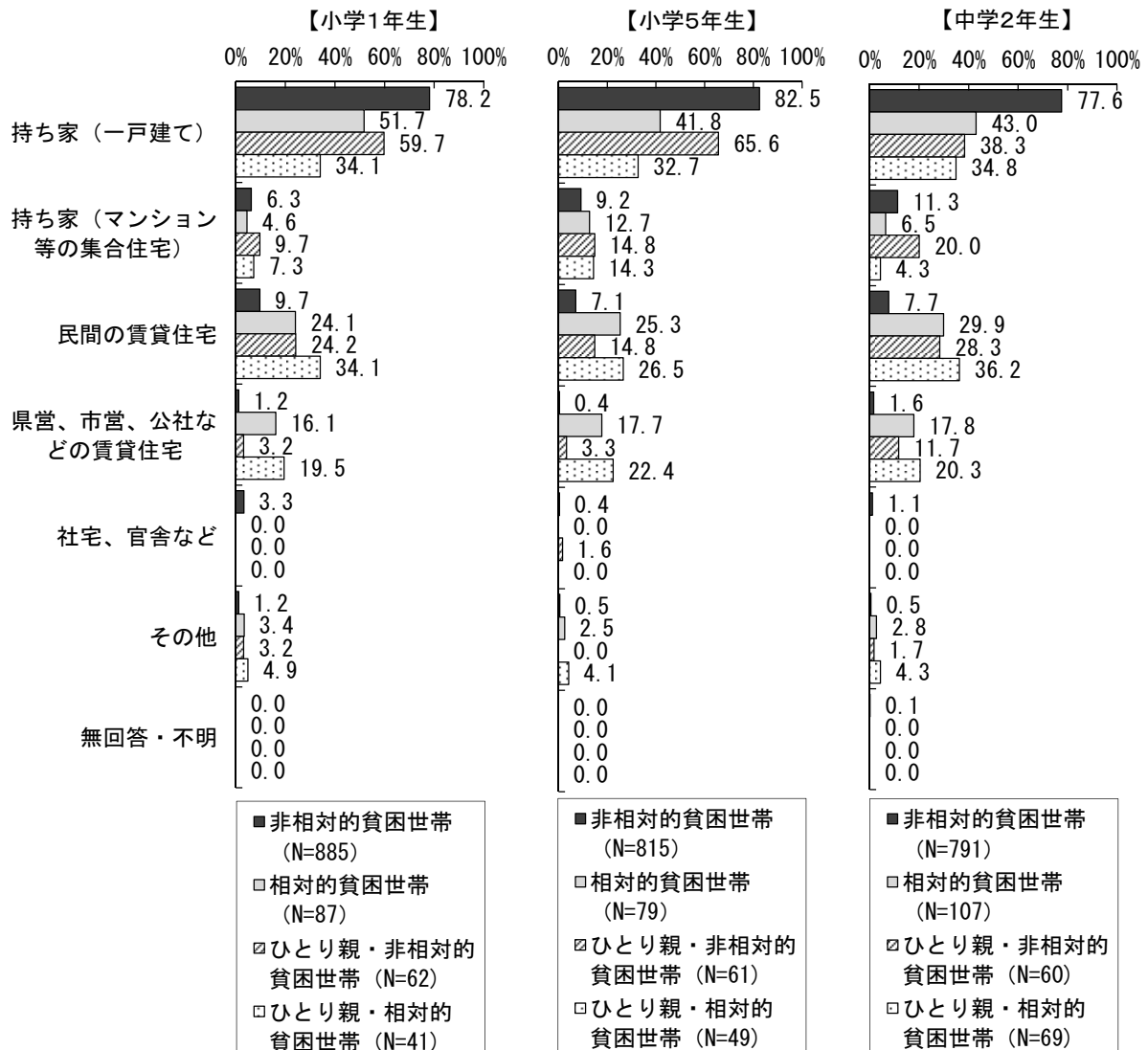
いずれの学年についても、非相対的貧困世帯より相対的貧困世帯の方が、「成人する前に両親が離婚」「成人する前の生活は経済的に困っていた」「家庭の経済的な理由で、進学をあきらめたり、退学したことがある」「親と疎遠になっている(なっていた)」が多くなっています。



2. 家庭の状況について

質問8 あなたの現在のお住まいについてお答えください。（1つに○）

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、「持ち家（一戸建て）」が少なく、民間または公営の「賃貸住宅」が多くなっています。

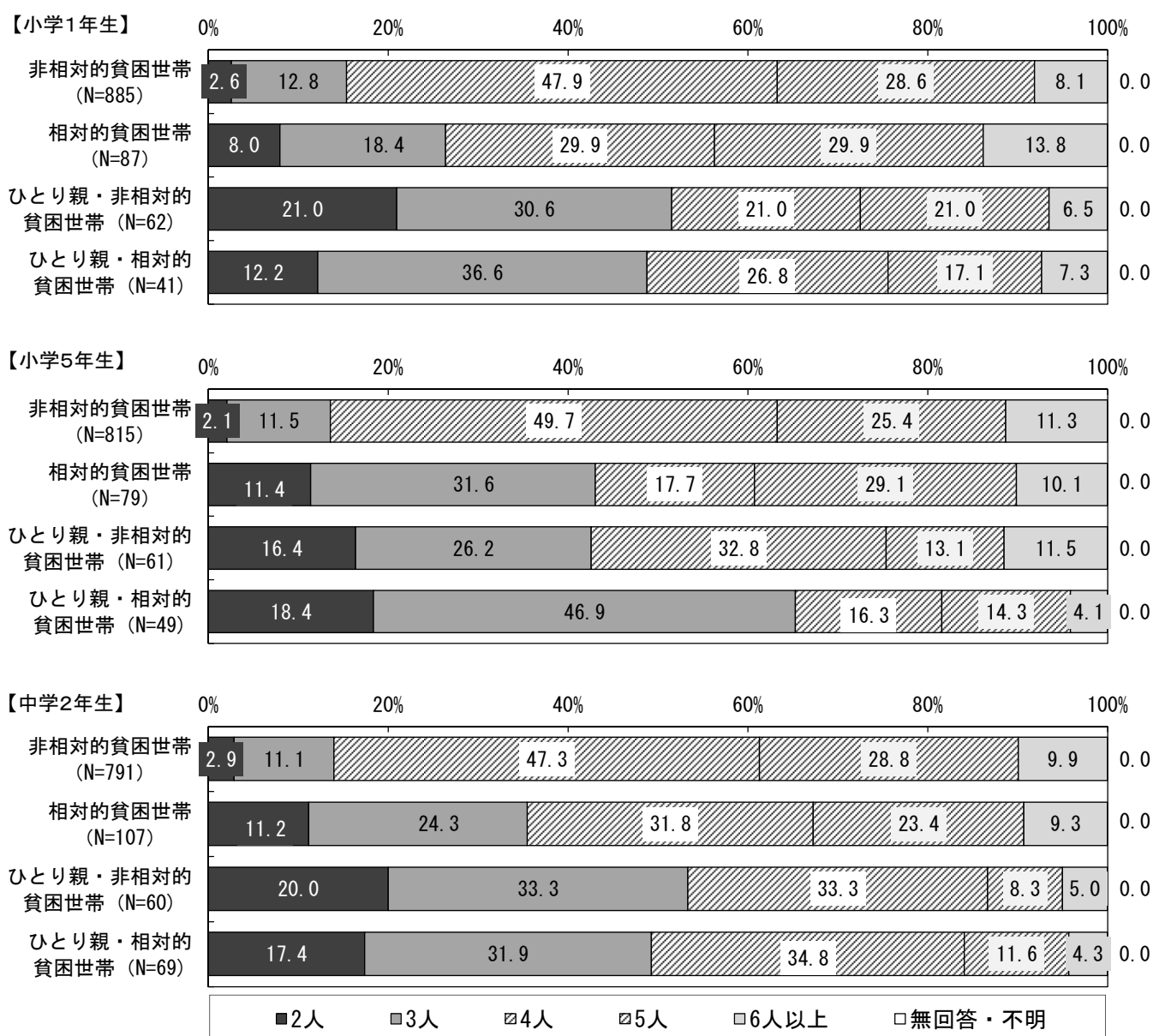


質問9 あなたのご家庭の世帯員（家族）の人数をお答えください。（人数を記入）

※世帯員とは、住居と家計を一緒にしている人をいいます。旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人も含みます。また、大学等で下宿のため仕送りをしている子どもも含みます。

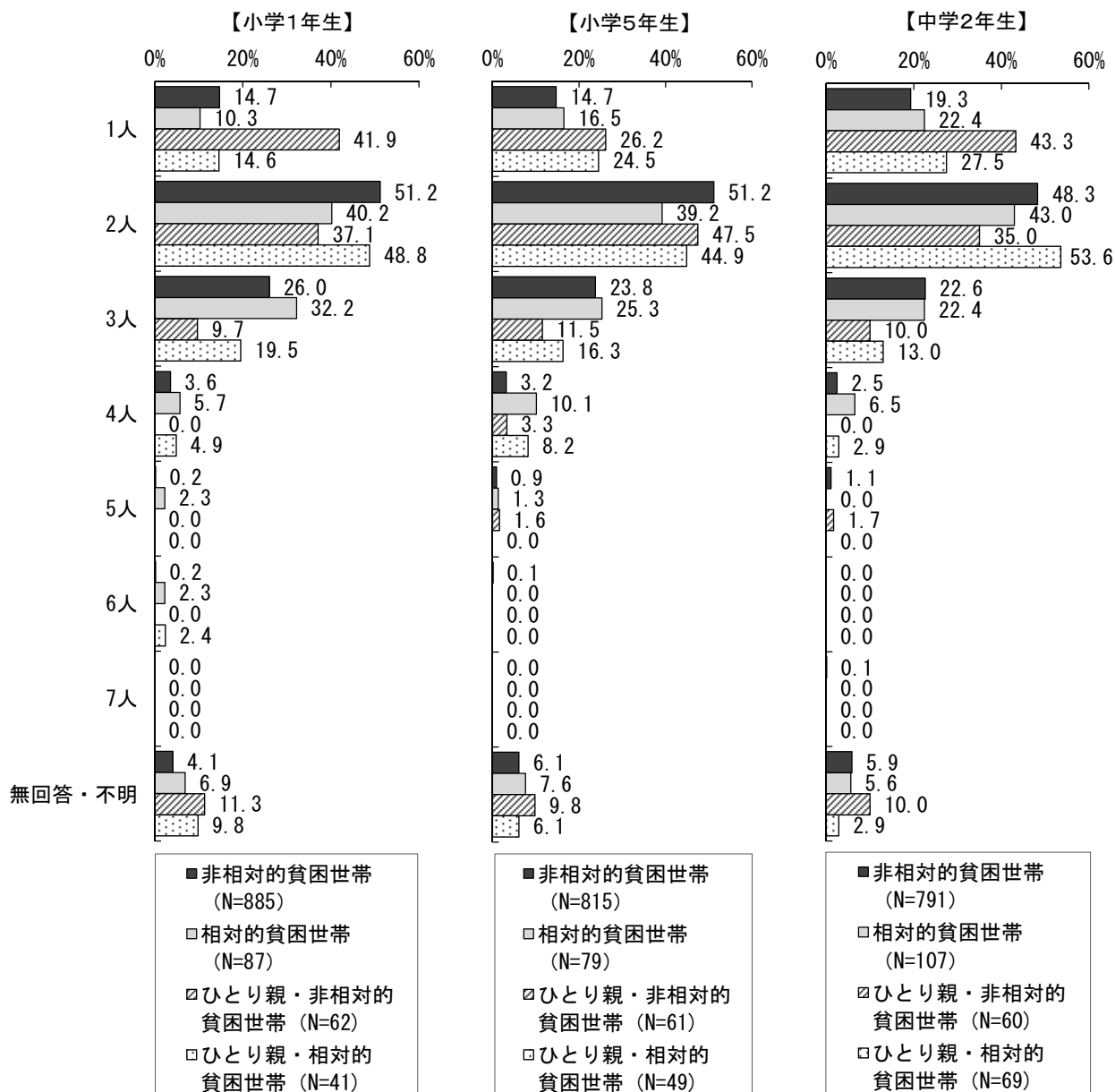
1 世帯員の人数（あなたも含めて）

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比べて3人以下が多く、小学1年生、小学5年生については5人以上もやや多くなっています。ひとり親世帯では、全体的に世帯員が少ない回答が多くなっています。



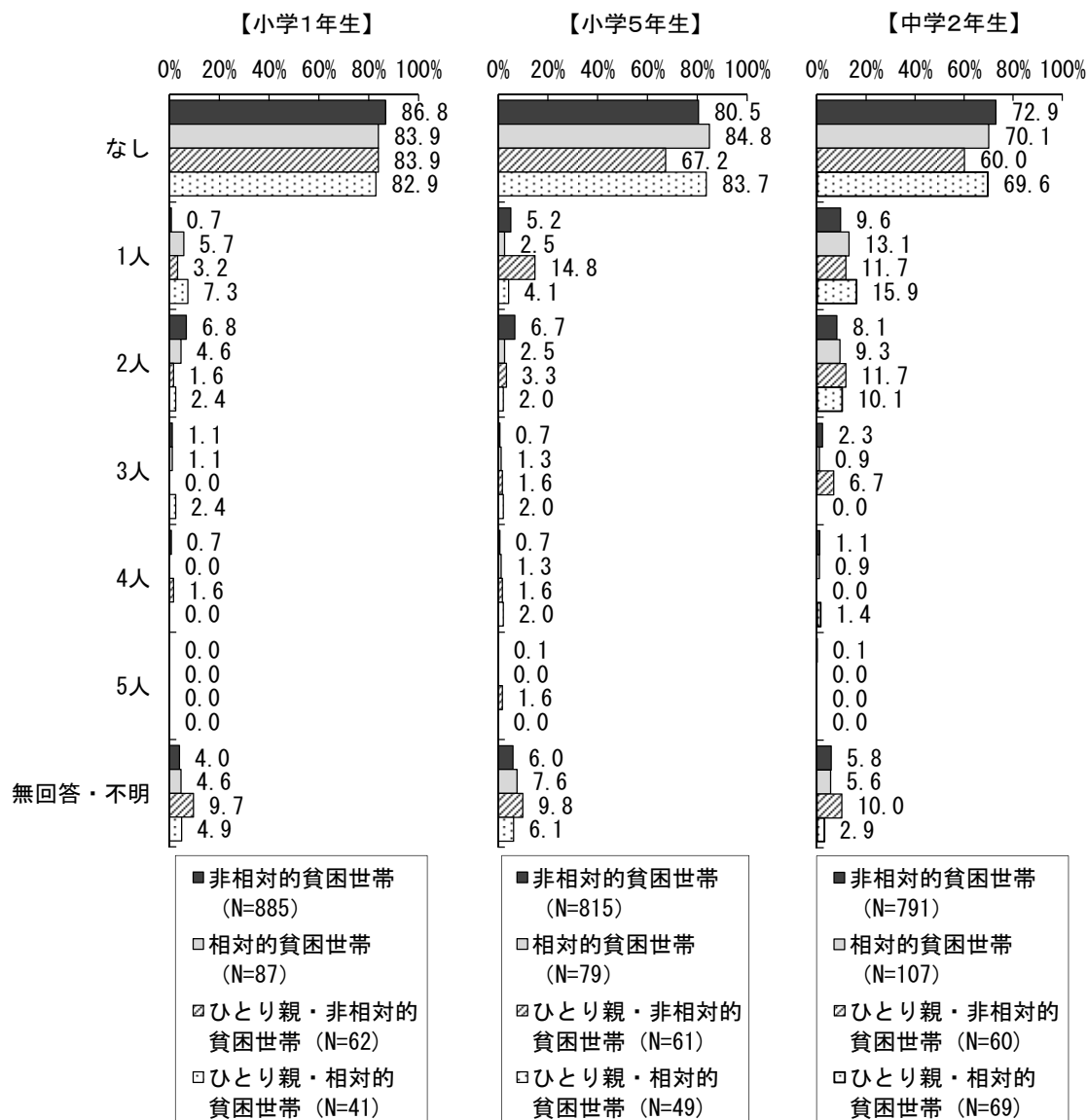
2 世帯員のうち、18歳未満の子どもの人数

18歳未満の子どもの人数については、小学1年生、小学5年生では、相対的貧困世帯は「1人」または「2人」という回答が少なく、3人以上の回答が多くなっています。ひとり親世帯では、比較的「1人」が多く、「3人以上」は少なくなっています。



3 世帯員のうち、18歳以上の子どもの人数

18歳以上の子どもの人数については、「なし」が多く、世帯の状況による明確な差は見られません。

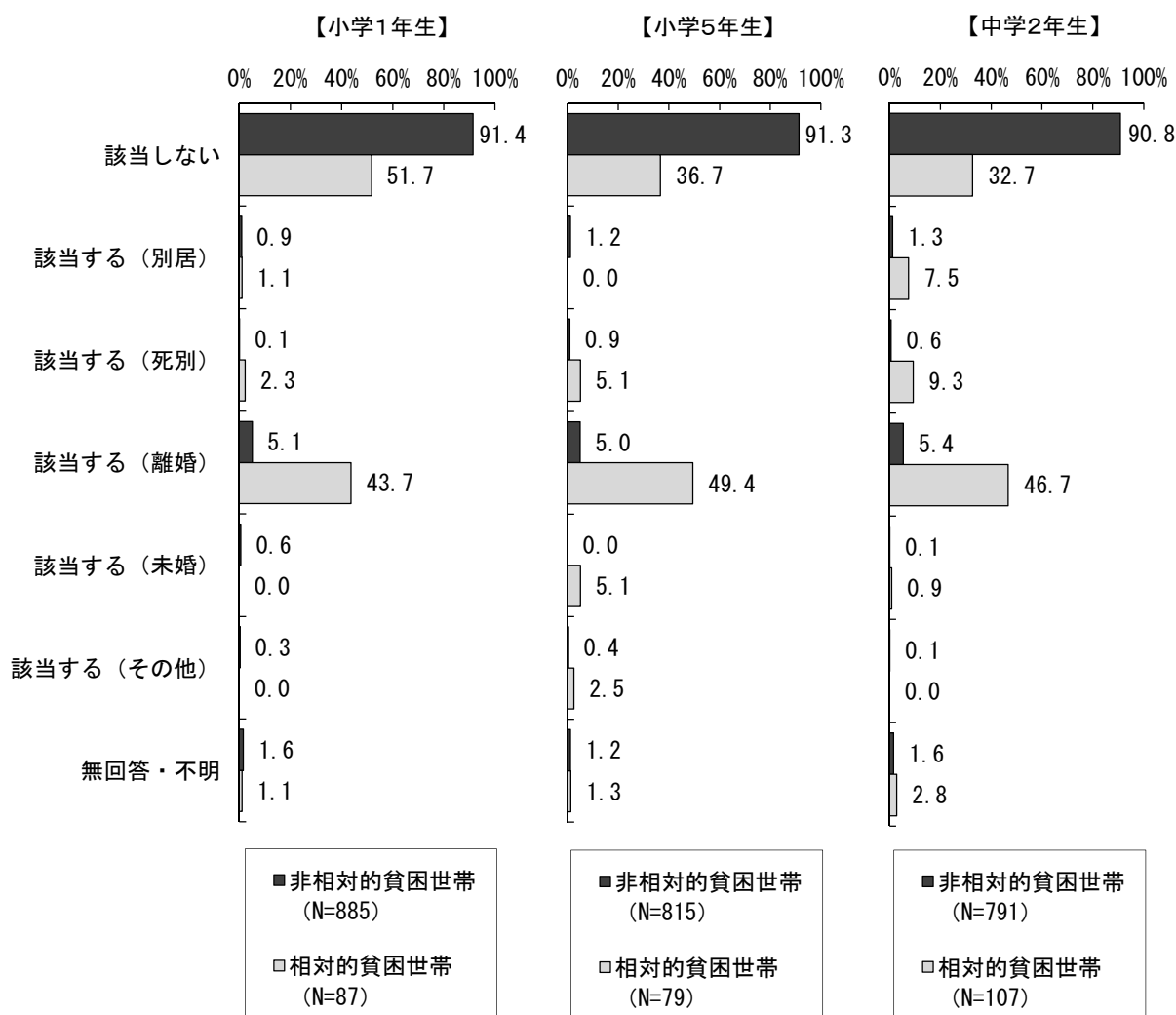


質問１０ あなたのご家庭は、ひとり親家庭に該当しますか。（１つに○）

※法律上の婚姻でなくても、事実上の婚姻状態の場合は「該当しない」に○

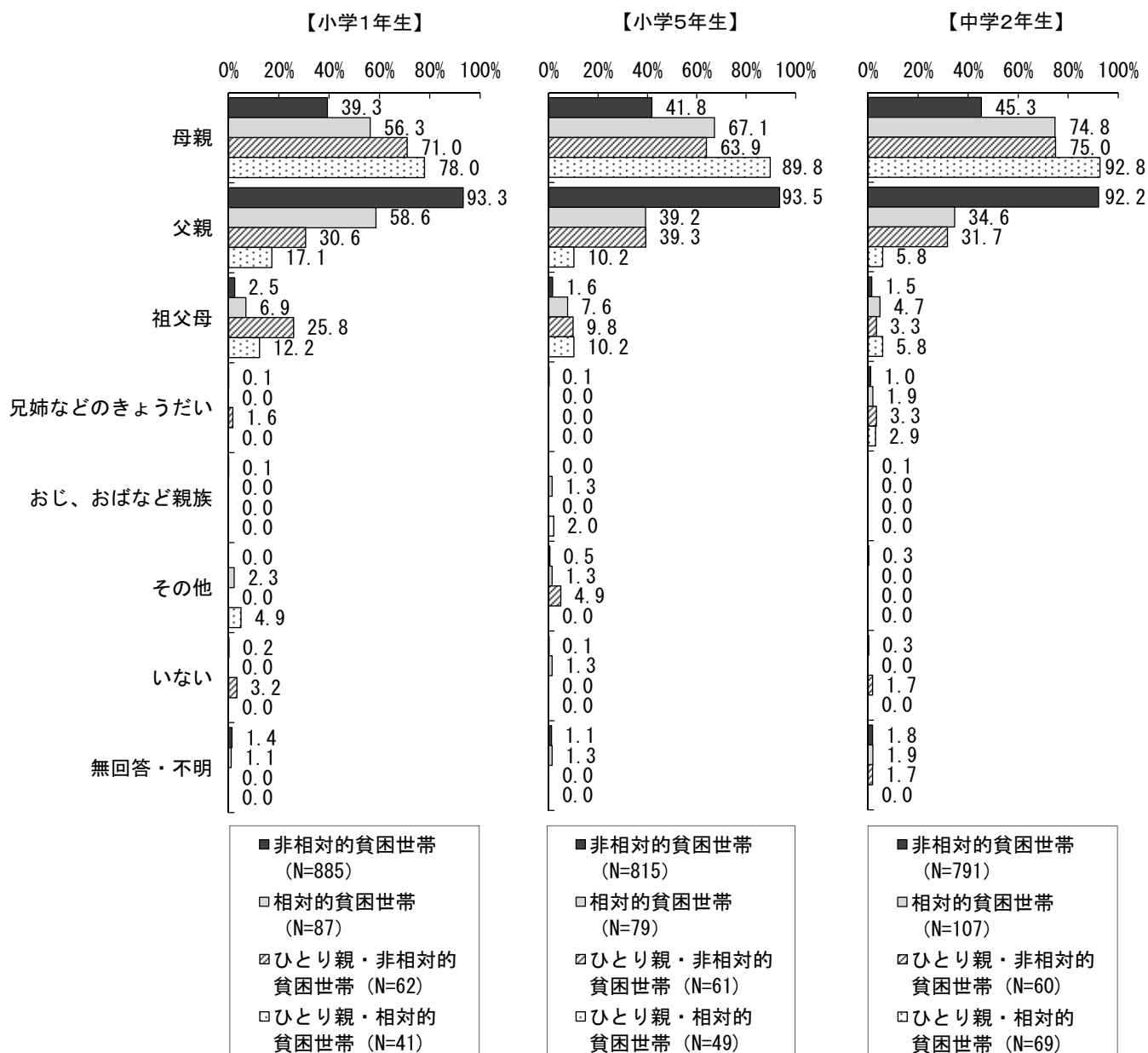
※離婚が成立していなくても、事実上の離婚状態の場合は「該当する（別居）」に○

非相対的貧困世帯では、いずれの学年も約９割が「該当しない」と回答しています。相対的貧困世帯で「該当する」と回答した割合は、小学１年生で４７．１％、小学５年生で６２．１％、中学２年生で６４．４％となります。



質問 1 1 あなたのご家庭の生活費の稼ぎ手となっている方について、お子さんから見た続柄をお答えください。（当てはまるもの全てに○）

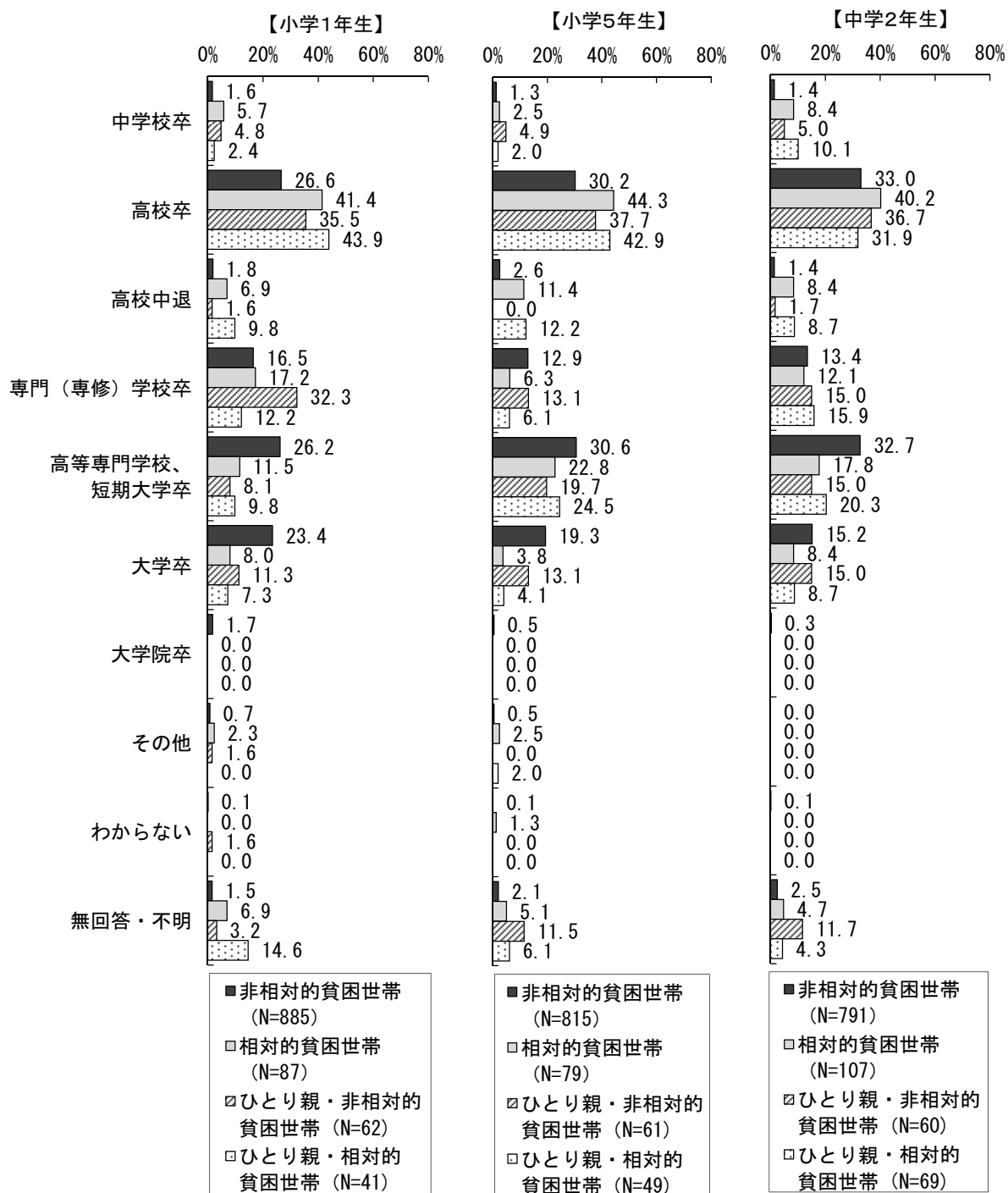
いずれの学年も、非相対的貧困世帯では「父親」という回答が9割を超えていますが、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「父親」が少なく、「母親」が多くなっています。また、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「祖父母」もやや多く、特に小学1年生のひとり親・非相対的貧困世帯では25.8%となっています。



質問１２ お子さんのご両親について、最終学歴（最後に卒業した、または現在在学中のもの）をお答えください。（それぞれ１つに○、ひとり親家庭の方はいずれか１つに○）

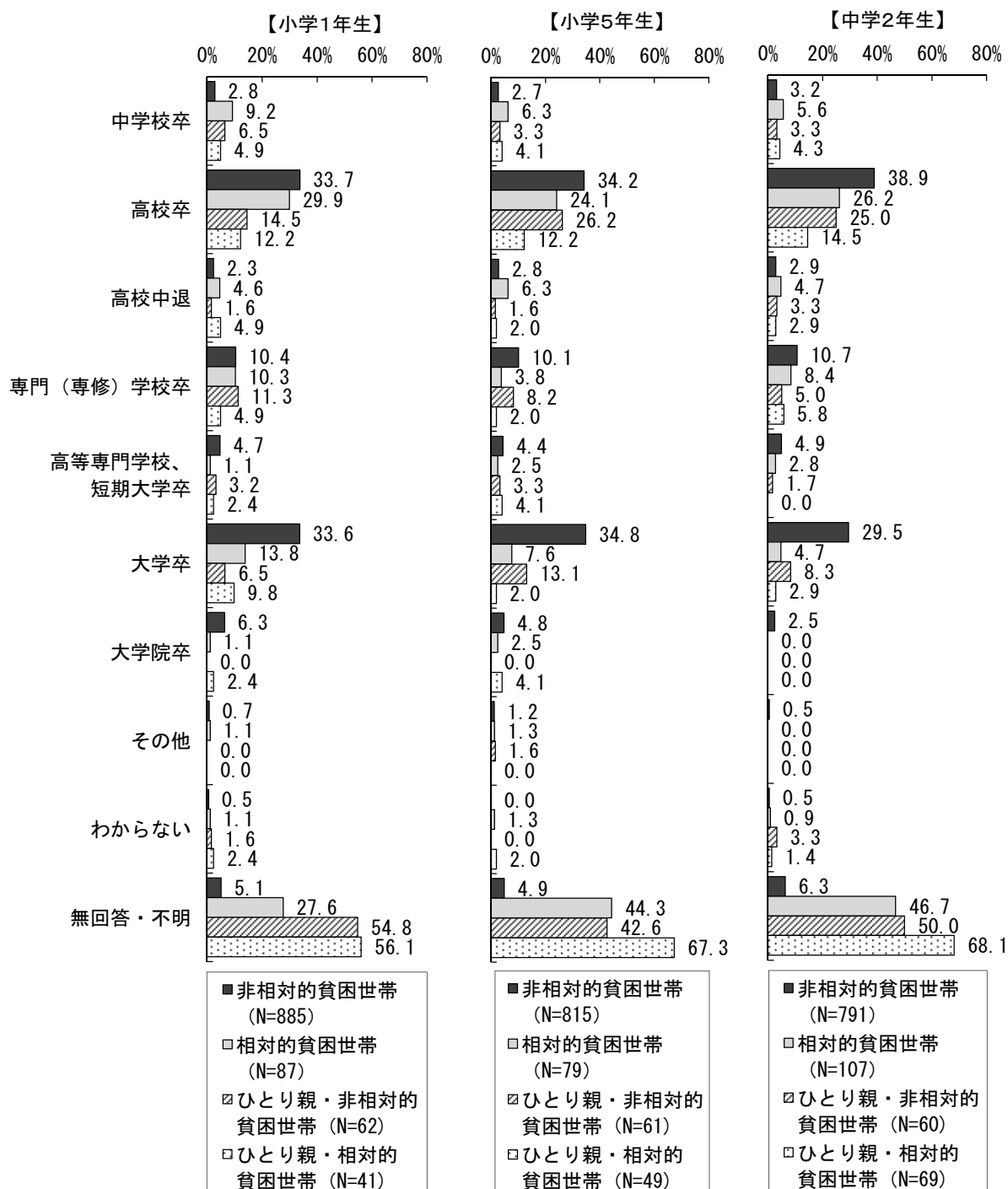
ア. 母親

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「大学卒」「高等専門学校、短期大学卒」が少なく、「高校中退」「高校卒」「中学校卒」が多くなっています。ひとり親世帯についても、同様の傾向があります。



イ. 父親

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では母子世帯が多いことから「無回答・不明」が多くなっており、相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「中学校卒」「高校中退」がやや多くなっています。

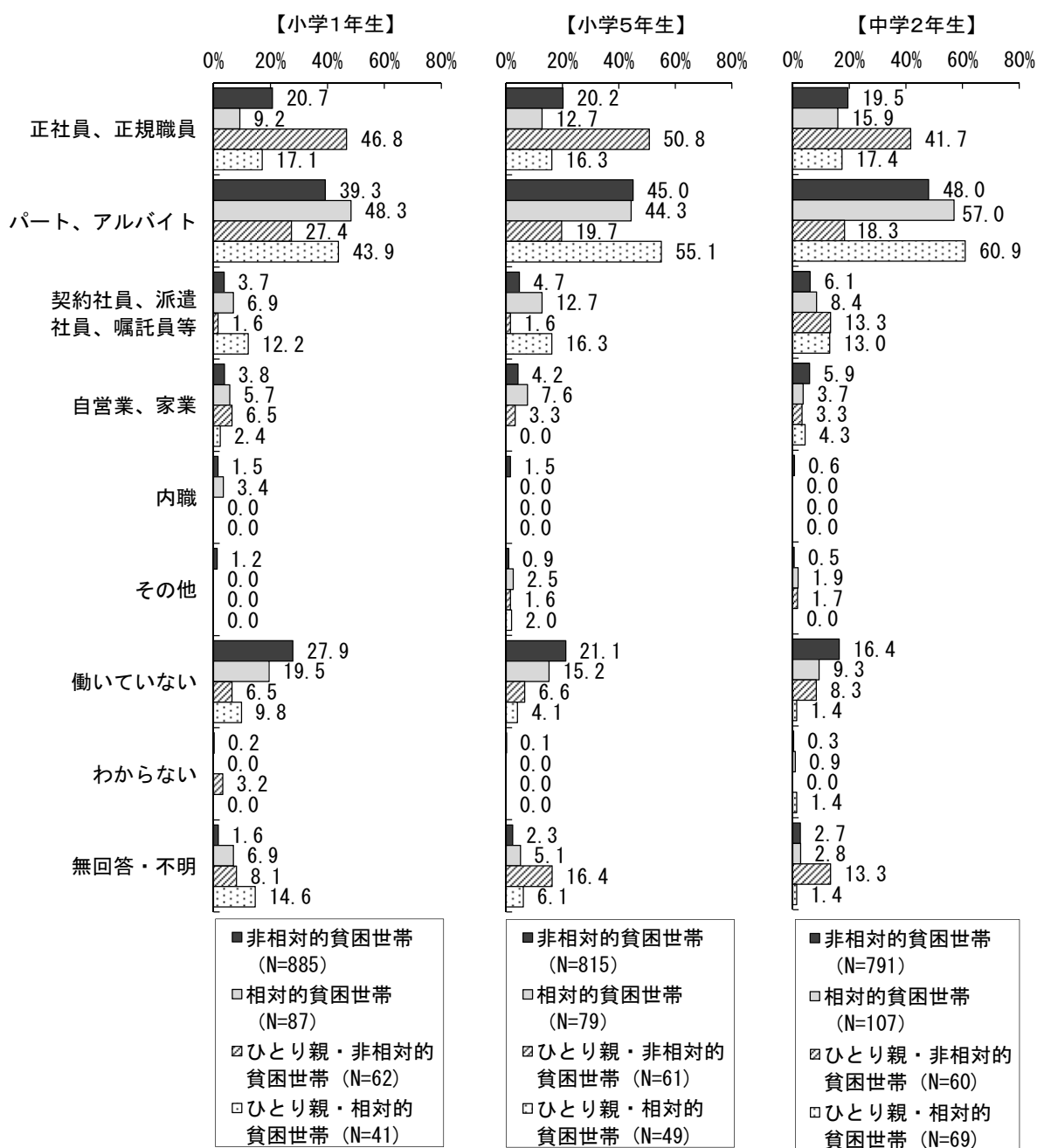


質問13-1 お子さんのご両親について、働きかたをお答えください。

(それぞれ1つに○、ひとり親家庭の方はいずれか1つに○)

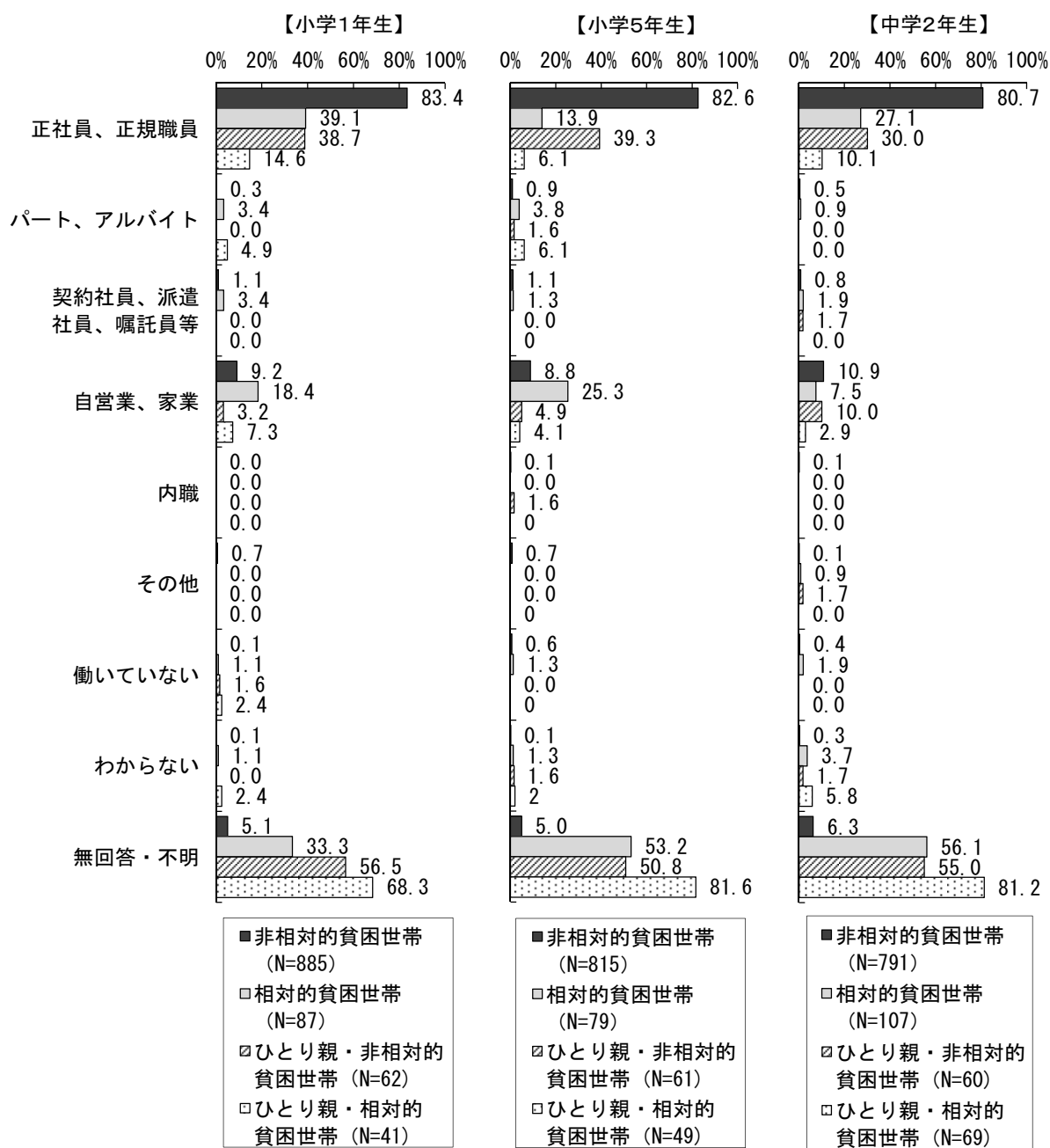
ア. 母親

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「正社員、正規職員」「働いていない」が少なく、「パート、アルバイト」「契約社員、派遣社員、嘱託員等」が多くなっています。ひとり親世帯については、「働いていない」が少なく、ひとり親・非相対的貧困世帯では「正社員、正規職員」が4～5割と多い一方、ひとり親・相対的貧困世帯では「パート・アルバイト」「契約社員、派遣社員、嘱託員等」が多くなっています。



イ. 父親

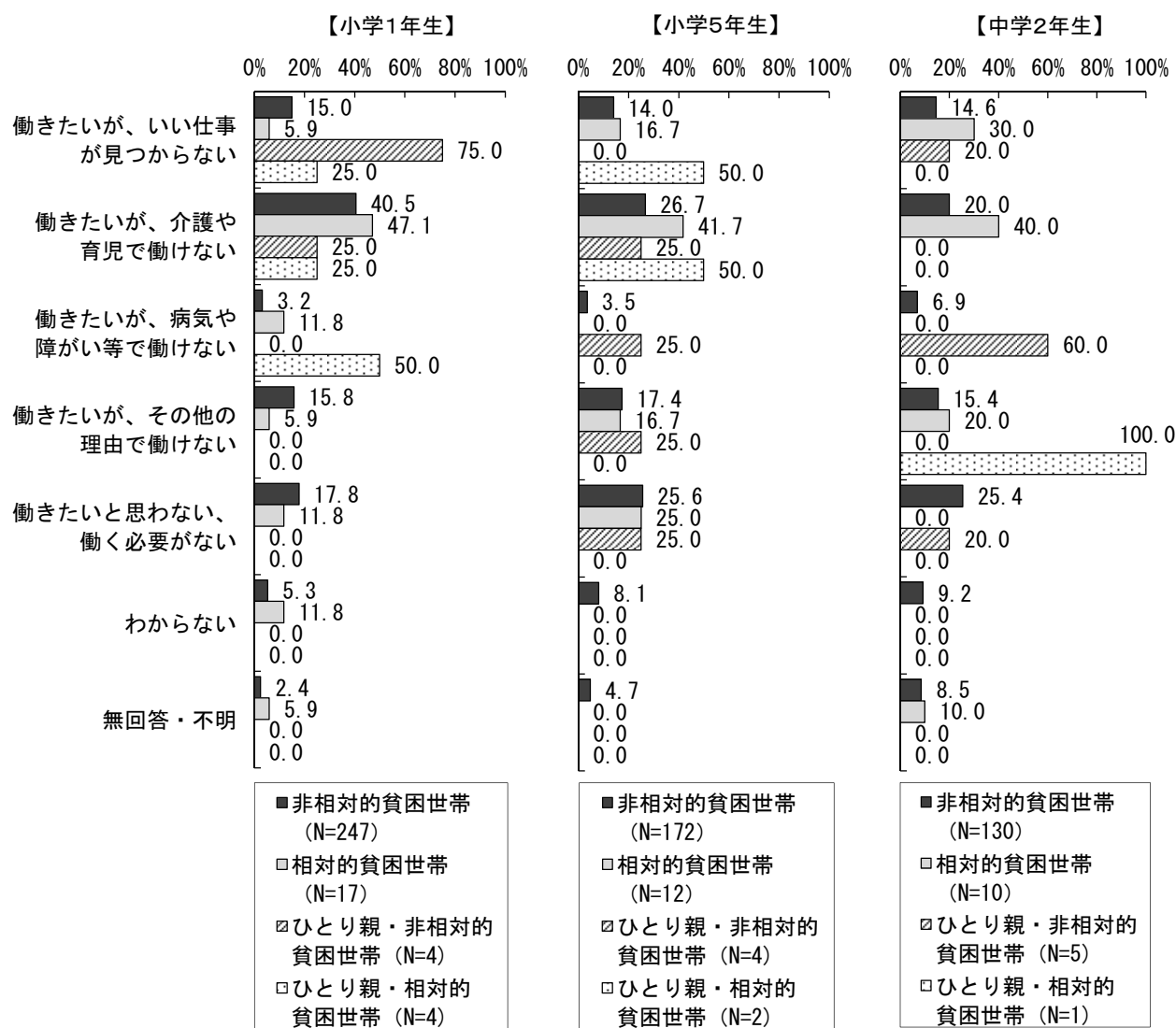
相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「正社員、正規職員」が少なく、小学1年生、小学5年生で「自営業、家業」が多くなっています。



質問１３－２ 質問１３－１で、「働いていない」と回答した方におたずねします。働いていない理由をお答えください。（１つに○）

ア．母親

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、「働きたいと思わない、働く必要がない」が少なく、「働きたいが、いい仕事が見つからない」「働きたいが、介護や育児で働けない」「働きたいが、病気や障がい等で働けない」等、何らかの理由で働けないという回答が多い傾向です。



イ. 父親

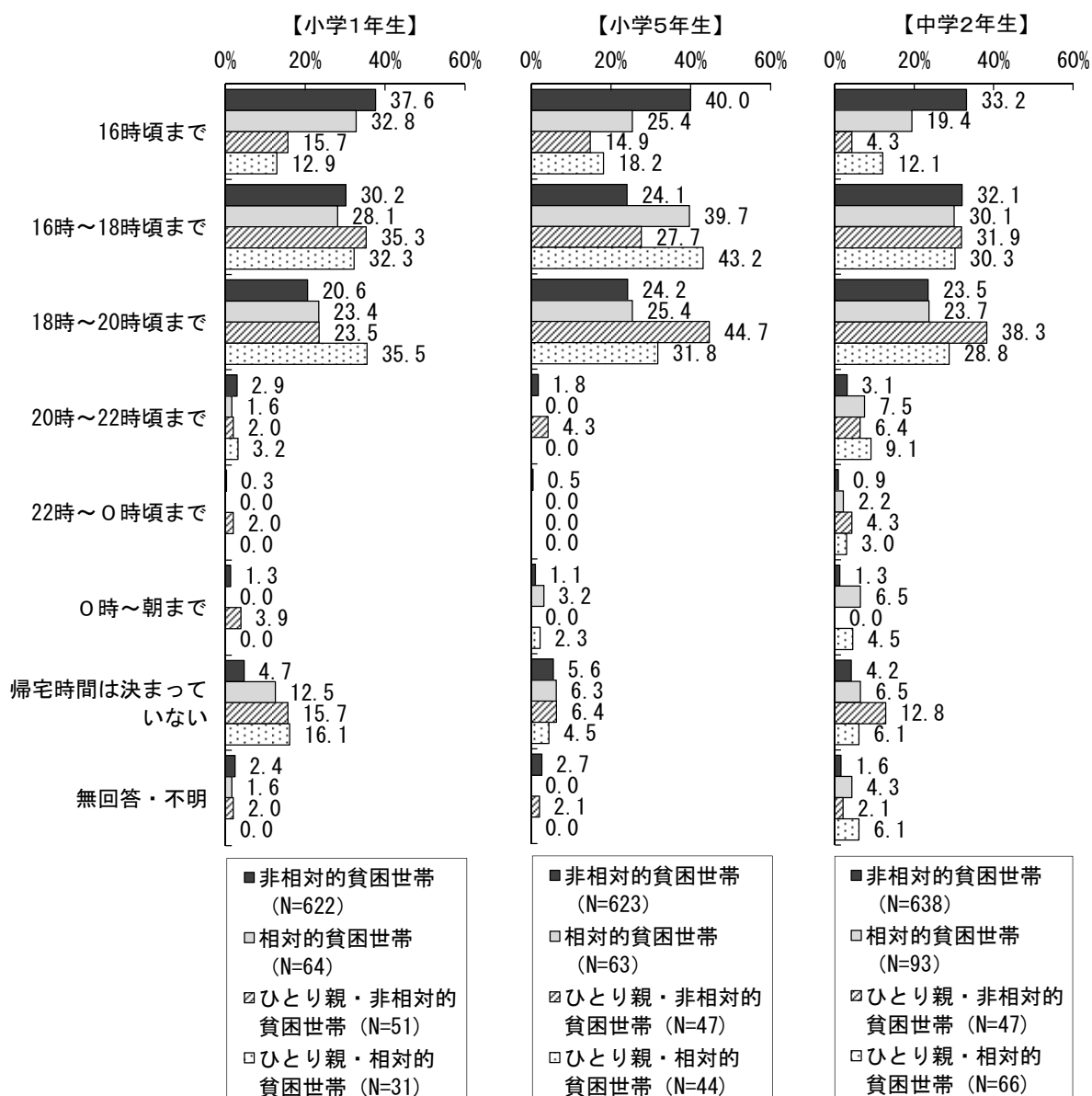
父親については、働いていない件数自体が非常に少なくなっています。

上段:件数 下段:%		合計	働きたいが、 いい仕事が見 つからない	働きたいが、 介護や育児 で働けない	働きたいが、 病気や障が い等で働け ない	働きたいが、 その他の理 由で働けな い	働きたいと思 わない、働く 必要がない	わからない	無回答・不明
小1	非相対的貧困世帯 (N=1)	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-
	相対的貧困世帯 (N=1)	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-
	ひとり親・非相対的貧困 世帯(N=1)	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-
	ひとり親・相対的貧困 世帯(N=1)	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-
小5	非相対的貧困世帯 (N=5)	5 100.0	-	1 20.0	2 40.0	2 40.0	-	-	-
	相対的貧困世帯 (N=1)	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-
	ひとり親・非相対的貧困 世帯(N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとり親・相対的貧困 世帯(N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
中2	非相対的貧困世帯 (N=3)	3 100.0	-	-	2 66.7	-	-	-	1 33.3
	相対的貧困世帯 (N=2)	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	-
	ひとり親・非相対的貧困 世帯(N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとり親・相対的貧困 世帯(N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-

質問 1 4 お子さんのご両親のどちらか、または両方が働いている方におたずねします。
仕事から帰宅する時間で、最も多い時間帯をお答えください。（それぞれ1つに○、ひとり親家庭の方はいずれか1つに○）

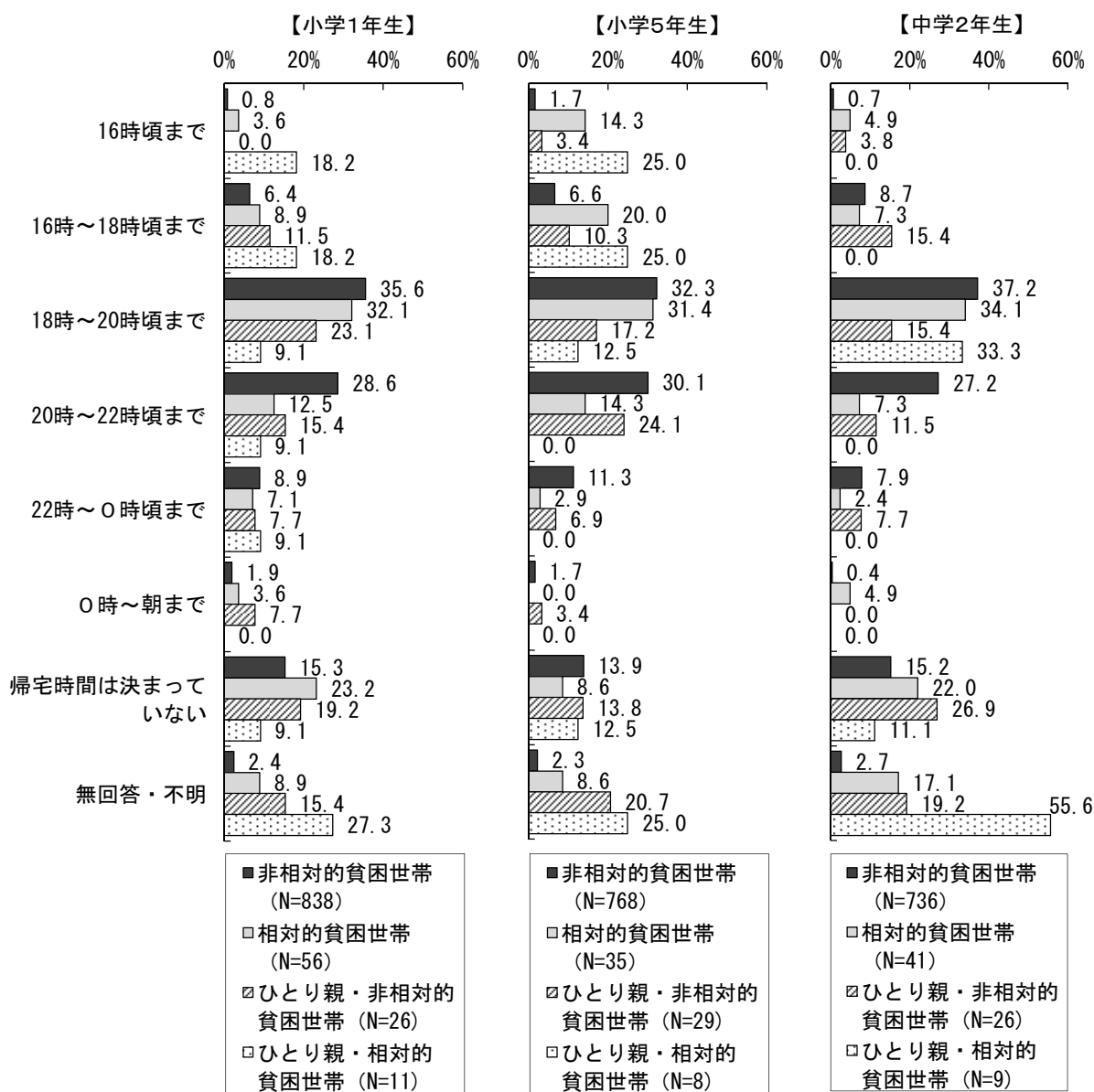
ア. 母親

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「16 時頃まで」が少なくなっています。ひとり親世帯でも、「16 時頃まで」が少なく、より遅い時刻の回答が多くなっています。



イ. 父親

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、18 時より早い時刻が多く、18 時以降の回答が少なくなっています。ひとり親世帯でも、「16 時頃まで」「16 時～18 時頃まで」が多く、18 時以降の回答が少なくなっています。



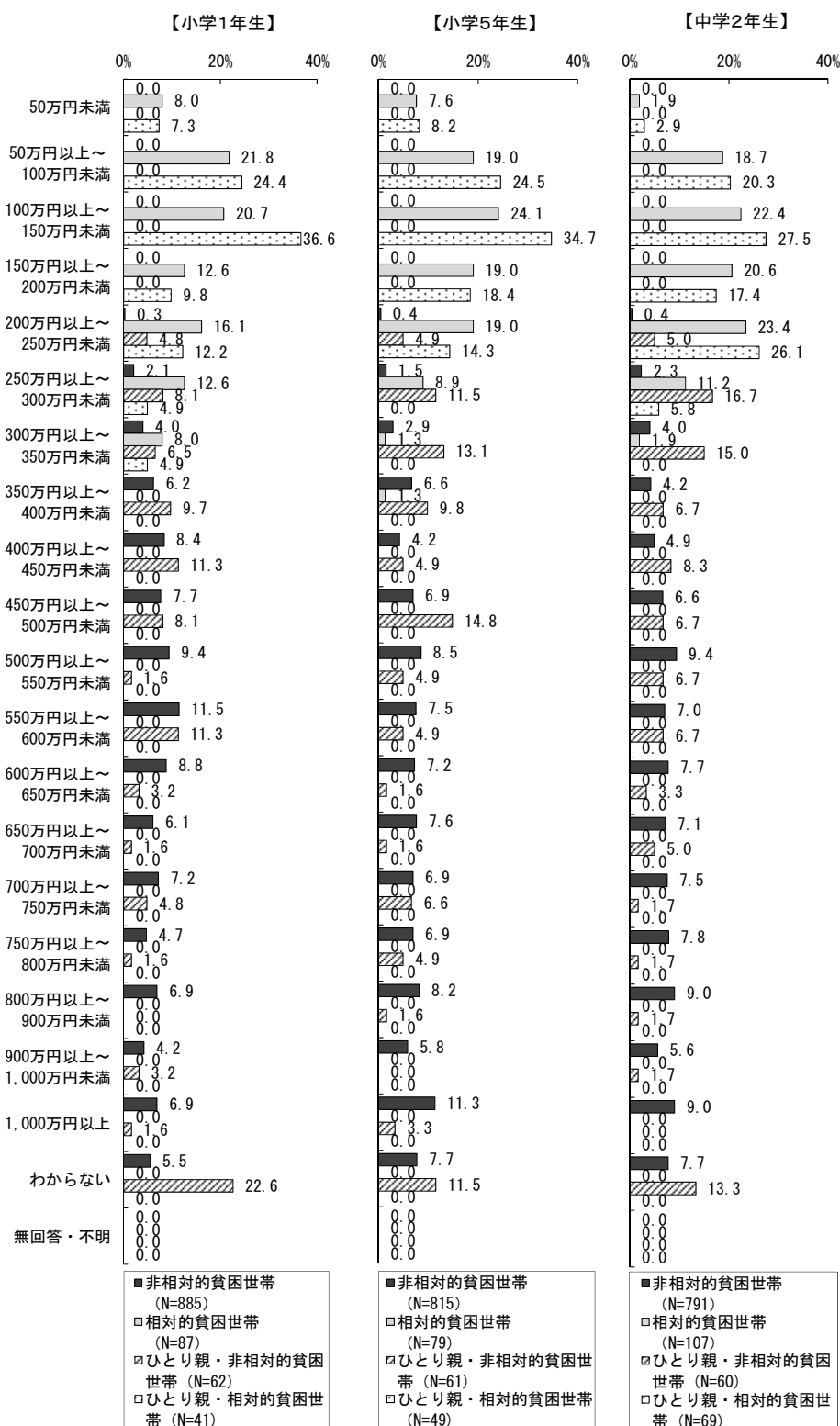
質問 15 あなたのご家庭の経済状況についておたずねします。昨年（2016 年）1 年間の家族全員の収入の合計額は、税込み（所得税や住民税の引去り前）で、およそいくらお答えください。（1 つに○）

※家族とは、質問 9 でお答えいただいた方全員です。

※収入には、給料やボーナスのほか、不動産収入や株式などの副収入も含まれます。

※児童手当、就学援助、生活保護などの公的な援助や手当で、離婚後の養育費は除きます。

相対的貧困世帯では 50 万円～250 万円の層が多く、非相対的貧困世帯では、500 万円台の回答が多くなっています。全体の中央値は、小学 1 年生では「550 万円以上～600 万円未満」、小学 5 年生と中学 2 年生では「600 万円以上～650 万円未満」となっています。

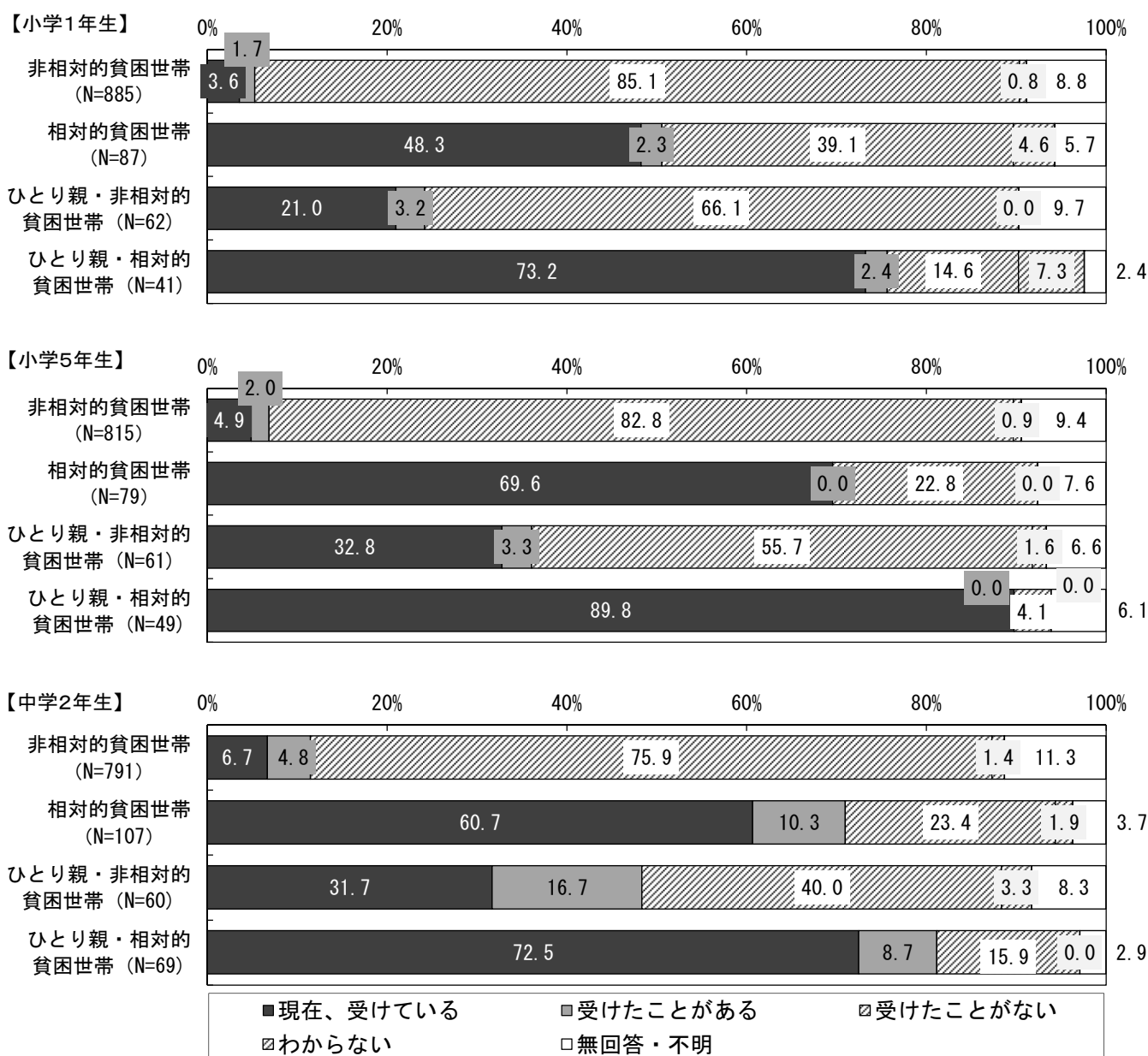


質問 16 あなたのご家庭では、過去 1 年間に受けたことのある手当や援助はありますか。（①から⑤の質問について、それぞれ 1 つに○）

①就学援助

※給食費や学用品などの費用の一部を援助する制度

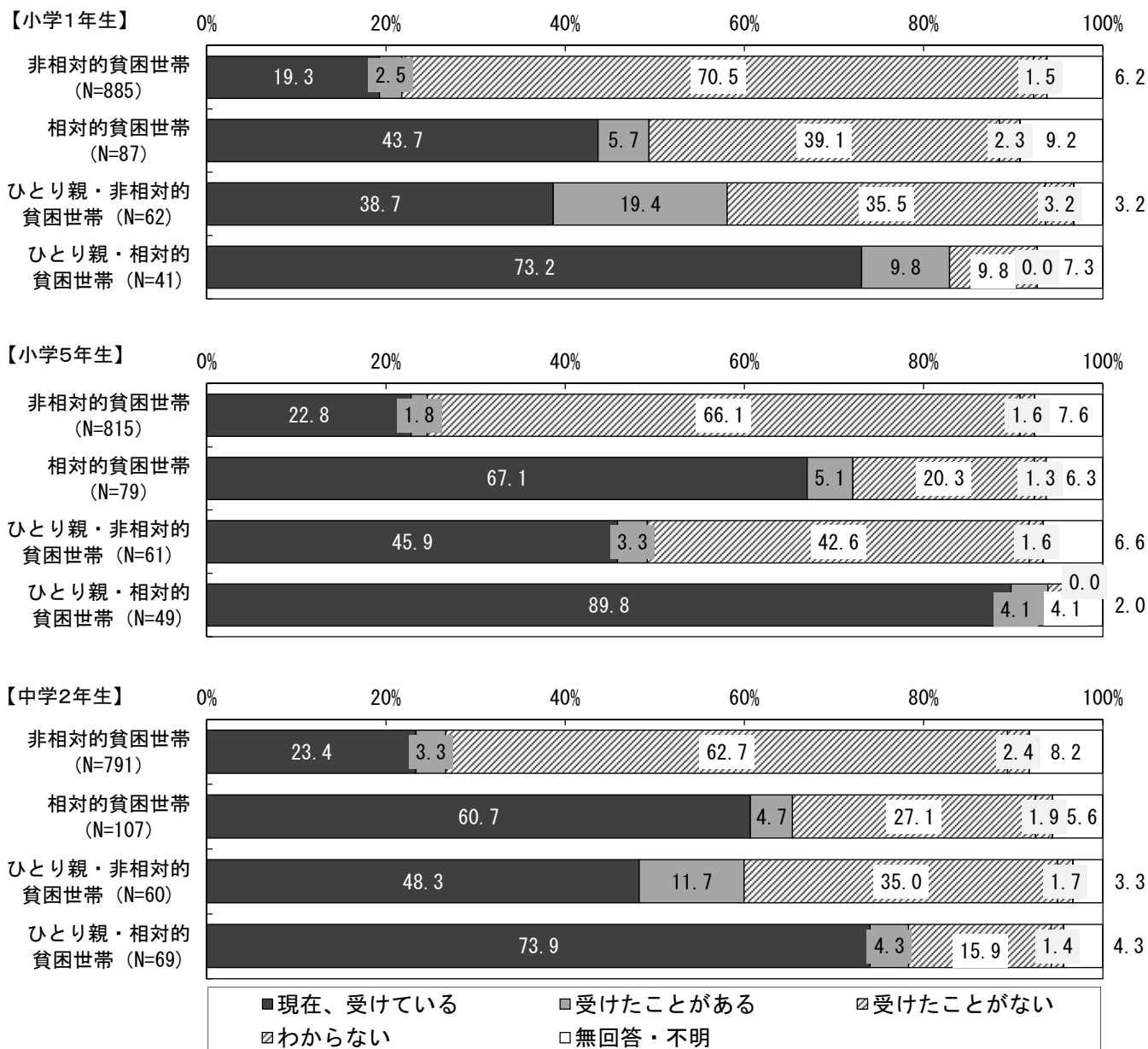
相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「現在、受けている」が多くなっていますが、小学 1 年生では、他の学年と比べて「現在、受けている」が少なくなっています。なお、相対的貧困世帯では、小学 1 年生で約 4 割、小学 5 年生、中学 2 年生で約 2 割が「受けたことがない」と回答しています。



②児童扶養手当

※18歳未満の子どもを養育するひとり親家庭等に支給される手当

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「現在、受けている」が多く、小学1年生で「現在、受けている」がやや少なくなっているのは就学援助と同様です。

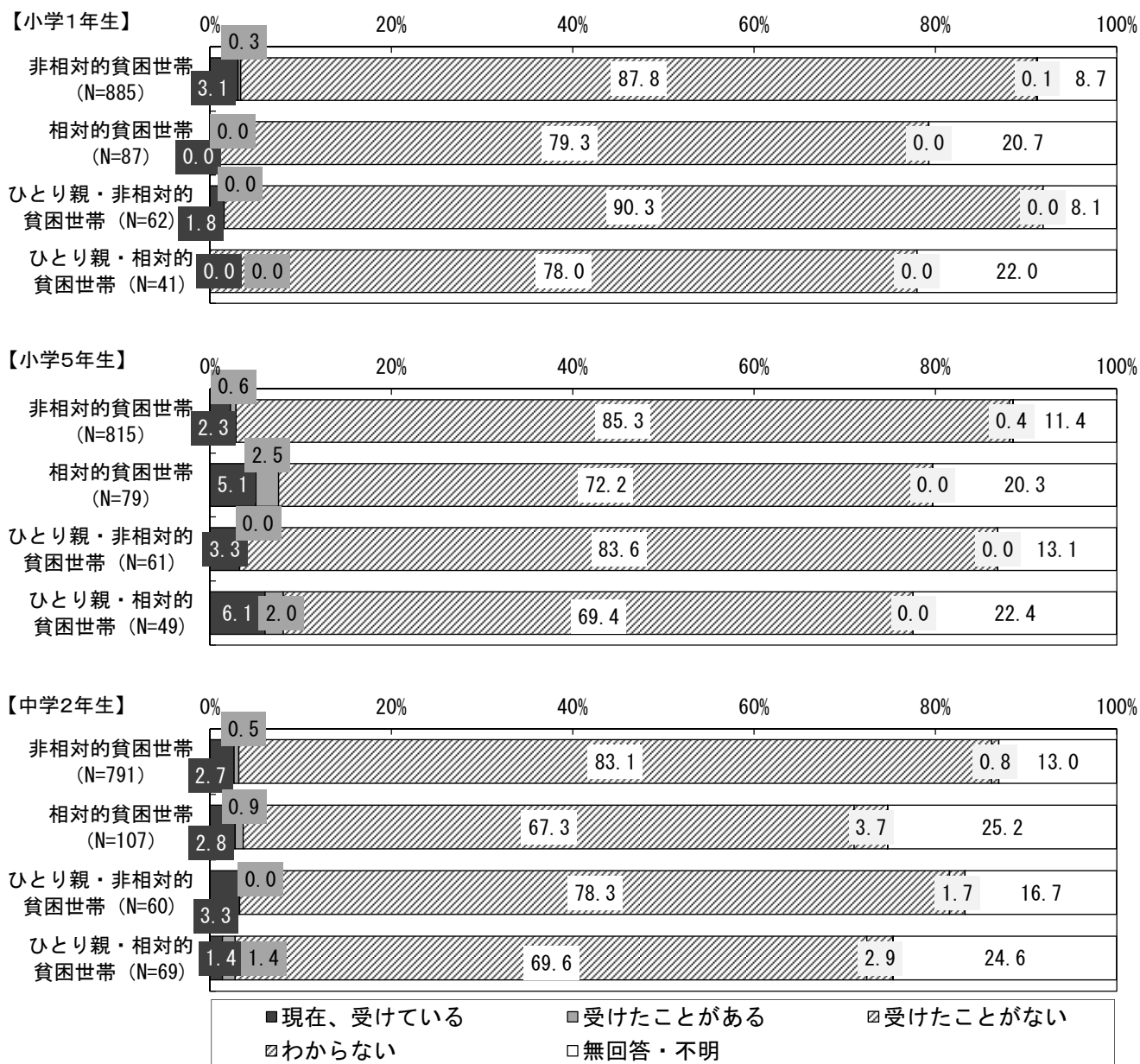


③障がいの手当

※特別児童扶養手当、特別障害者手当、障害児福祉手当など

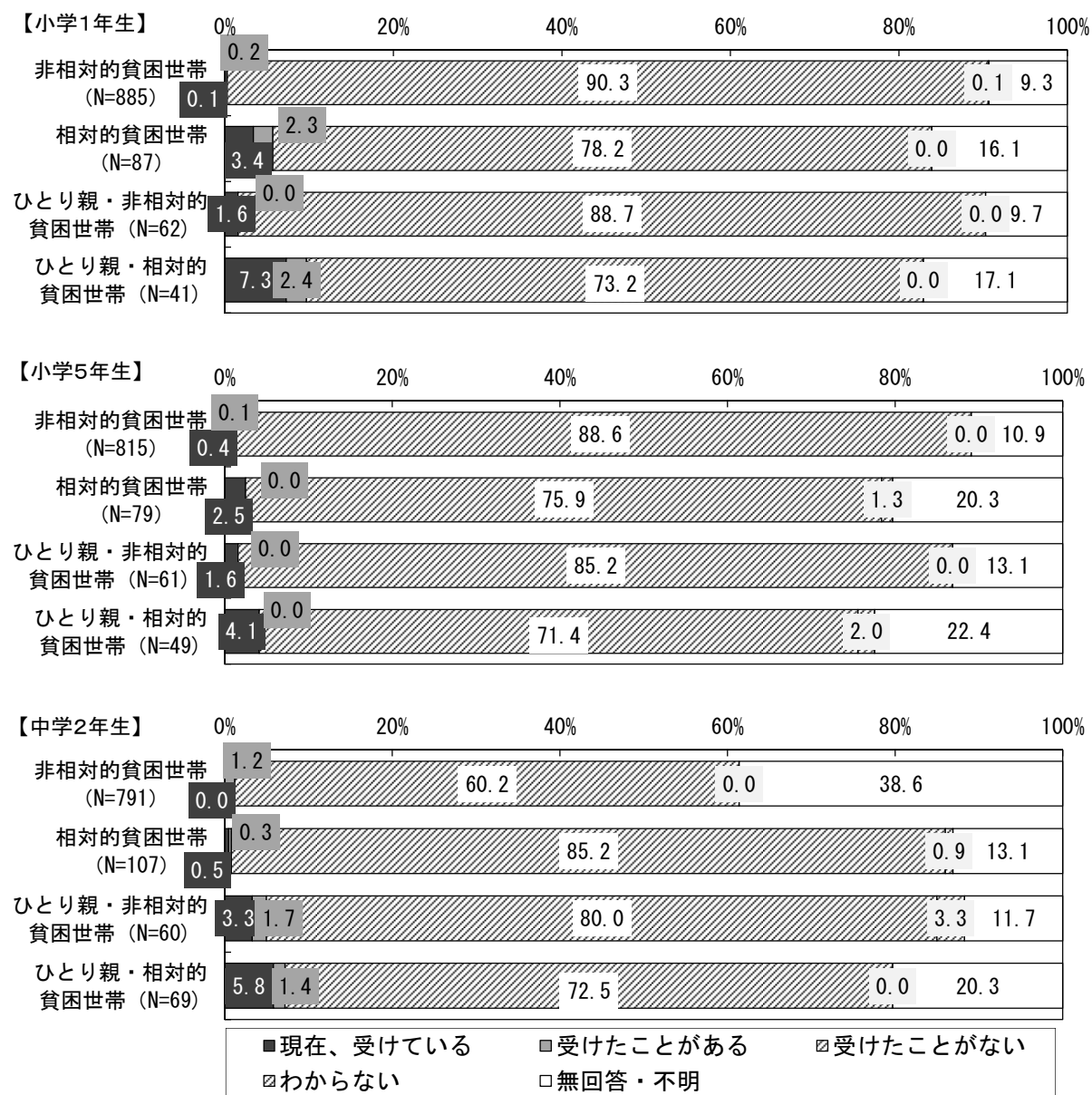
※医療費の助成は除く

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では、「現在、受けている」がやや多くなりますが、明確な差は見られません。



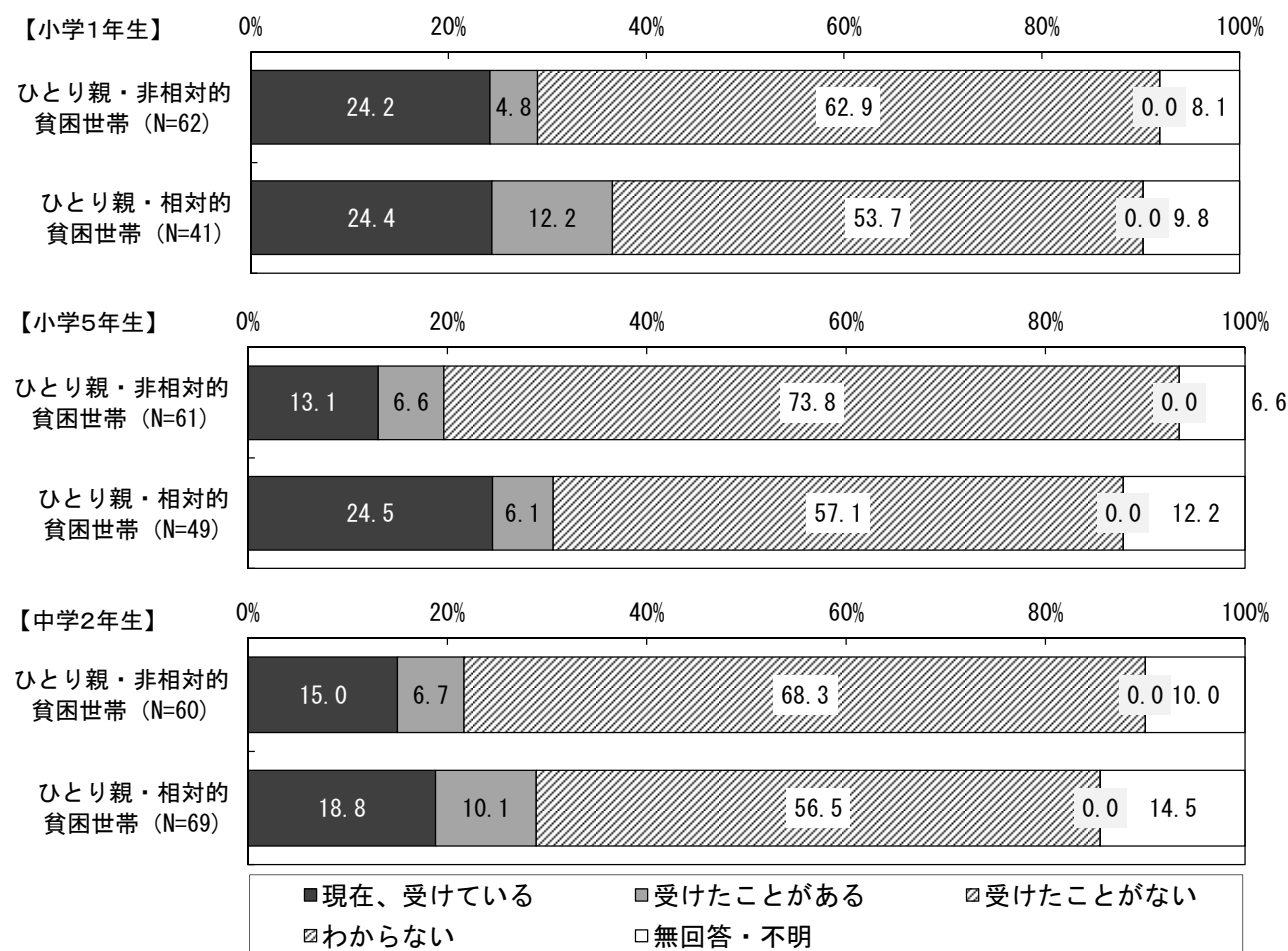
④生活保護

相対的貧困世帯においても、「現在、受けている」は1割未満となっています。



⑤離婚後の養育費

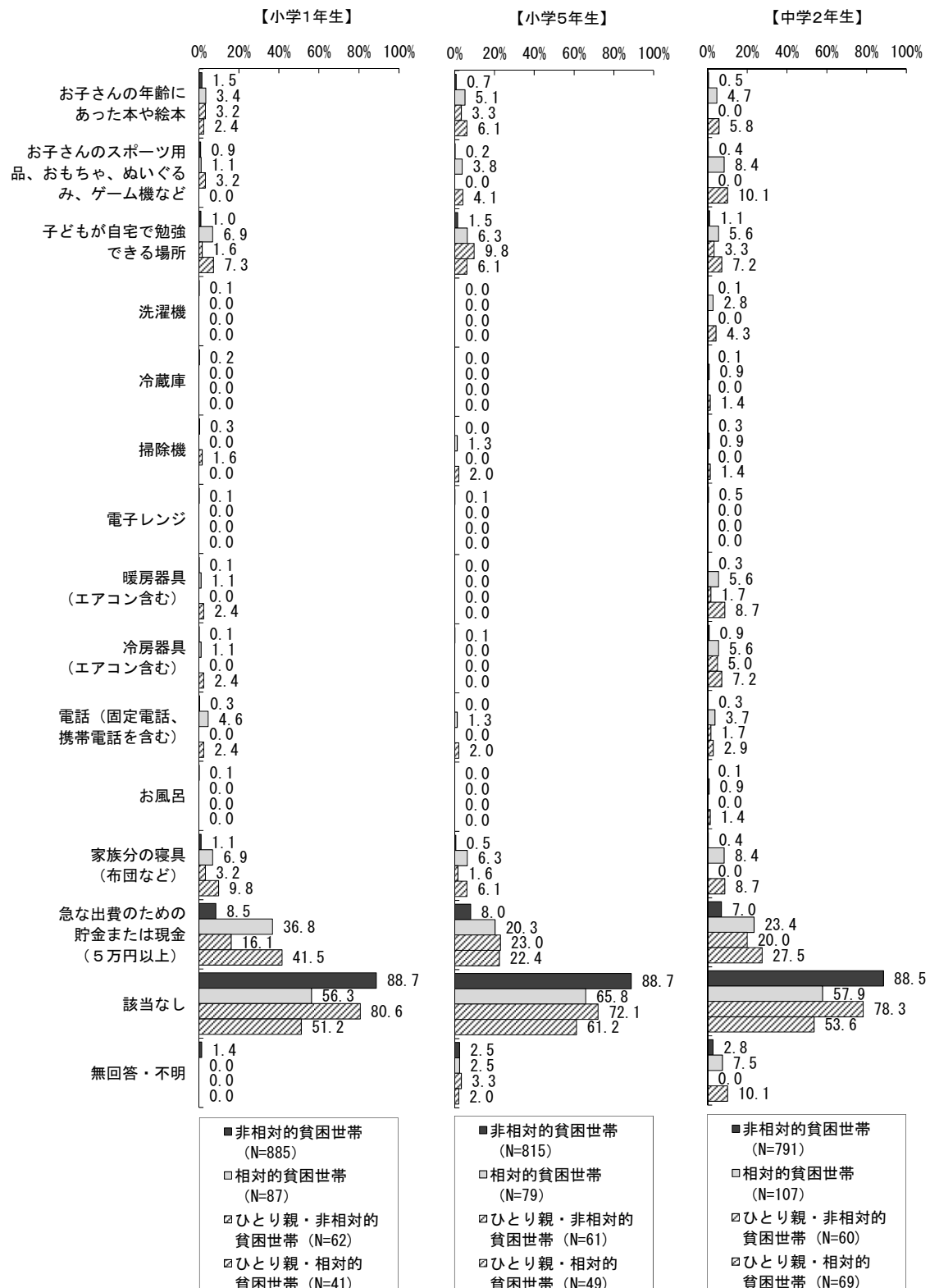
ひとり親世帯の約5～7割は「受けたことがない」と回答しています。ひとり親・非相対的貧困世帯より、ひとり親・相対的貧困世帯の方が「現在、受けている」または「受けたことがある」が多くなっています。



3. 暮らしの状況について

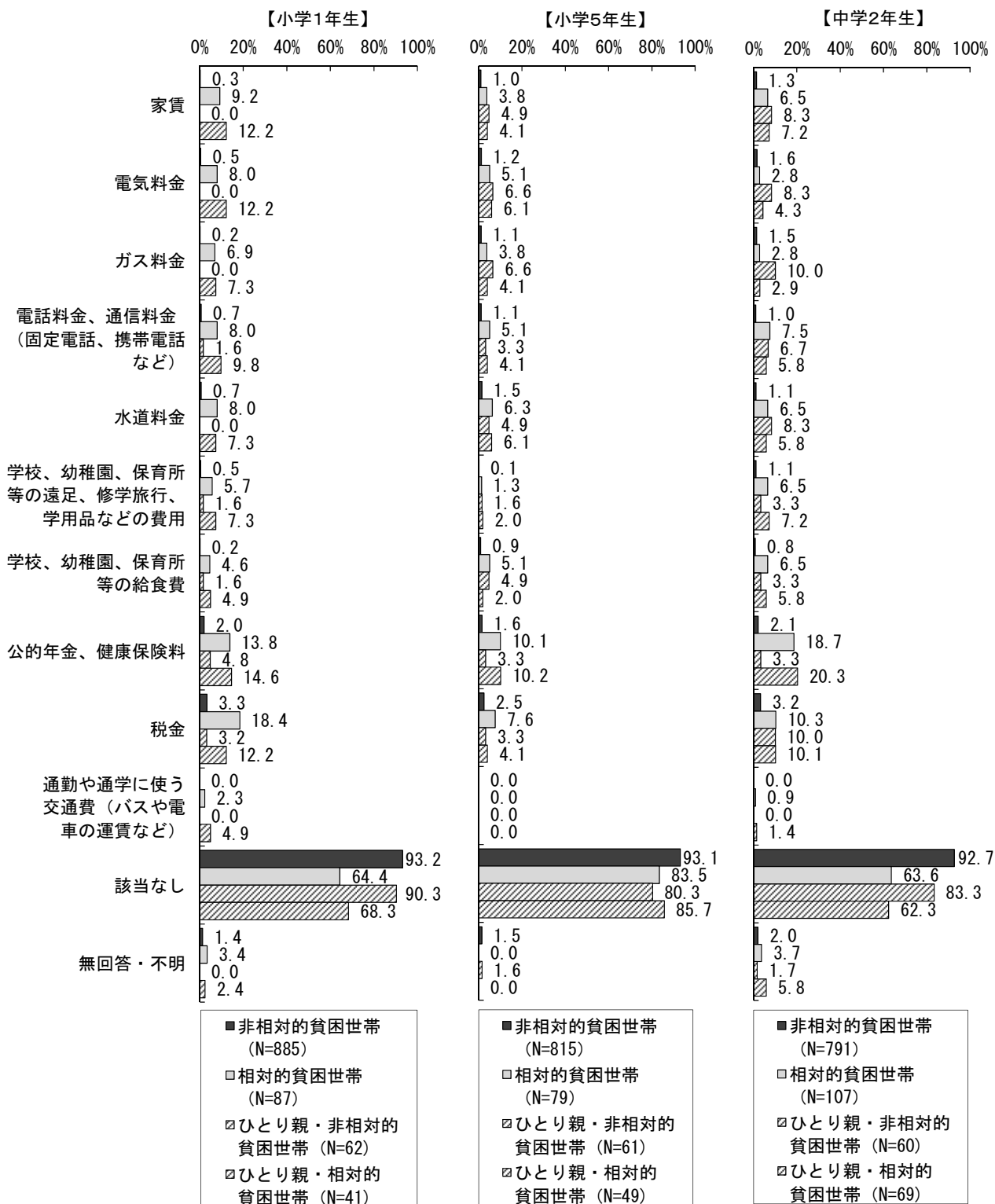
質問 17 次のうち、経済的理由のために、あなたのご家庭にないものはありますか。（当てはまるものの全てに○。なければ「該当なし」に○。）

「該当なし」という回答は、非相対的貧困世帯では、いずれの学年も約9割ですが、相対的貧困世帯では6割前後となっており、ひとり親世帯についてもやや少ない傾向となっています。「該当なし」を除き、最も回答が多かったのは「急な出費のための貯金または現金」で、非相対的貧困世帯でも1割近く、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では2～4割の回答があります。



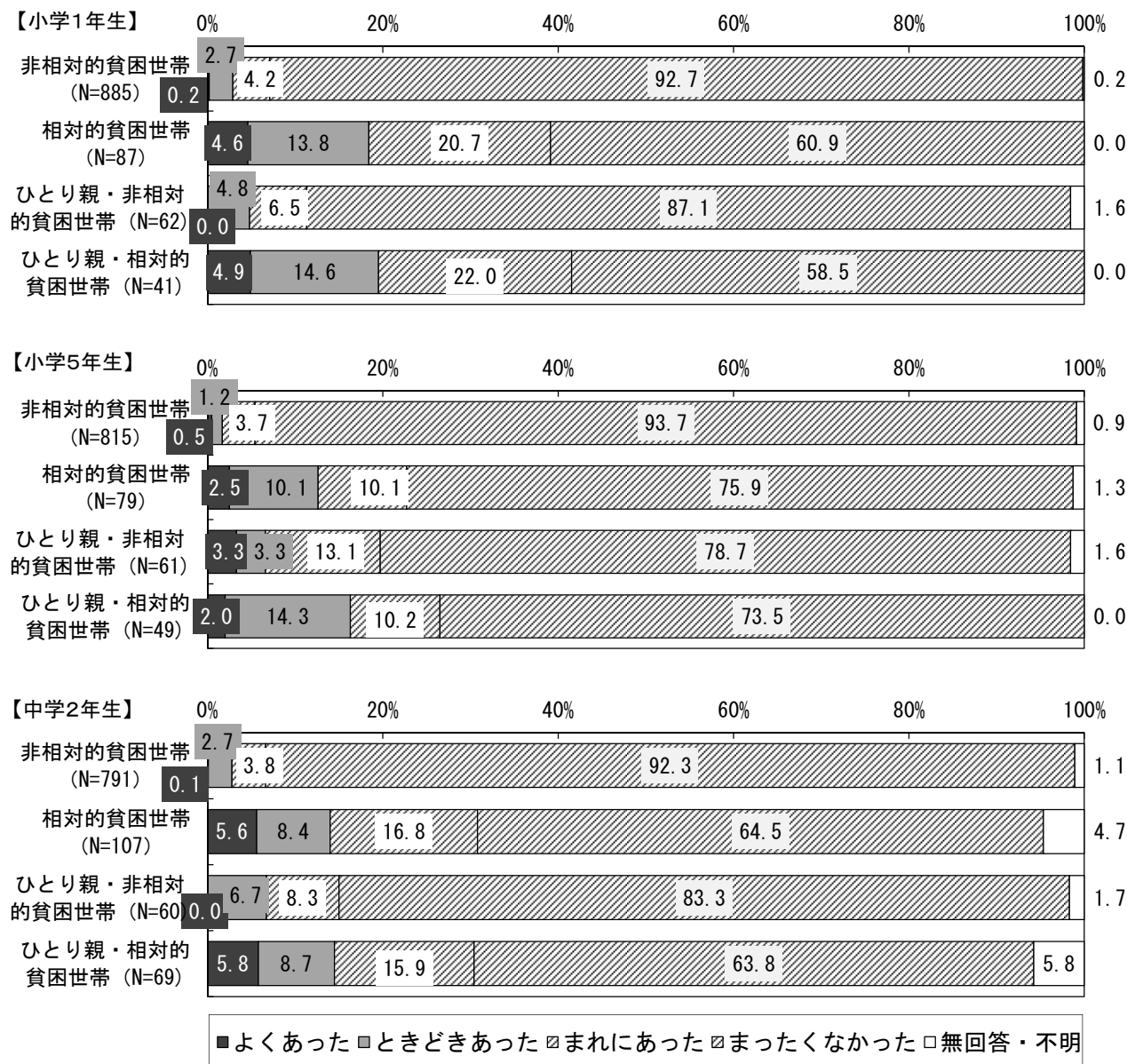
質問 18 あなたのご家庭では、次のうち、過去 1 年間に経済的理由のために支払いができなかったことはありますか。（当てはまるもの全てに○。なければ「該当なし」に○。）

「該当なし」は、非相対的貧困世帯では 9 割を超えています、相対的貧困世帯では小学 1 年生、中学 2 年生で 6 割台、小学 5 年生で 8 割台となっています。ひとり親世帯についてもほぼ同様の傾向です。「公的年金、健康保険料」については、相対的貧困世帯の 1 ～ 2 割が回答しています。



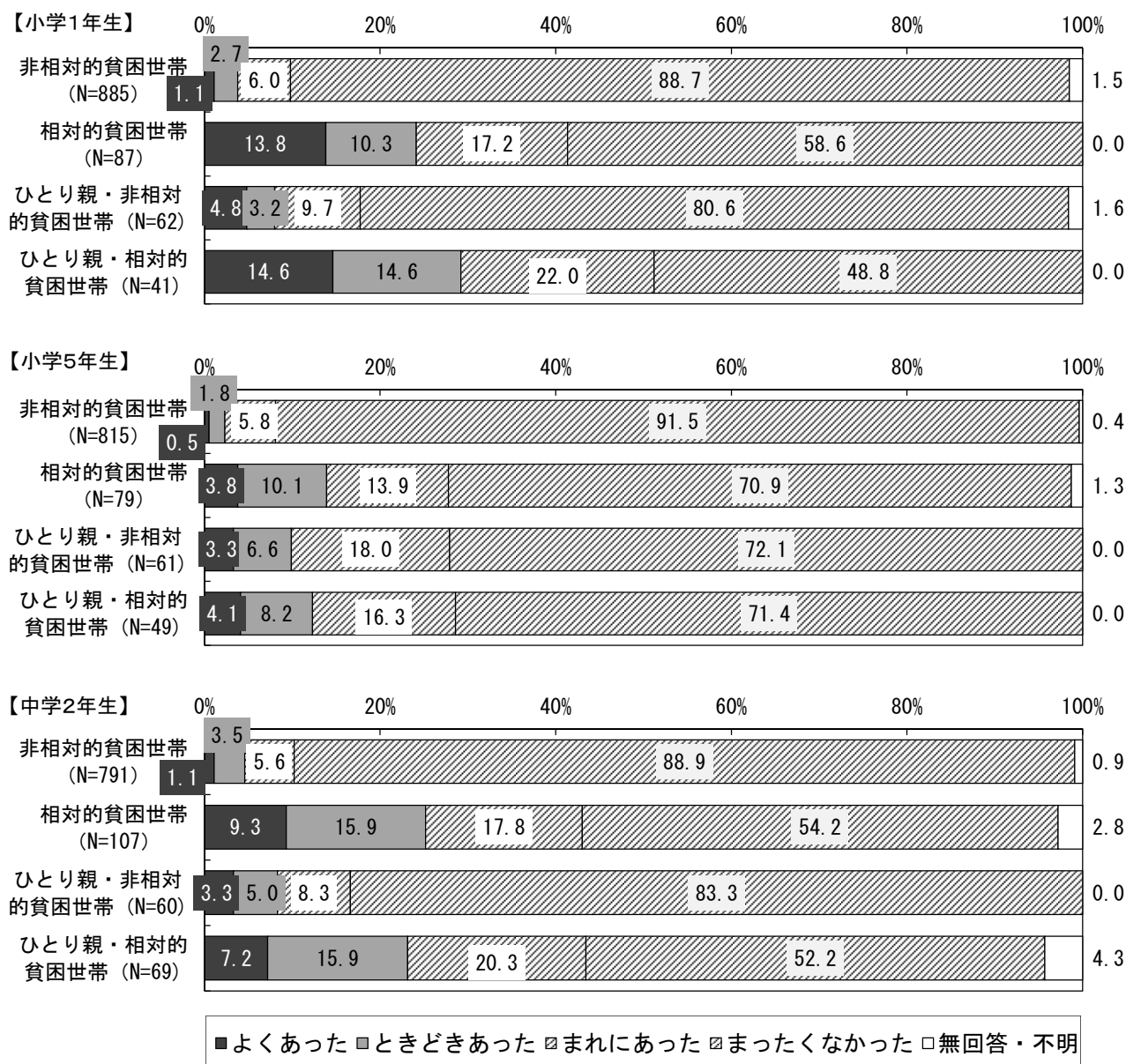
質問 19 あなたのご家庭では、過去 1 年間に、経済的理由のために家族が必要とする食料（嗜好品は除く）を買えないことがありましたか。（1 つに○）

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「あった」という回答が多くなっています。また、非相対的貧困世帯でもひとり親世帯では、「あった」という回答が多くなっています。



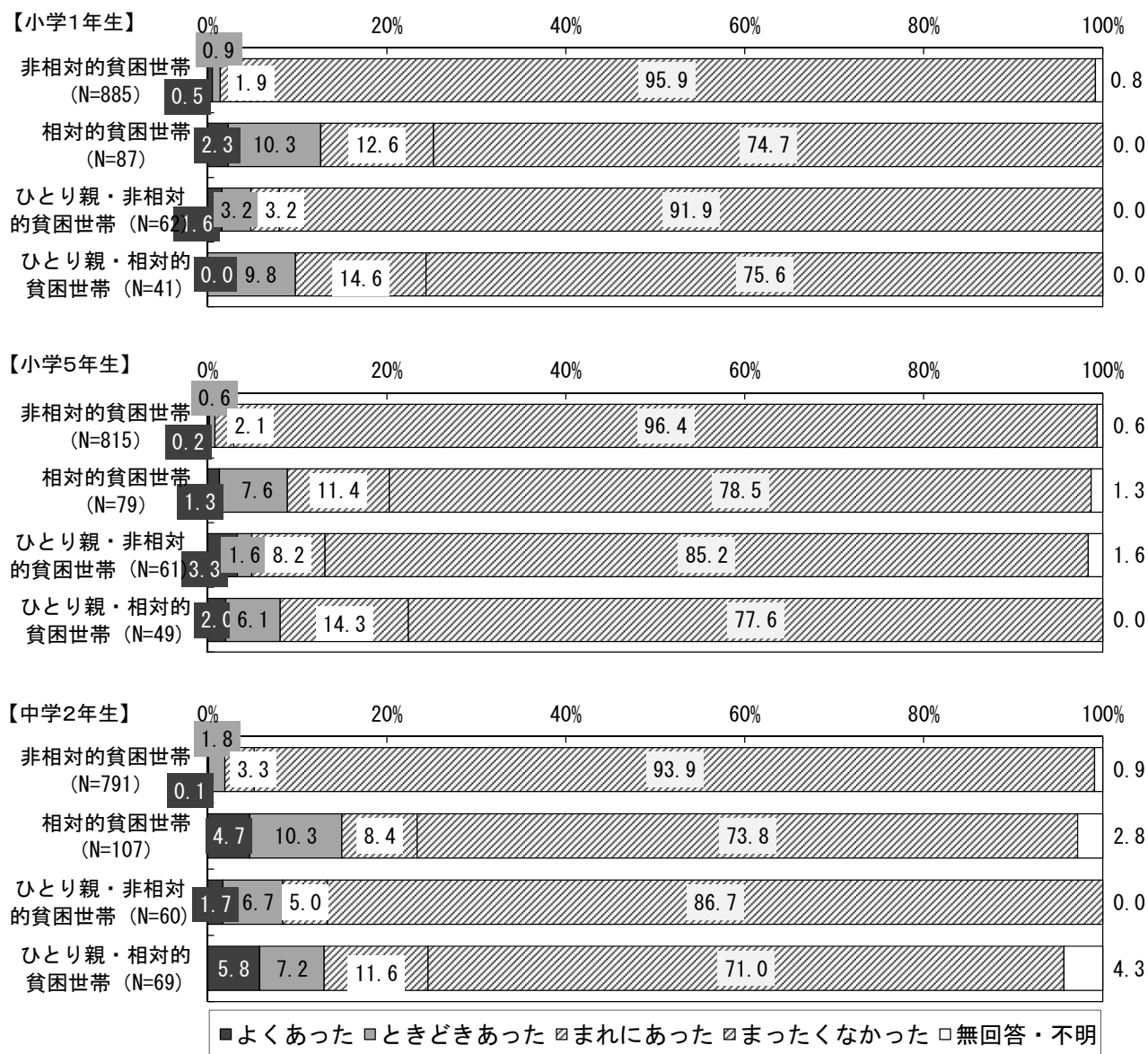
質問 20 あなたの家庭では、過去 1 年間に経済的理由のために家族が必要とする衣類
(高価な衣服や貴金属・宝飾品は除く) を買えないことがありましたか。
(1 つに○)

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「あった」という回答が多くなっています。
また、非相対的貧困世帯でもひとり親世帯では、「あった」という回答が多くなっています。全体的に質問 19 と比較して、「あった」という回答が多くなっています。



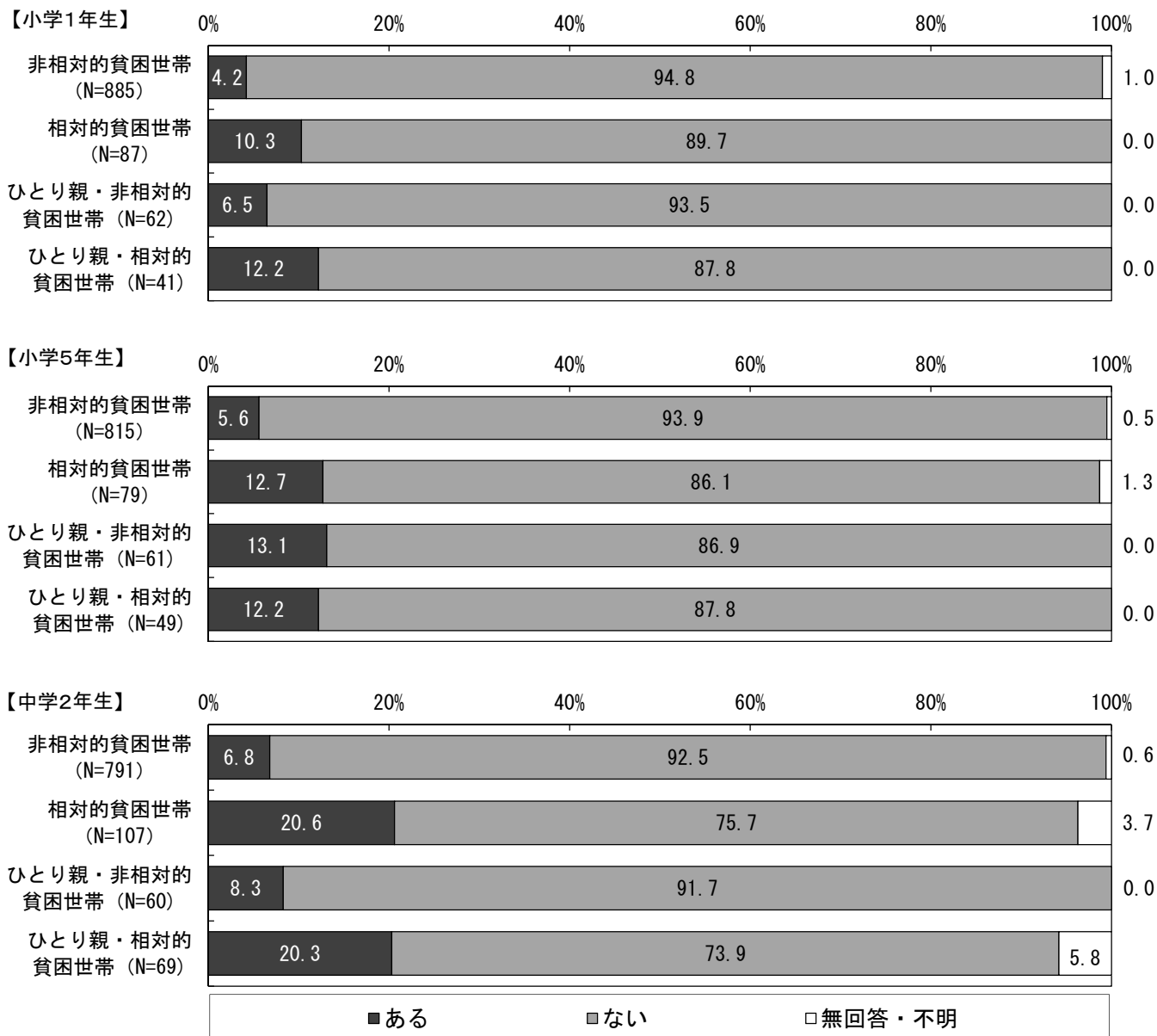
質問 2 1 あなたの家庭では、過去 1 年間に経済的理由のためにお子さんが必要とする文房具や教材（学校指定の制服や靴、部活動の道具）を買えないことがありましたか。（1 つに○）

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「あった」という回答が多くなっています。また、非相対的貧困世帯でもひとり親世帯では、「あった」という回答が多くなっています。



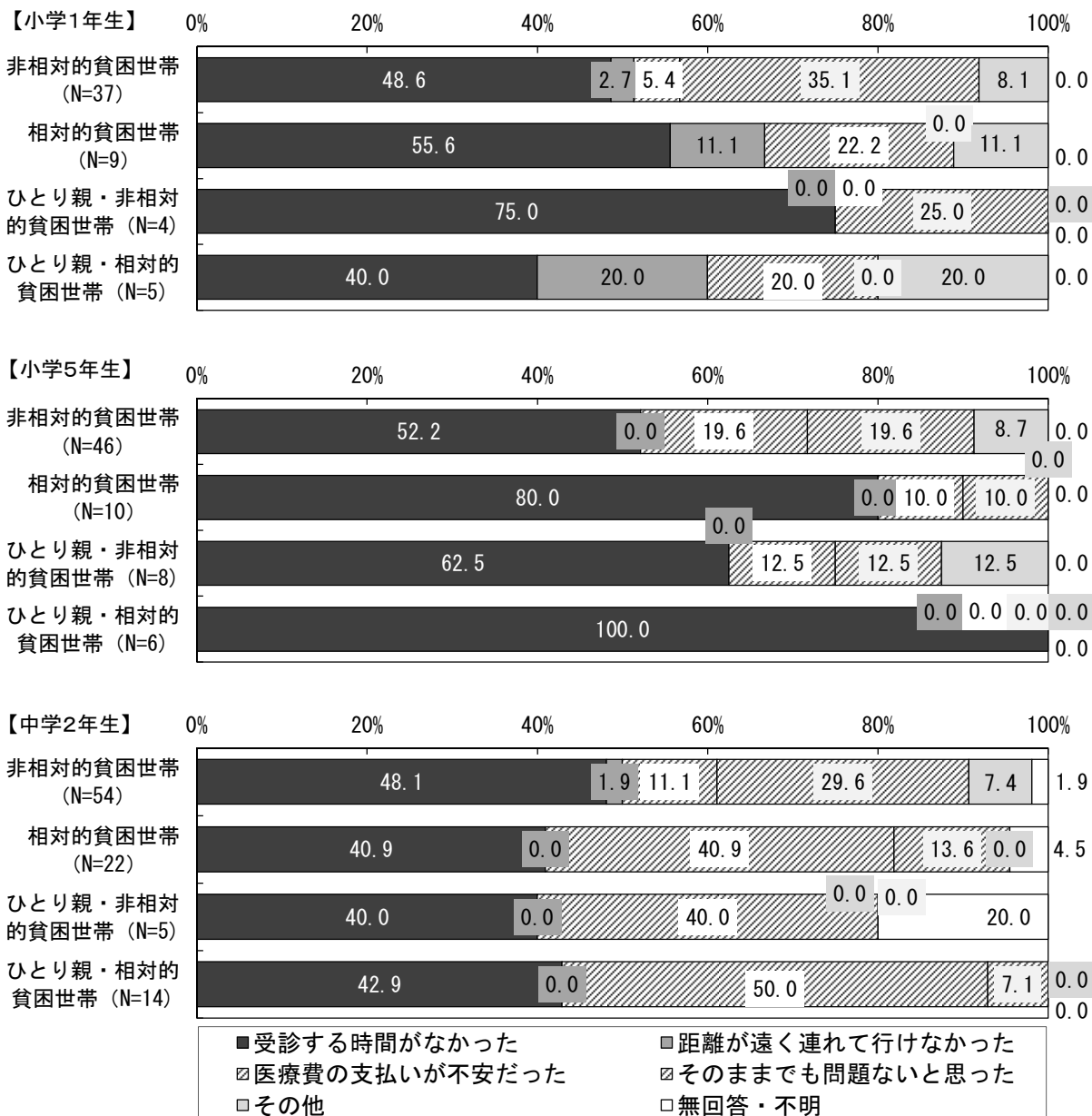
質問 2 2 - 1 あなたのご家庭では、過去 1 年間に、お子さんの病気や怪我の治療のために病院や診療所を受診した方が良かったのに、実際に受診しなかったことがありましたか。（1 つに○）

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「ある」という回答が多くなっています。また、子どもの学年が上がるほど「ある」という回答が多くなっています。



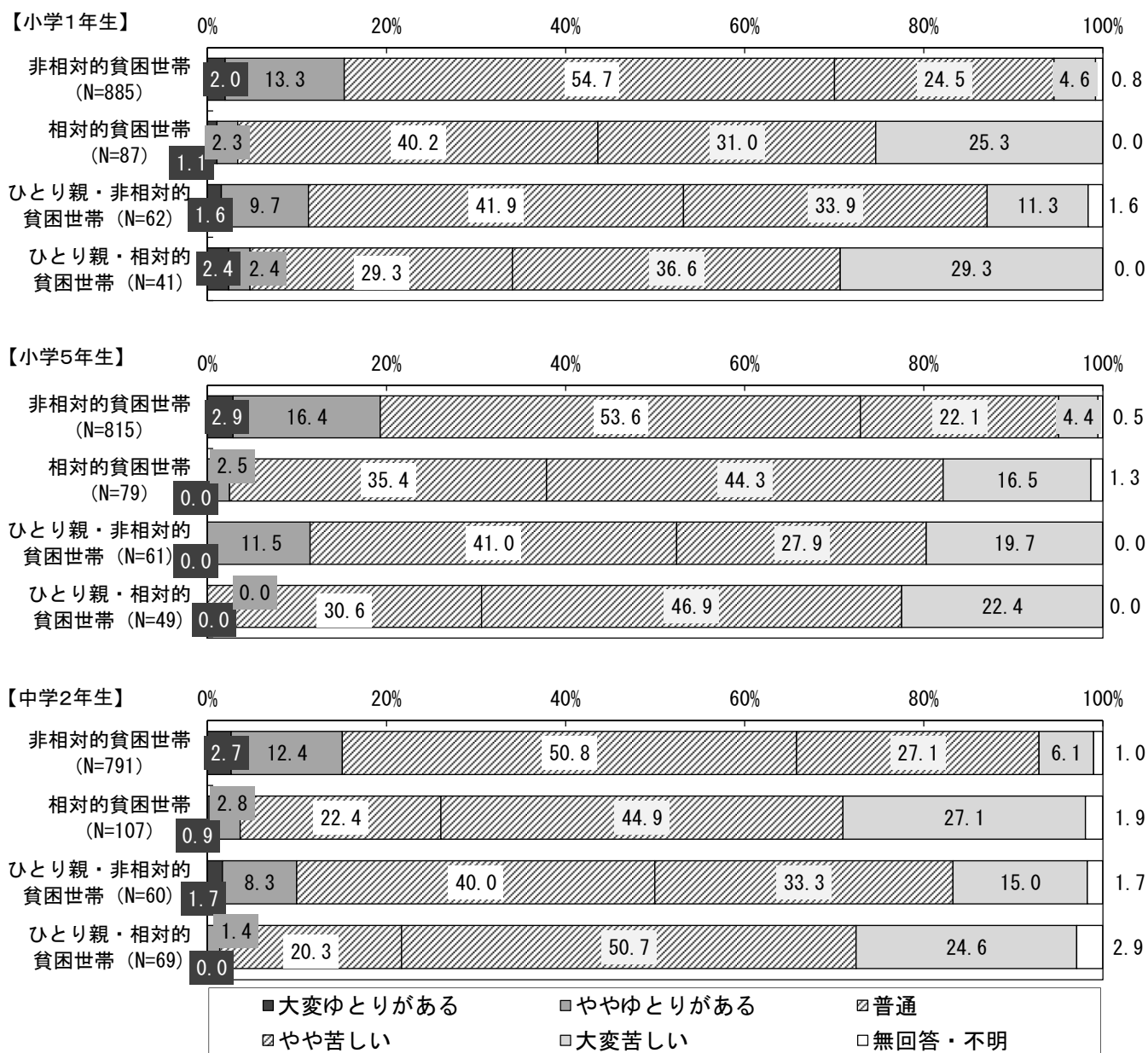
質問 2 2 - 2 質問 2 2 - 1 で、「ある」と回答した方におたずねします。病院や診療所を受診しなかった理由をお答えください。（1 つに○）

いずれの世帯においても「受診する時間がなかった」が最も多くなっています。件数が少ないため、明確な差があるとは言えませんが、相対的貧困世帯の「医療費の支払いが不安だった」という回答は、小学 1 年生、小学 5 年生では 1 ～ 2 割ですが、中学 2 年生では約 4 割と多くなっています。



質問23 あなたは、現在の暮らしを全体的に見てどう思いますか。（1つに○）

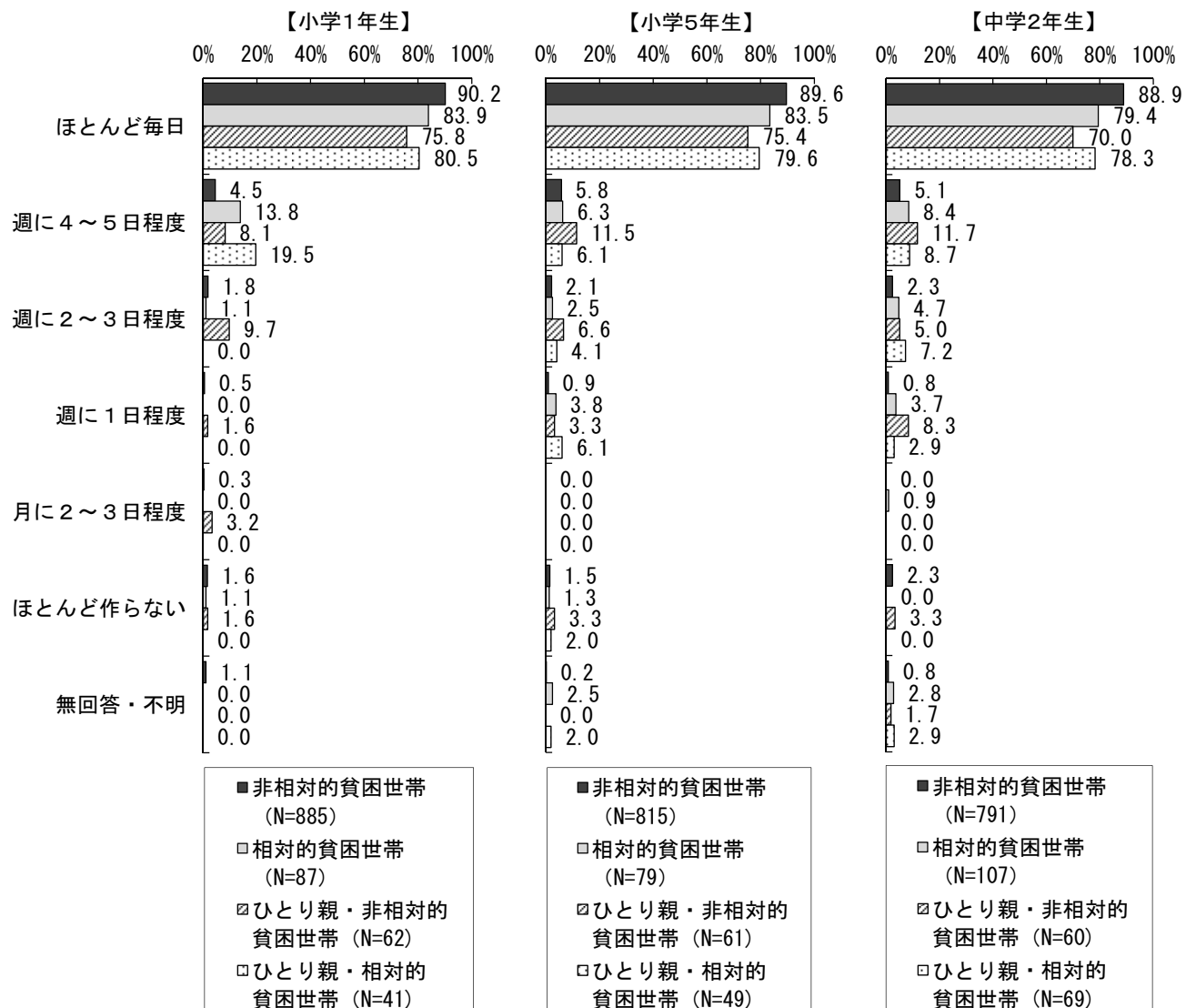
相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「やや苦しい」または「大変苦しい」が多くなっています。



4. 子どもとの関わりかたについて

質問24 あなたのご家庭では、お子さんの食事を作ることがどの程度ありますか。
(1つに○)

相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、「ほとんど毎日」が少なくなっています。ひとり親世帯は相対的貧困世帯以上に「ほとんど毎日」が少なく、ひとり親・相対的貧困世帯より、ひとり親・非相対的貧困世帯の方がいずれの学年も「ほとんど毎日」が少なくなっています。

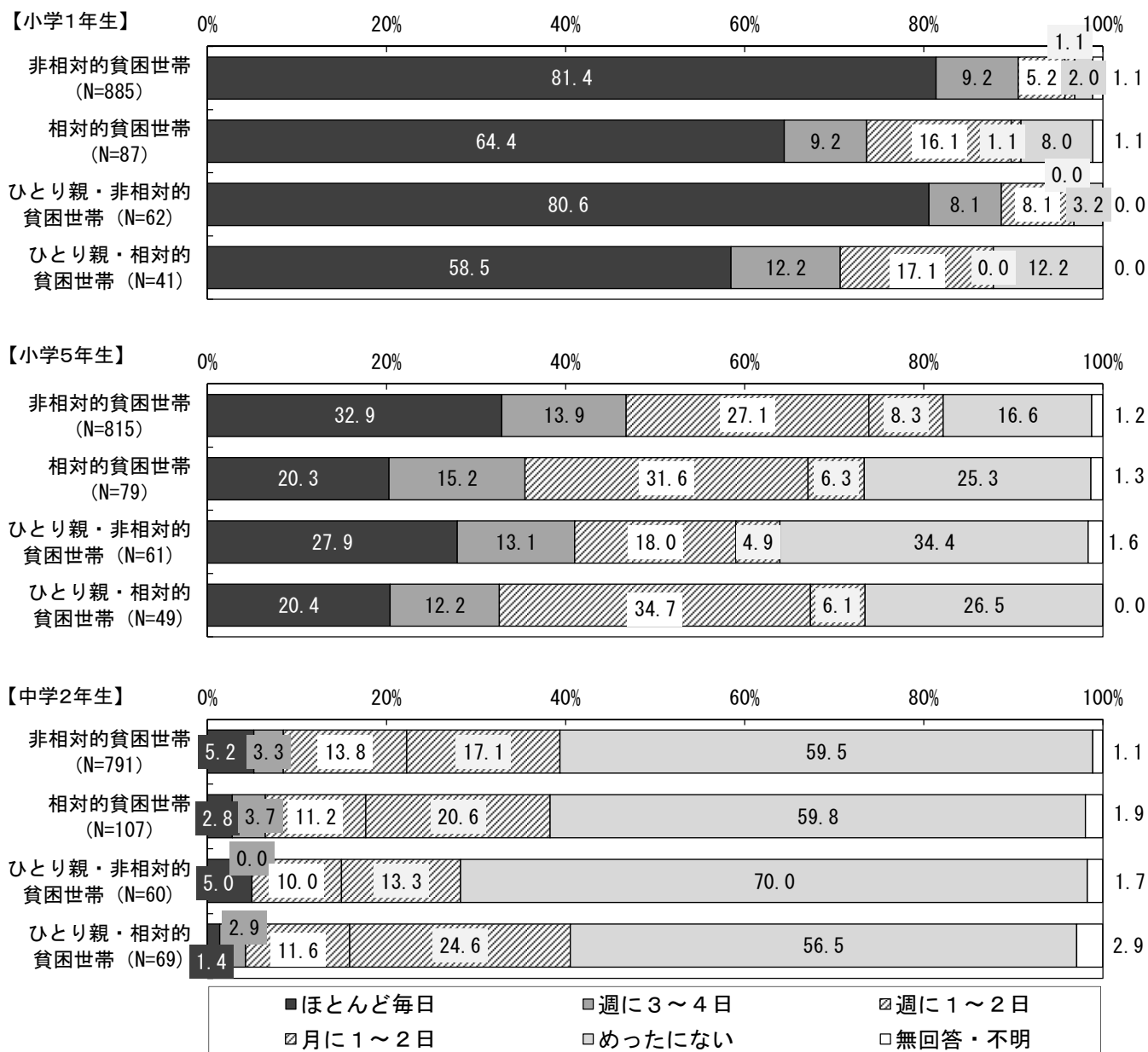


質問 2 5 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。あなた以外の大人の家族がすることを含めてお答えください。

(①から④の質問について、それぞれ1つに○)

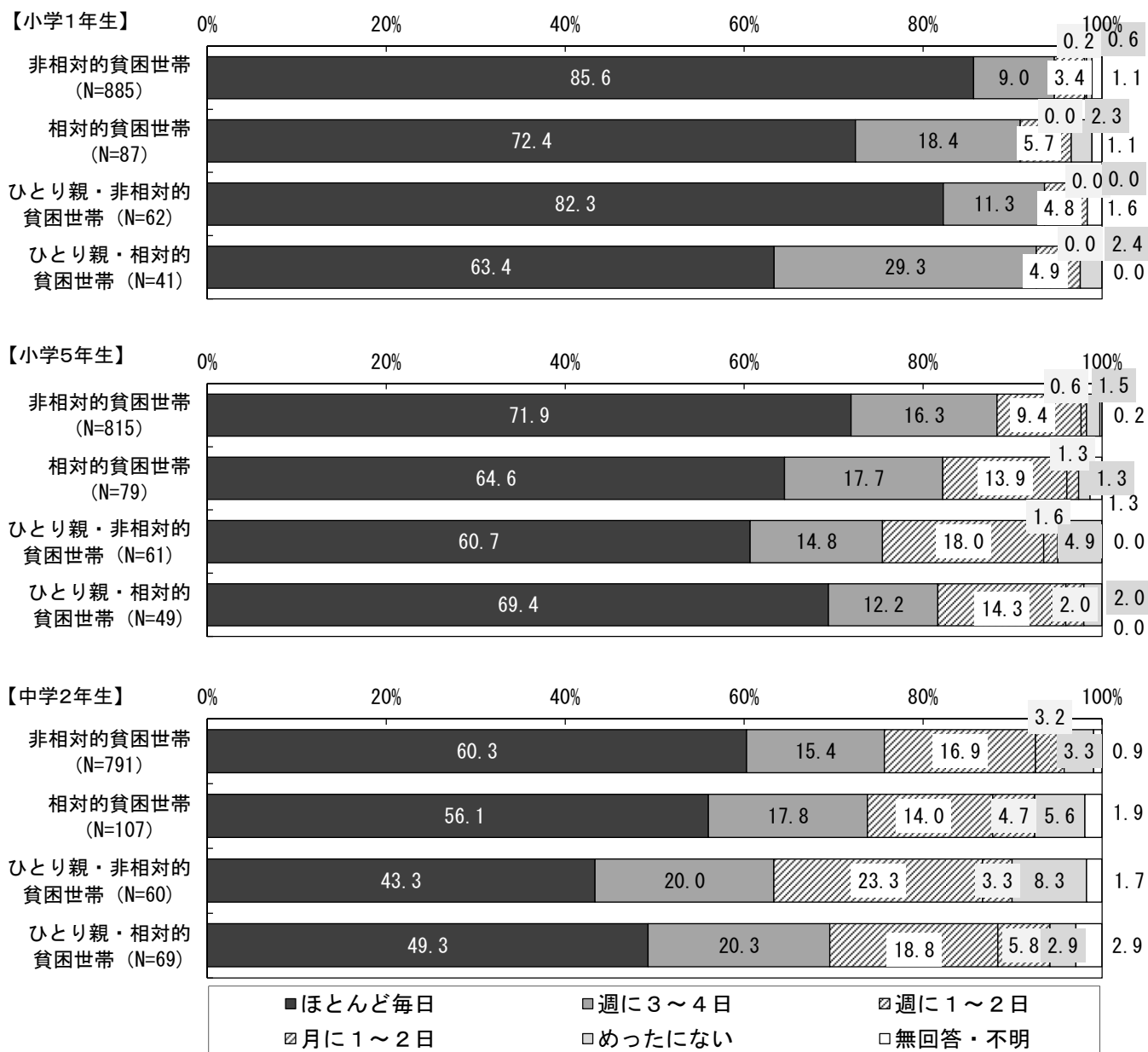
①お子さんの勉強をみる

学年が上がるほど、頻度が下がる傾向ですが、いずれの学年についても、非相対的貧困世帯と比較して相対的貧困世帯では、頻度が低い傾向となっています。



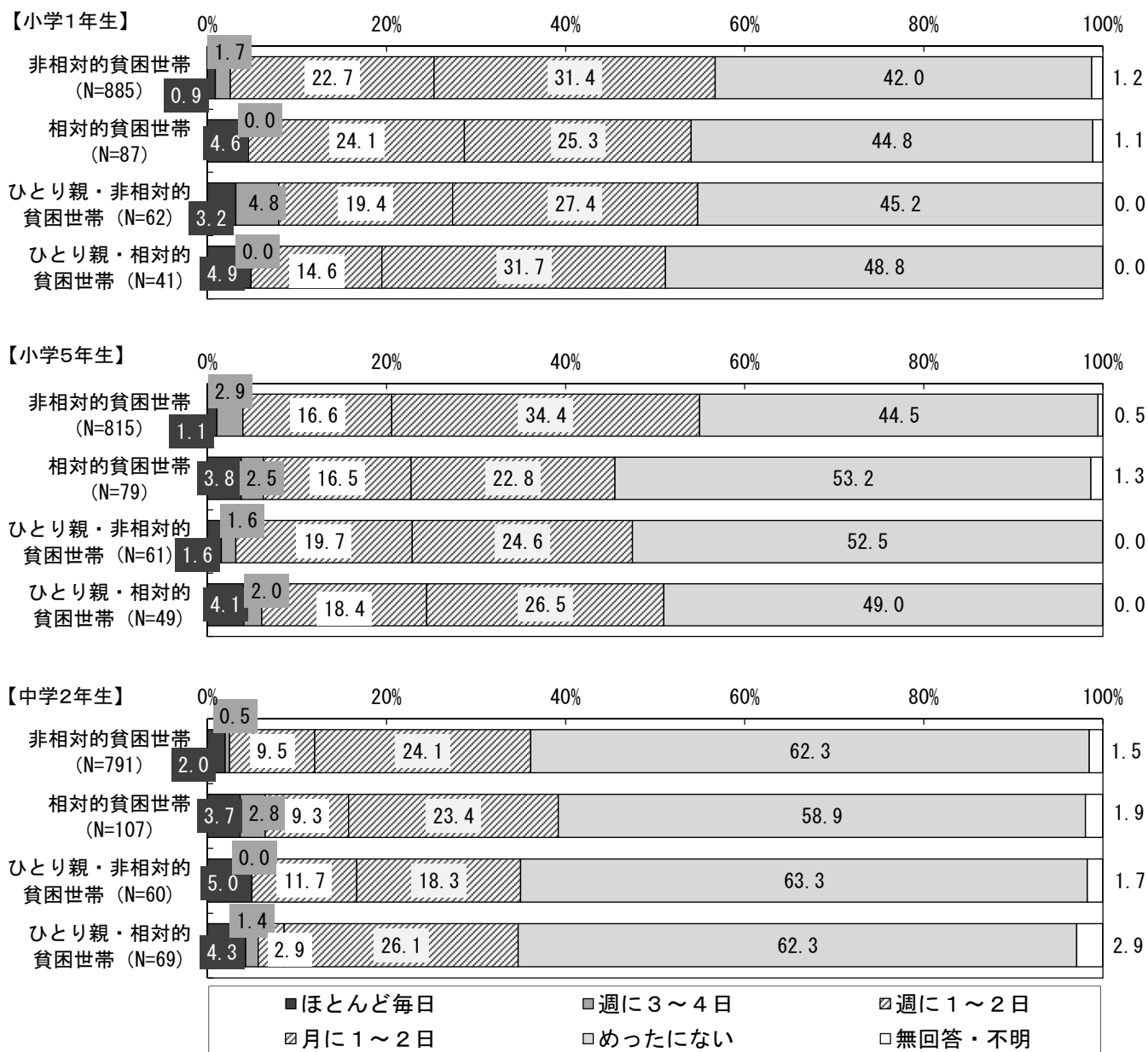
②お子さんと学校生活の話をする

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「ほとんど毎日」が少なくなっています。ひとり親世帯については、小学5年生、中学2年生では非相対的貧困世帯の方が「ほとんど毎日」が少なくなっています。



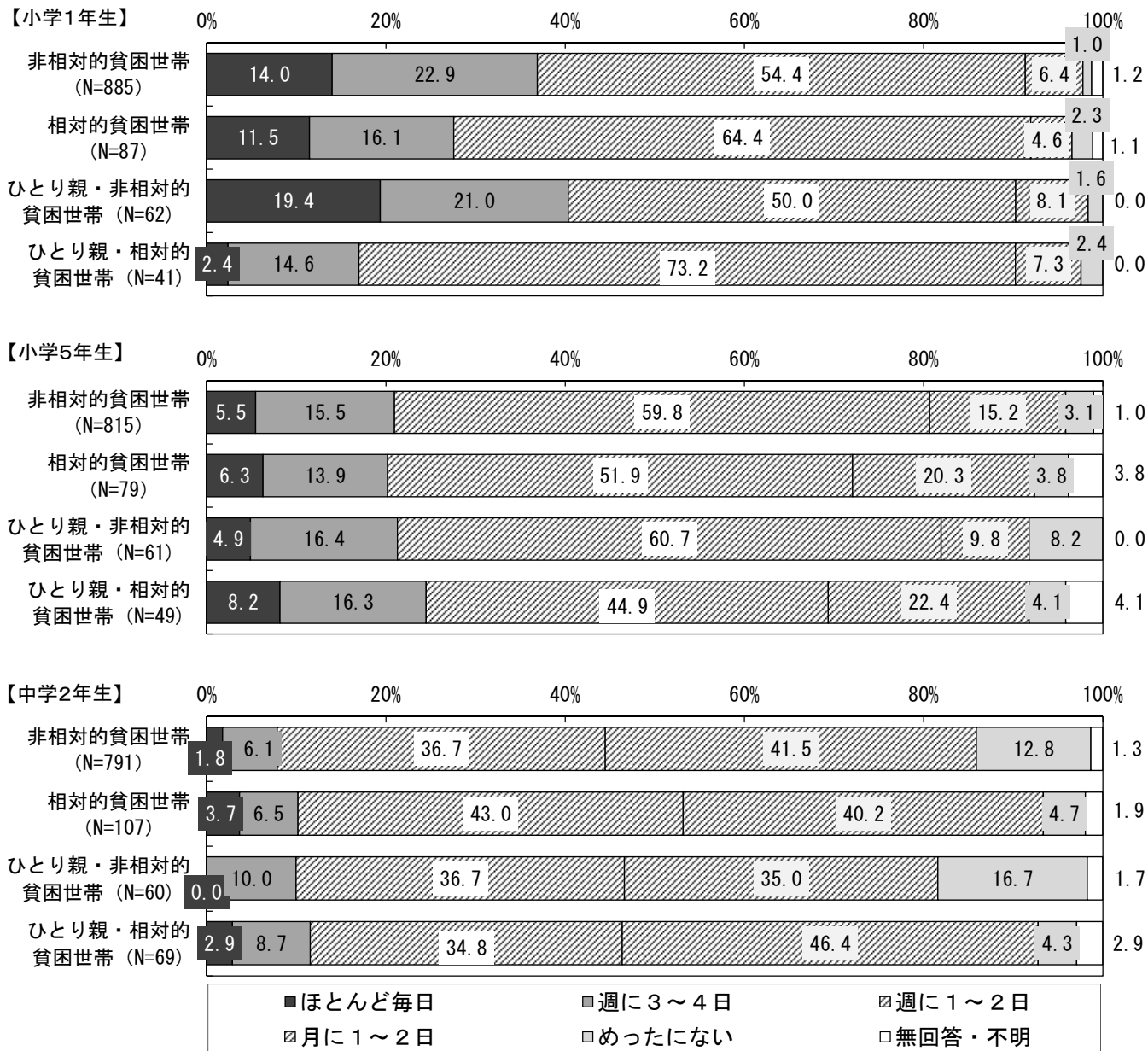
③お子さんと一緒に料理を作る

「ほとんど毎日」という回答は、全体では非相対的貧困世帯より相対的貧困世帯の方が多い傾向です。ひとり親世帯については、小学1年生と中学2年生の相対的貧困世帯で、「週に1～2日」以上の回答が少なくなっています。



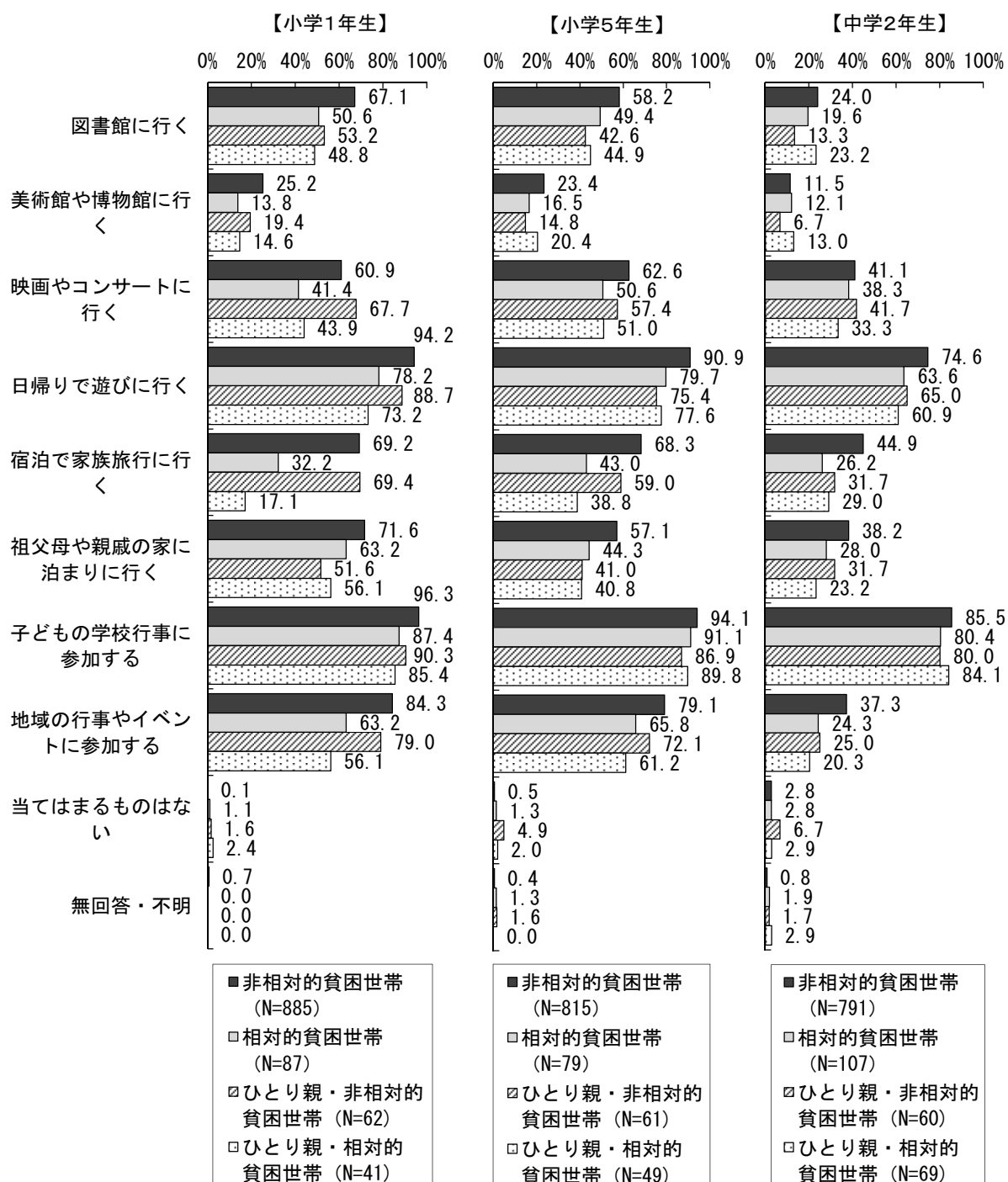
④お子さんと一緒に外出する

学年が上がるほど頻度が下がる傾向が見られます。世帯の状況による明確な差はあまりありませんが、小学1年生のひとり親・相対的貧困世帯では、頻度の高い回答が少なくなっています。



質問26 あなたのご家庭では、過去1年間に、お子さんと次のようなことをすることがありましたか。（当てはまるもの全てに○）

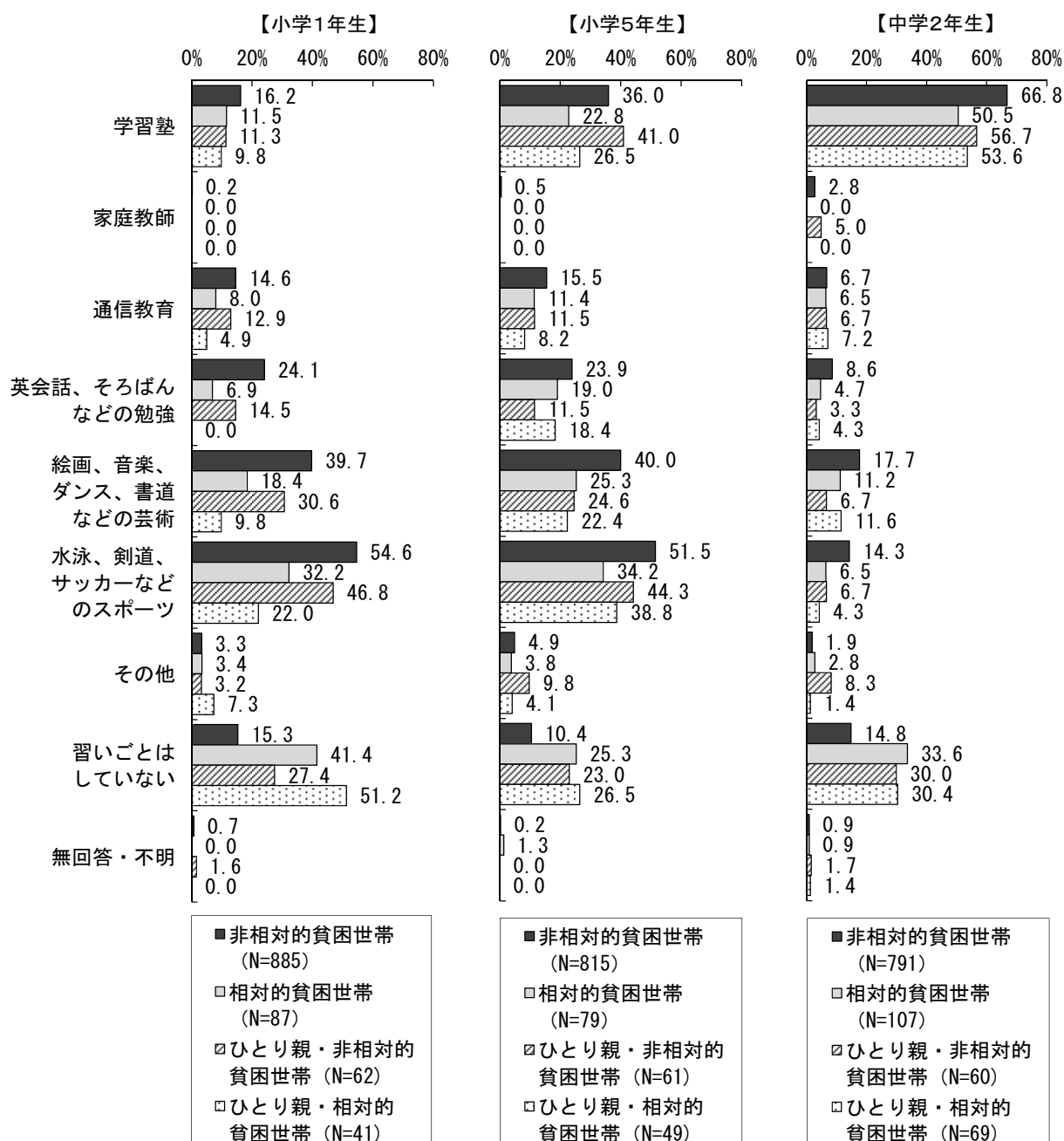
いずれの学年についても、ほとんどの項目で非相対的貧困世帯より相対的貧困世帯の回答が少なくなっています。ひとり親世帯は、相対的貧困世帯・非相対的貧困世帯のいずれも、全体より回答がやや少ない傾向です。家庭の状況が文化的な活動や余暇活動にも影響していることがうかがえます。図書館や地域の行事など、経済的な負担を伴わないと考えられる項目についても、他の項目と同様に差が見られます。



質問27 お子さんは現在、習いごとをしていますか。（当てはまるもの全てに○）

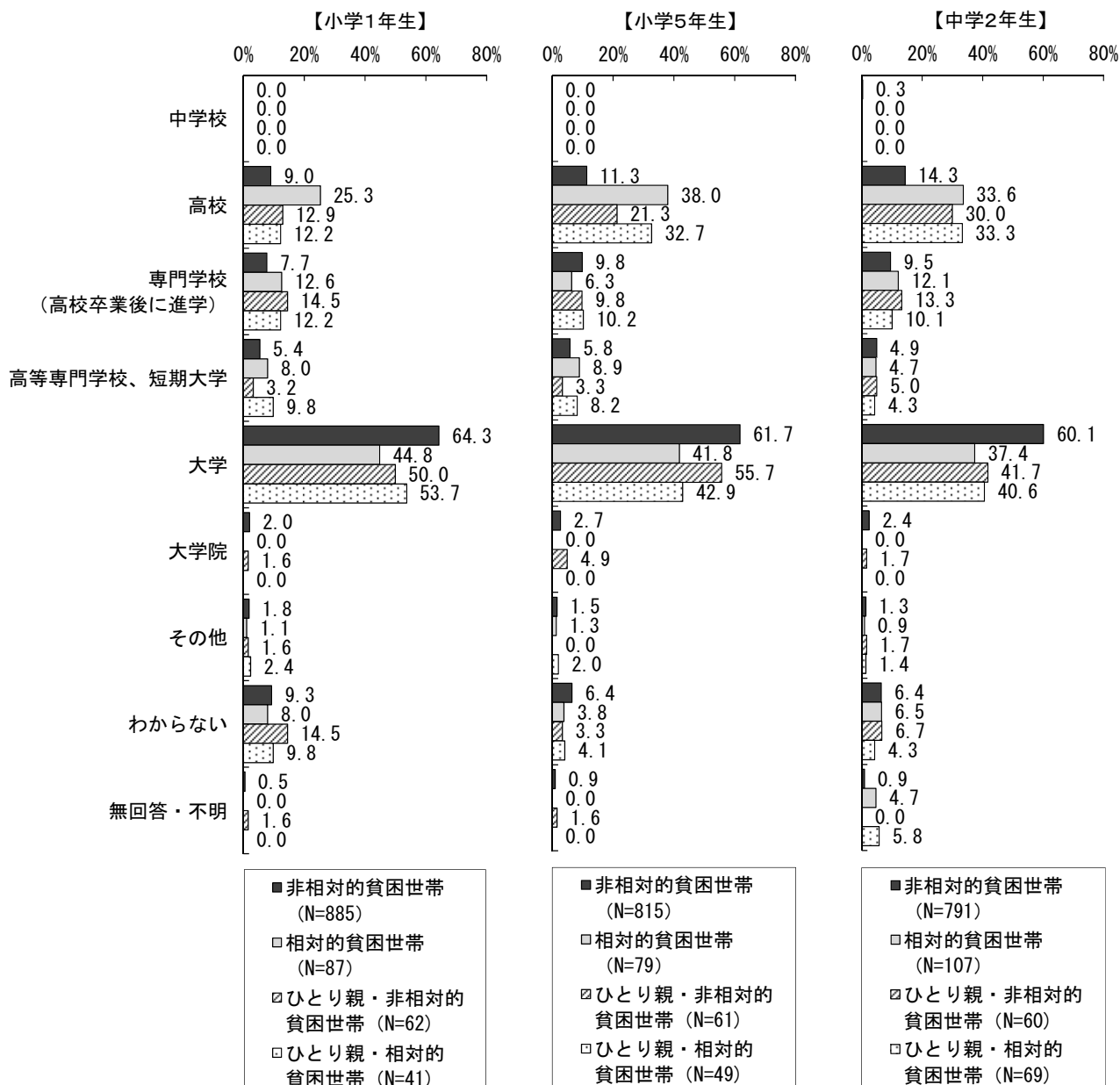
※費用のかからないサークル活動などは除きます。

いずれの学年についても、「習いごととはしていない」を除くほとんどの項目で、非相対的貧困世帯より相対的貧困世帯の回答が少なく、特に小学1年生では、「学習塾」「家庭教師」以外で、家庭の経済状況による差が大きくなっています。ひとり親世帯についても全体と比べて回答が少ない傾向です。



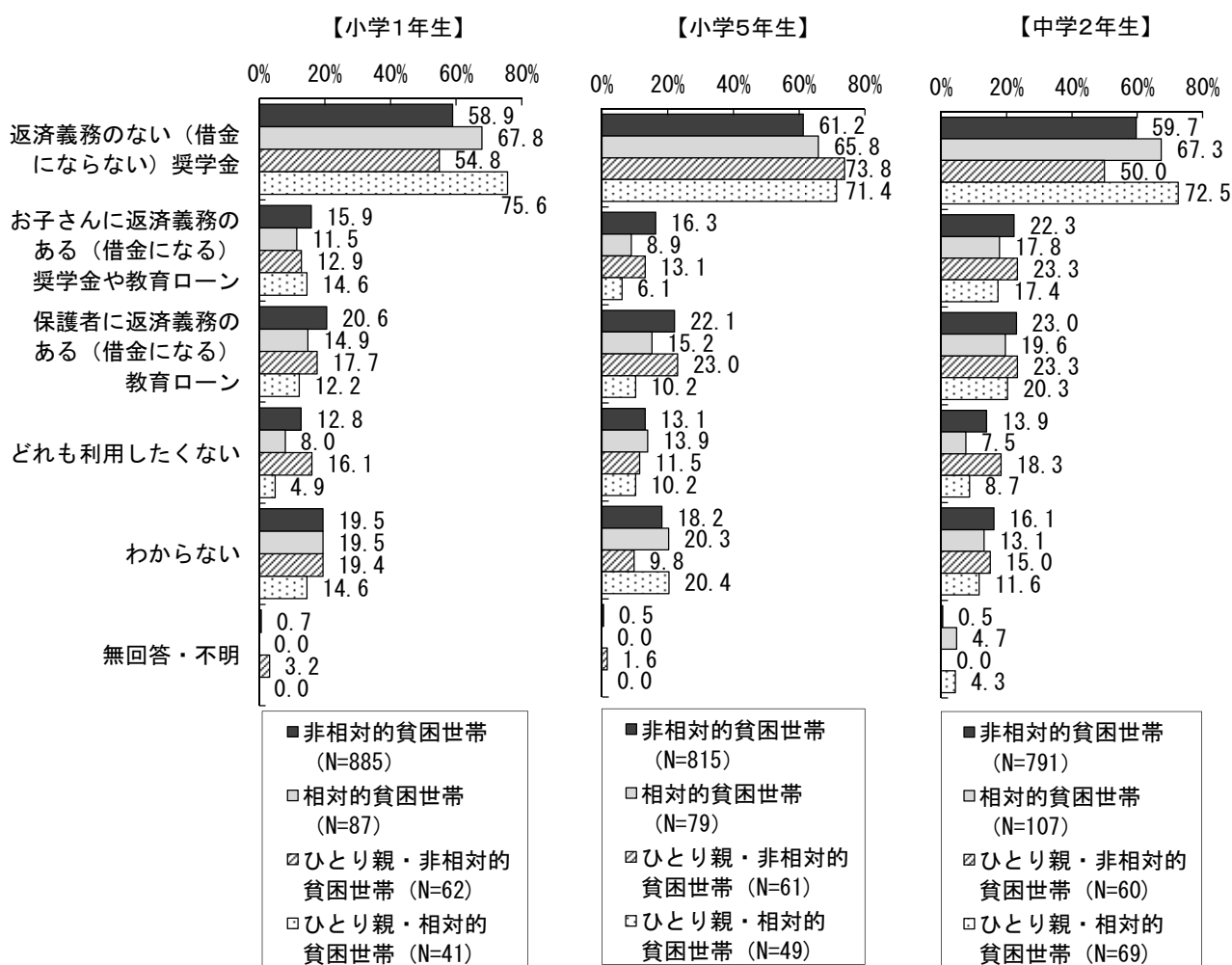
質問28 あなたは、お子さんに将来どのくらいまで最終学歴として学ばせたいと思いますか。（1つに○）

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では、「大学」が少なく、「高校」が多くなっています。ひとり親世帯では、学年が上がるほど非相対的貧困世帯の「大学」が減少し、「高校」が増加しており、経済状況による差がほとんどなくなっています。



質問 2 9 あなたは、経済的な理由でお子さんに希望の学歴まで学ばせることが難しいとき、奨学金や教育ローンを利用したいと思いますか。
(当てはまるもの全てに○)

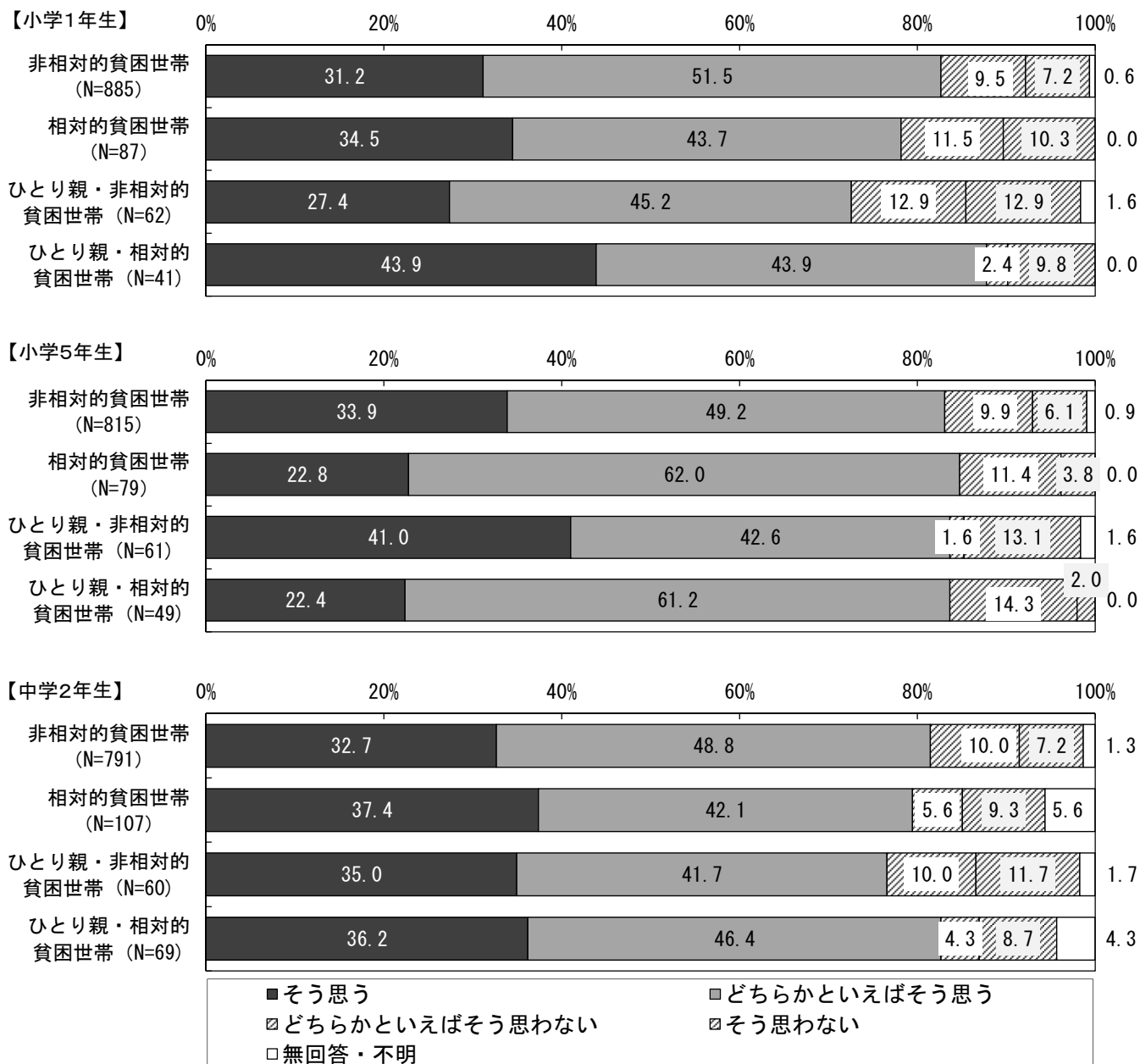
世帯の状況による大きな差はありませんが、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では、「返済義務のない奨学金」がやや多く、子どもまたは保護者に返済義務のある奨学金や教育ローンがやや少なくなっています。



質問30 あなたは、次の意見についてどう思いますか。
 (①から⑧の質問について、それぞれ1つに○)

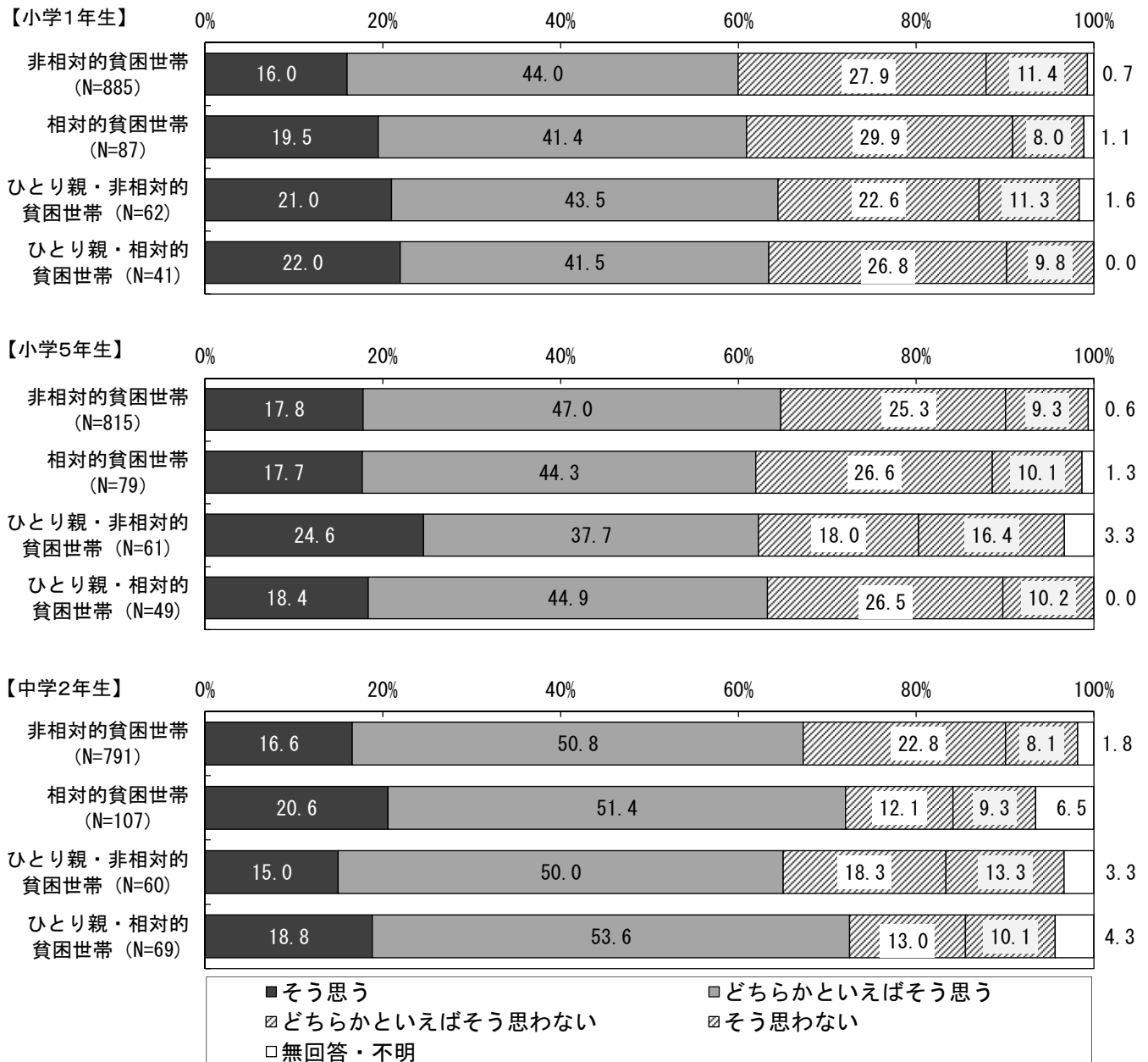
①学歴が低いと将来希望する職業につけない

小学5年生では家庭の経済状況によって「そう思う」の割合に差が出ています。中学2年生では世帯の状況による差は見られません。



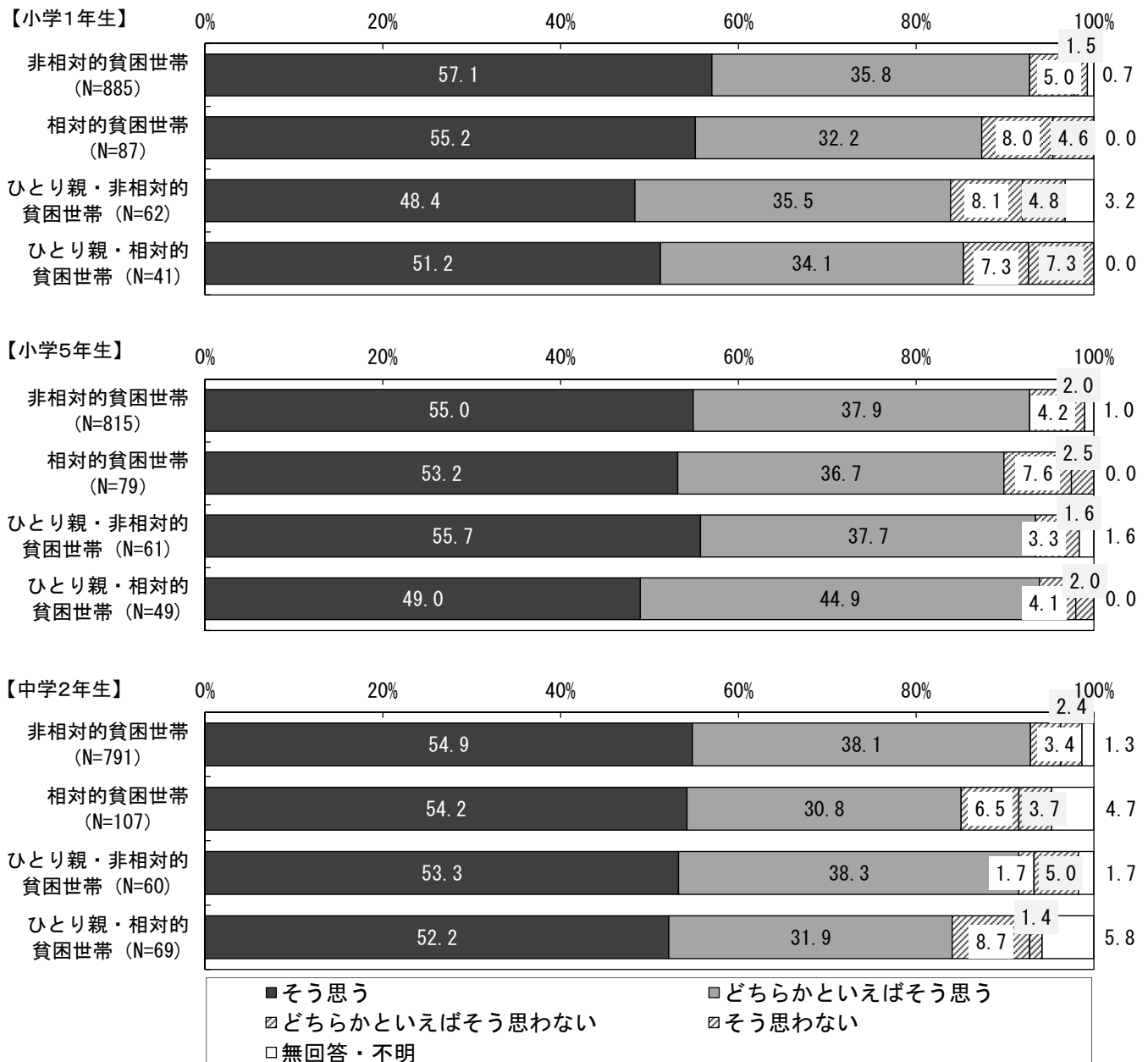
②他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい

いずれの学年についても、世帯の状況にかかわらず、6割台が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しています。



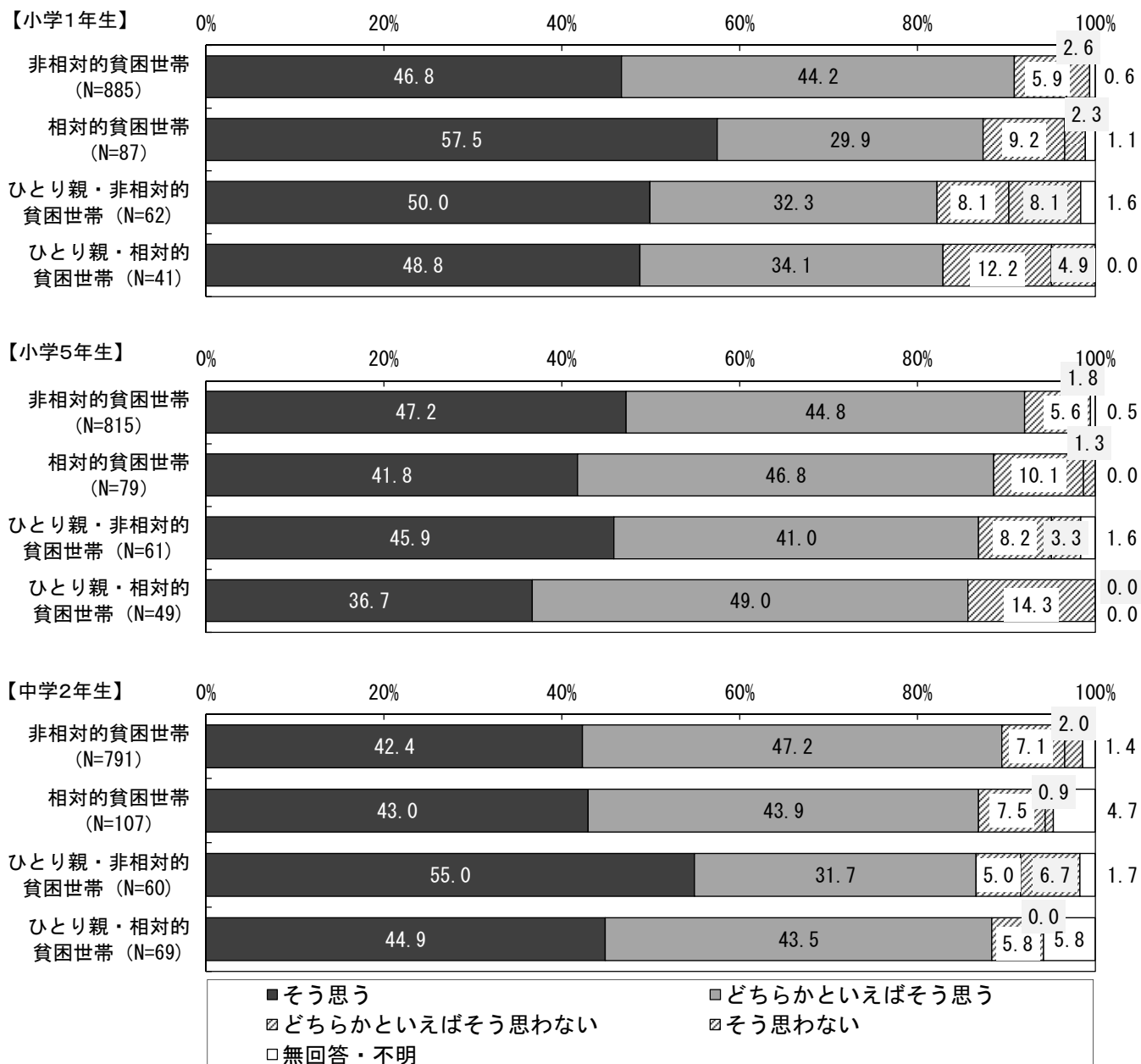
③勉強することで色々な考えを身につけることができる

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」が、やや少なくなっています。ひとり親世帯についても、小学5年生以外は同様の傾向です。



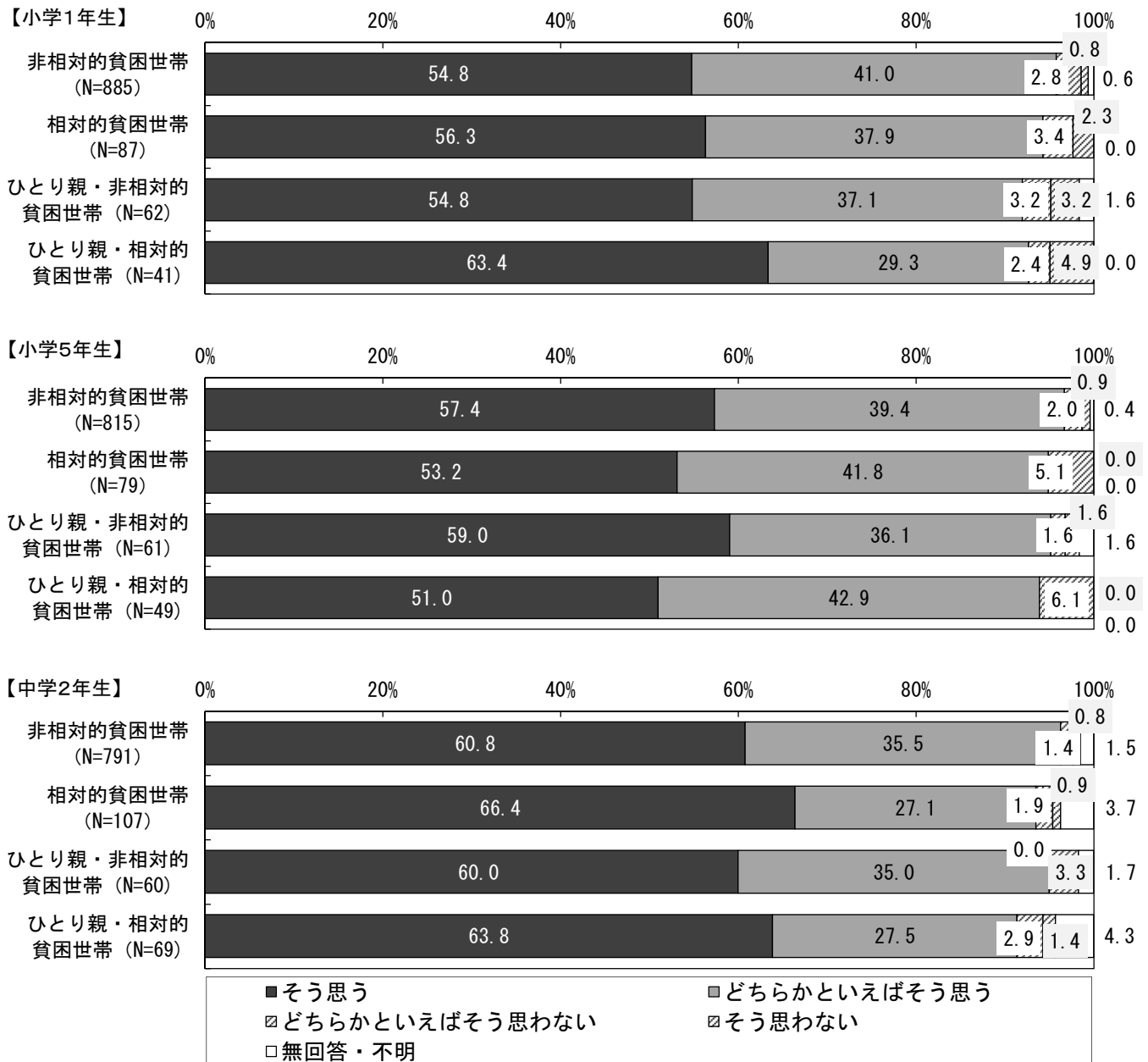
④努力すれば夢や希望はかなえられる

小学1年生、小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯で「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」がやや多く、ひとり親世帯についても全体と比較すると同様の傾向が見られます。



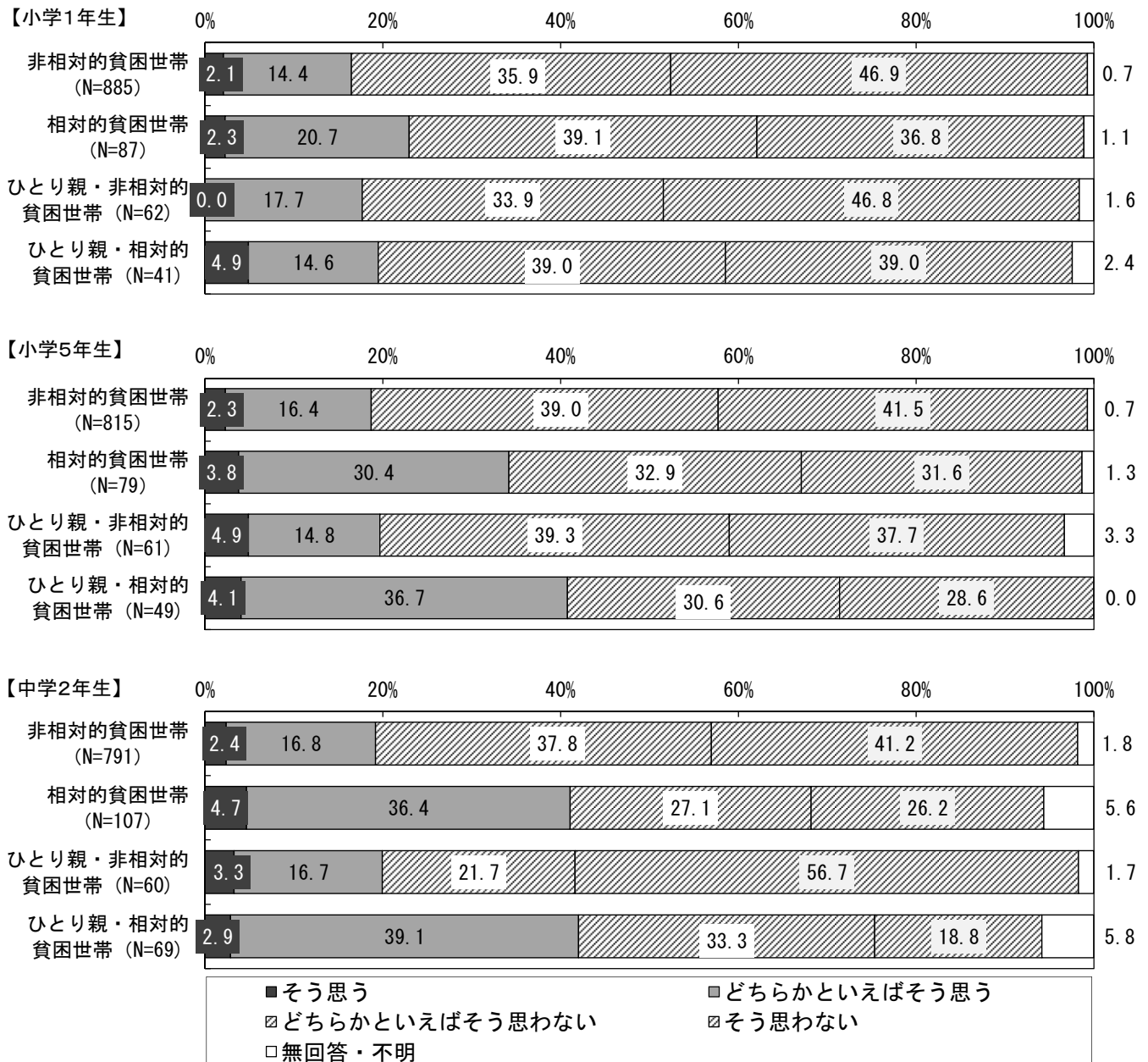
⑤子どもには頑張って勉強してほしい

いずれの世帯についても、小学1年生、小学5年生では5～6割、中学2年生では6割台が「そう思う」と回答しています。世帯の状況による差は見られません。



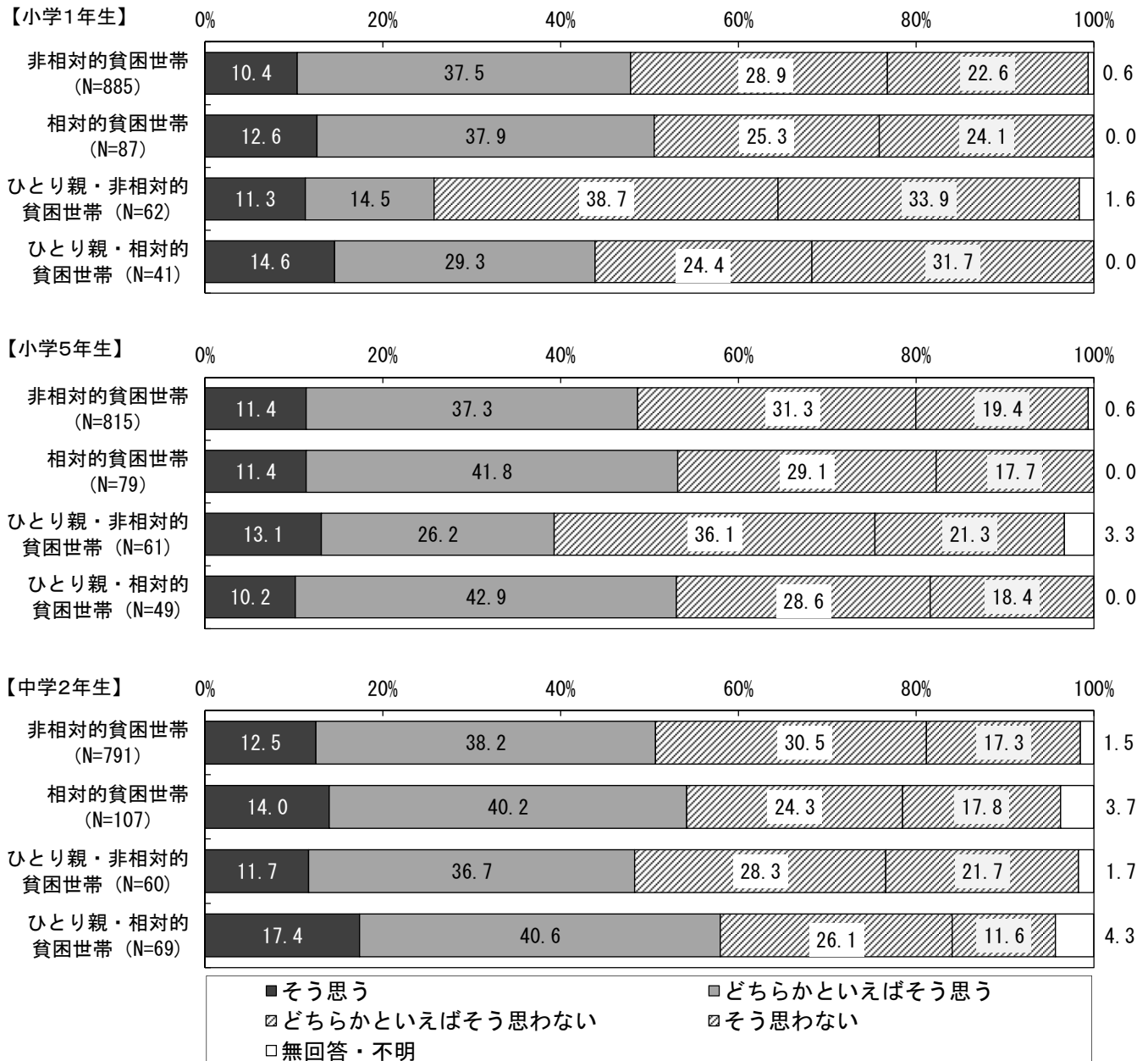
⑥子どもには少しでも早く働いてほしい

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」が多く、学年が上がるほどその割合が増加し、差が拡大しています。



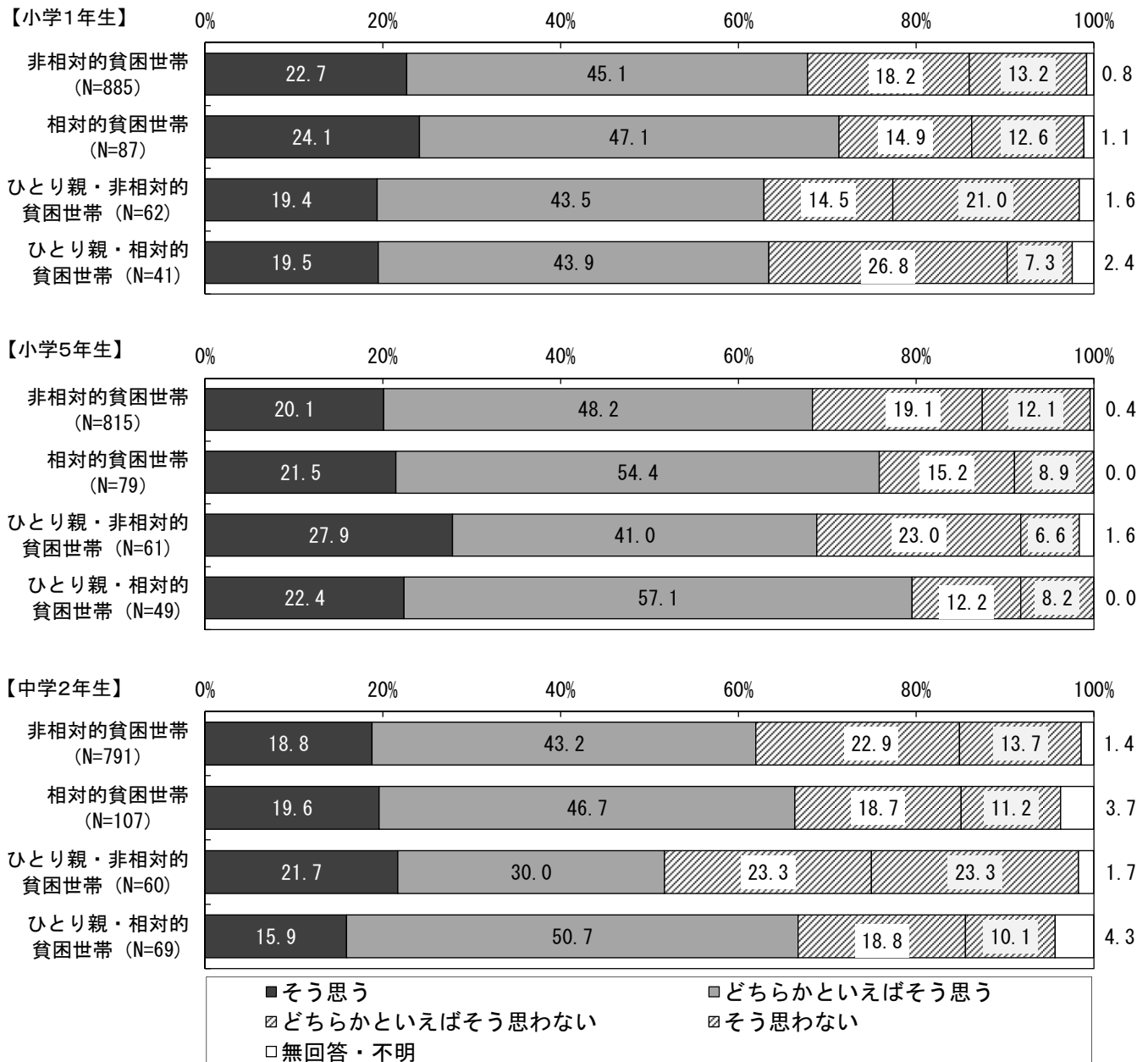
⑦子どもには早く親から独立してほしい

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」がやや多くなっています。ひとり親世帯については、小学1年生の非相対的貧困世帯では「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」が少なくなっていますが、学年が上がるほど増加し、中学2年生では他の世帯との差が見られなくなっています。



⑧子どもには家事やきょうだいの世話をしてほしい

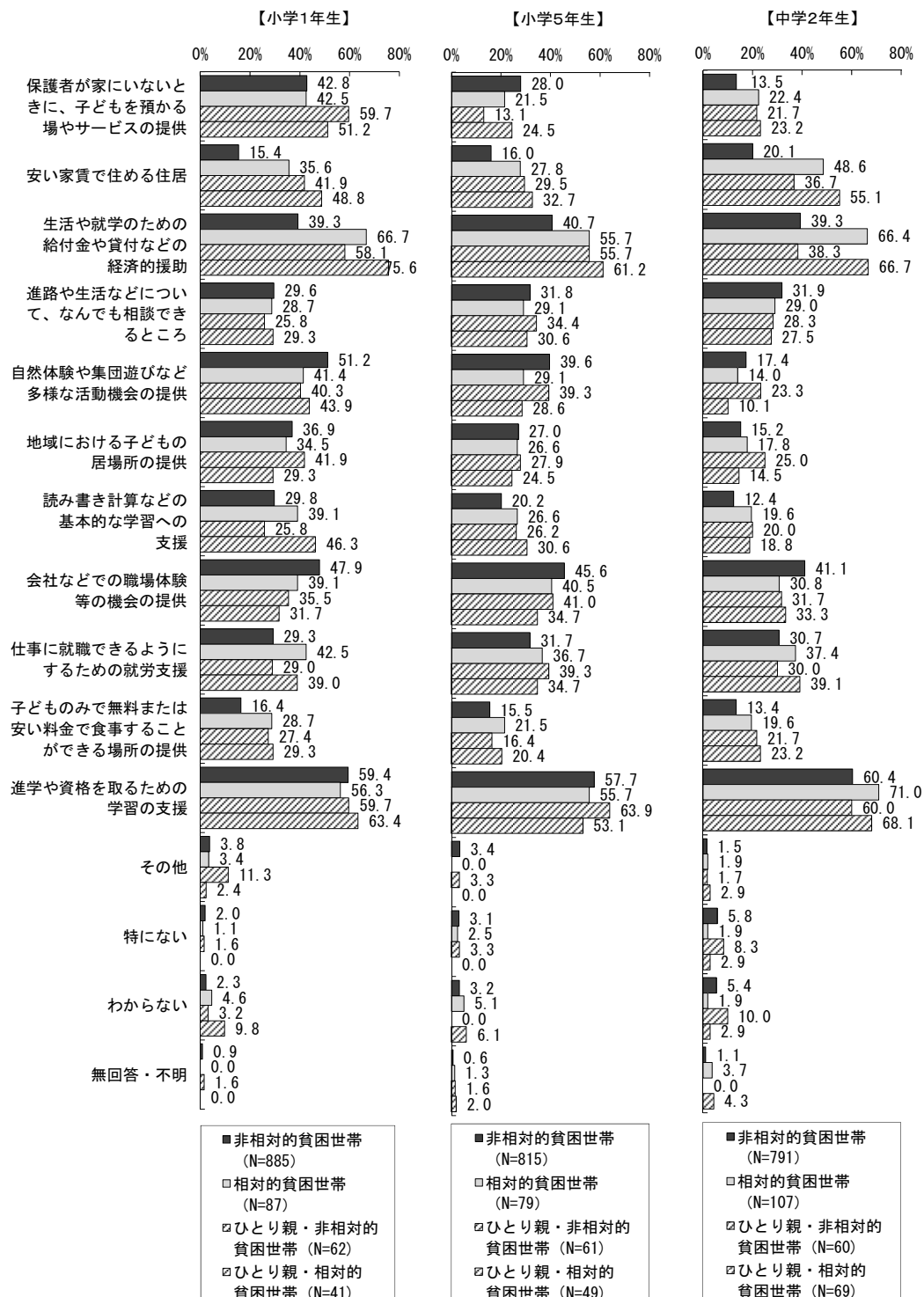
非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」がやや多くなっています。



5. 必要な支援について

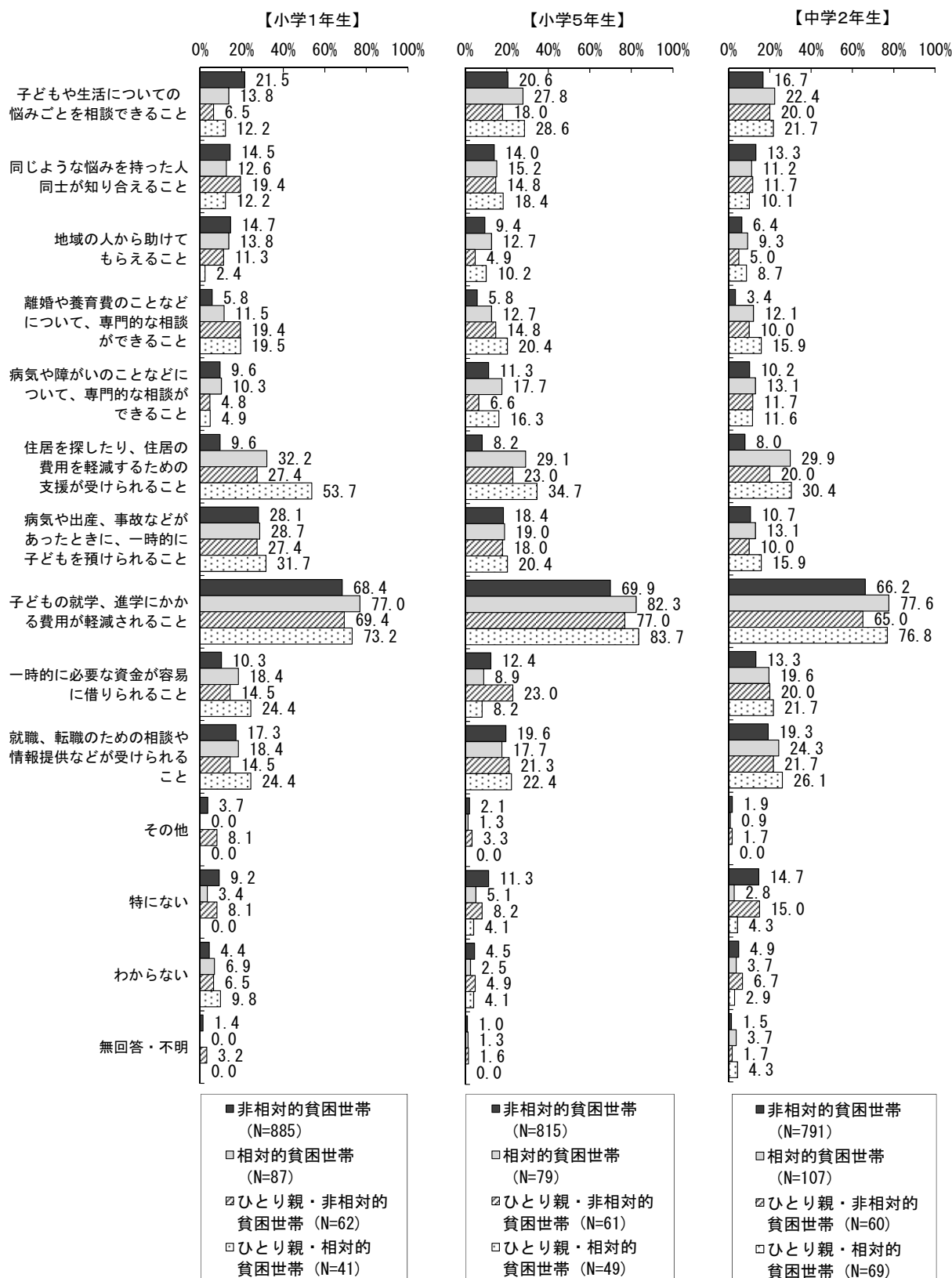
質問3 1 お子さんにとって、現在または将来に、どのような支援があると良いと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、「安い家賃で住める住居」「生活や就学のための給付金や貸付などの経済的援助」が多く、「読み書き計算などの基本的な学習への支援」「仕事に就職できるようにするための就労支援」「子どものみで無料または安い料金で食事することができる場所の提供」についてもやや多くなっています。一方で、「自然体験や集団遊びなど多様な活動機会の提供」「会社などでの職場体験等の機会の提供」については、非相対的貧困世帯の方がやや多くなっています。



質問3 2 あなたが、現在必要としていること、重要だと思う支援はどのようなものですか。（当てはまるもの全てに○）

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「住居を探したり、住居の費用を軽減するための支援が受けられること」が多く、「離婚や養育費のことなどについて、専門的な相談ができること」「一時的に必要な資金が容易に借りられること」についてもやや多くなっています。

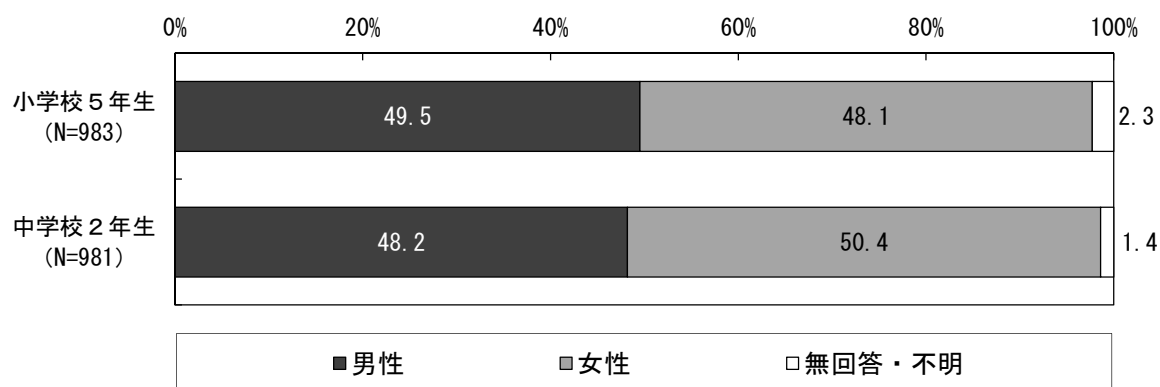


Ⅲ 児童生徒調査

1. 回答者について

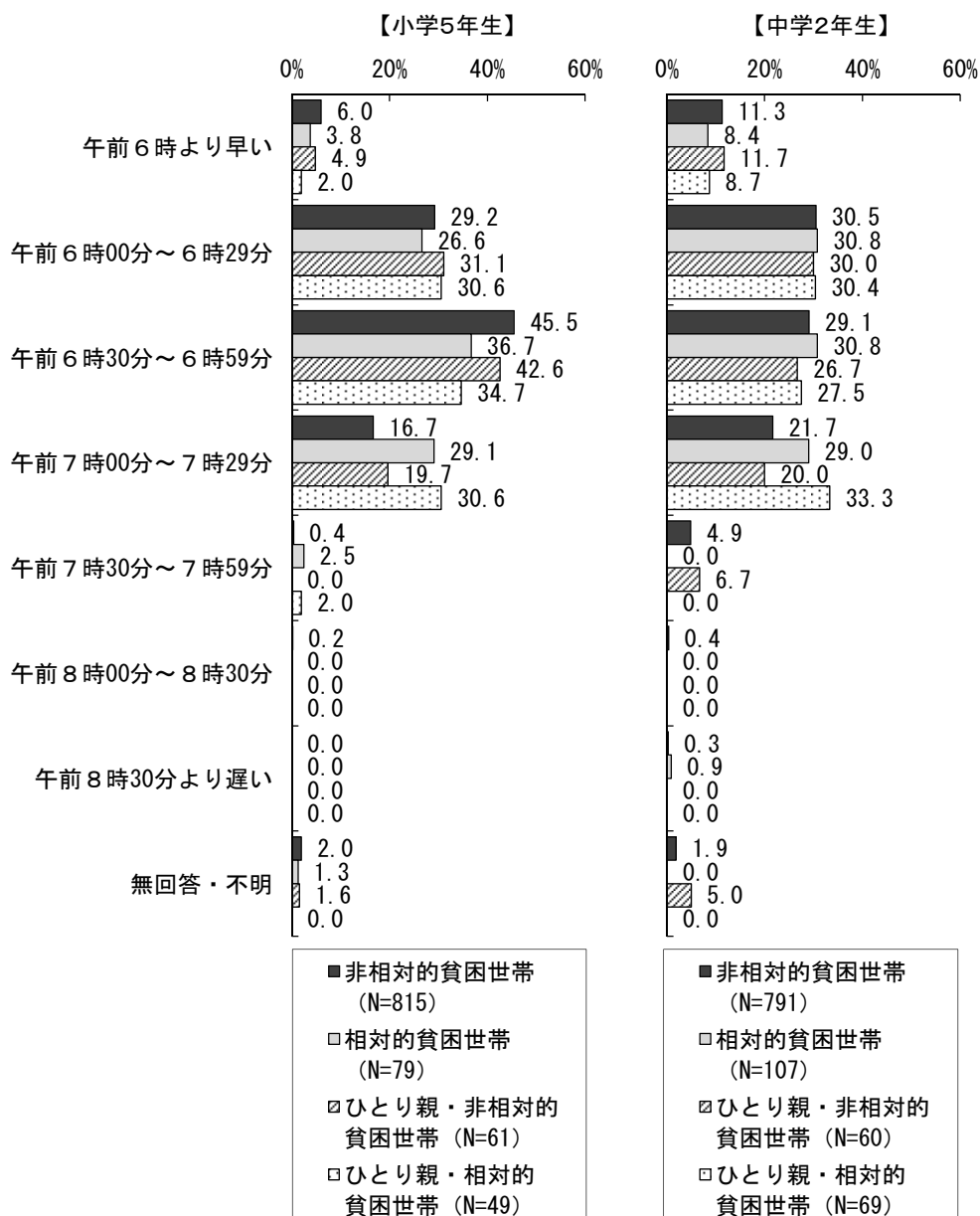
質問 1 あなたの性別をお答えください。

回答した児童生徒の性別については、小学5年生ではやや男性が多く、中学2年生ではやや女性が多くなっています。



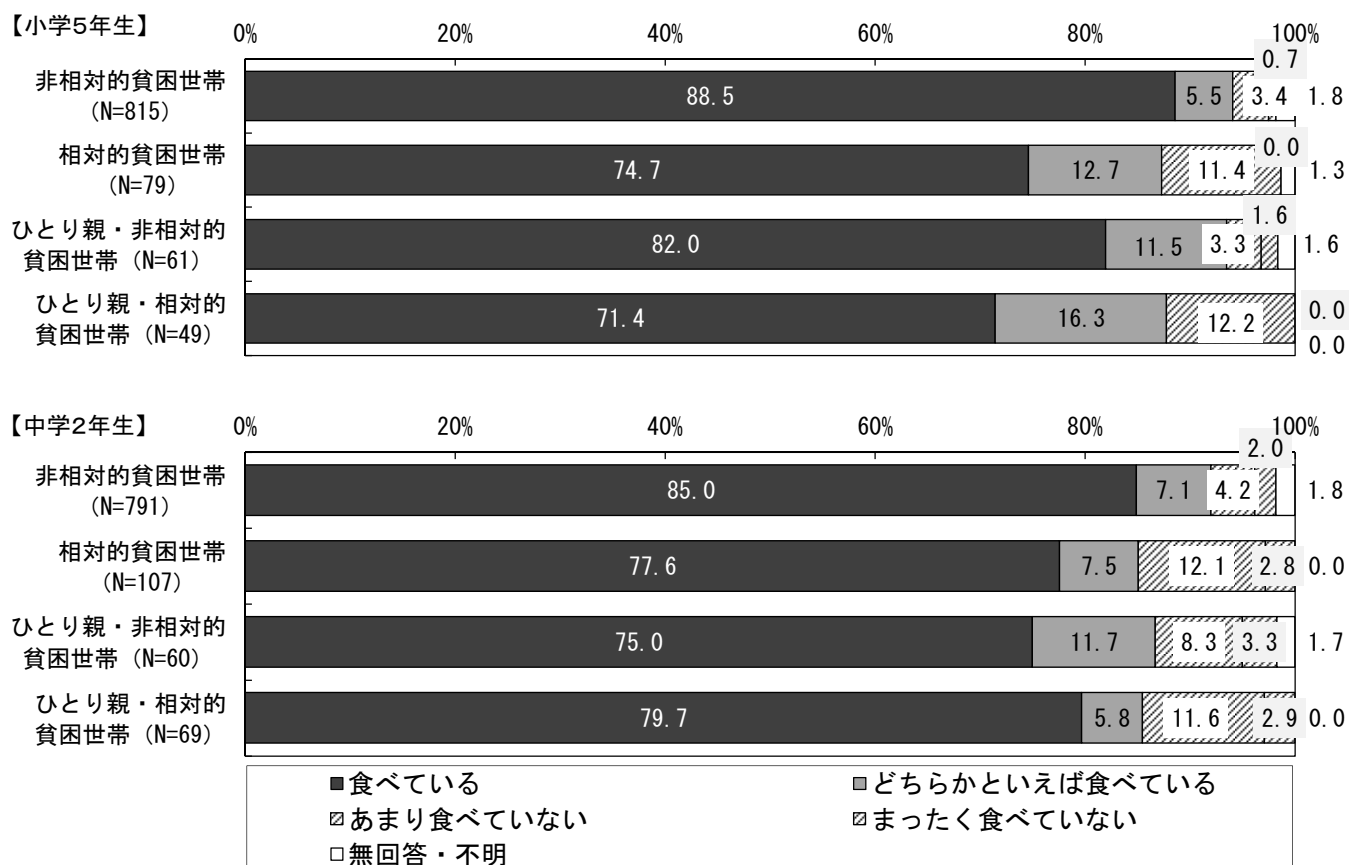
質問2 あなたは学校がある日は何時に起きますか。（1つに○）

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯で「午前7時00分～7時29分」が多く、それより早い時刻の回答がやや少なくなっています。中学2年生についても同様の傾向が見られますが、差は小さくなっています。



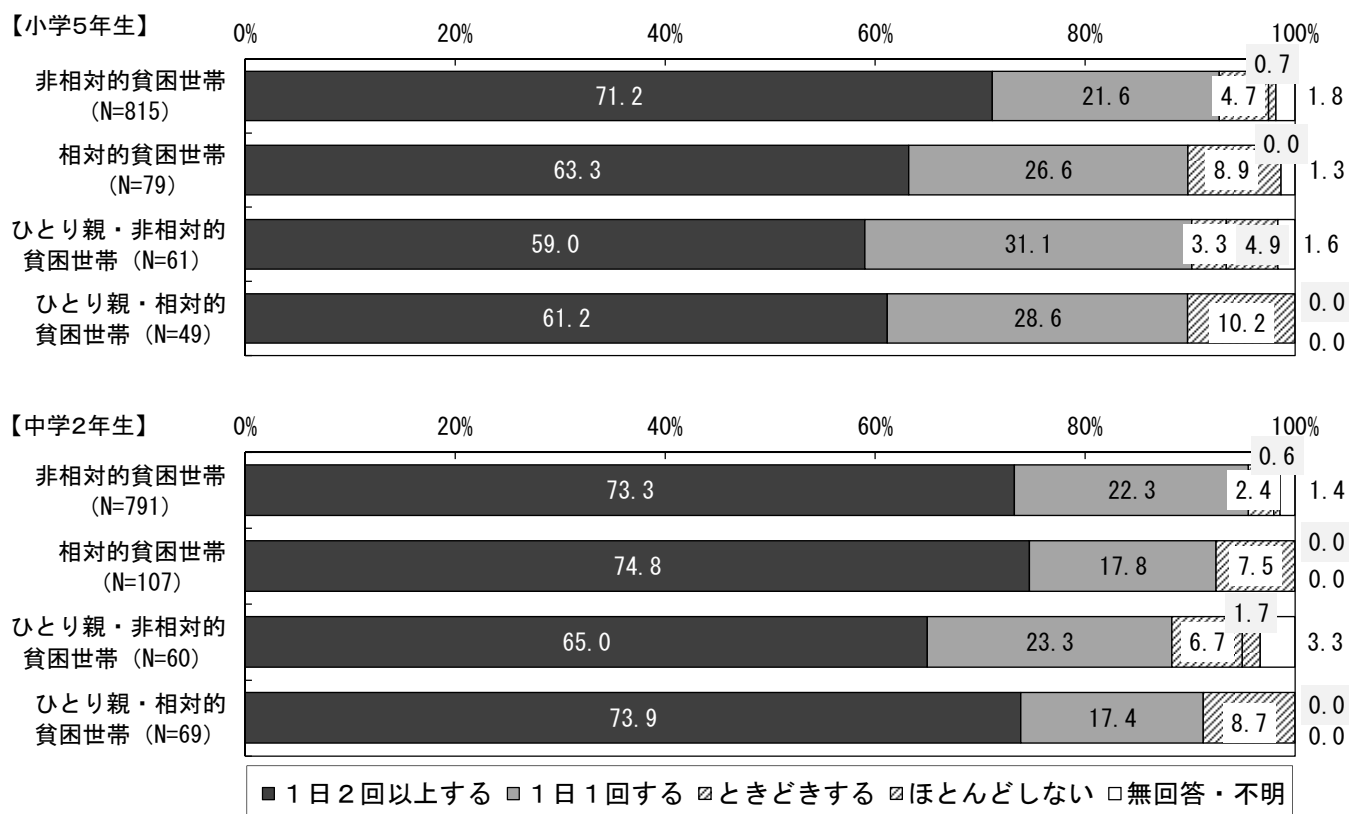
質問3 あなたは朝ごはんを毎日食べていますか。（1つに○）

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「食べている」がやや少なく、「どちらかといえば食べている」「あまり食べていない」が多くなっています。ひとり親世帯については、中学2年生では非相対的貧困世帯であっても、全体と比べて「食べている」が少なくなっています。



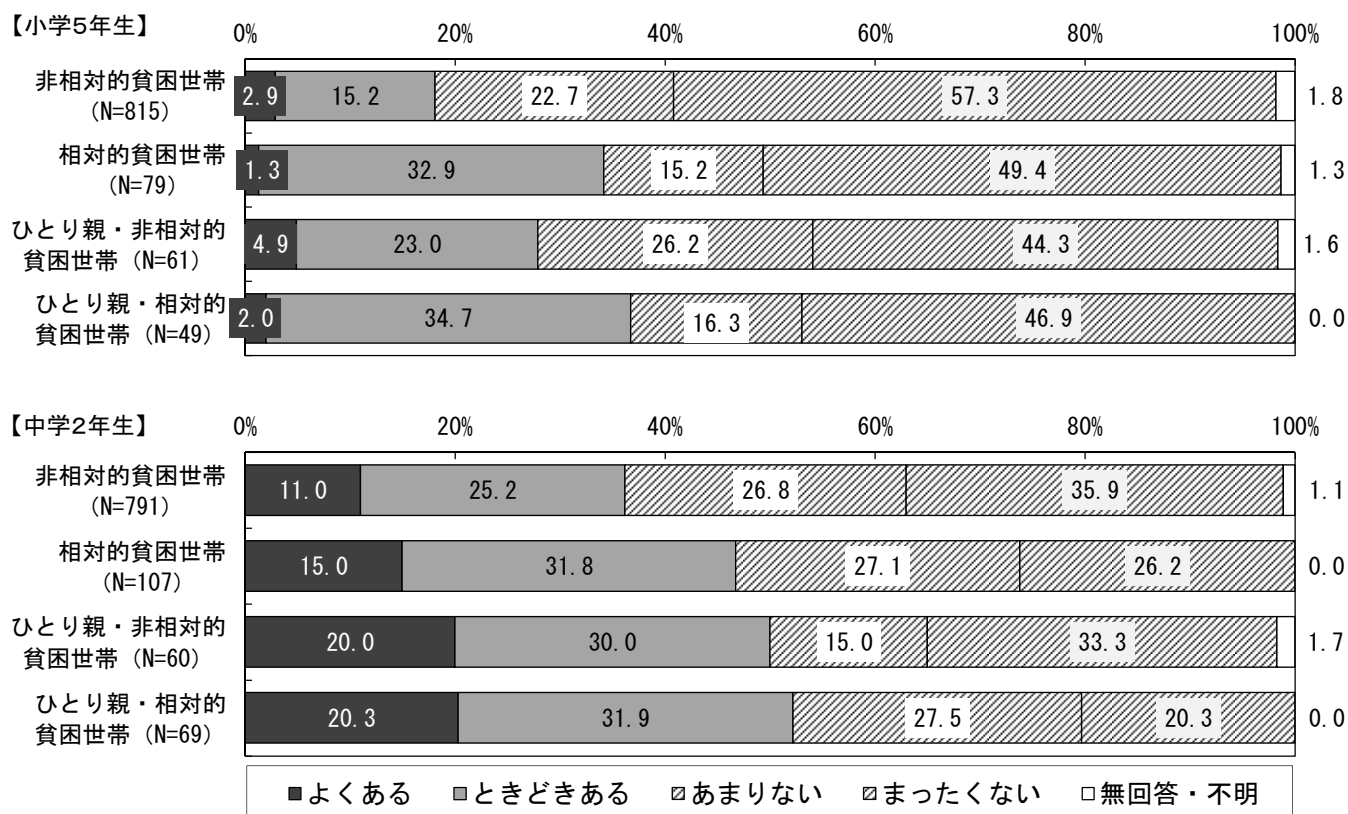
質問4 あなたは歯磨きをどのくらいしますか。(1つに○)

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「1日2回以上する」がやや少なく、「1日1回する」または「ときどきする」が多くなっています。中学2年生では明確な差は見られません。



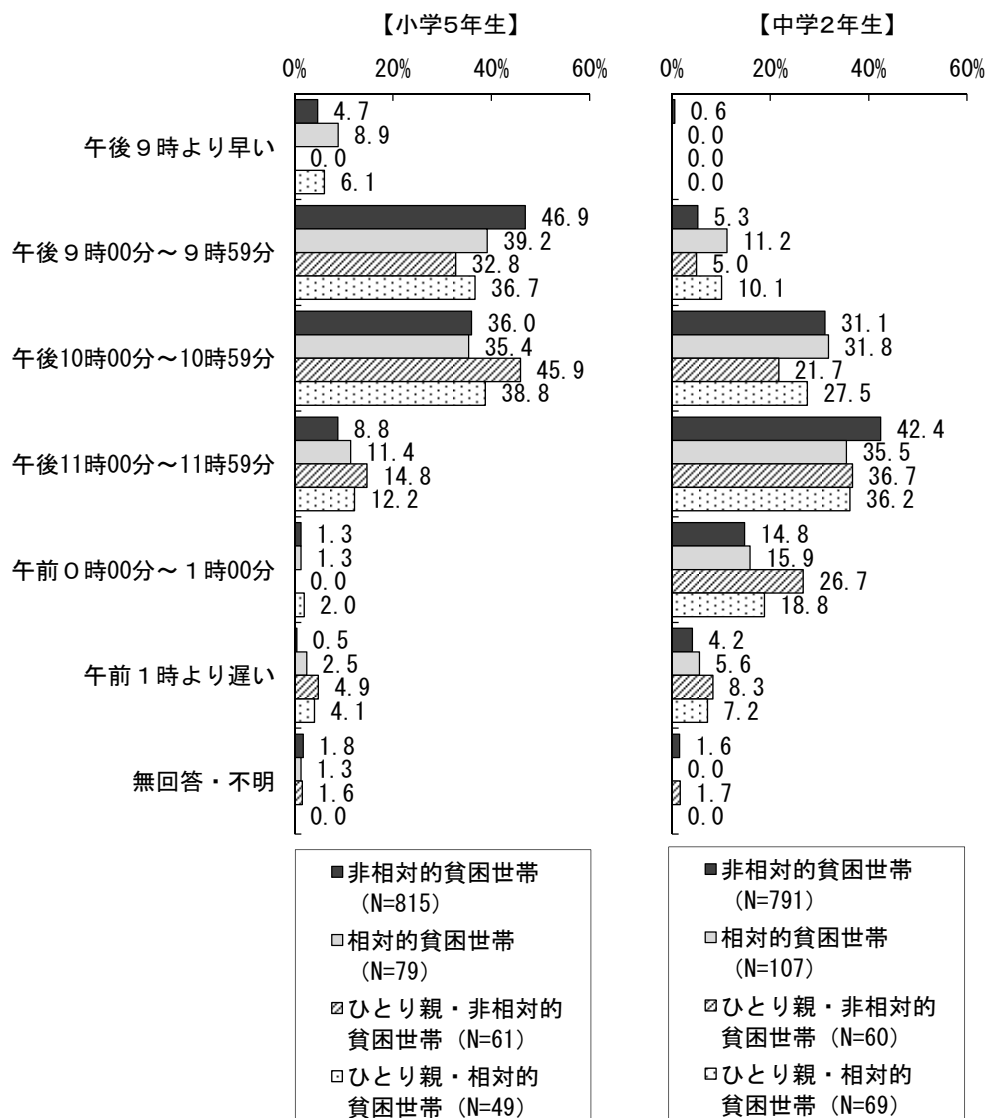
質問5 あなたは夕ごはんを子どもだけで食べることがありますか。（1つに○）

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「よくある」または「ときどきある」がやや多い傾向があります。中学2年生のひとり親世帯では、半数以上が「よくある」または「ときどきある」と回答しています。



質問6 あなたは次の日に学校がある日は、何時に寝ますか。（1つに○）

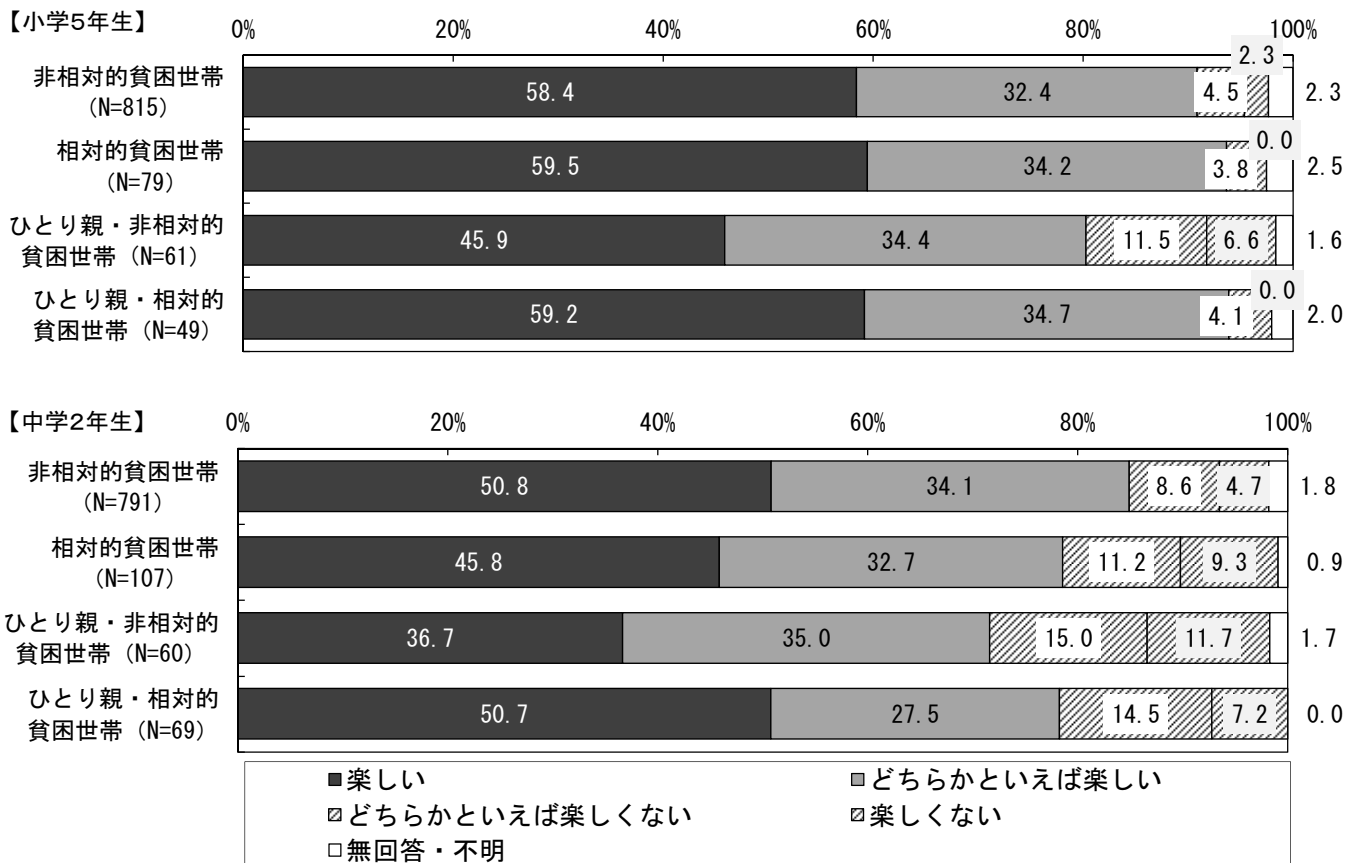
ひとり親世帯では、非相対的貧困世帯と比較して、小学5年生では午後11時以降、中学2年生では午前0時以降の回答が多くなっており、比較的遅い時刻に就寝する傾向が見られます。



2. 学校や勉強について

質問7 あなたは学校にいる時間が楽しいですか。（1つに○）

中学2年生では、全体では非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「楽しい」または「どちらかといえば楽しい」がやや少なくなっています。ひとり親世帯では、いずれの学年も非相対的貧困世帯で「楽しい」が少なくなっています。

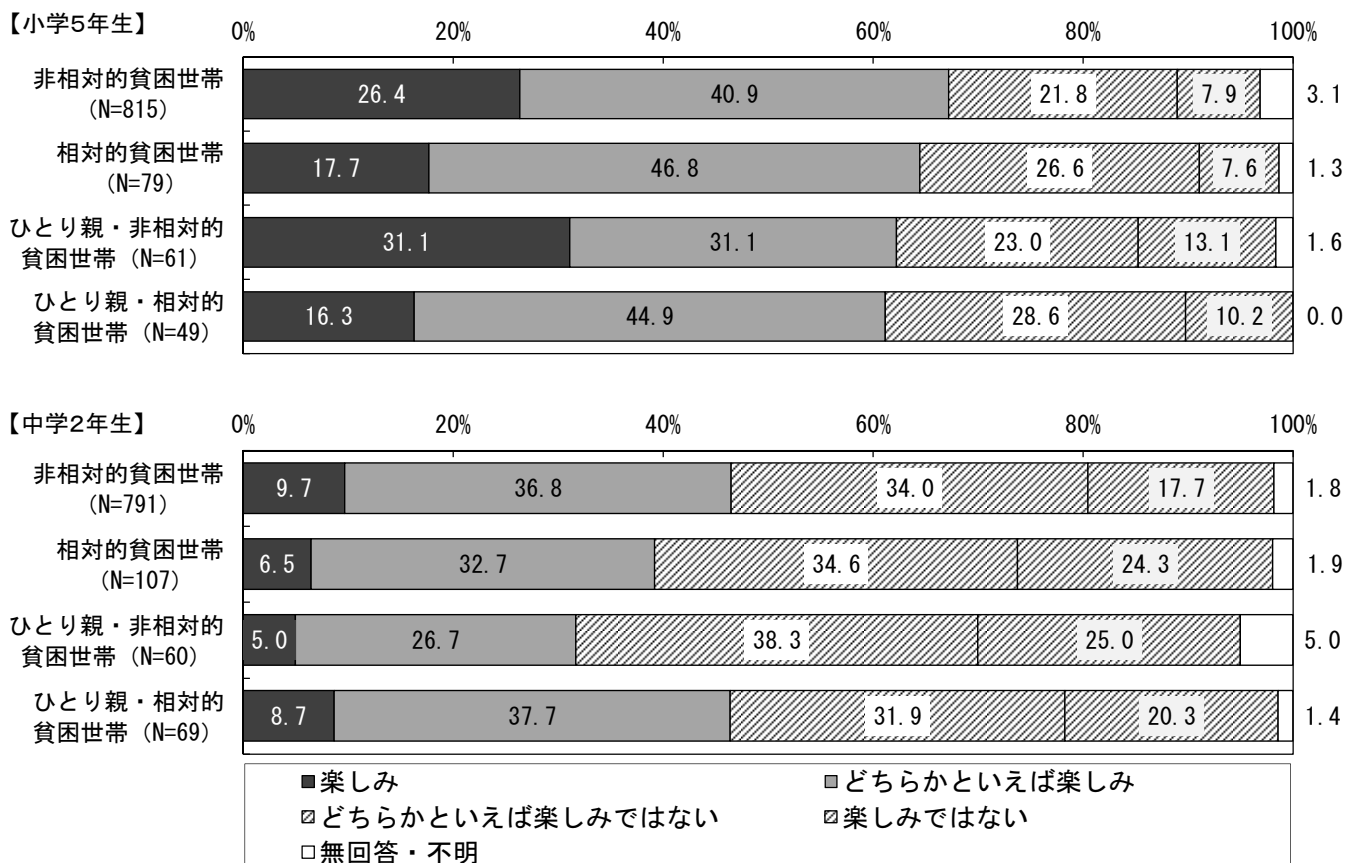


質問 8 あなたが学校で楽しみにしていることは何ですか。

(①から⑥の質問について、それぞれ1つに○)

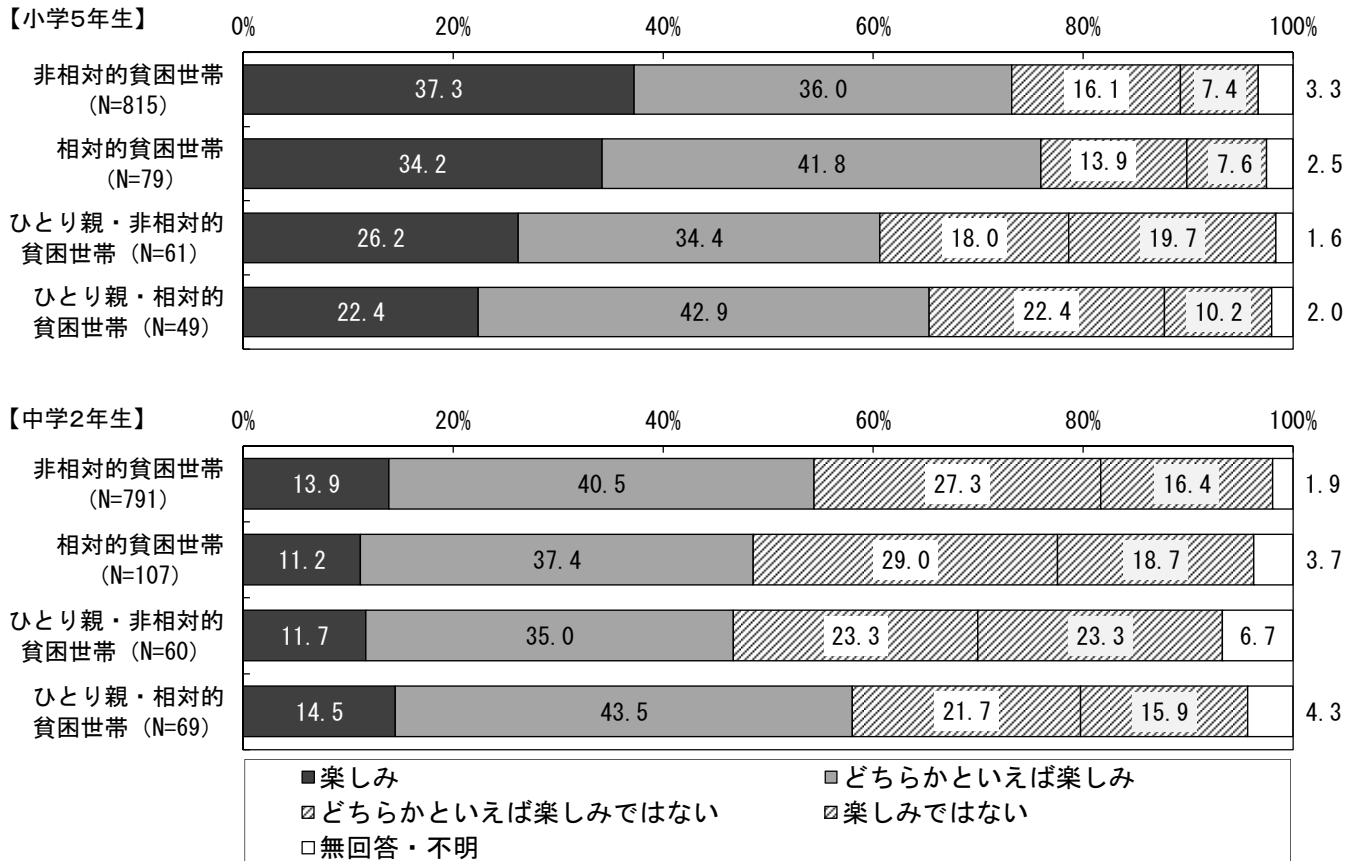
①授業

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では、小学5年生で「楽しみ」が少なく、中学2年生でも「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」がやや少なくなっています。ひとり親世帯では、中学2年生の非相対的貧困世帯で、「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」がやや少なくなっています。



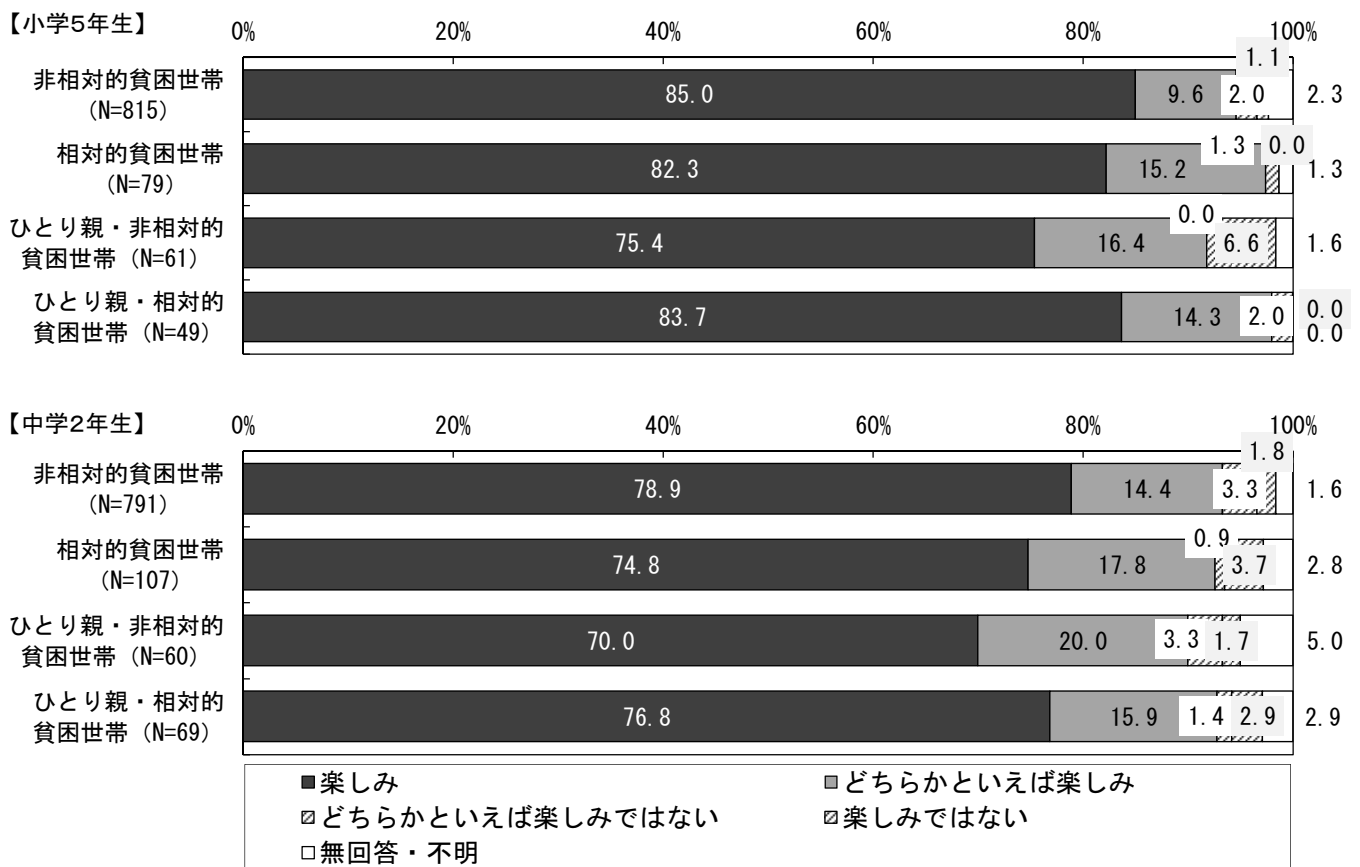
②先生に会うこと

小学5年生のひとり親世帯では、「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」が少なくなっています。



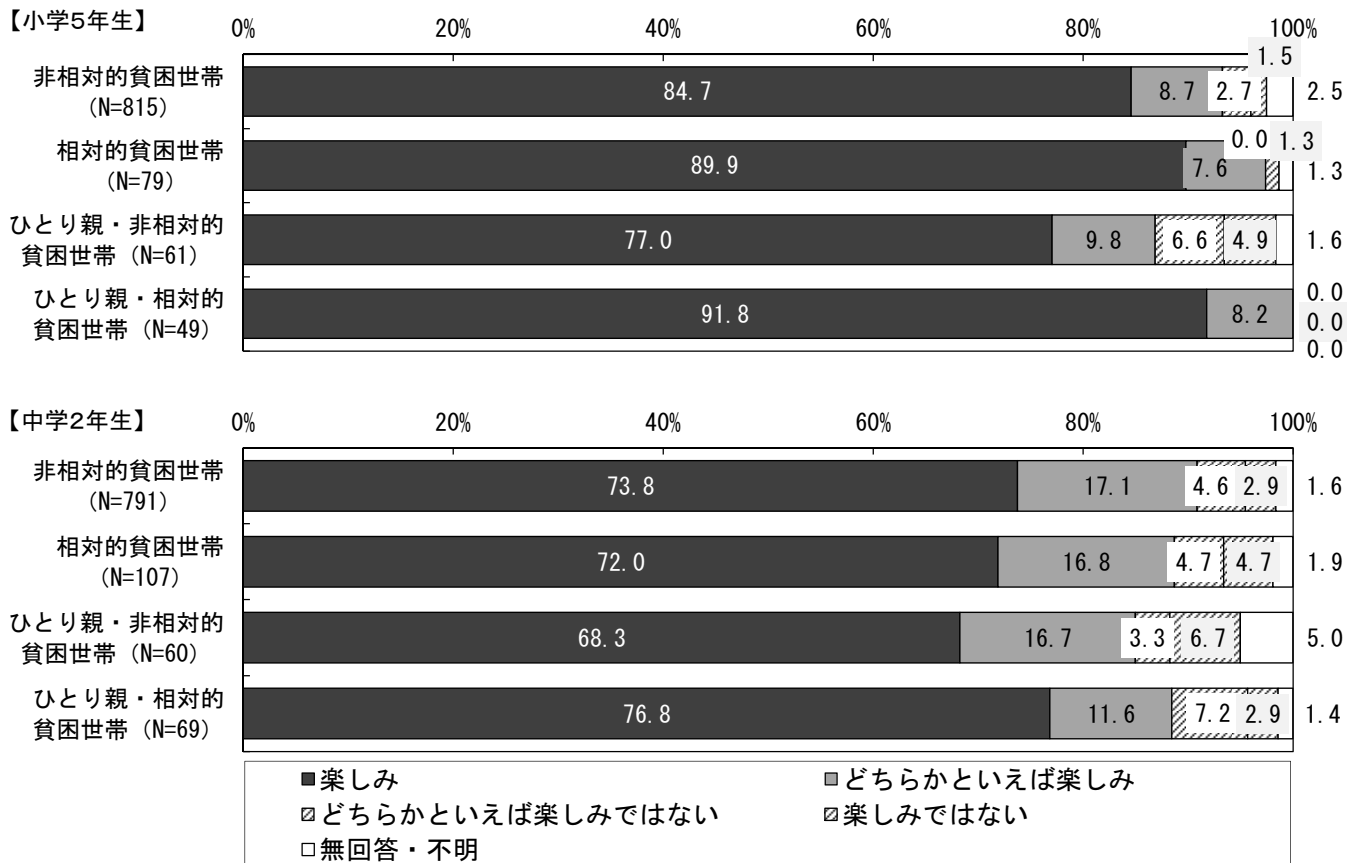
③友だちに会うこと

ひとり親・非相対的貧困世帯では、「楽しみ」がやや少なくなっています。



④休み時間

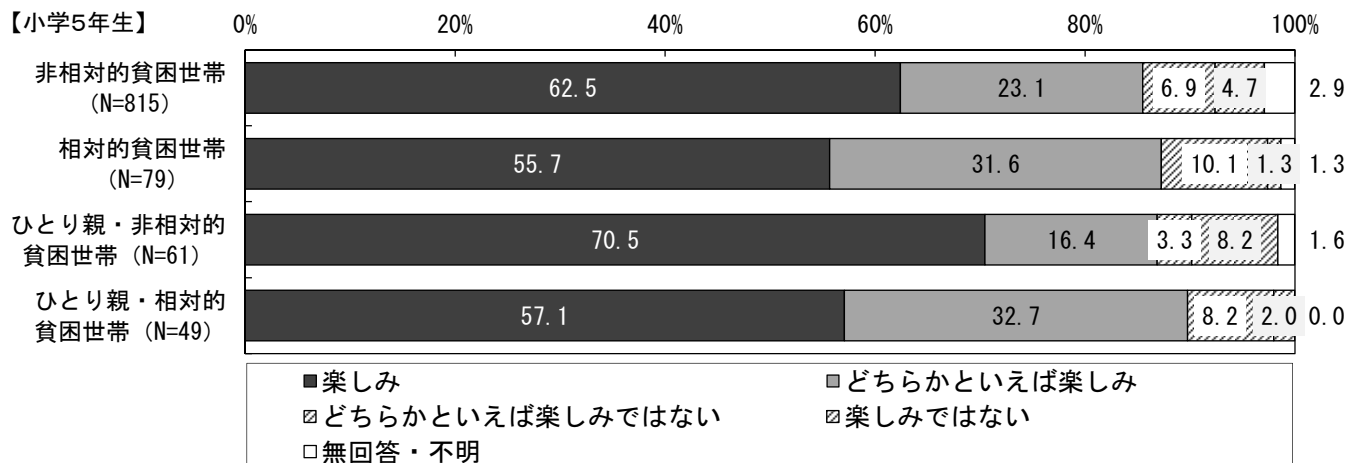
小学5年生では、相対的貧困世帯の方が非相対的貧困世帯より「楽しみ」がやや多くなっており、ひとり親世帯ではその差が大きくなっています。



⑤給食

※小学生のみ回答してください。

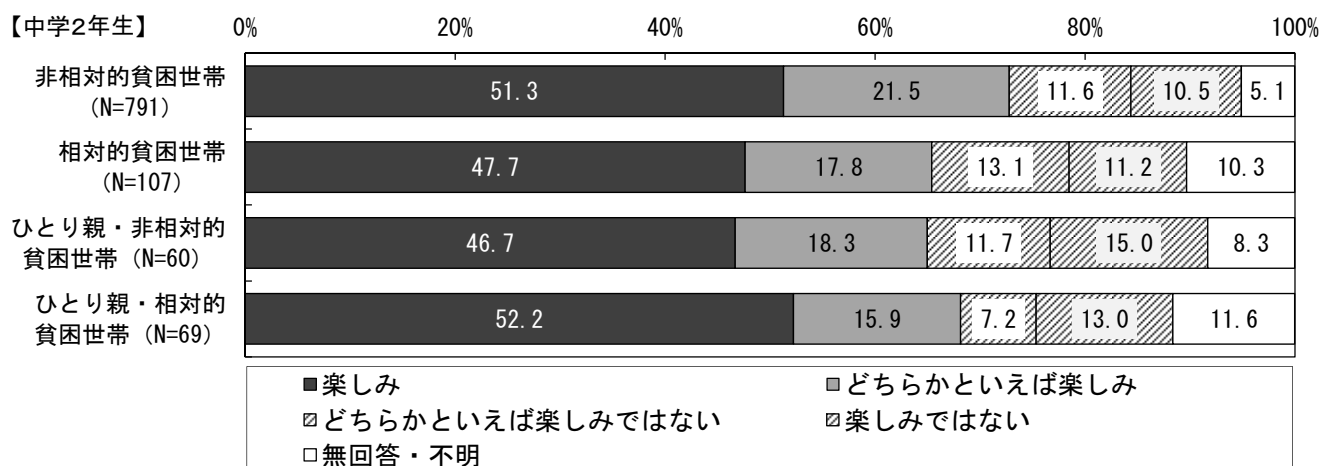
相対的貧困世帯では、「楽しみ」がやや少なくなっています。



⑥部活動

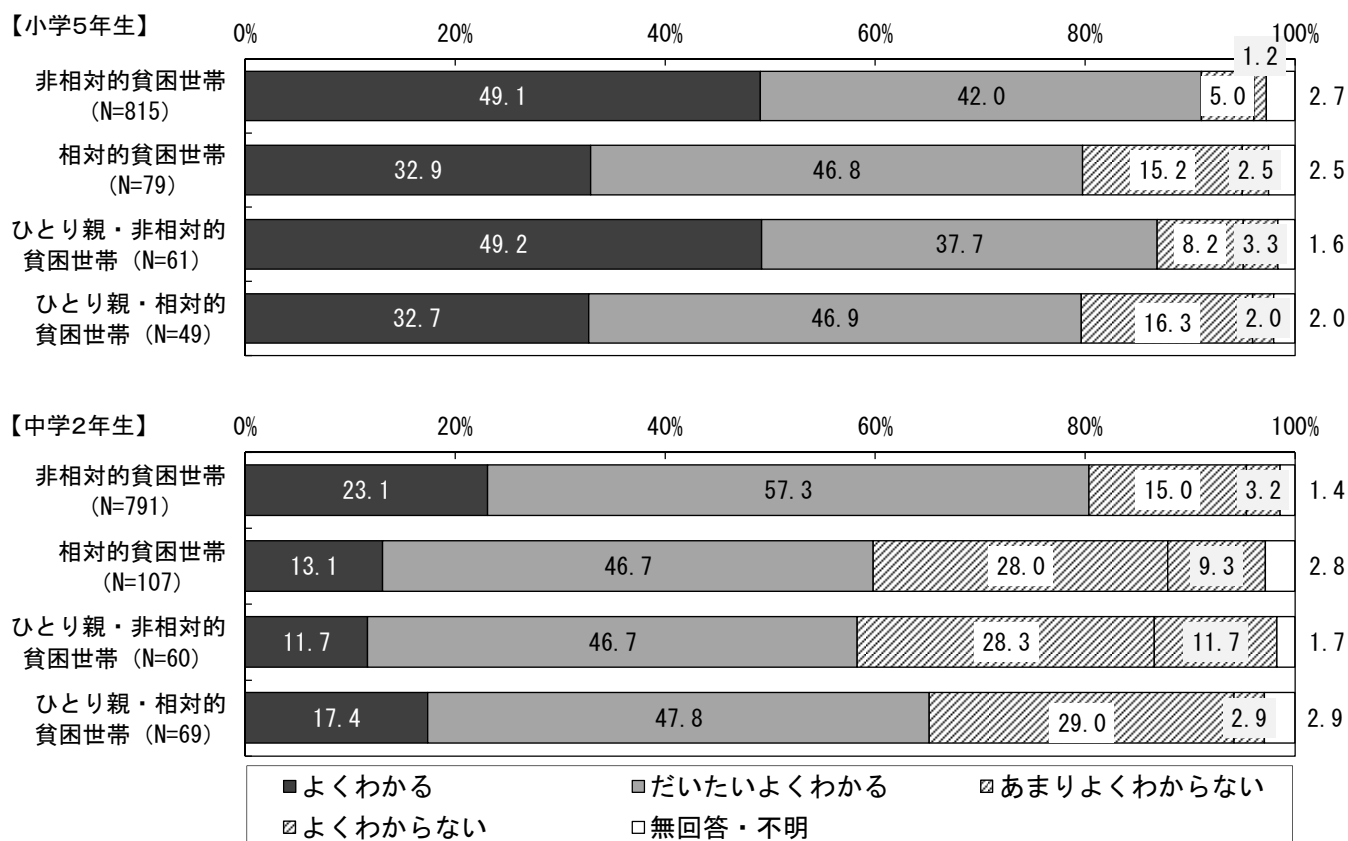
※中学生のみ回答してください。

世帯の状況による明確な差は見られません。



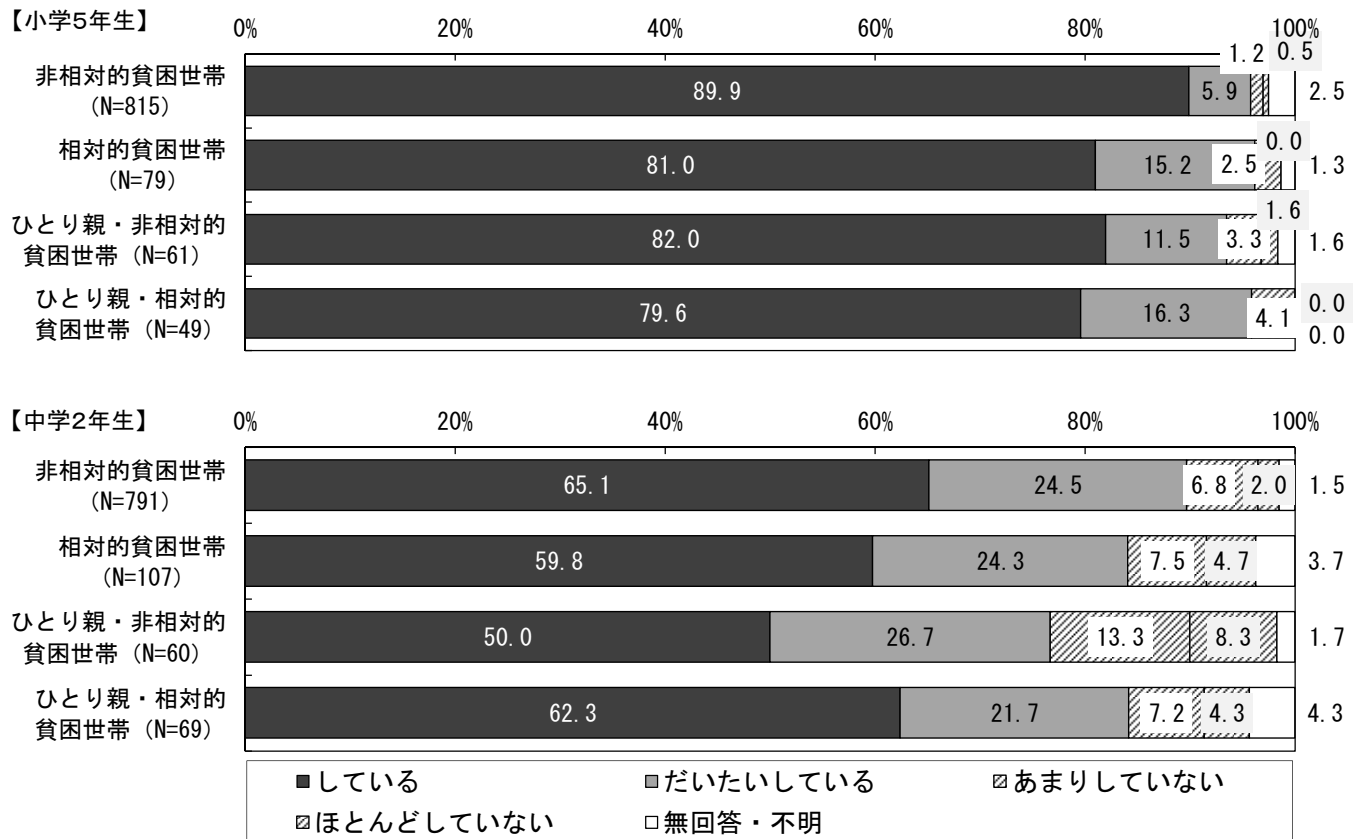
質問9 あなたは学校の授業がよくわかりますか。(1つに○)

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「よくわかる」または「だいたいよくわかる」が少なくなっています。中学2年生では、非相対的貧困世帯についても、ひとり親世帯は「よくわかる」または「だいたいよくわかる」が全体と比べて少なくなっています。



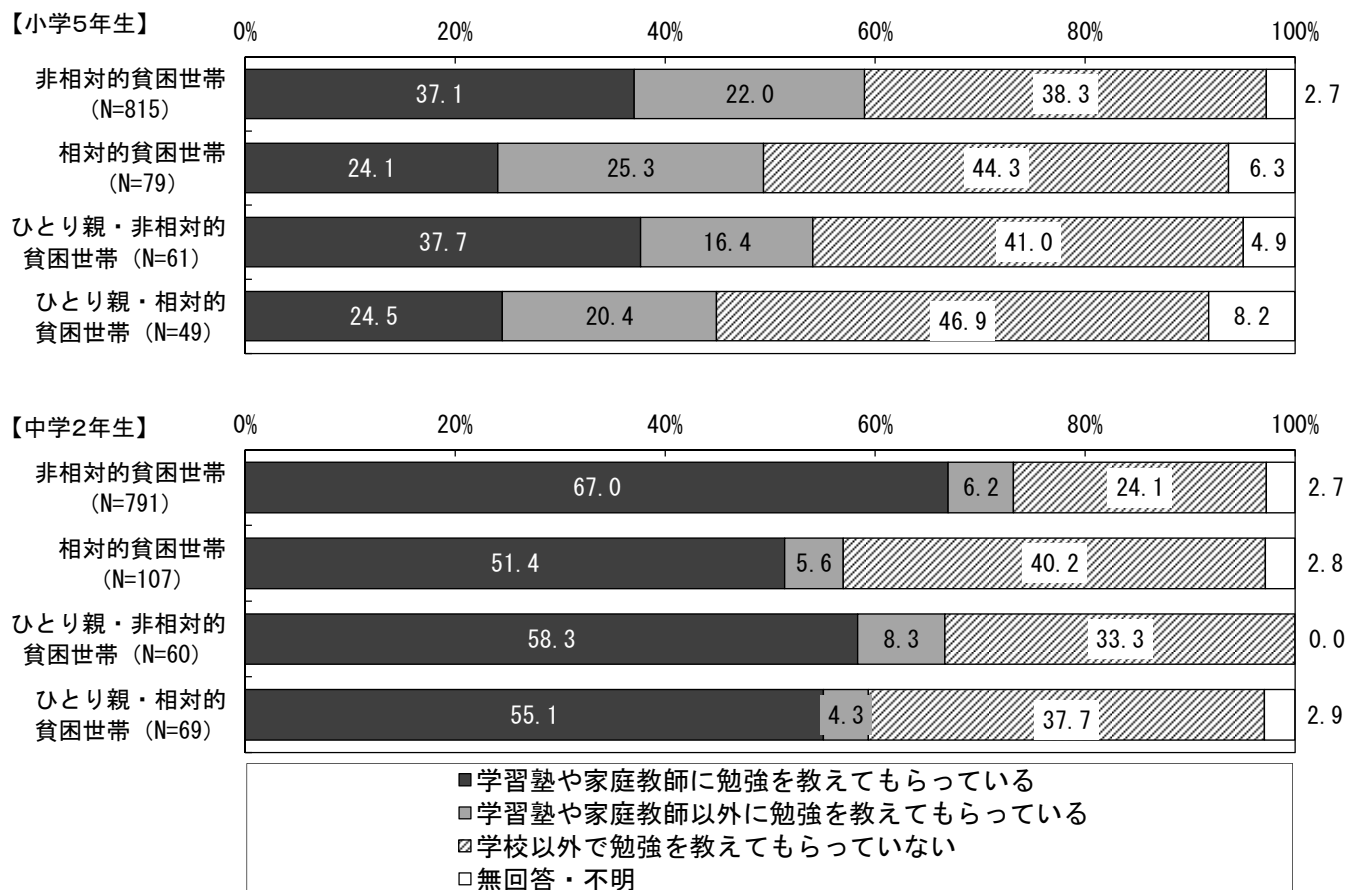
質問１０ あなたは学校の宿題をしていますか。（１つに○）

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「している」がやや少なくなっています。



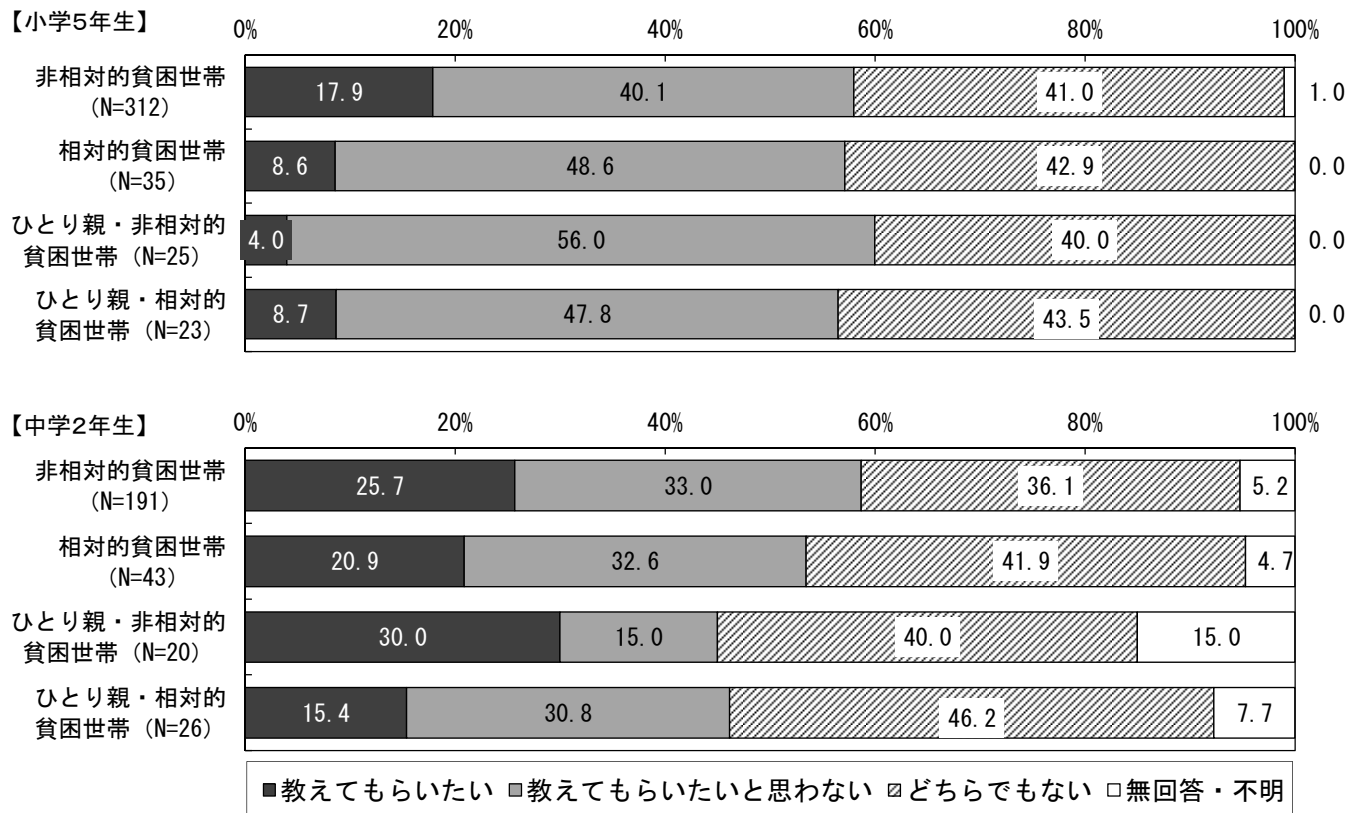
質問 1 1 - 1 あなたは学習塾や家庭教師に勉強を教えてもらっていますか。(1つに○)

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「学習塾や家庭教師に勉強を教えてもらっている」が少なくなっています。「学習塾や家庭教師以外に勉強を教えてもらっている」は、小学5年生より中学2年生では少なくなりますが、世帯の状況による差はあまりありません。



質問 1 1－2 質問 1 1－1で「学校以外で勉強を教えてもらっていない」と答えた人にお聞きします。学習塾や家庭教師に勉強を教えてもらいたいと思いますか。
(1つに○)

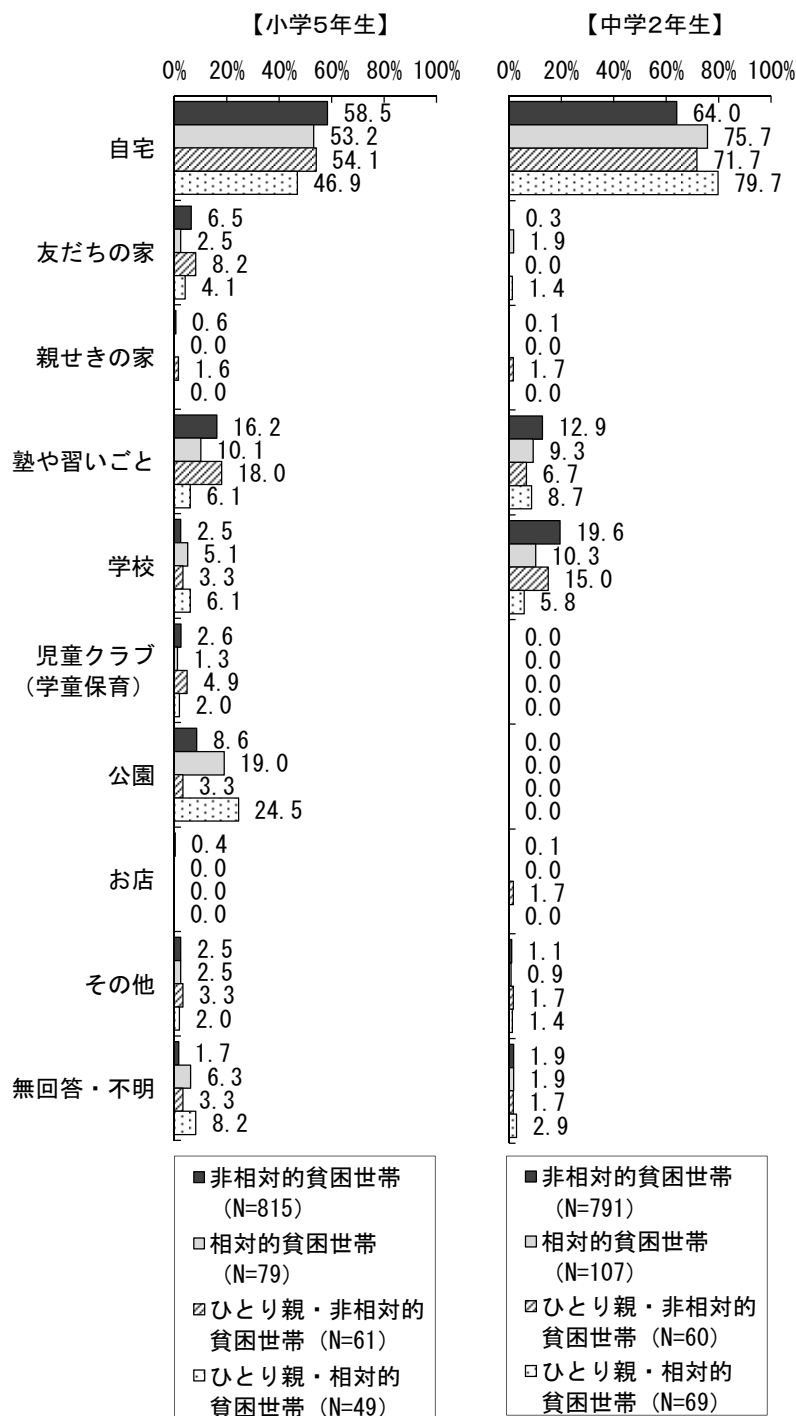
いずれの学年も、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「教えてもらいたい」が少なくなっています。



3. 放課後のすごしかたについて

質問 1 2 あなたは放課後に、どこですごすことが一番多いですか。（1つに○）

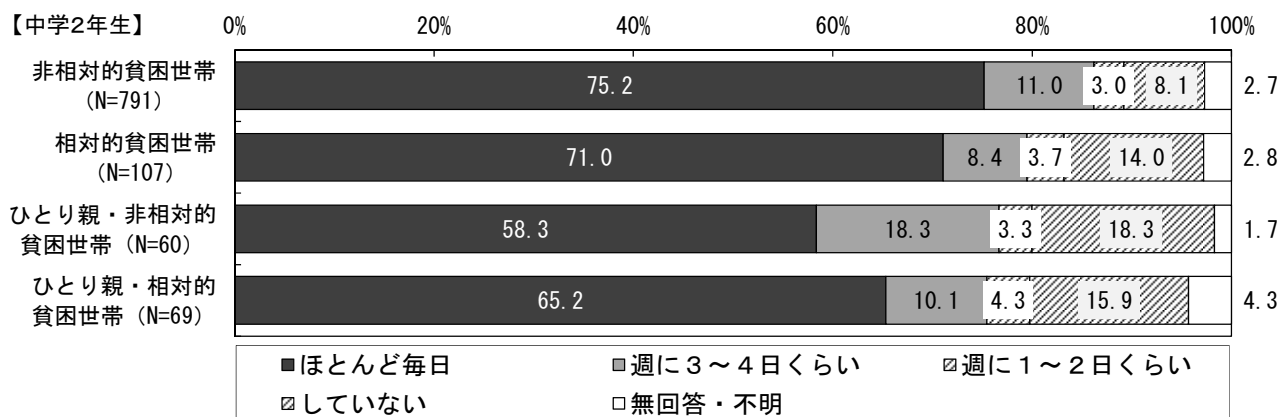
小学5年生については、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「公園」がやや多く、「自宅」「塾や習いごと」がやや少なくなっています。中学2年生については、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「自宅」がやや多く、「塾や習いごと」「学校」がやや少なくなっています。



質問 13 あなたはどのくらい部活動をしていますか。(①、②の質問について、それぞれ1つに○)

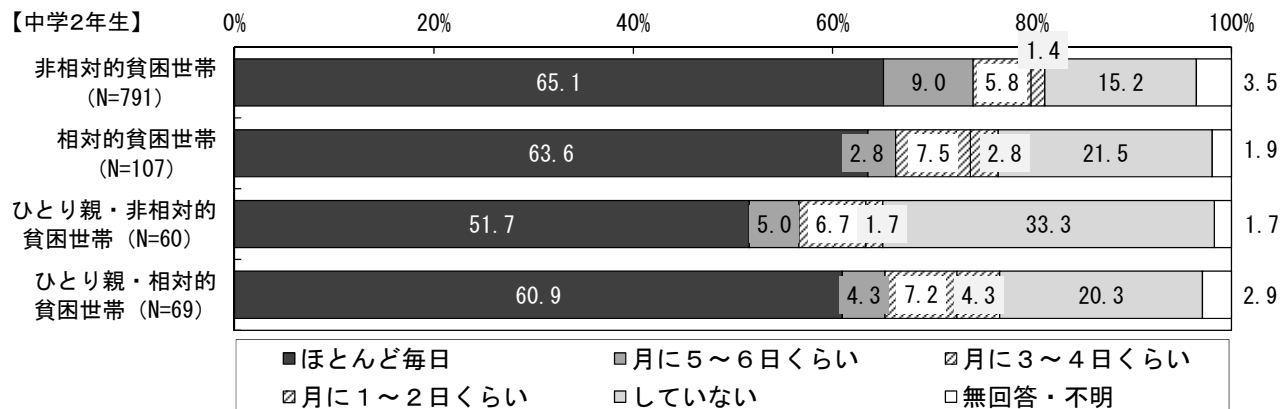
①月曜日～金曜日

ひとり親世帯では「ほとんど毎日」がやや少ない傾向です。



②土曜日、日曜日

月～金曜日と同様の傾向となっています。



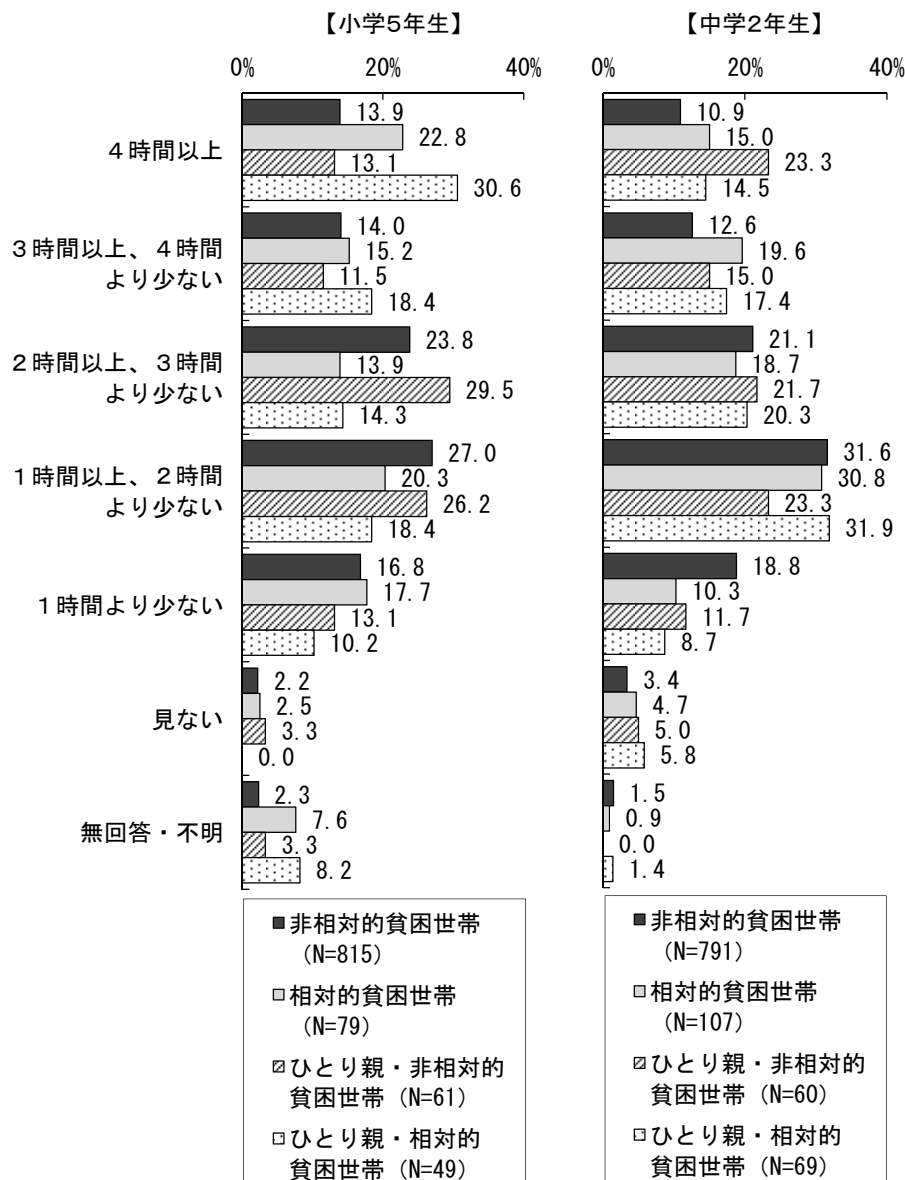
4. 平日（月曜日～金曜日）のすごしかたについて

質問 1 4 あなたは平日に、1日にどのくらいテレビを見たり、勉強をしたりしますか。
 (①から④の質問について、それぞれ1つに○)

①テレビ・DVDを見る

※テレビ画面での勉強やゲームの時間をのぞく

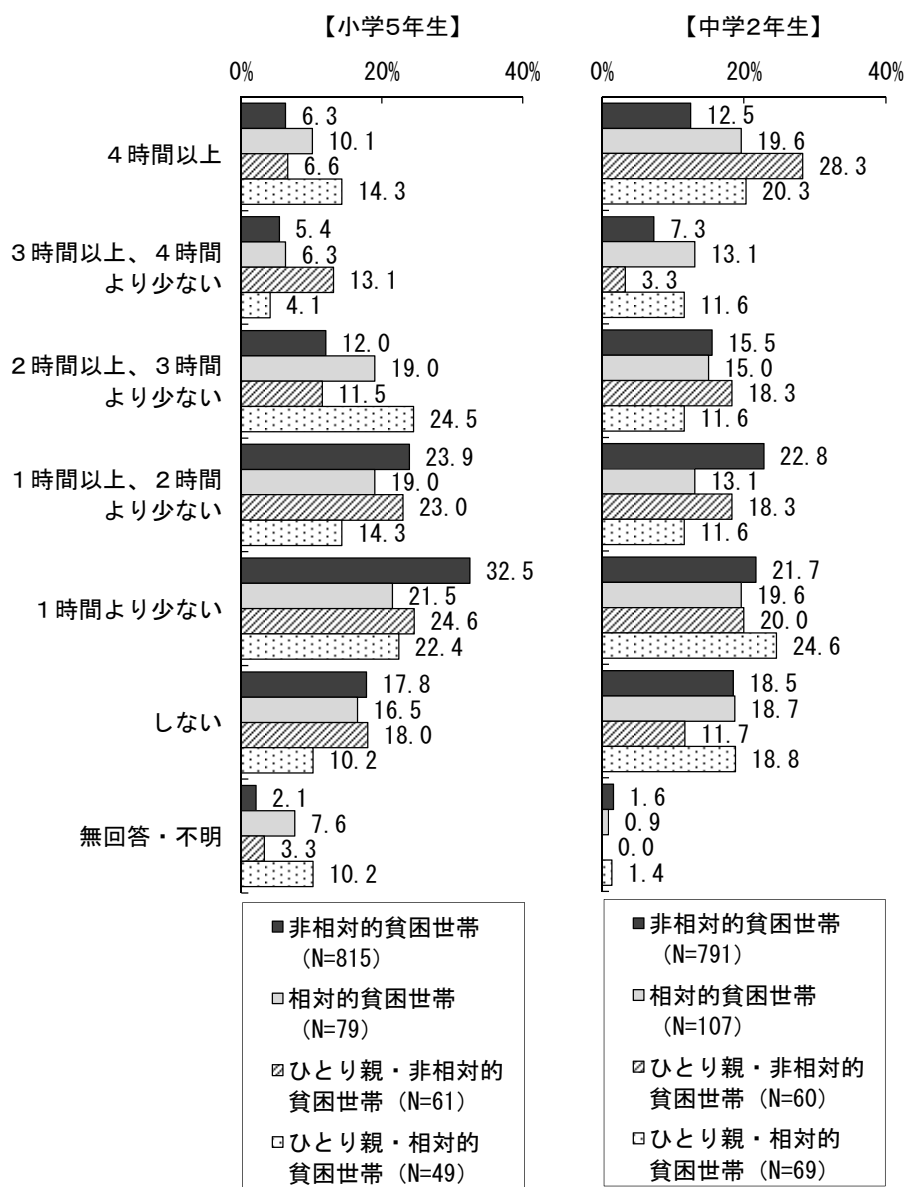
非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯や中学2年生のひとり親世帯では3時間時以上が多く、3時間より少ない回答が少なくなっています。



②ゲームをして遊ぶ

※テレビ、パソコン、ゲーム機、スマートフォンなど

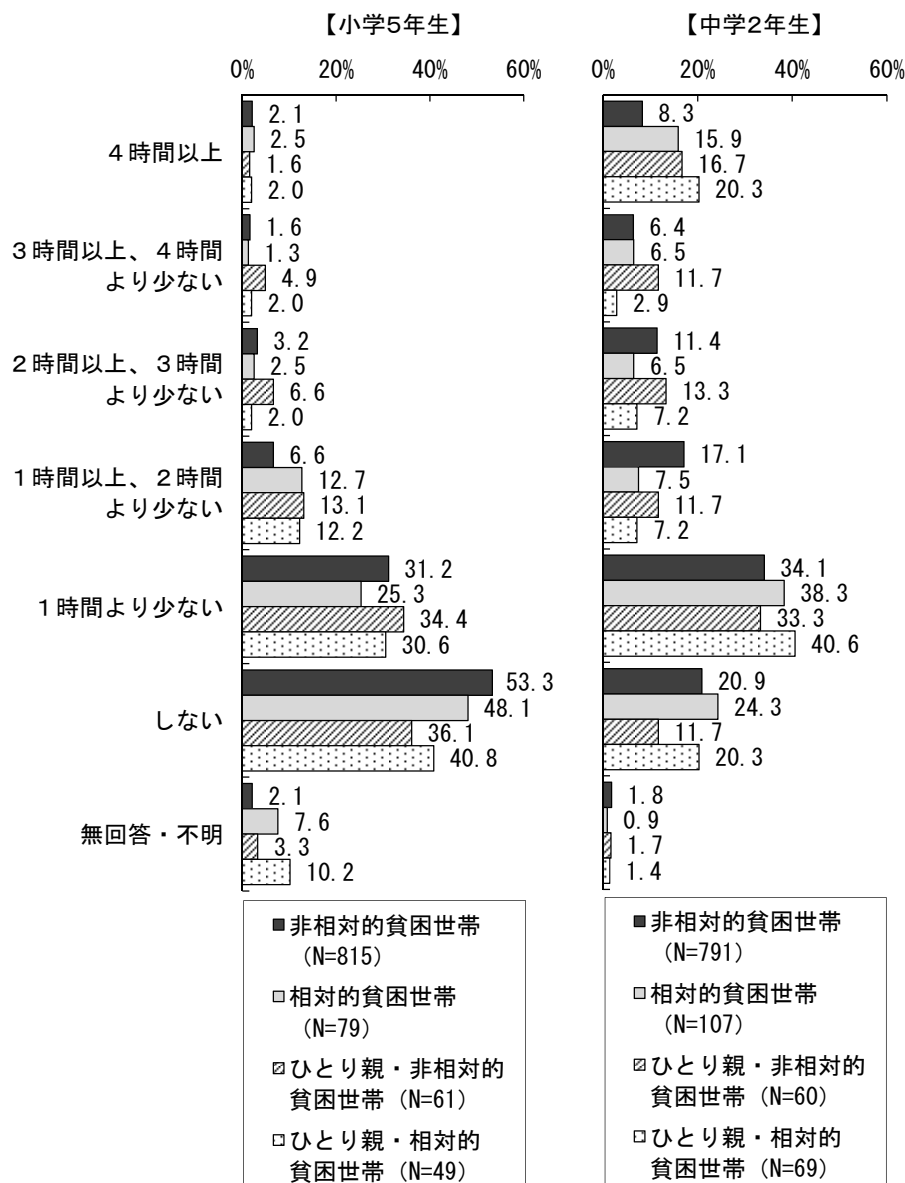
非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では2時間時以上が多い傾向にあります。



③インターネット、電話、メールをする

※ゲームの時間をのぞく

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「しない」が少なくなっています。中学2年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯については「4時間以上」「1時間より少ない」「しない」がやや多くなっています。ひとり親世帯については、「4時間以上」が多く、「しない」がやや少なくなっています。

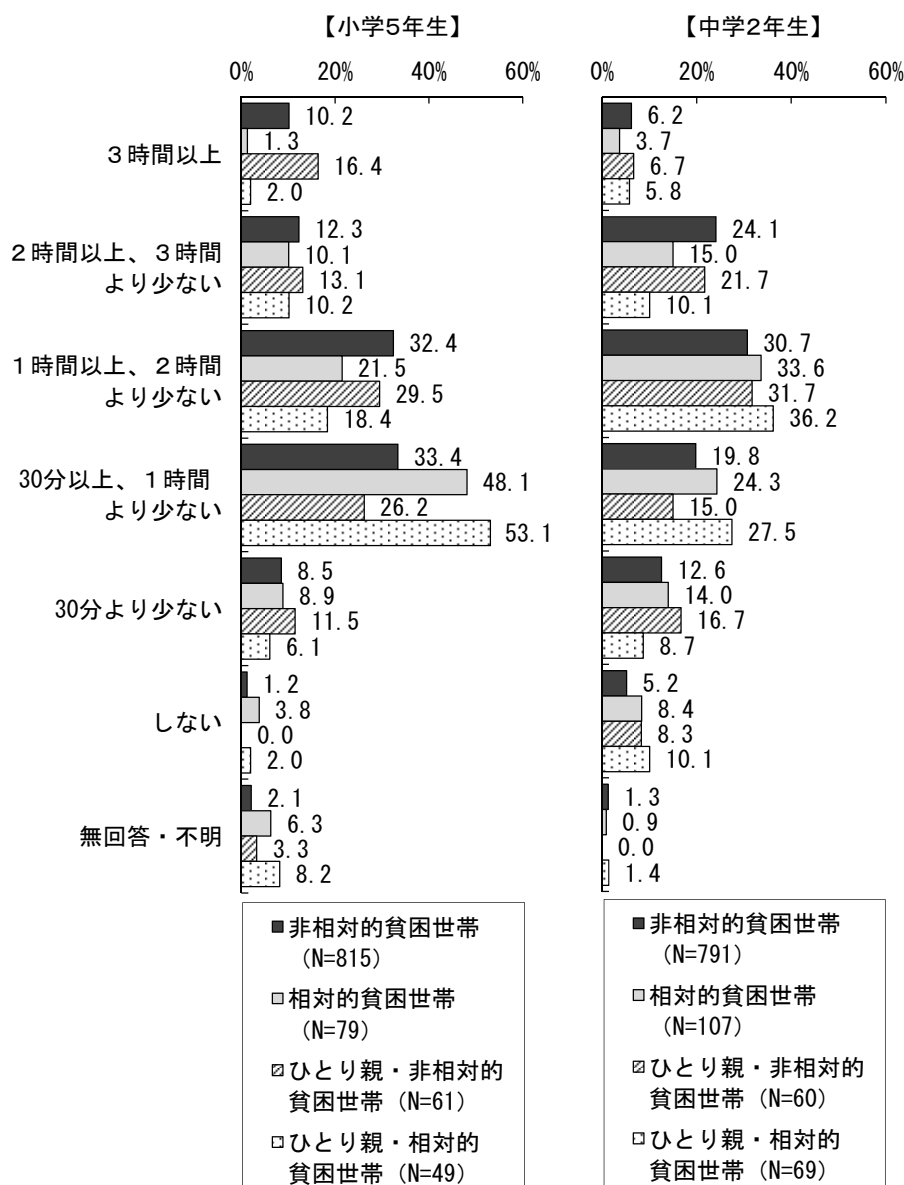


④勉強する

※学校の授業をのぞく

※宿題をする時間や、塾、家庭教師の時間をふくむ

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では1時間以上が少なく、1時間より少ない回答が多くなっています。中学2年生についても同様に、2時間以上が少なく、2時間より少ない回答がやや多くなっています。



5. 家でのことについて

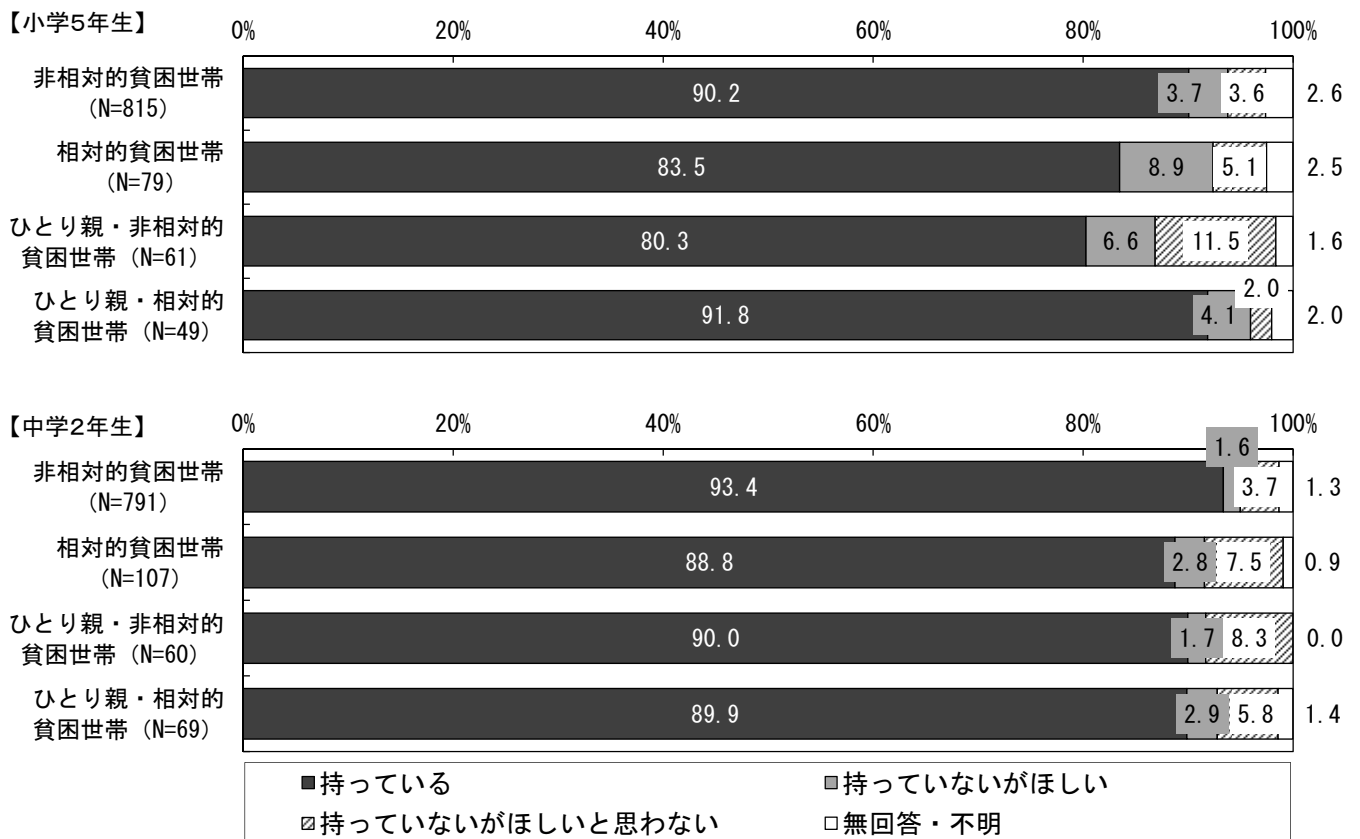
質問 15 あなたは次を書いてあるものを持っていますか。

(①から⑥の質問について、それぞれ1つに○)

①自分だけの本

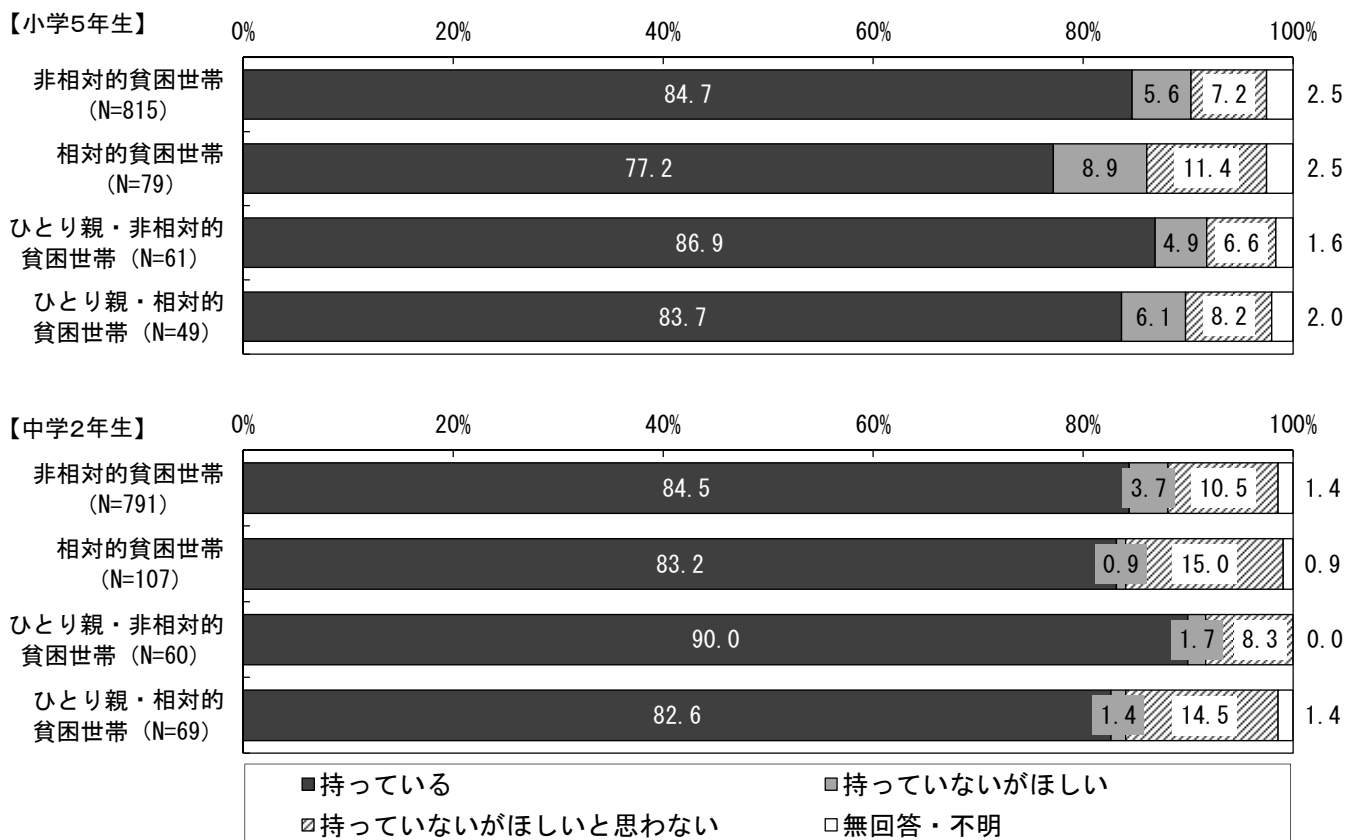
※教科書をのぞく

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「持っている」がやや少ない傾向です。また、小学5年生より中学2年生の方がいずれの世帯についても「持っていないがほしい」が少なくなっています。



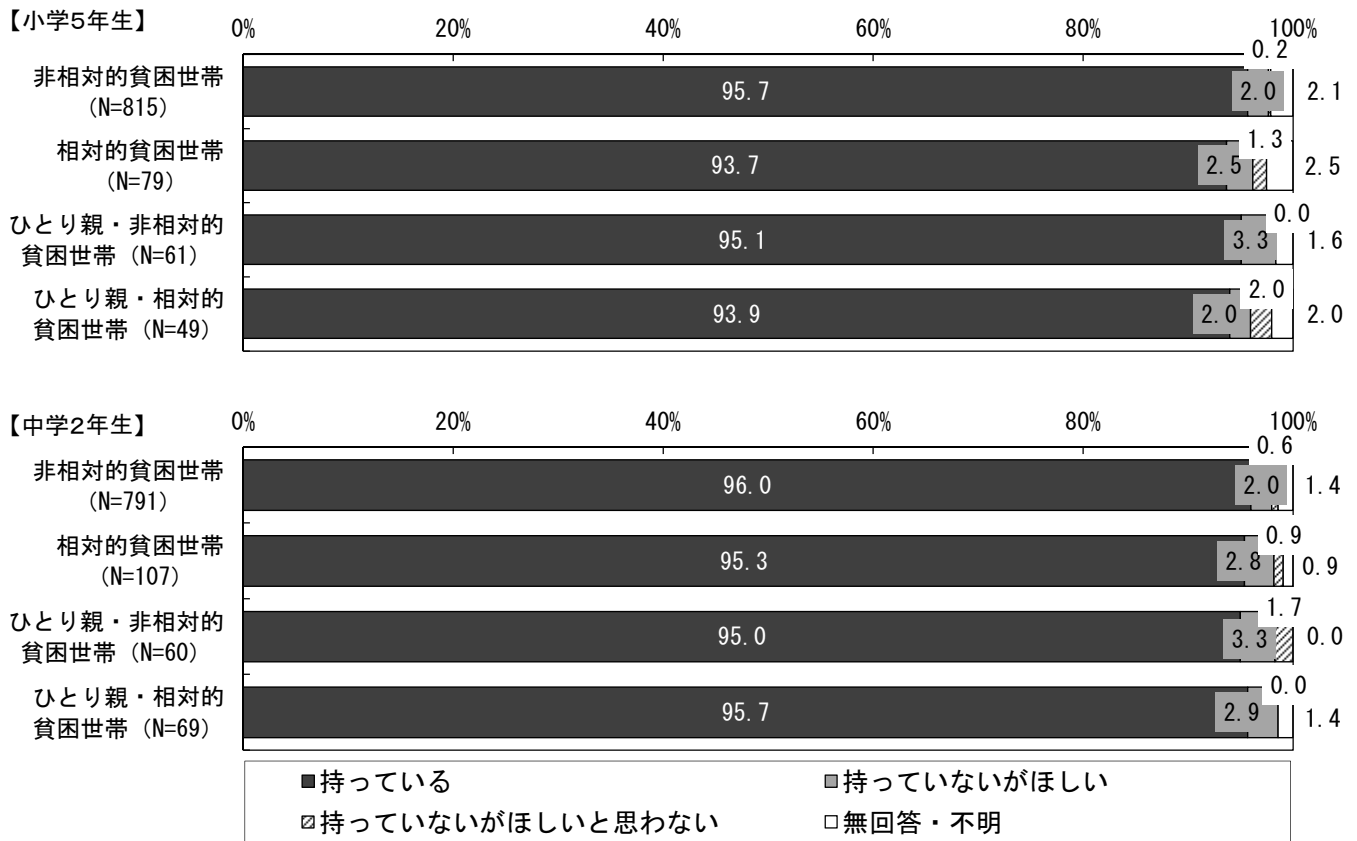
②ゲーム機

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「持っている」がやや少なくなっています。



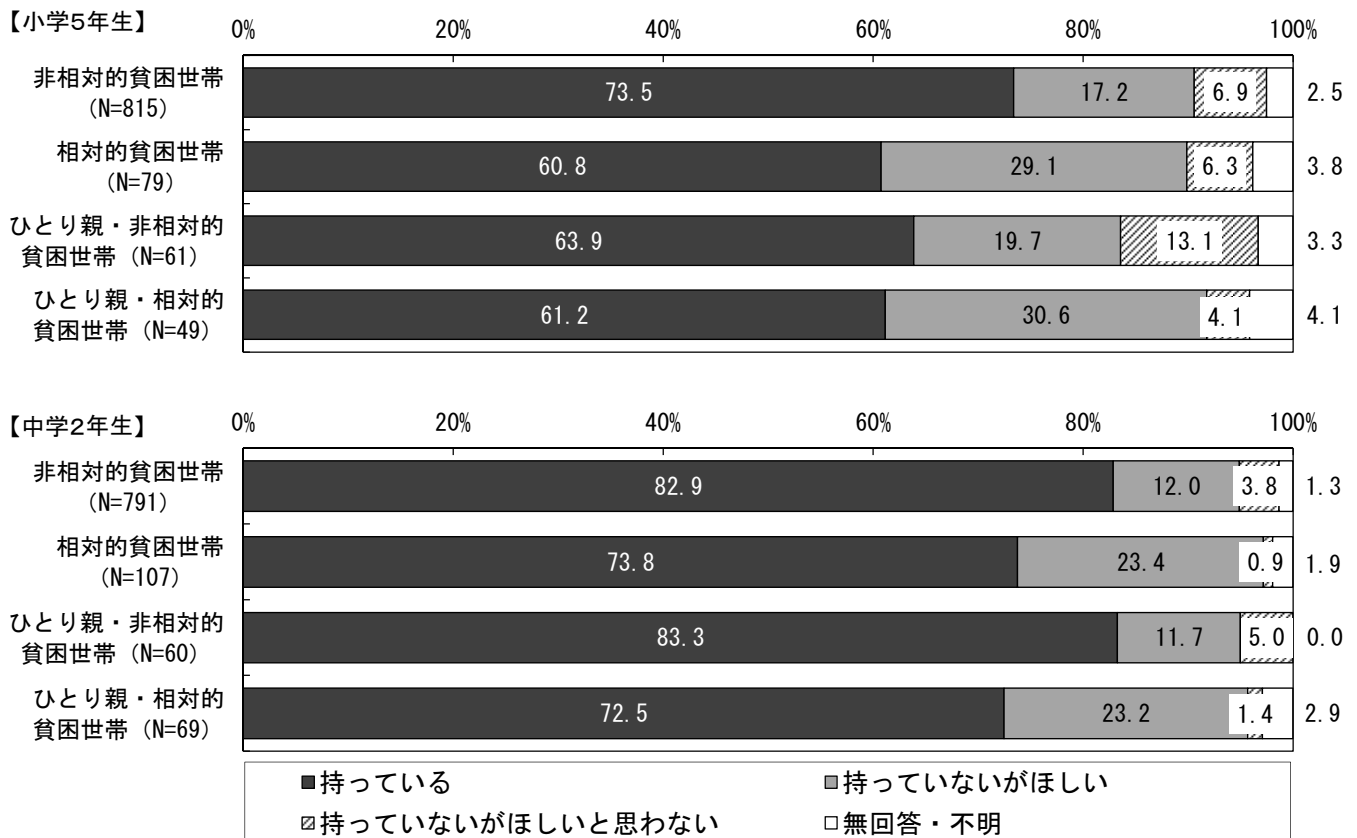
③自分の自転車

いずれの世帯についてもほとんどが「持っている」と回答しており、世帯の状況による明確な差は見られません。



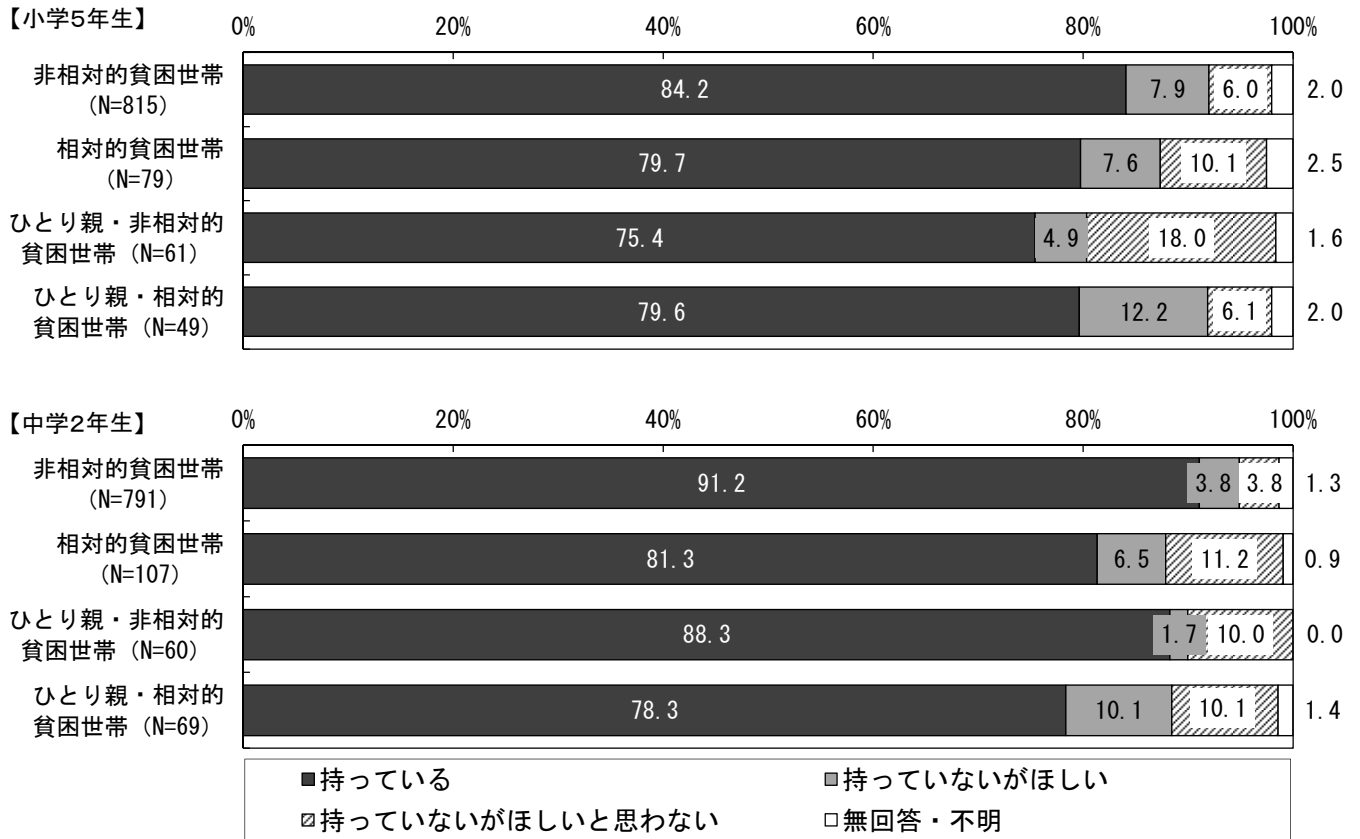
④自分の部屋

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「持っている」が少なくなっています。またいずれの学年についても、「持っていないがほしい」が多くなっています。ひとり親世帯では、小学5年生では非相対的貧困世帯についても「持っている」が少なくなっています。



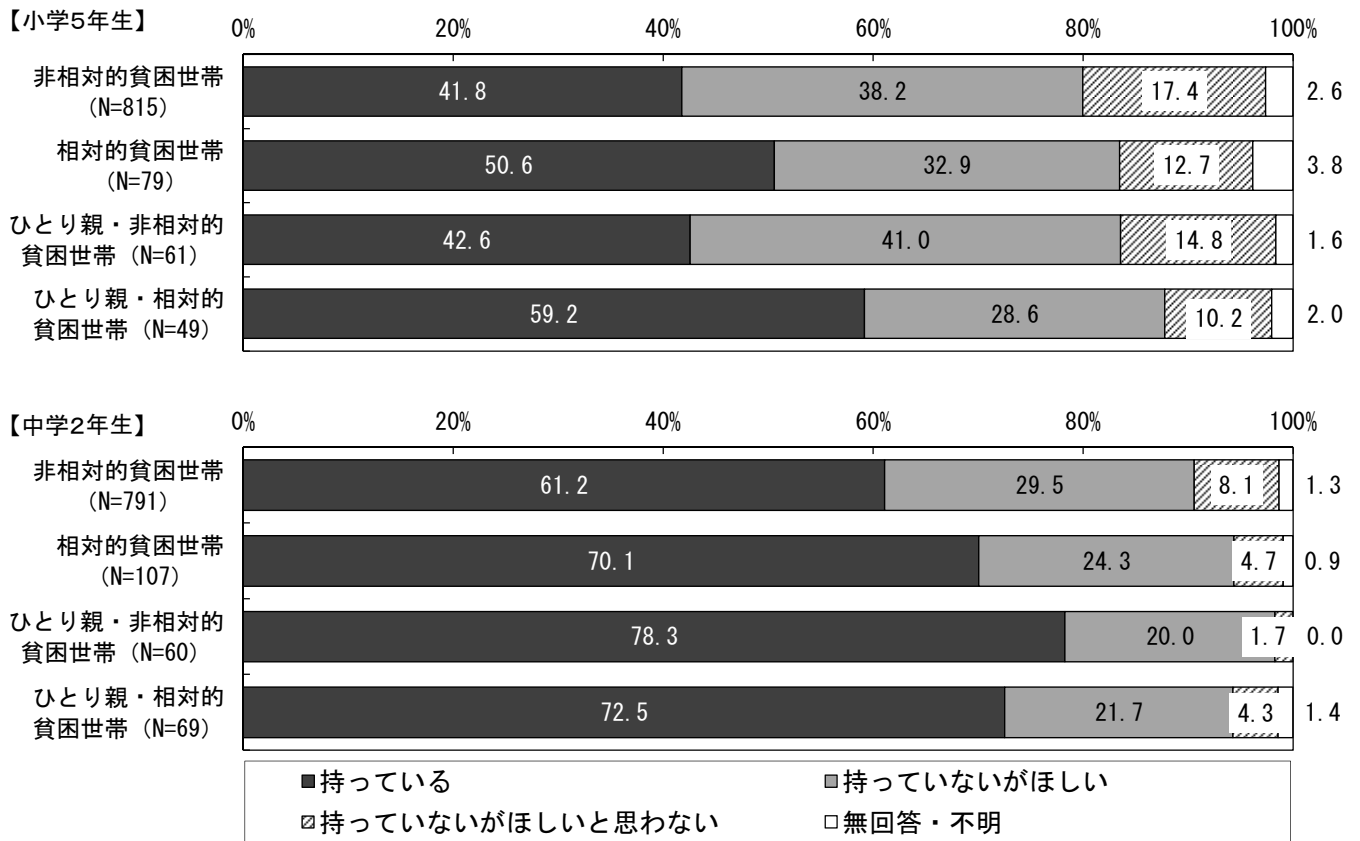
⑤自分の勉強づくえ

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯や小学5年生のひとり親世帯では「持っている」が少なくなっています。



⑥自分の携帯電話、スマートフォン

他の項目とは異なり、全体では非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯の方が「持っている」が多くなっています。ひとり親世帯では、中学2年生の非相対的貧困世帯の所持率が78.3%と多くなっています。

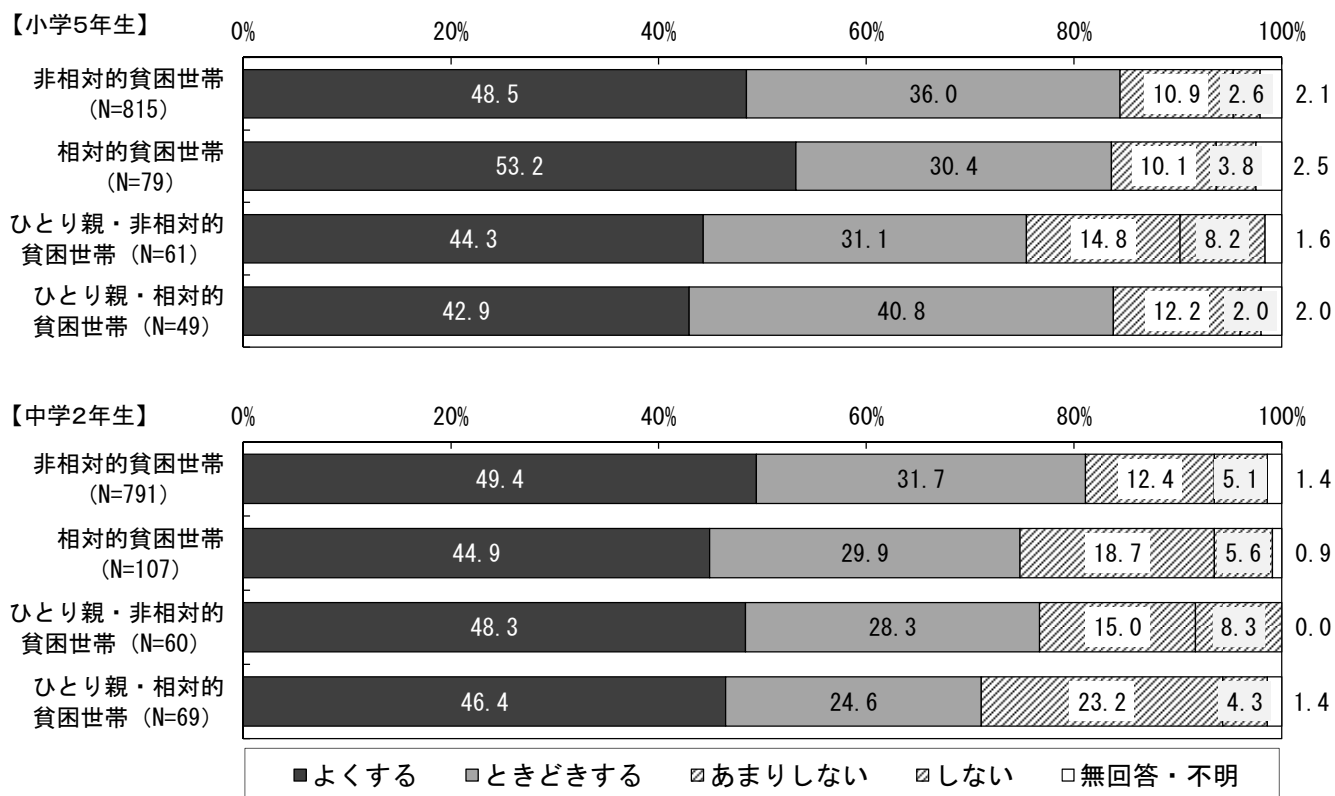


質問 16 あなたは家で学校のことを話したり、手伝いをしたりしますか。

(①から④の質問について、それぞれ1つに○)

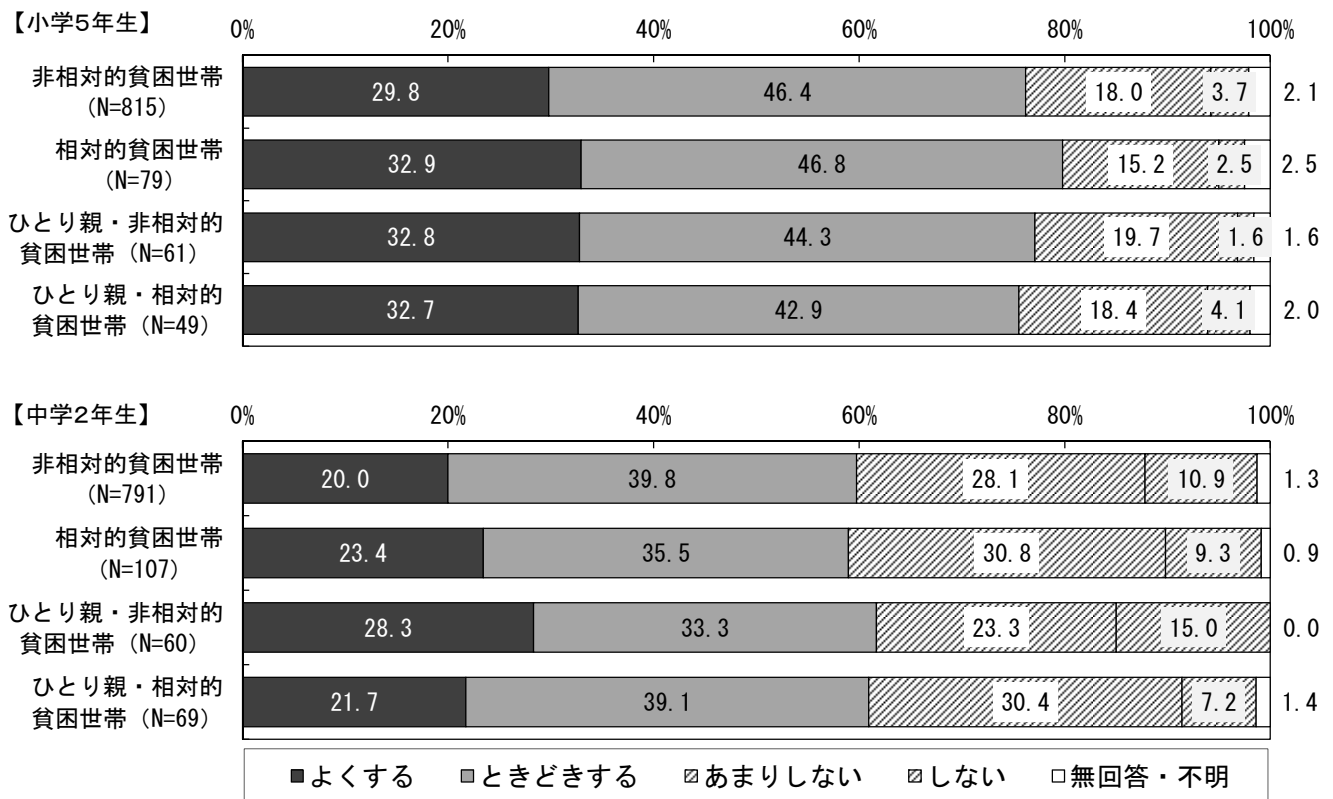
①家族に学校のことを話す

中学2年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では、「しない」または「あまりしない」がやや多くなっています。



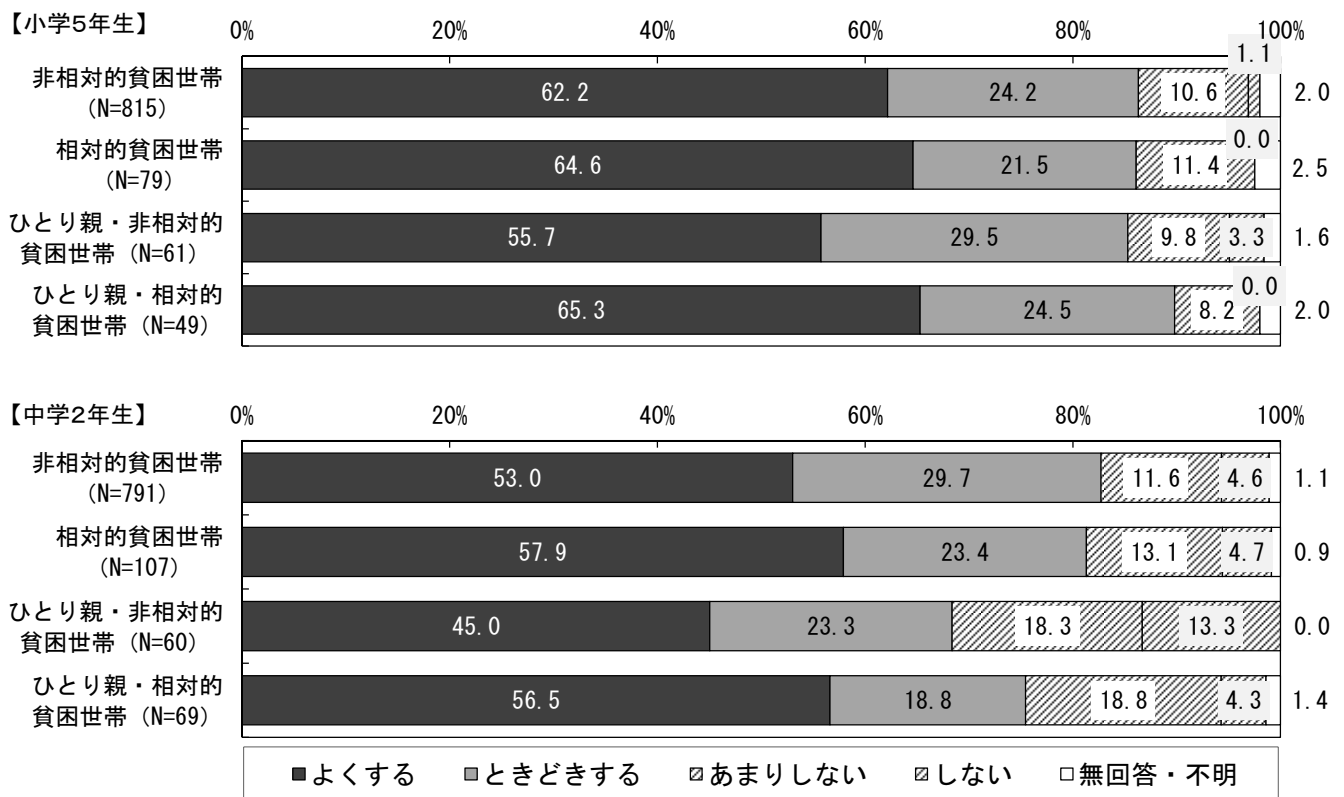
②家の手伝いをする

いずれの世帯についても、小学5年生では3割前後、中学2年生では2割台が「よくする」と回答しています。世帯の状況による差は見られません。



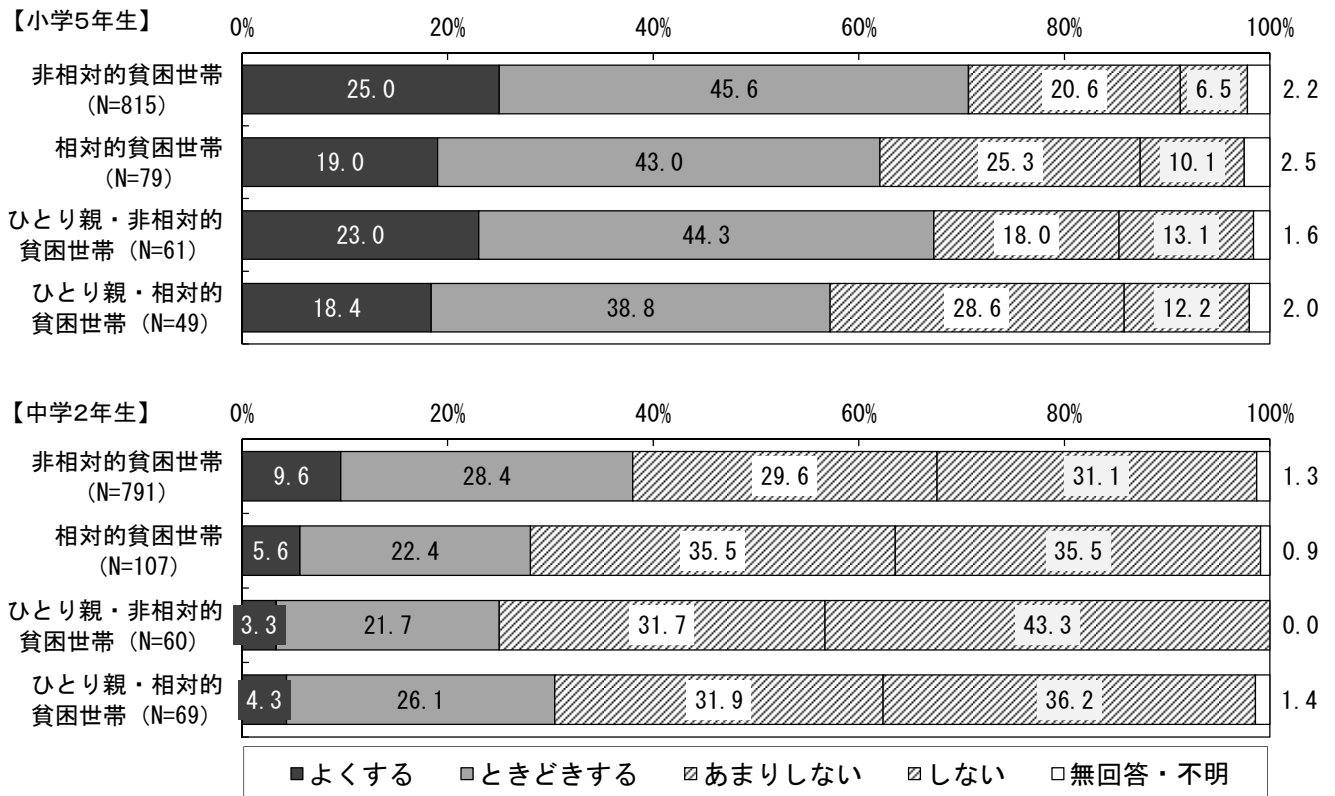
③家族そろって食事をする

小学5年生では世帯の状況による差は見られませんが、中学2年生ではひとり親世帯で「しない」または「あまりしない」がやや多くなっています。



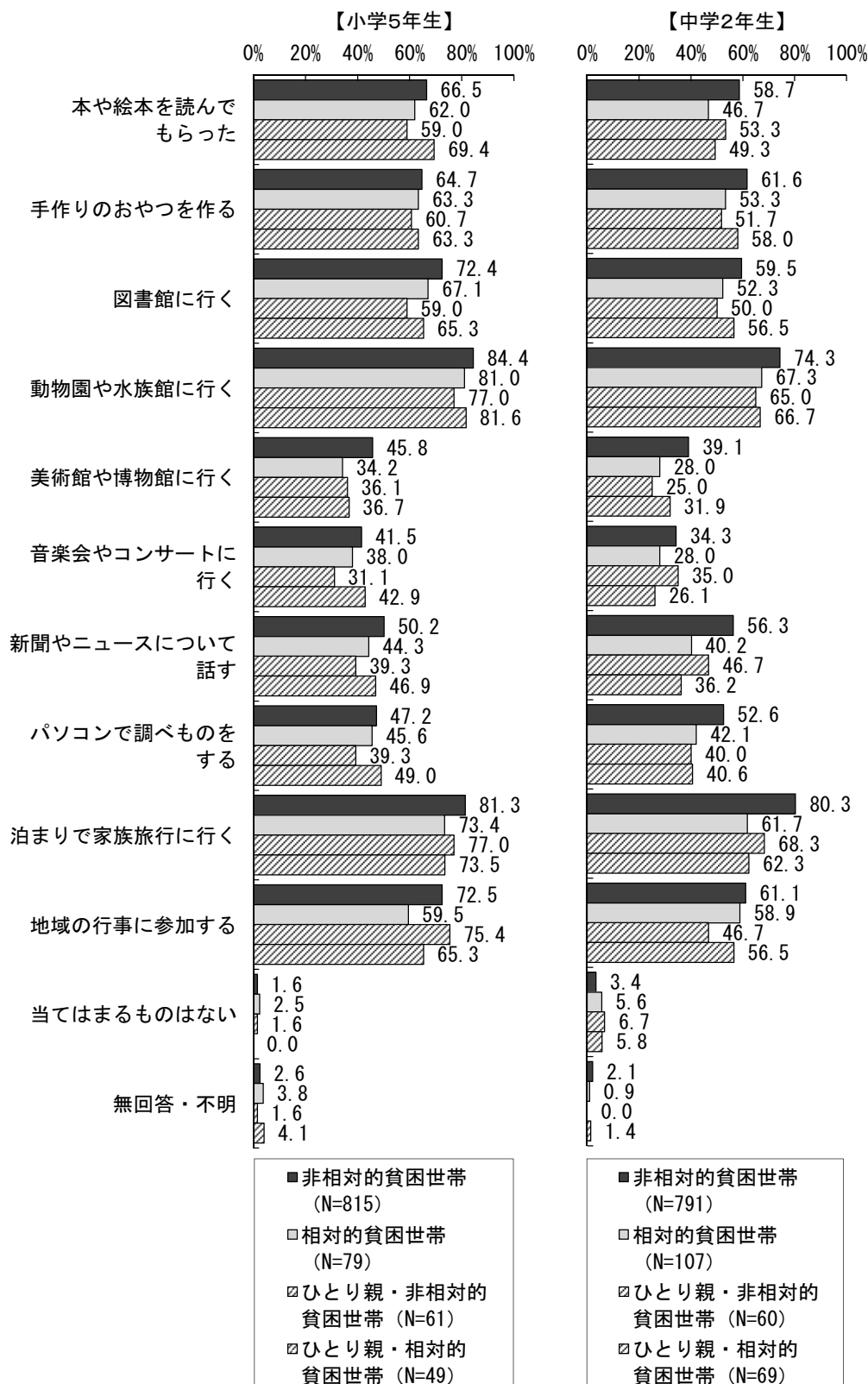
④家族に勉強を教えてもらう

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では、「よくする」または「ときどきする」がやや少なくなっています。また、中学2年生では、ひとり親世帯についても、「よくする」または「ときどきする」が少なくなっています。



質問 17 あなたは次を書いてあることを家族とすること（したこと）がありますか。
（当てはまるもの全てに○）

「当てはまるものはない」を除く全ての項目について、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯の回答が少なくなっています。特に中学2年生の、「美術館や博物館に行く」「新聞やニュースについて話す」「泊まりで家族旅行に行く」で差が大きくなっています。ひとり親世帯についても、全体と比較してやや回答が少ない傾向です。



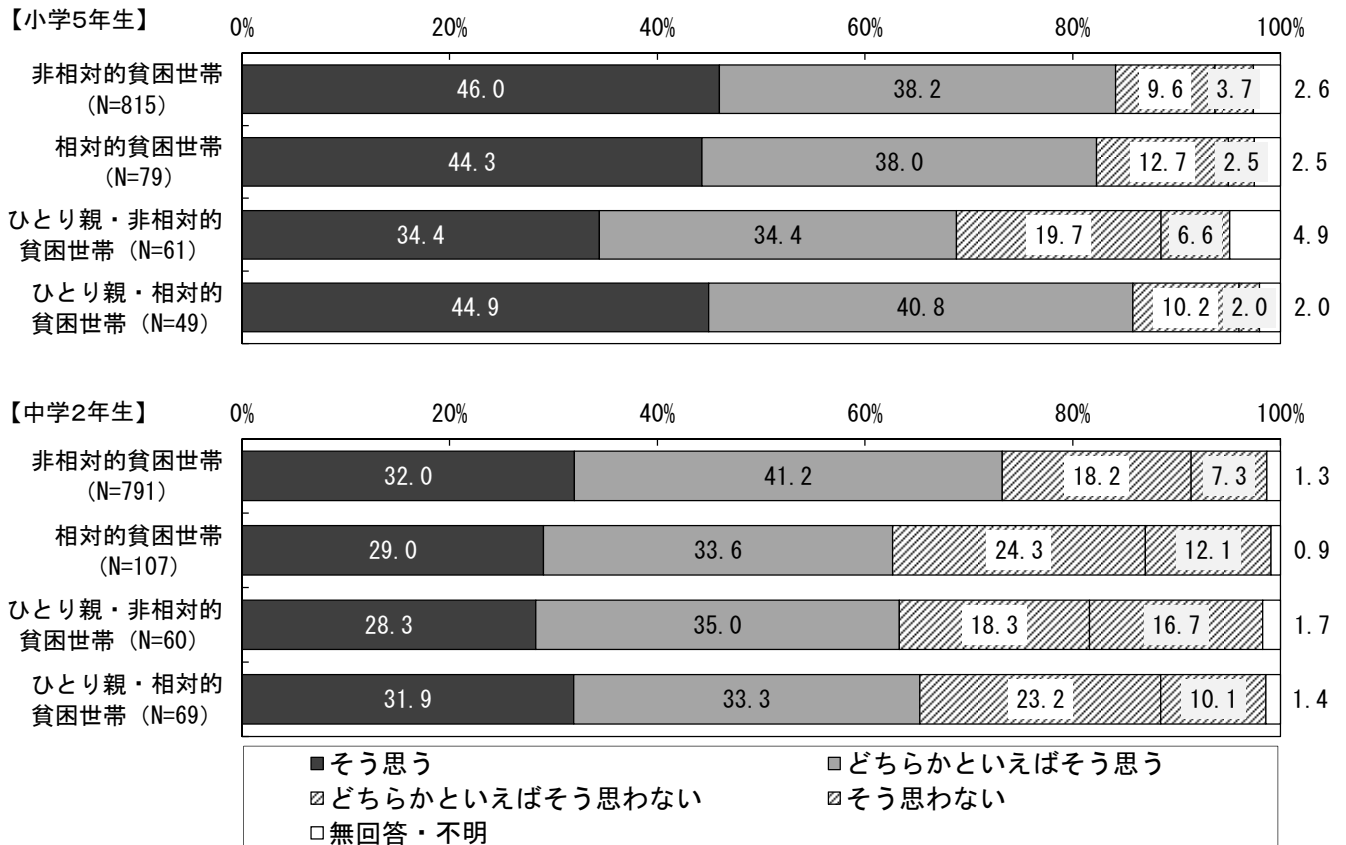
6. 回答者の考えについて

質問 18 あなたは自分のことについてどう思いますか。

(①から⑦の質問について、それぞれ1つに○)

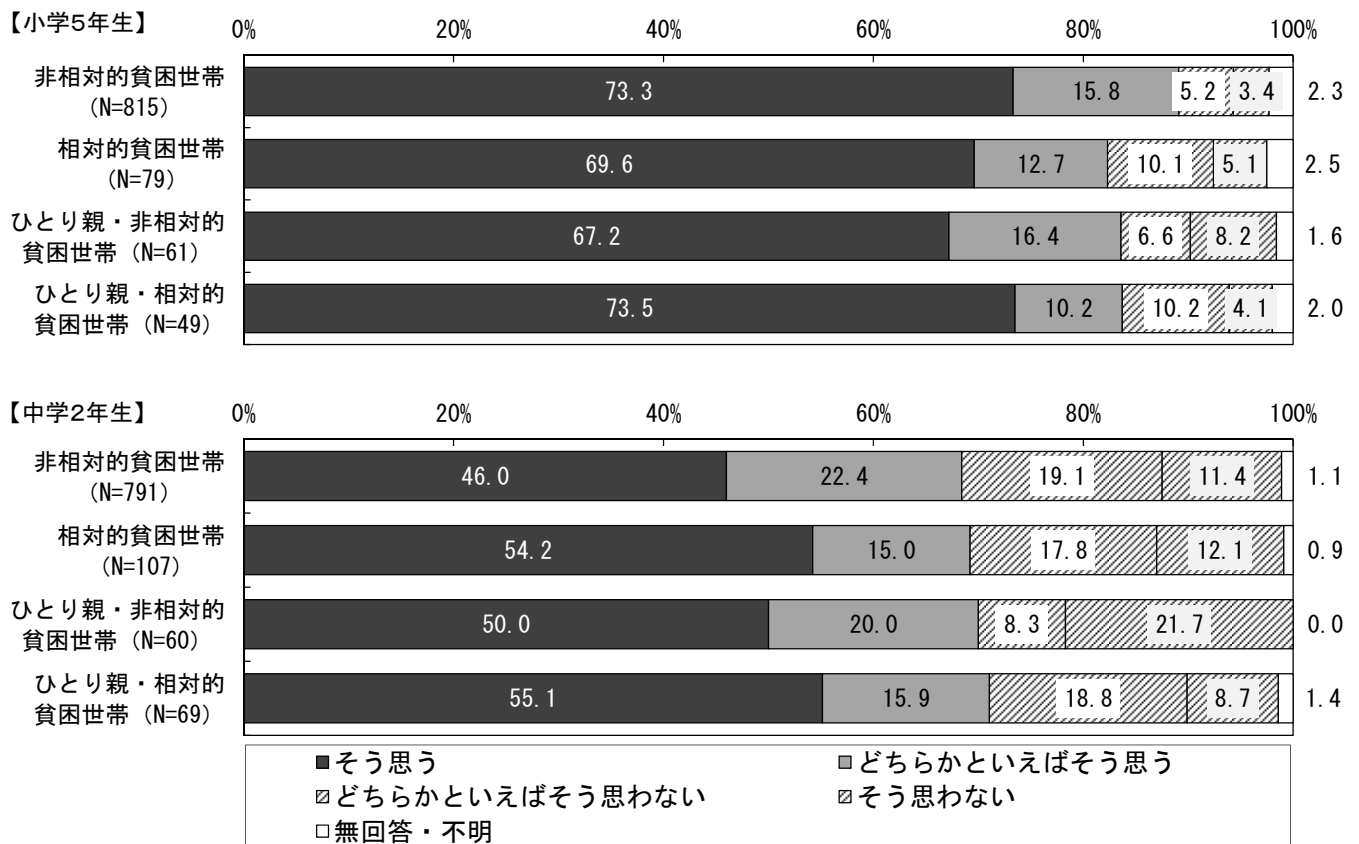
①自分には良いところがある

中学2年生では、非相対的貧困世帯と比較して相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」がやや少なくなっています。



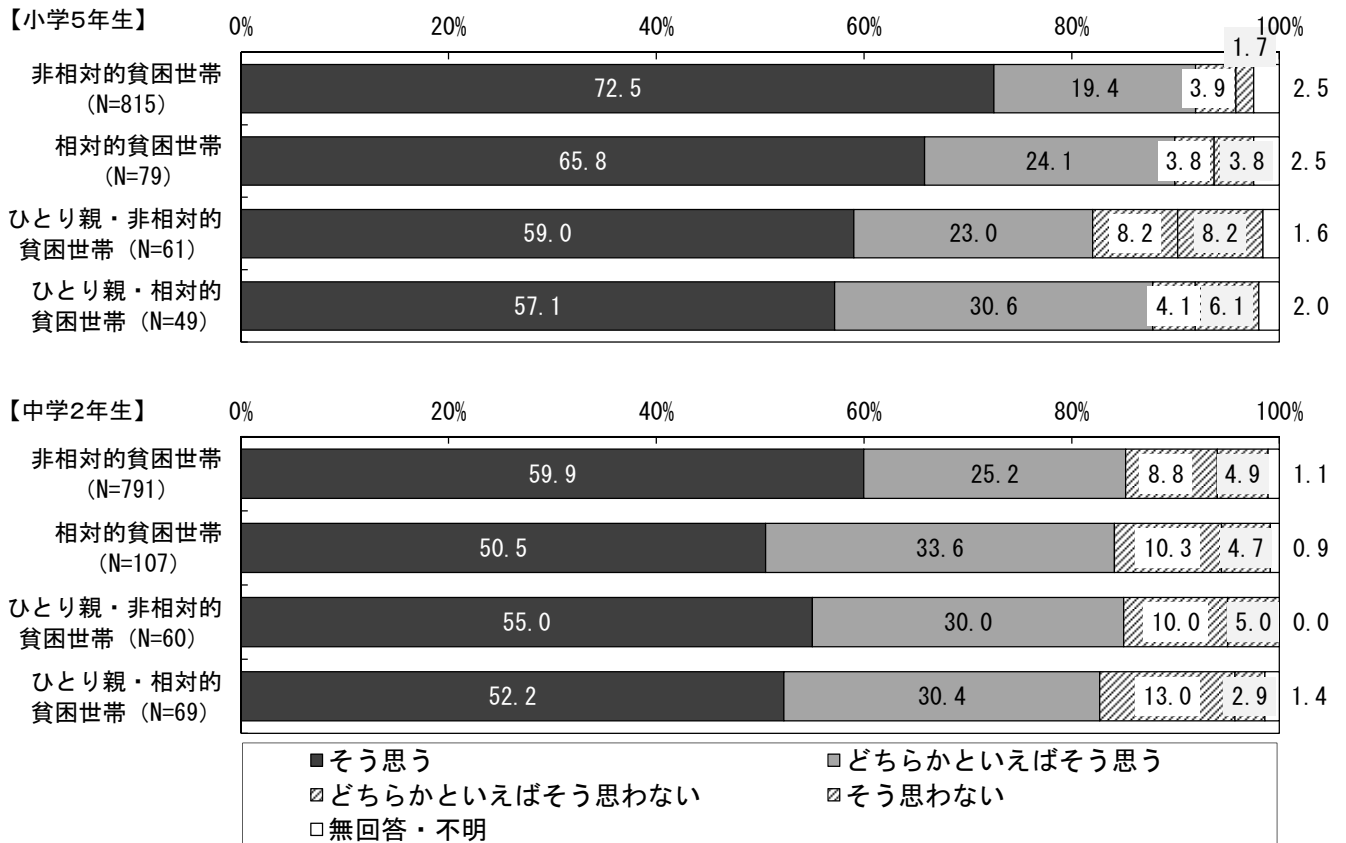
②自分には将来の夢や目標がある

世帯の状況による明確な差は見られません。



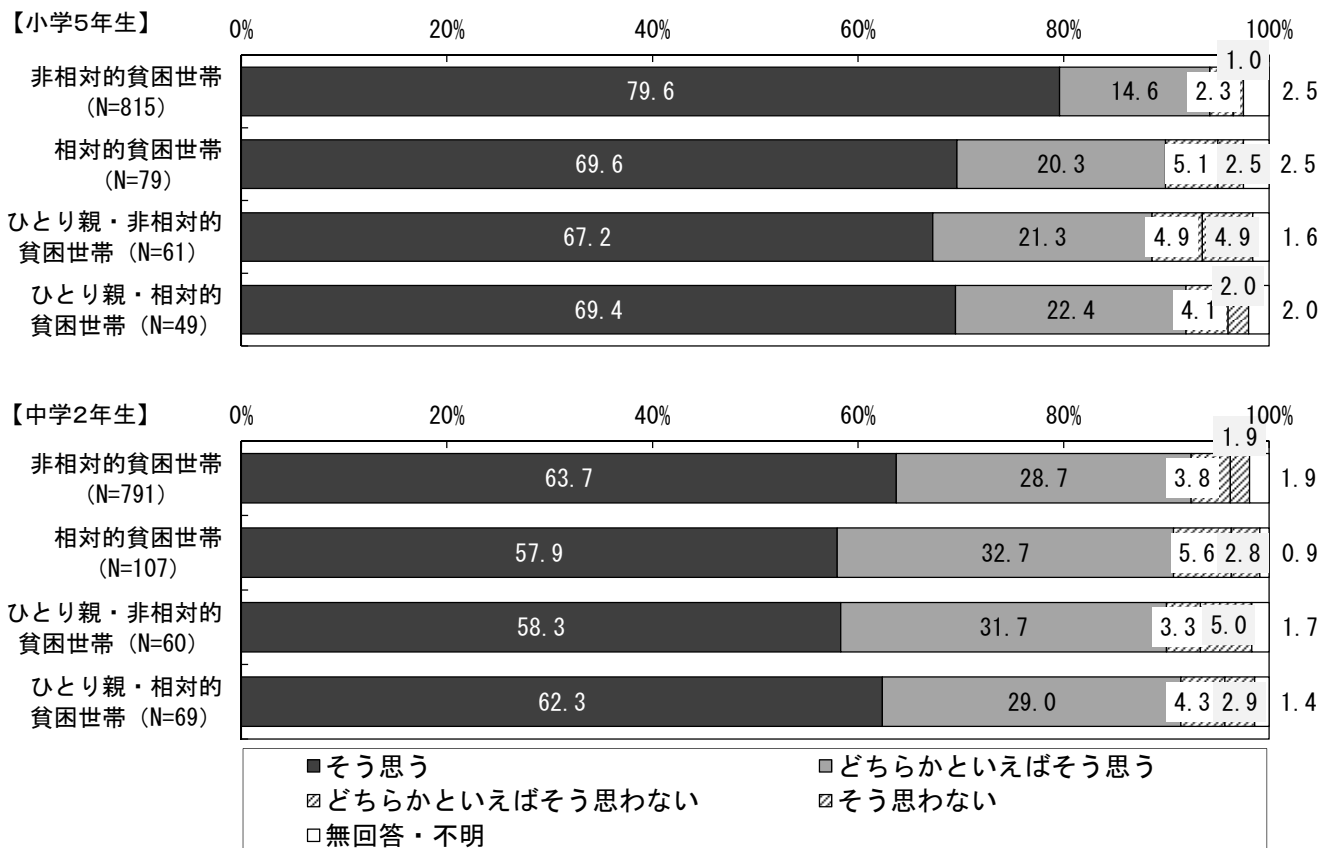
③頑張れば良いことがある

非相対的貧困世帯より相対的貧困世帯の方が肯定的な回答が少なく、全体よりひとり親世帯の方が、同様に肯定的な回答が少ない傾向です。



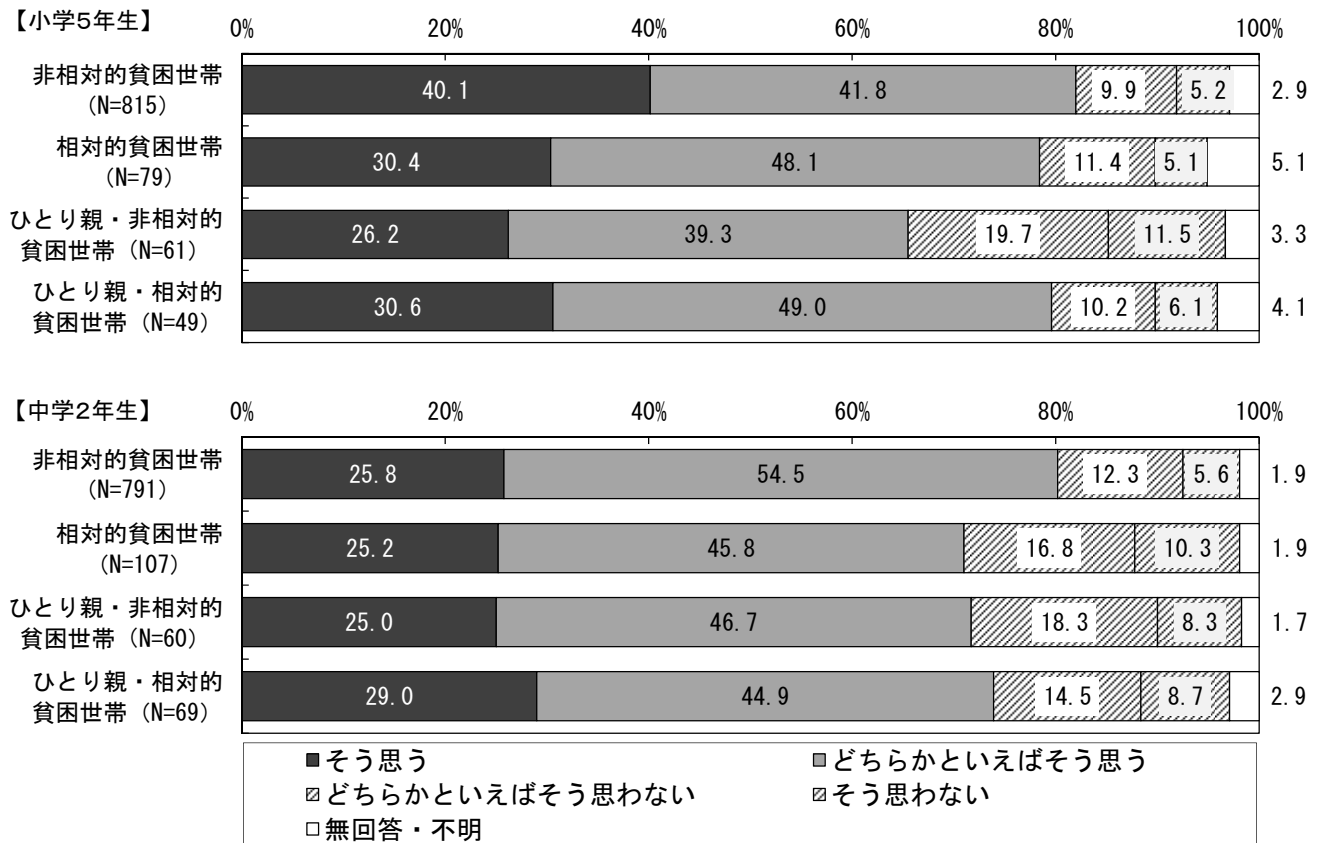
④家族は自分を大切にしている

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯で「そう思う」がやや少なくなっています。「どちらかといえばそう思う」との合計では、明確な差は見られません。



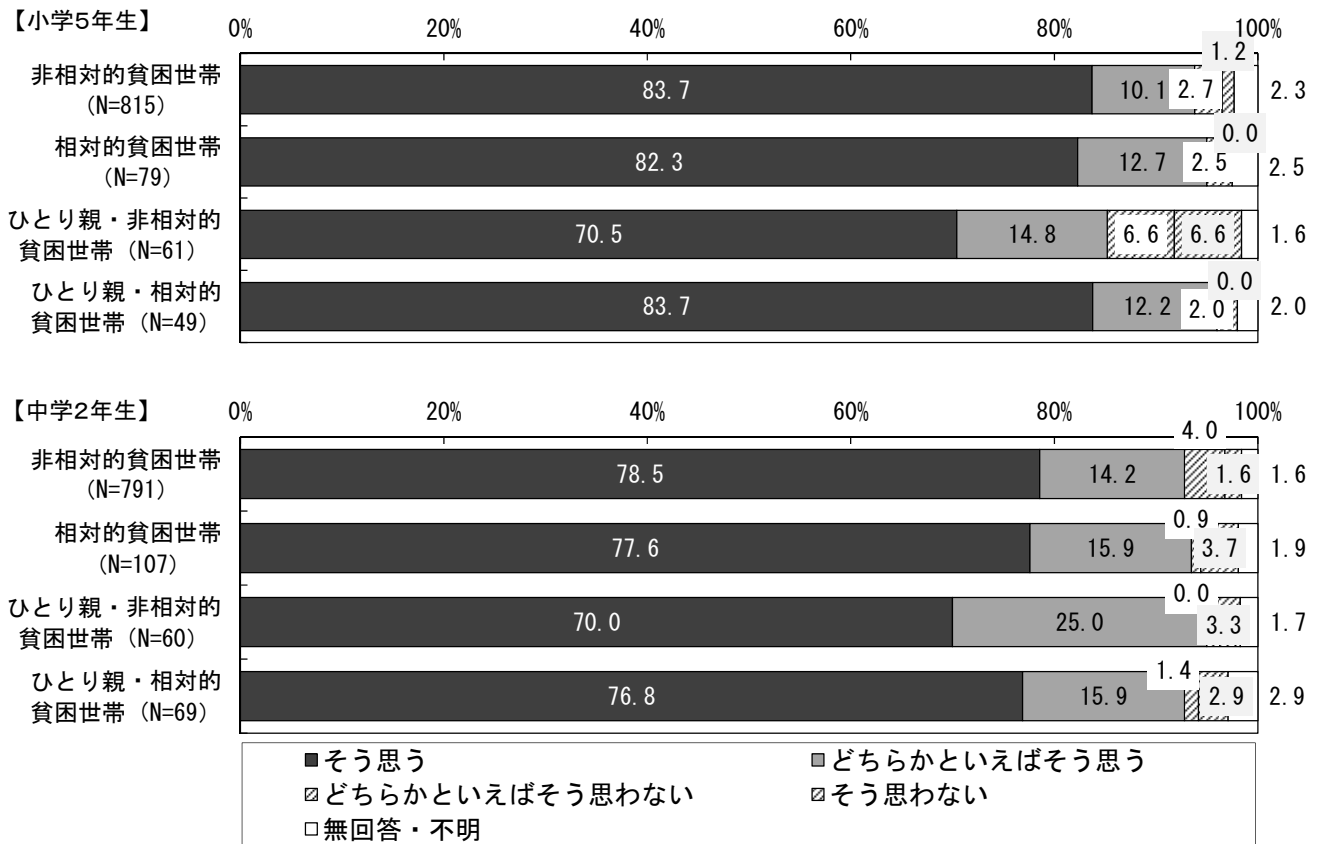
⑤自分は友だちから好かれている

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、「そう思う」が少なくなっています。中学2年生については、「そう思う」の割合の差は見られませんが、「どちらかといえばそう思う」との合計では、相対的貧困世帯、ひとり親世帯でやや少なくなっています。



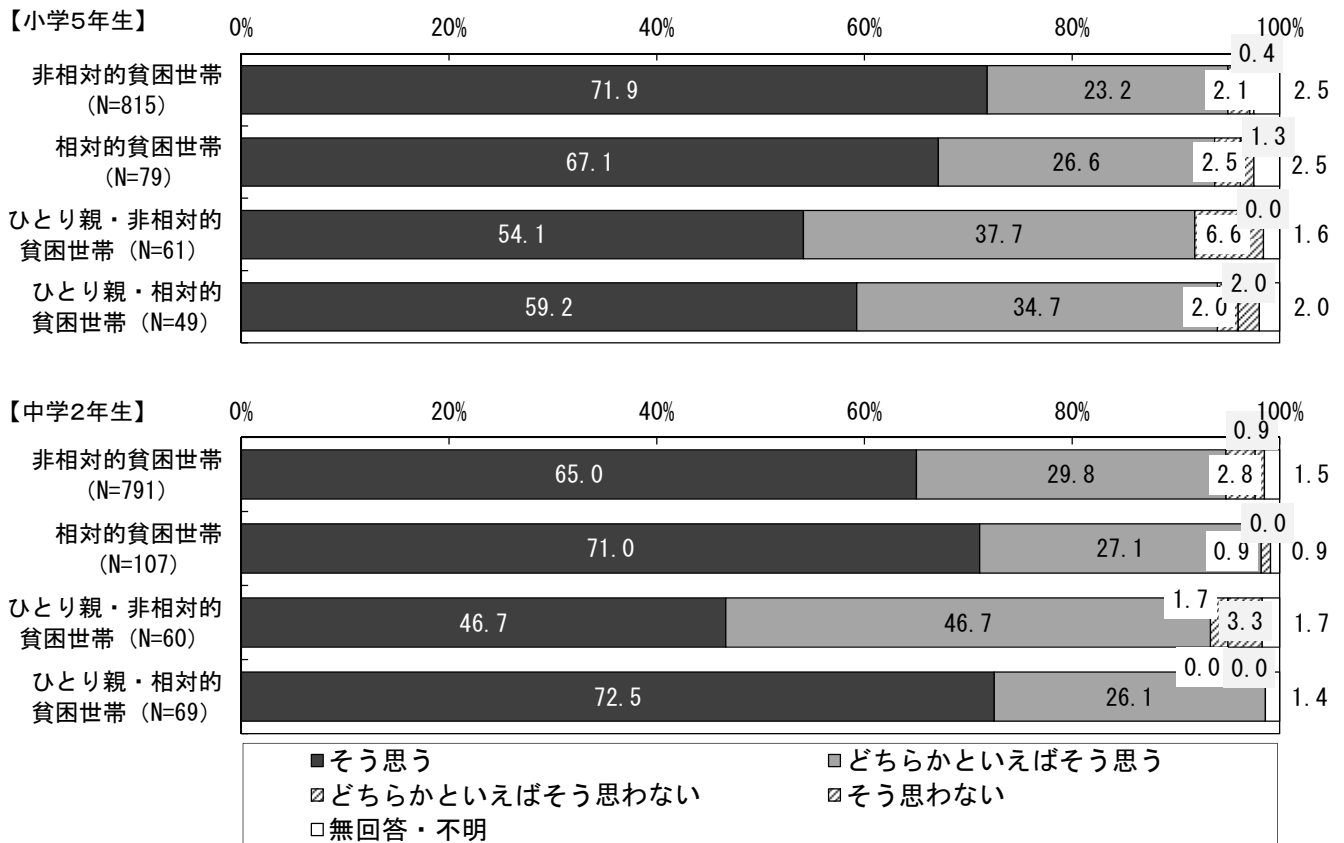
⑥友だちと会うのは楽しい

ひとり親・非相対的貧困世帯で、「そう思う」がやや少なくなっています。



⑦友だちとの約束は守っている

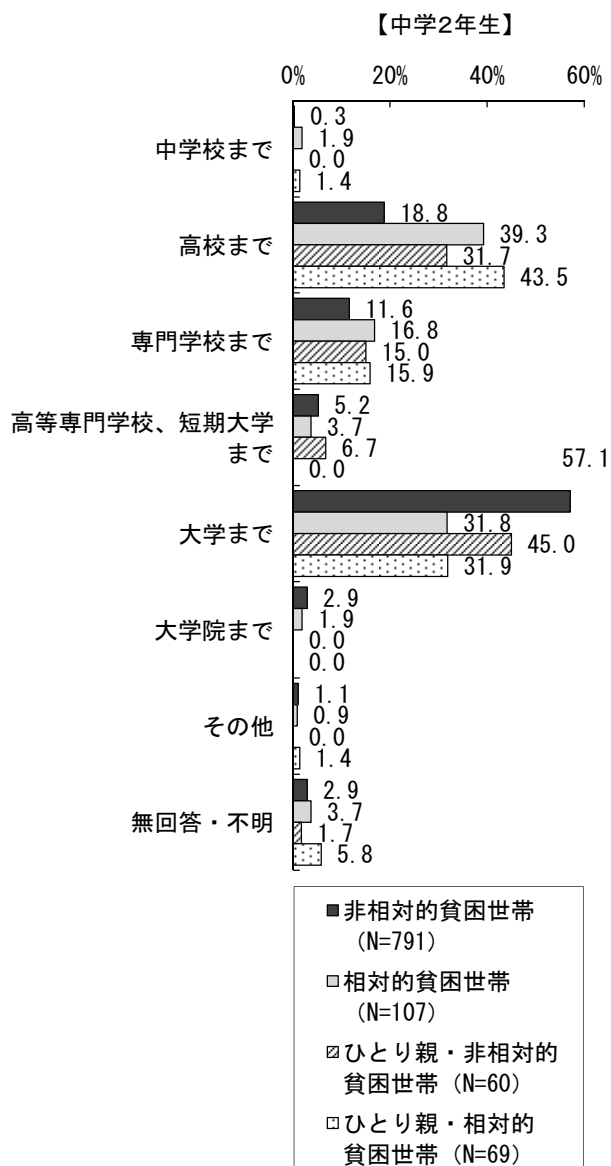
小学5年生では、ひとり親世帯で「そう思う」が少なく、中学2年生でもひとり親・非相対的貧困世帯で「そう思う」が少なくなっています。



質問 19 あなたは将来どれくらいまで進学したいと思いますか。（1つに○）

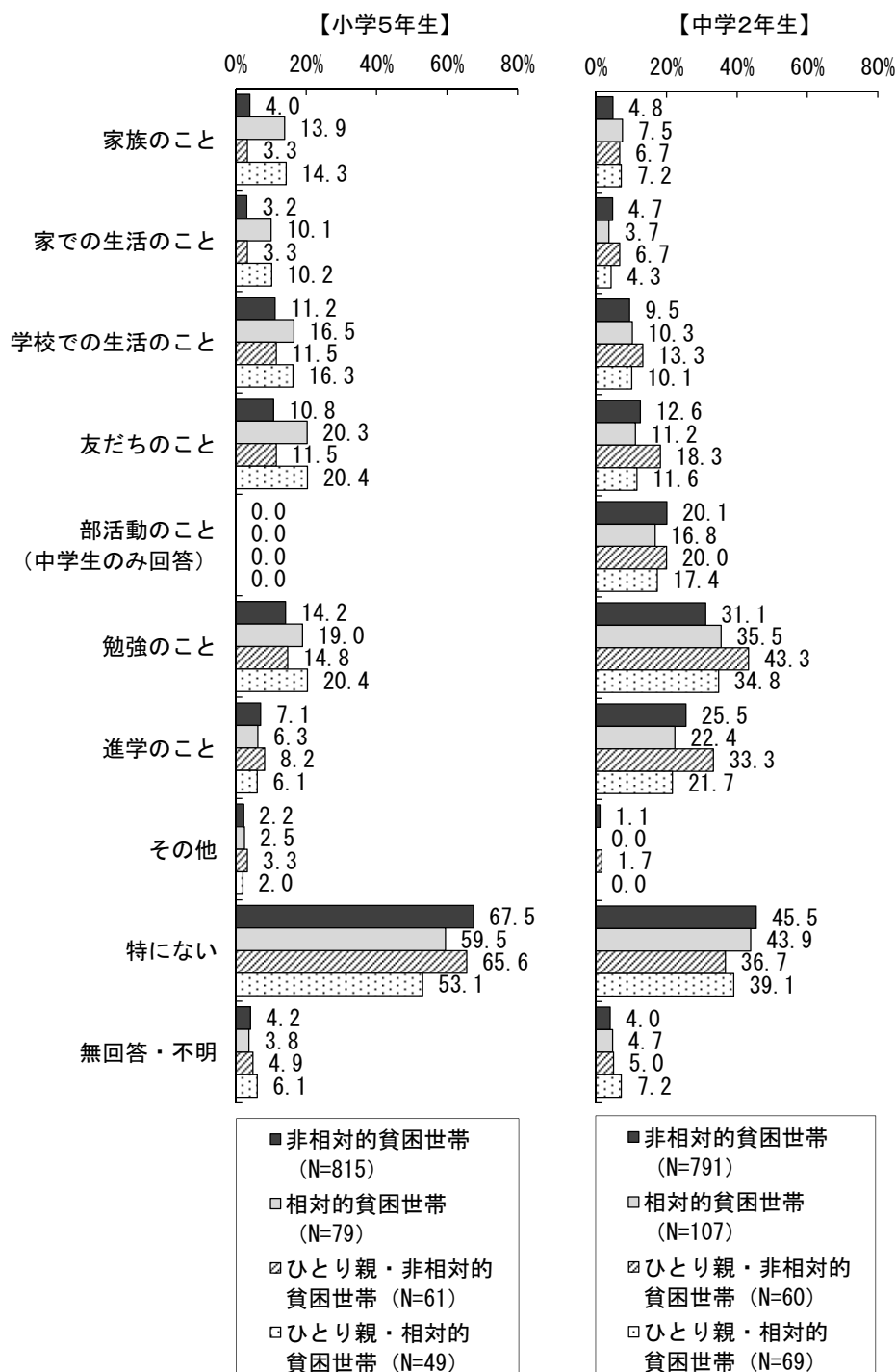
※中学生のみ回答してください。

非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、「大学まで」が少なく、「高校まで」が多くなっています。また、「専門学校まで」もやや多くなっています。



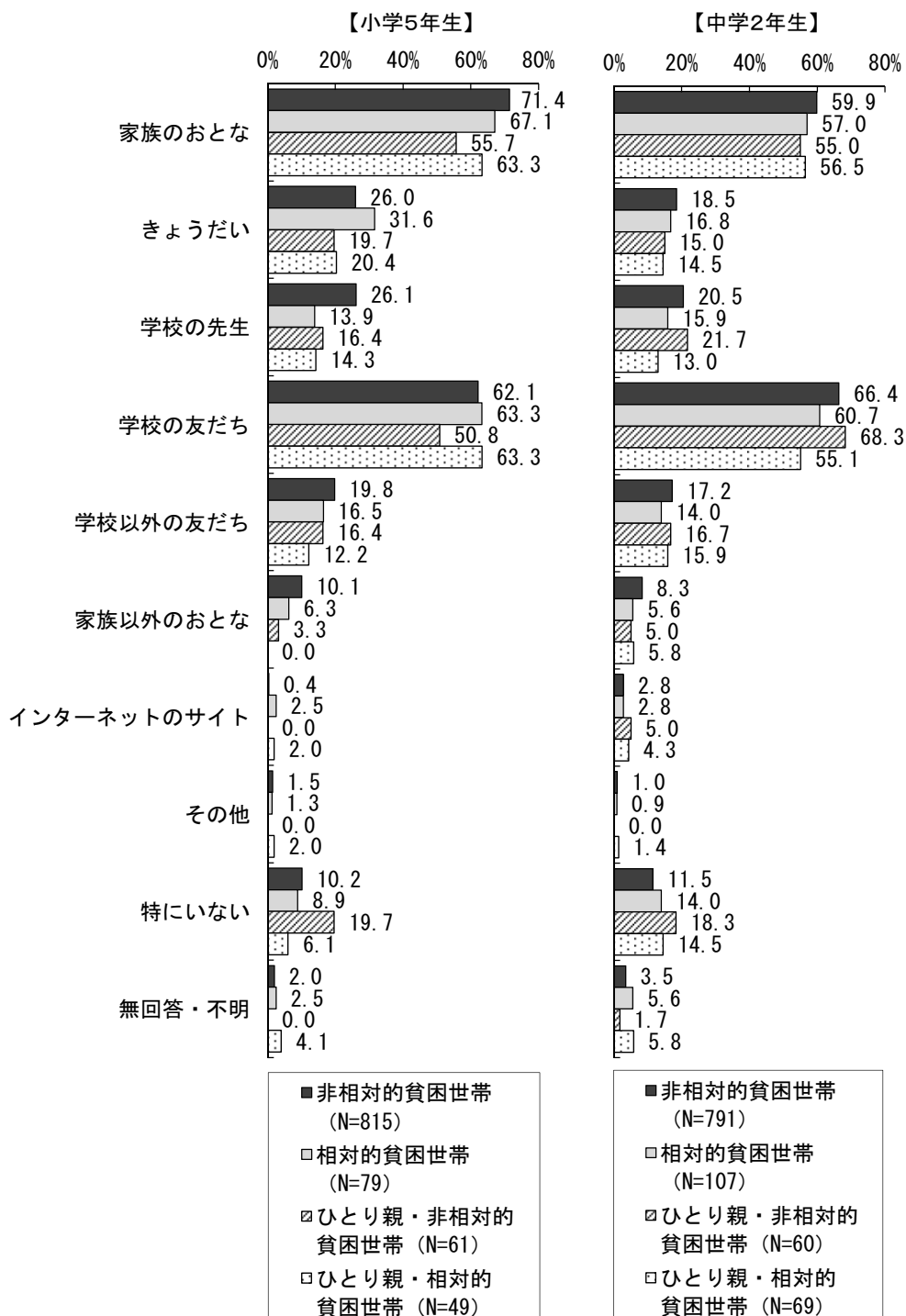
質問20 あなたは悩みごと、心配なこと、困っていること、誰かに相談したいと思っていることがありますか。（当てはまるもの全てに○）

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では「進学のこと」と「特にない」を除く全ての項目で、回答が多くなっており、特に「家族のこと」「友だちのこと」で差が大きくなっています。中学2年生では、「勉強のこと」「進学のこと」でひとり親・非相対的貧困世帯の回答がやや多くなっています。



質問 2 1 あなたは悩みごとや心配なことがあるとき、話したり、相談したりできる人がいますか。（当てはまるもの全てに○）

小学5年生では、非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯では、「学校の先生」がやや少なく、ひとり親世帯では、「きょうだい」「家族以外のおとな」がやや少なくなっています。中学2年生では、相対的貧困世帯で「学校の先生」「学校の友だち」がやや少なくなっています。



IV 分析・考察

1. 全国調査との比較からみた加古川市の特徴

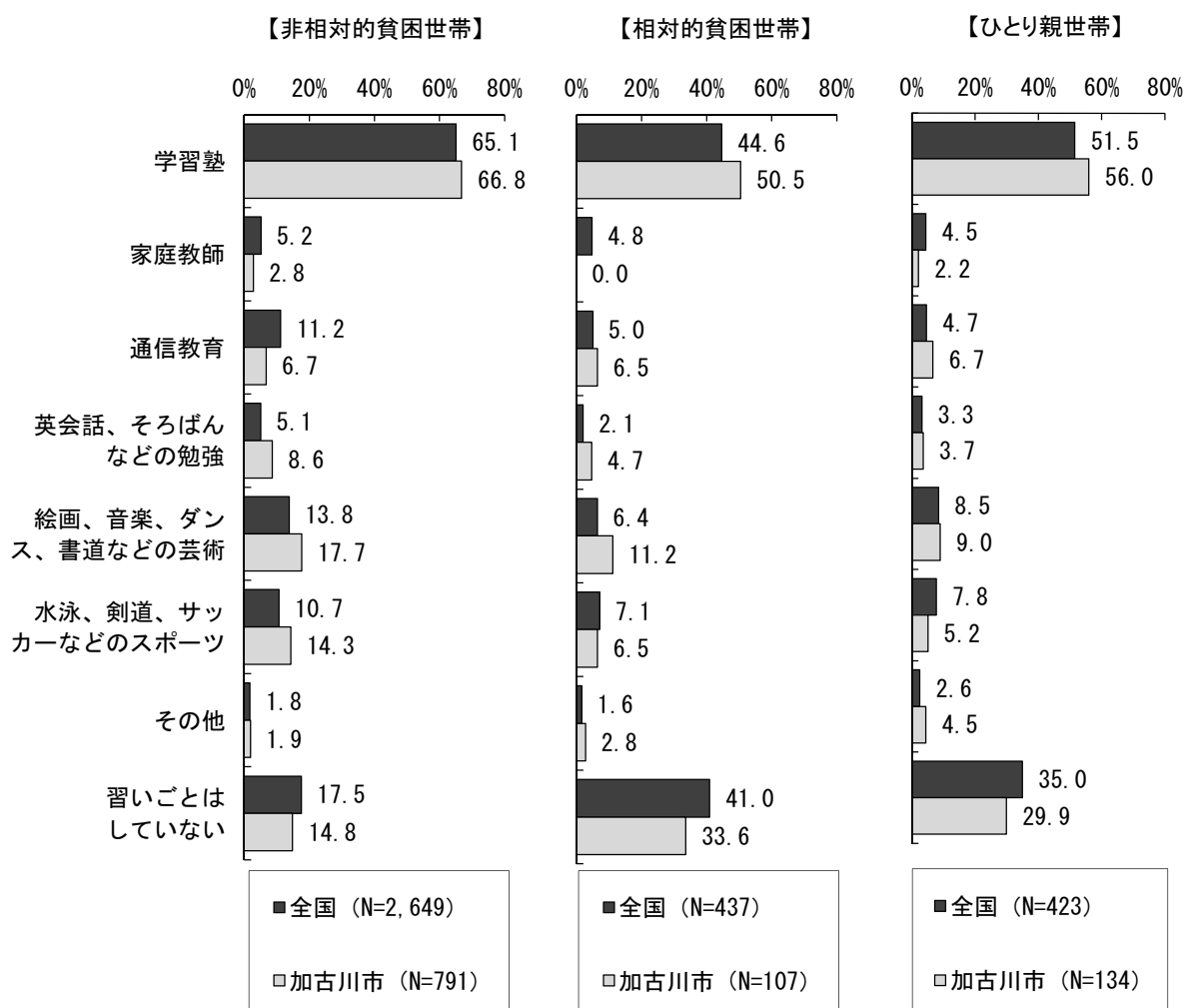
加古川市の特徴を抽出するために、全国調査との比較を行いました。比較したのは、平成 23 年に内閣府が実施した「親と子の生活意識に関する調査」（以下「全国調査」と言う。）です。全国調査の対象は中学 3 年生とその保護者であるため、本調査の中学 2 年生の回答と比較しています。結果の解釈にあたっては、学年や調査時期が異なることに留意する必要があります。

全国調査との比較によって、本市には次のような特徴があることがうかがえます。

（１）習いごとについて

①お子さんは現在、習いごとをしていますか

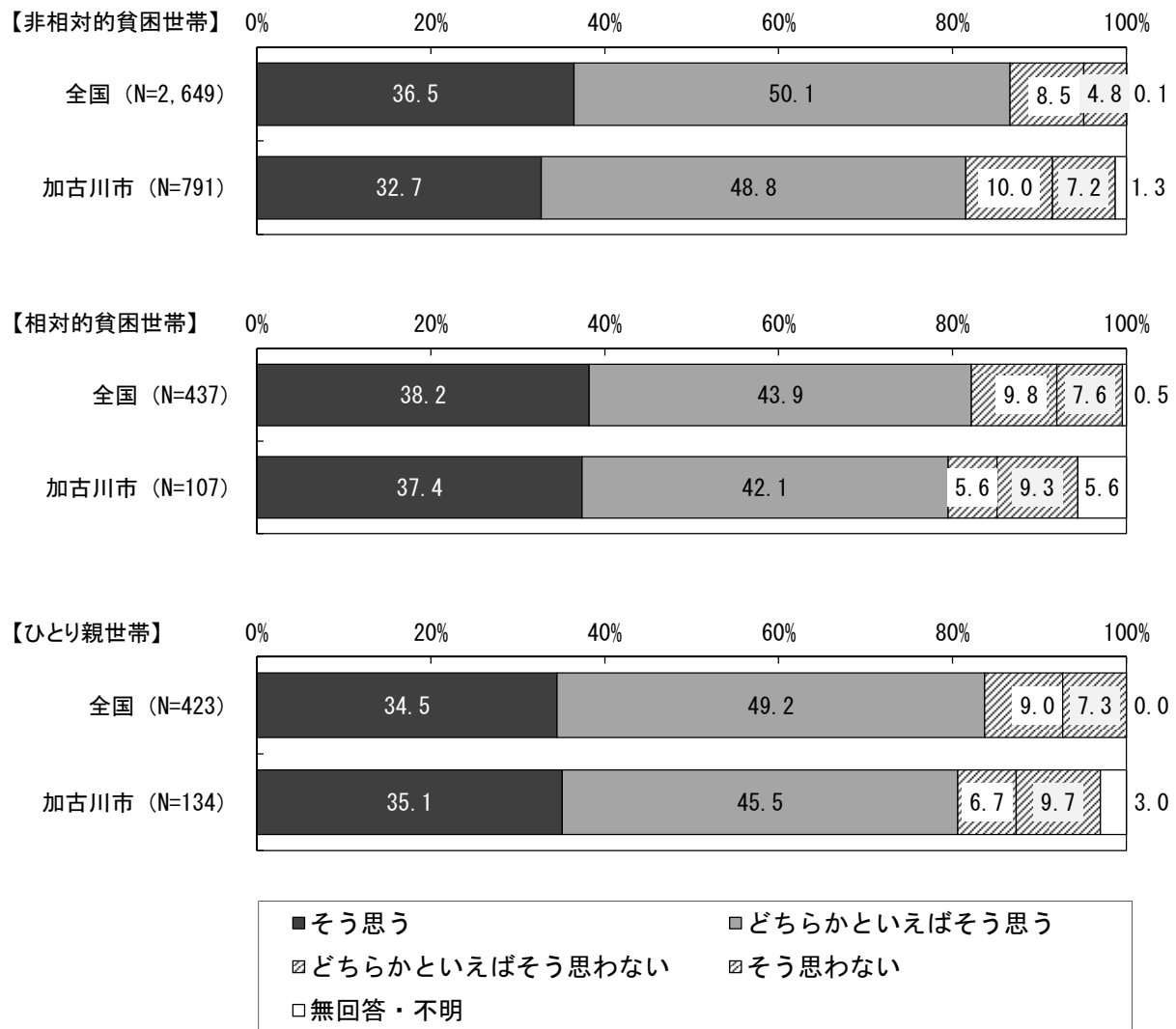
「学習塾」という回答は、非相対的貧困世帯では全国調査とほとんど差がありませんが、相対的貧困世帯、ひとり親世帯ではやや本市の方が回答が多くなっています。また、「習いごととはしていない」は、相対的貧困世帯、ひとり親世帯で全国調査よりやや少なくなっています。



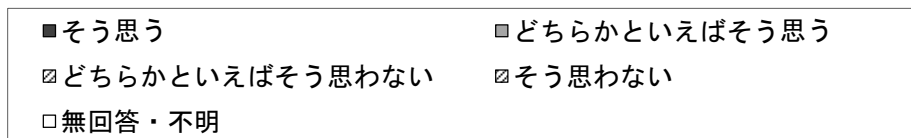
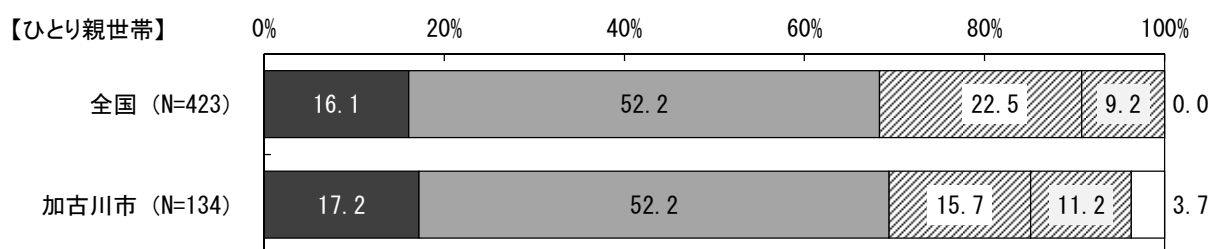
（２）保護者の教育意識について

①学歴が低いと将来希望する職業につけない

非相対的貧困世帯では肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が全国調査をやや下回っていますが、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では全国調査との差はあまりありません。

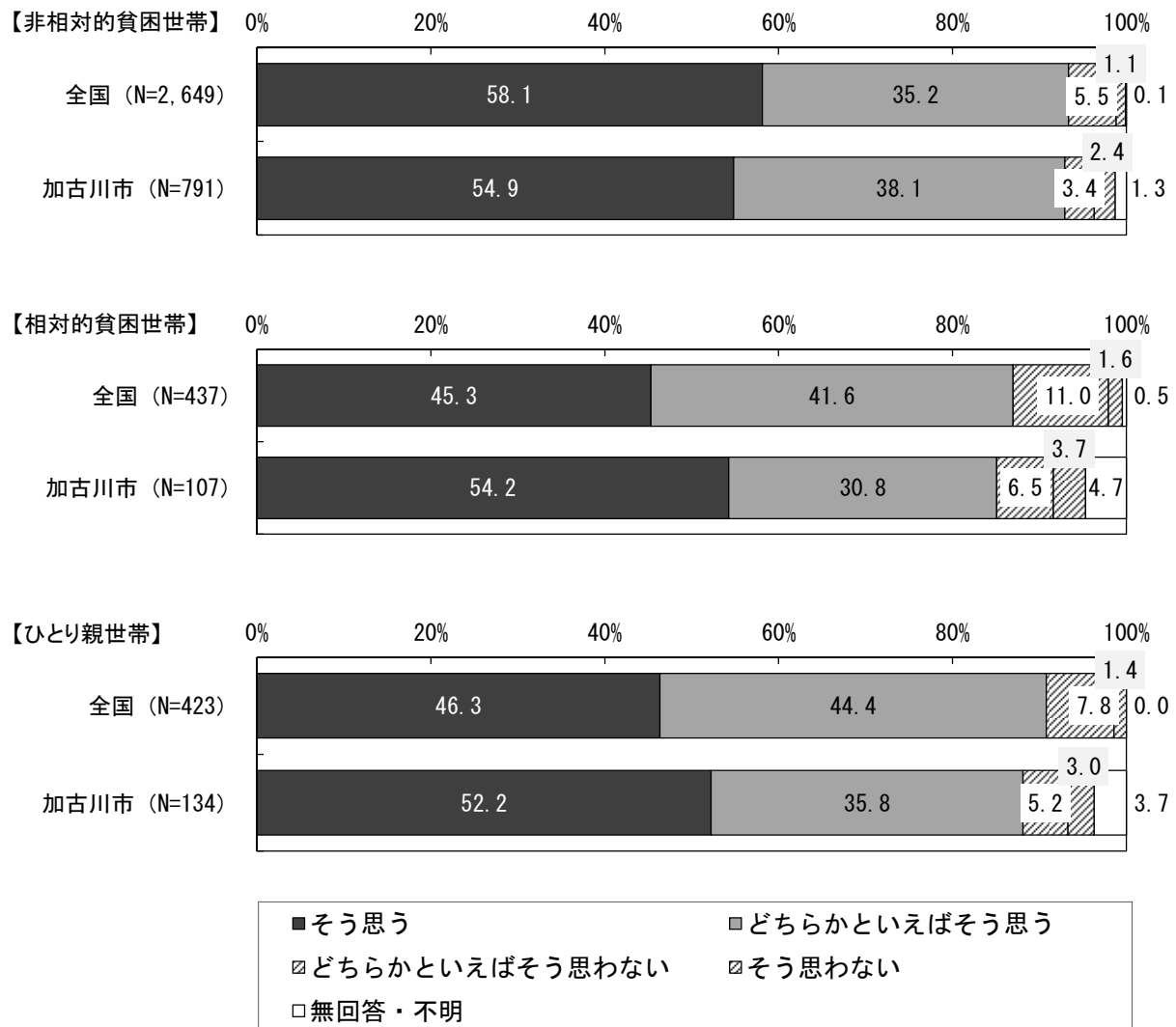


非相対的貧困世帯では、肯定的な回答が全国調査をやや下回っていますが、相対的貧困世帯では全国調査をやや上回っています。



③勉強することで色々な考えを身につけることができる

肯定的な回答は全国調査とあまり変わりませんが、「そう思う」という回答は相対的貧困世帯、ひとり親世帯で全国調査をやや上回っています。



①子どもには少しでも早く働いてほしい

【非相対的貧困世帯】

Category	全国 (N=2,649)	加古川市 (N=791)
貧困なし	2.5	2.4
低貧困	19.0	16.8
中貧困	44.8	37.8
高貧困	33.4	41.2
その他	0.3	1.8

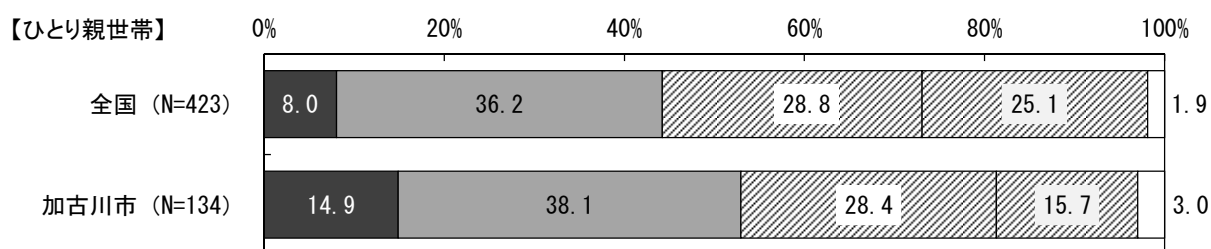
【相対的貧困世帯】	0%	20%	40%	60%	80%	100%
全国 (N=437)	5.7	28.8	40.7	23.6	1.1	
加古川市 (N=107)	4.7	36.4	27.1	26.2	5.6	

【ひとり親世帯】

世帯タイプ	全国 (N=423)	加古川市 (N=134)
単身世帯	5.2%	3.0%
2世帯	30.0%	29.1%
3世帯	36.9%	29.1%
4人以上世帯	26.2%	35.1%
その他	1.7%	3.7%

112

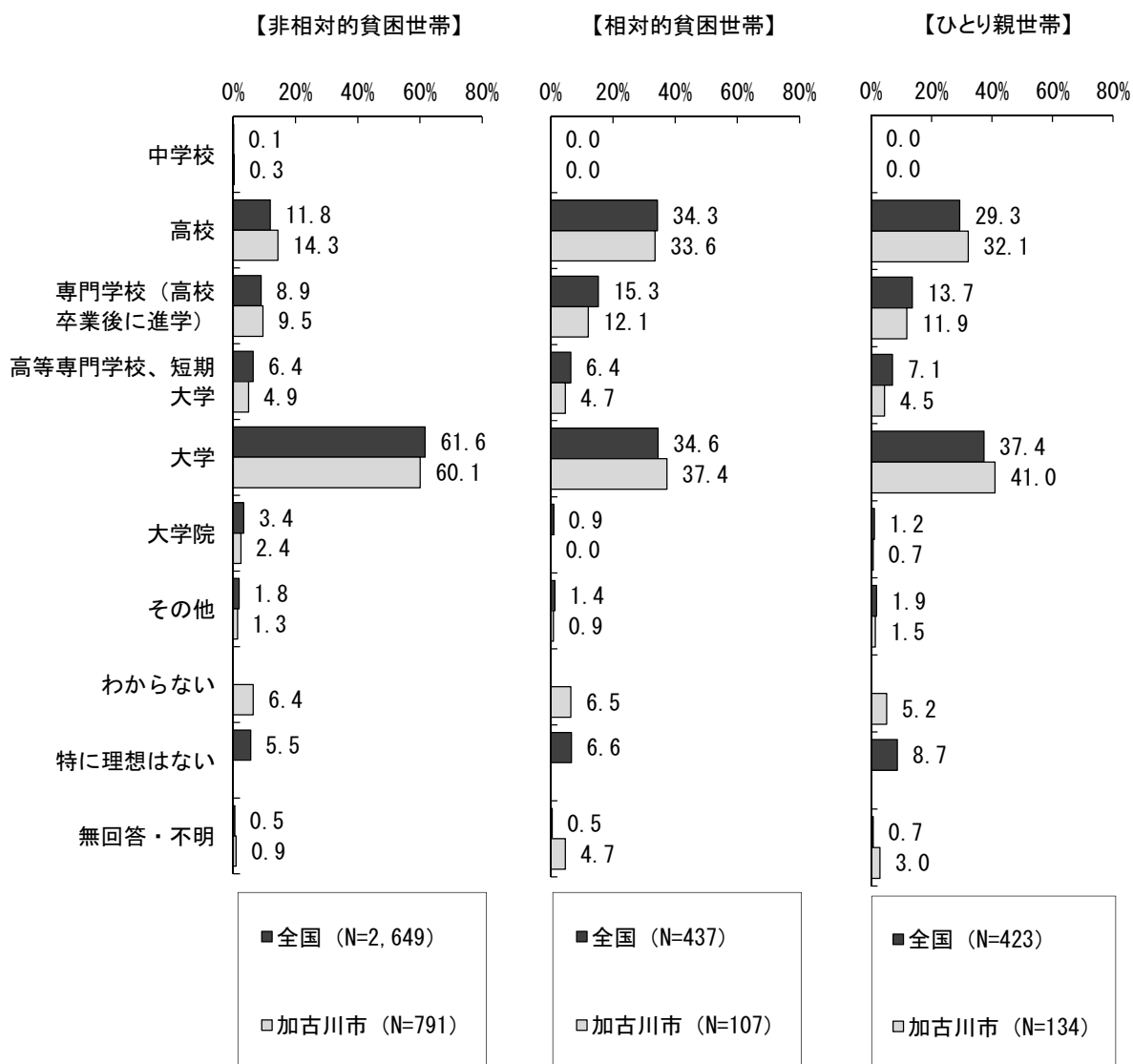
いずれの世帯においても、肯定的な回答が全国調査を上回っています。特に相対的貧困世帯では、全国調査との差が大きくなっています。



(4) 進学に関する意識について

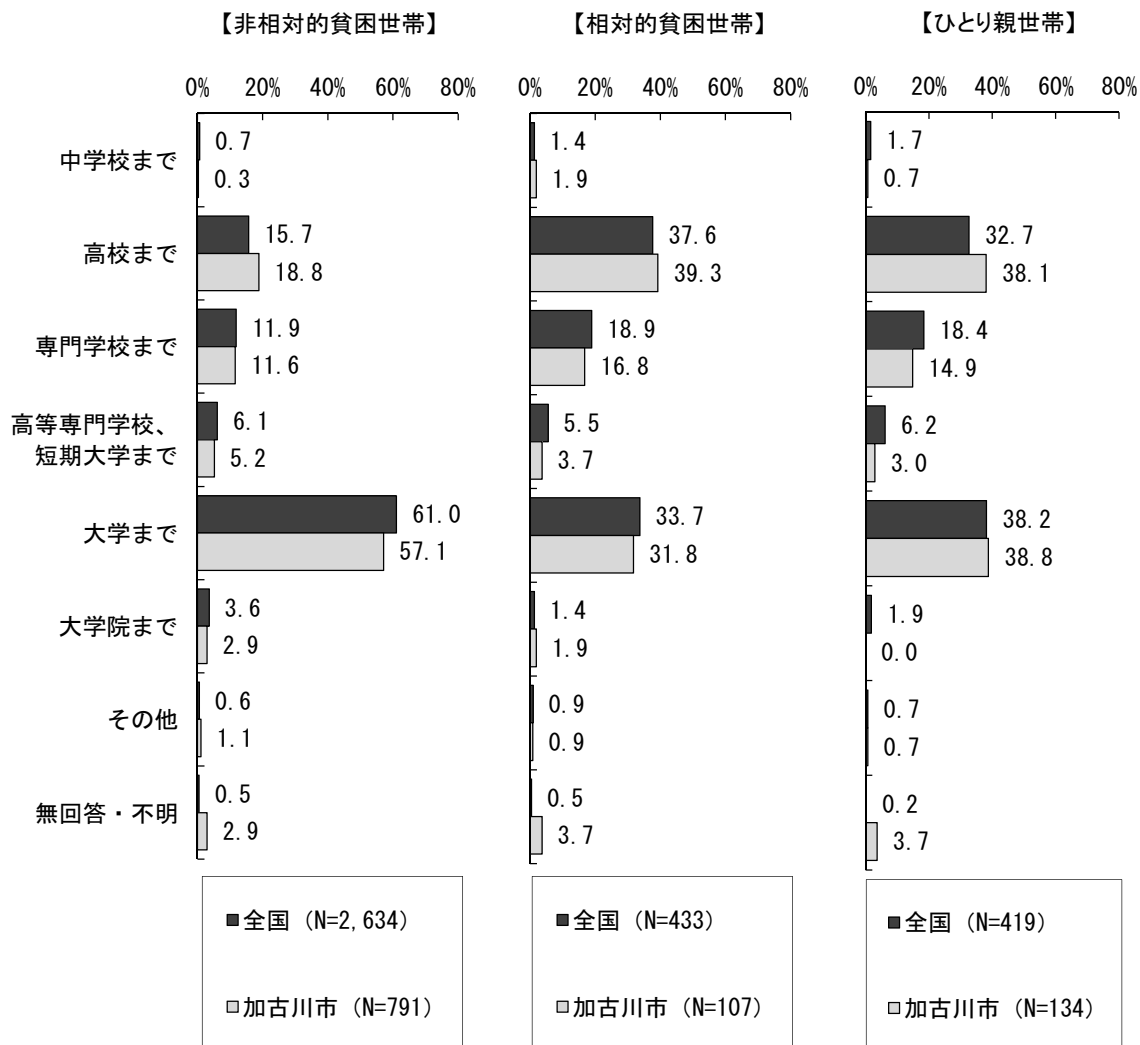
①お子さんに将来どのくらいまで最終学歴として学ばせたいと思いますか（保護者の進学希望）

非相対的貧困世帯と比べて、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、わずかに「大学」が多くなっていますが、明確な差は見られません。



②あなたは将来どれくらいまで進学したいと思いますか（子どもの進学希望）

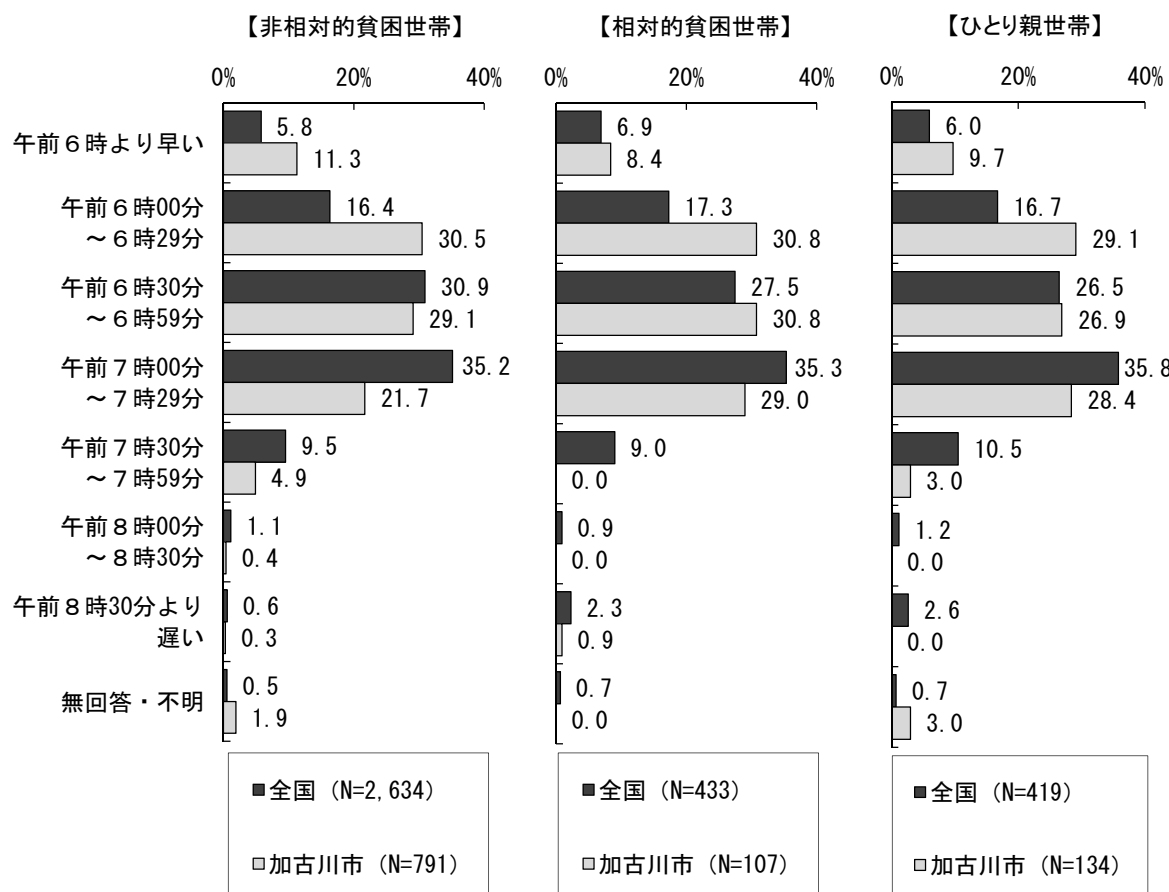
全体的に、保護者の進学希望と比較すると、「大学」がやや少なく、「高校」がやや多くなっています。また、相対的貧困世帯の「大学」の割合は、全国調査では保護者と子どもの差がありませんが、本市では保護者と比べて子どもの回答が少なくなっています。



（５）子どもの生活習慣について

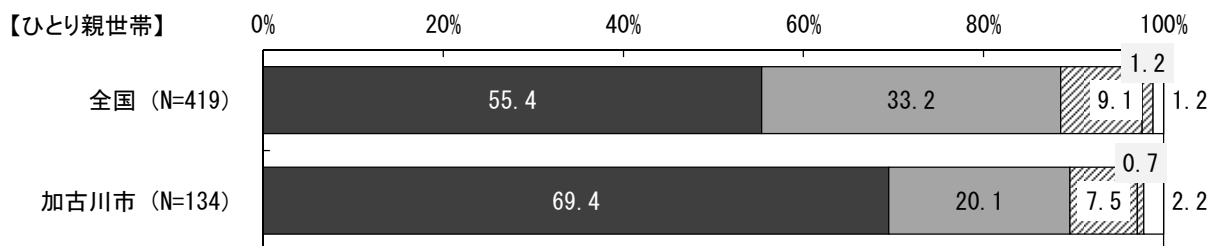
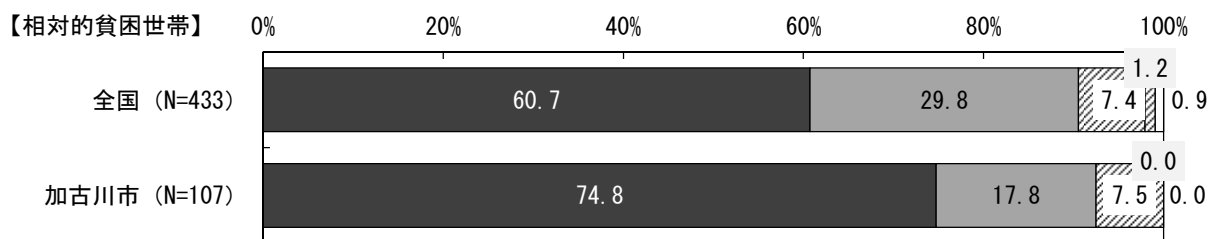
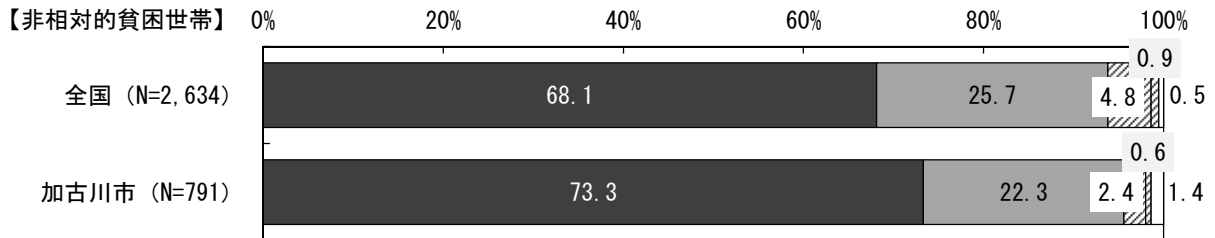
①あなたは学校がある日は何時に起きますか

全体的に全国調査より本市の起床時刻が早い傾向が見られます。全国調査では世帯の状況による差がほとんどありませんが、本市では、相対的貧困世帯、ひとり親世帯の方が、遅い時刻の回答がやや多くなっています。



②あなたは歯磨きをどのくらいしますか

全国調査では非相対的貧困世帯と比較して、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「1日2回以上」が少なくなっていますが、本市では世帯の状況による差が小さく、いずれの世帯も「1日2回以上」の割合が全国調査を上回っています。

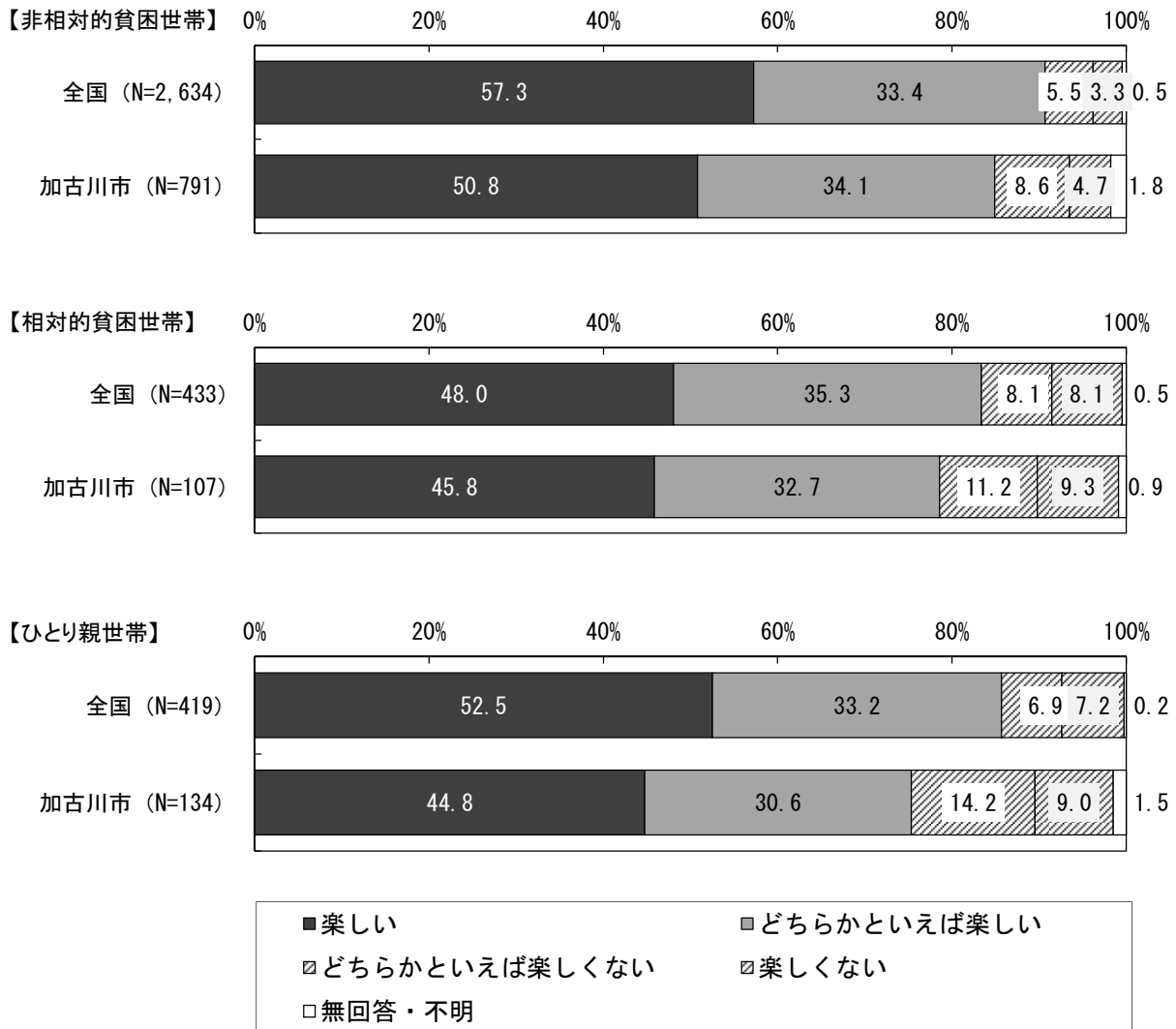


■ 1日2回以上する ■ 1日1回する ▨ ときどきする
 ▨ ほとんどしない □ 無回答・不明

（６）学校に関する意識について

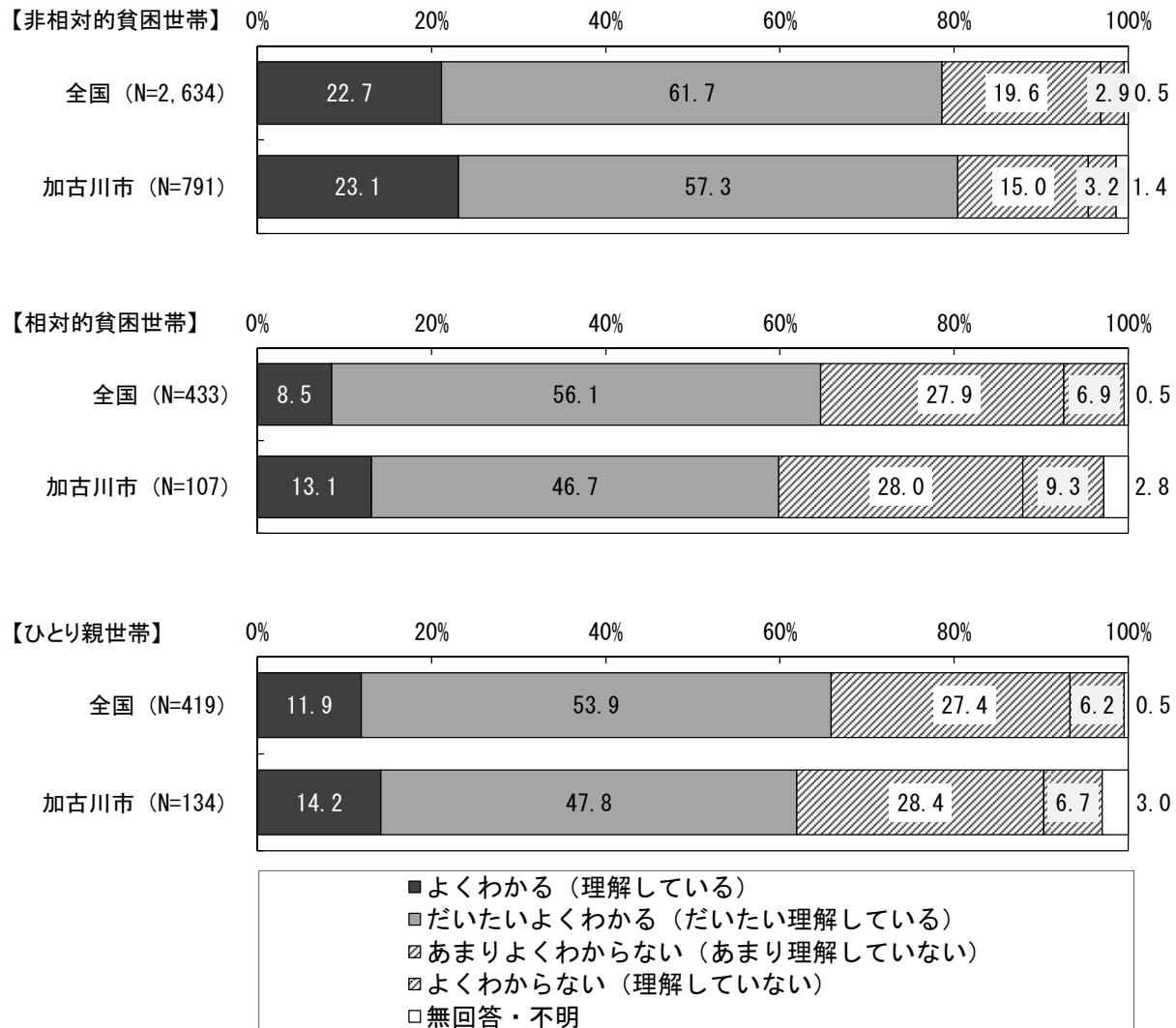
①あなたは学校にいる時間が楽しいですか

いずれの世帯も「楽しい」が全国調査を下回っています。



②あなたは学校の授業がよくわかりますか

非相対的貧困世帯は全国調査とほぼ同様の回答状況です。相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、「よくわかる（理解している）」または「だいたいよくわかる（だいたい理解している）」が、全国調査をやや下回っています。ただし、相対的貧困世帯の「よくわかる（理解している）」は、全国調査を上回っています。



※選択肢の括弧内は全国調査の選択肢の表現

（７）全国調査との比較のまとめ

全国調査との比較により、本市に特徴的な状況として、以下の点を挙げることができます。

- ・相対的貧困世帯、ひとり親世帯の通塾率が高く、保護者の教育意識も高い傾向があります。
- ・相対的貧困世帯では、子どもに早期の就職や親元からの独立を希望する割合が高くなっています。
- ・進学希望については、保護者、子どもとも全国調査との差はあまりありませんが、相対的貧困世帯では、保護者と比べて子どもの進学希望がやや低くなる傾向があります。
- ・子どもの生活習慣については、全国調査と比較して非相対的貧困世帯と相対的貧困世帯の差が小さくなっています。
- ・学校を楽しんでいる子どもが全体的にやや少なく、授業を理解している子どもの割合は全国調査より非相対的貧困世帯と相対的貧困世帯、ひとり親世帯の差がやや大きくなっています。

2. 家庭環境の影響について

経済的な状況以外の家庭環境が、子どもに与える影響を分析するために、保護者の教育意識や、子どもへの働きかけの状況、家庭における文化的な体験の多寡等が、子どもの自尊感情（自分には良いところがあると思うか）や授業の理解度（学校の授業がよくわかるか）とどのように関連しているかを調べました。

（１）保護者の教育重視の意識（保護者調査：質問 30）

保護者が教育を重視する意識をどれだけ持っているかに関する指標です。

小学校 5 年生では、相対的貧困世帯、非相対的貧困世帯ともに、子どもの自尊感情や授業の理解度との関連があることが示されています。中学 2 年生では、授業の理解度について、保護者の教育を重視する意識が高い方が、肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、または「よくわかる」と「だいたいよくわかる」の合計）が多くなっています。

■教育重視の意識に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
次の意見についてどう思いますか。 ☐ 学歴が低いと将来希望する職業につけない ☐ 他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい ☐ 勉強することで色々な考えを身につけることができる ☐ 努力すれば夢や希望はかなえられる ☐ 子どもには頑張って勉強してほしい	それぞれ、 「そう思う」と回答したものを 3 点、 「どちらかといえばそう思う」を 2 点、 「どちらかといえばそう思わない」を 1 点、 「そう思わない」を 0 点とし、 合計得点が 11 点以上を「高」、10 点以下を「低」とした。

■保護者の教育重視の意識別にみた子どもの自尊感情と授業の理解度

				N	自分には良いところがあると思うか(%)					学校の授業がよくわかるか(%)				
					そう 思う	ば そう 思う	ど ち ら か と い え	ど ち ら か と い え	そ う 思 わ な い	無 回 答 ・ 不 明	よく わかる	よく わ か る	だ い た い よく わ か ら な い	あ ま り よく わ か ら な い
保護者の教育重視の意識	小学5年生	非相対的貧困世帯	高	523	49.1	35.8	10.1	2.5	2.5	54.3	39.4	3.3	1.0	2.1
			低	289	40.5	42.2	8.7	5.9	2.8	39.4	47.1	8.0	1.7	3.8
		相対的貧困世帯	高	47	48.9	34.0	12.8	2.1	2.1	34.0	48.9	12.8	4.3	0.0
			低	32	37.5	43.8	12.5	3.1	3.1	31.3	43.8	18.8	0.0	6.3
	中学2年生	非相対的貧困世帯	高	506	33.8	38.5	18.8	7.5	1.4	25.9	57.1	13.0	2.6	1.4
			低	278	28.4	46.0	17.3	7.2	1.1	18.7	57.6	18.7	4.0	1.1
		相対的貧困世帯	高	72	26.4	37.5	22.2	12.5	1.4	12.5	51.4	27.8	5.6	2.8
			低	31	35.5	25.8	29.0	9.7	0.0	12.9	38.7	25.8	19.4	3.2

(2) 保護者の子どもへの働きかけ等（保護者調査：質問 25）

保護者が子どもに対する教育的な働きかけや一緒に何かをすることをどの程度しているかに関する指標です。子どもの自尊感情、授業の理解度との明確な関連は見られません。

■保護者の子どもへの働きかけ等の程度に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。 ☐ お子さんの勉強をみる ☐ お子さんと学校生活の話をする ☐ お子さんと一緒に料理を作る ☐ お子さんと一緒に外出する	それぞれ、 「ほとんど毎日」と回答したものを4点、 「週に3～4日」を3点、 「週に1～2日」を2点、 「月に1～2日」を1点、 「めったにない」を0点とした。 学年によって大きく状況が異なることから、小学5年生は合計8点以上、中学2年生は合計6点以上を「高」とし、それより少ない得点を「低」とした。

■保護者の子どもへの働きかけ等の程度別にみた子どもの自尊感情と授業の理解度

				N	自分には良いところがあると思うか(%)					学校の授業がよくわかるか(%)						
					そう思う	ばそう思う	どちらかといえ	ばそう思わない	そう思わない	無回答・不明	よくわかる	よくわかる	だいたいよくわからない	あまりよくわからない	よくわからない	無回答・不明
保護者の働きかけ	小学5年生	非相対的貧困世帯	高	591	47.4	37.9	9.0	3.2	2.5	49.1	42.1	4.7	1.2	2.9		
			低	223	42.6	38.6	11.2	4.9	2.7	48.9	41.7	5.8	1.3	2.2		
		相対的貧困世帯	高	47	42.6	38.3	14.9	4.3	0.0	27.7	59.6	12.8	0.0	0.0		
			低	31	48.4	38.7	9.7	0.0	3.2	41.9	29.0	19.4	3.2	6.5		
	中学2年生	非相対的貧困世帯	高	449	33.4	42.3	16.5	6.5	1.3	22.5	57.7	15.4	2.7	1.8		
			低	335	30.4	40.0	19.7	8.7	1.2	23.9	57.3	14.3	3.6	0.9		
		相対的貧困世帯	高	58	34.5	29.3	25.9	10.3	0.0	13.8	46.6	22.4	13.8	3.4		
			低	47	23.4	40.4	19.1	14.9	2.1	12.8	48.9	31.9	4.3	2.1		

(3) 通塾等（保護者調査：質問 27）

塾や家庭教師等、学校での勉強以外に費用のかかる学習活動をしているかどうかの指標です。

非相対的貧困世帯では、通塾等の有無による授業の理解度に明確な差は見られませんが、相対的貧困世帯においては、通塾等が「有」の方が、肯定的な回答が多くなっています。

■通塾等に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
○お子さんは現在、習いごとをしていますか。 ※費用のかからないサークル活動などは除きます。	「学習塾」、「家庭教師」、「通信教育」のいずれかが選択されたものを「有」、いずれも選択されなかったものを「無」とした

■通塾等の状況別にみた子どもの自尊感情と授業の理解度

				N	自分には良いところがあると思うか(%)					学校の授業がよくわかるか(%)				
					そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答・不明	よくわかる	だいたい よくわかる	あまり よくわからない	よくわからない	無回答・不明
通塾等の有無	小学5年生	非相対的貧困世帯	有	611	48.1	36.8	9.5	3.4	2.1	50.4	41.4	4.3	0.8	3.1
			無	194	39.7	42.3	9.3	4.6	4.1	43.8	45.4	7.2	2.1	1.5
		相対的貧困世帯	有	54	46.3	37.0	11.1	3.7	1.9	33.3	51.9	14.8	0.0	0.0
			無	24	41.7	41.7	16.7	0.0	0.0	33.3	37.5	16.7	4.2	8.3
	中学2年生	非相対的貧困世帯	有	484	32.0	41.2	18.2	7.3	1.3	23.1	57.3	15.0	3.2	1.4
			無	298	34.9	40.5	16.7	6.8	1.0	25.0	56.0	15.5	2.3	1.2
		相対的貧困世帯	有	60	35.0	30.0	21.7	13.3	0.0	13.3	55.0	18.3	11.7	1.7
			無	45	22.2	40.0	24.4	11.1	2.2	13.3	37.8	37.8	6.7	4.4

(4) 文化的な経験や体験（児童生徒調査：質問 17）

家庭での文化的な活動や多様な体験をしてきたかどうかの指標です。

相対的貧困世帯、非相対的貧困世帯のいずれについても、文化的な経験や体験が「高」と判定された世帯の方が、そうではない世帯と比べて自尊感情が高い子どもが多い傾向があります。自尊感情は、平均すると相対的貧困世帯の方が非相対的貧困世帯より低くなっていますが、文化的な経験や体験が「高」の相対的貧困世帯は、「低」の非相対的貧困世帯と比べて、小学5年生では自尊感情で上回っており、中学2年生でもほぼ同程度となっています。

授業の理解度についても、非相対的貧困世帯ではあまり差がありませんが、相対的貧困世帯では、文化的な経験や体験が「高」と判定された世帯の方が、理解度が高い傾向が見られます。

■文化的な経験や体験に関する指標

質問(児童生徒調査)	指標化
○あなたは次を書いてあることを家族とすること(したこと)がありますか。 本や絵本を読んでもらった／手作りのおやつを作る／図書館に行く 動物園や水族館に行く／美術館や博物館に行く／音楽会やコンサートに行く 新聞やニュースについて話す／パソコンで調べものをする 泊まりで家族旅行に行く／地域の行事に参加する／当てはまるものはない	6つ以上の項目が選択されたものを「高」、5つ以下であったものを「低」とした。「当てはまるものはない」が選択された場合は0として数えた。

■文化的な経験や体験の状況別にみた子どもの自尊感情と授業の理解度

				N	自分には良いところがあると思うか(%)					学校の授業がよくわかるか(%)				
					そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答・不明	よくわかる	だいたい よくわかる	あまり よくわからない	よくわからない	無回答・不明
文化的な経験・体験	小学5年生	非相対的貧困世帯	高	522	52.7	37.0	7.1	2.7	0.6	52.9	39.7	4.6	0.4	2.5
			低	272	36.0	42.6	15.1	5.9	0.4	43.4	46.3	6.3	2.9	1.1
		相対的貧困世帯	高	51	56.9	35.3	5.9	2.0	0.0	37.3	51.0	11.8	0.0	0.0
			低	25	24.0	44.0	28.0	4.0	0.0	24.0	44.0	24.0	0.0	8.0
	中学2年生	非相対的貧困世帯	高	461	35.1	43.6	16.1	5.0	0.2	24.9	58.6	13.2	2.2	1.1
			低	313	28.4	38.7	22.0	10.9	0.0	20.4	55.6	18.2	4.5	1.3
		相対的貧困世帯	高	44	27.3	40.9	25.0	6.8	0.0	18.2	52.3	20.5	9.1	0.0
			低	62	30.6	29.0	24.2	16.1	0.0	9.7	43.5	33.9	9.7	3.2

(5) 保護者が支援を受けられる人間関係（保護者調査：質問5－1、質問6）

保護者が支援を受けられる人間関係を十分に有しているかどうかの指標です。

「低」と判定される世帯数が少ないため、十分な比較にはなりません。小学5年生の相対的貧困世帯を除くと、「高」の世帯の方が自尊感情、授業の理解度ともに、肯定的な回答が多くなっています。

■保護者が支援を受けられる人間関係に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
○あなたは、困ったときや悩みがあるとき、相談できる人がいますか。 ○あなたは、緊急時にお子さんを預かったり、助けてくれる人がいますか。	2つの質問の両方に「いる」と回答したものを「高」、いずれかまたは両方に「いない」と回答したものを「低」とした。

■保護者が支援を受けられる人間関係の状況別にみた子どもの自尊感情と授業の理解度

				N	自分には良いところがあると思うか(%)					学校の授業がよくわかるか(%)				
					そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答・不明	よくわかる	よくわかる だいたい	あまり よくわからない	よくわからない	無回答・不明
保護者の人間関係	小学5年生	非相対的貧困世帯	高	745	46.2	38.0	9.7	3.6	2.6	50.6	40.7	5.1	0.8	2.8
			低	68	44.1	39.7	8.8	4.4	2.9	32.4	55.9	4.4	5.9	1.5
		相対的貧困世帯	高	67	40.3	40.3	13.4	3.0	3.0	28.4	49.3	16.4	3.0	3.0
			低	11	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0
	中学2年生	非相対的貧困世帯	高	705	31.8	42.1	18.4	6.2	1.4	23.5	57.0	14.8	3.3	1.4
			低	84	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	17.9	60.7	17.9	2.4	1.2
		相対的貧困世帯	高	92	30.4	33.7	23.9	12.0	0.0	14.1	46.7	28.3	8.7	2.2
			低	15	20.0	33.3	26.7	13.3	6.7	6.7	46.7	26.7	13.3	6.7

(6) 生活困難の状況（保護者調査：質問17～21）

世帯収入と世帯人員から機械的に判定される相対的貧困世帯の区分とは異なり、経済的理由による具体的な生活困難の状況の有無に関する指標です。

自尊感情については、生活困難の状況の有無との明確な関連はみられませんが、授業の理解度については、生活困難の状況が「有」の方が肯定的な回答が少なくなっています。全体では相対的貧困世帯と非相対的貧困世帯の差がありますが、非相対的貧困世帯で生活困難の状況が「有」の世帯と、相対的貧困世帯で生活困難の状況が「無」の世帯を比較すると、差がほとんどなくなっています。

■生活困難の状況に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
【生活必需品非所有】 ○次のうち、経済的理由のために、あなたのご家庭にないものはありますか。 お子さんの年齢にあった本や絵本 お子さんのスポーツ用品、おもちゃ、ぬいぐるみ、ゲーム機など 子どもが自宅で勉強できる場所／洗濯機／冷蔵庫／掃除機／電子レンジ 暖房器具(エアコン含む)／冷房器具(エアコン含む) 電話(固定電話、携帯電話、スマートフォンを含む)／お風呂／家族分の寝具(布団など) 急な出費のための貯金または現金(5万円以上) 【ライフライン関係費用等支払い困難】 ○あなたのご家庭では、次のうち、過去1年間に経済的理由のために支払いができなかったことはありますか。 家賃／電気料金／ガス料金 電話料金、通信料金(固定電話、携帯電話、スマートフォンなど) 水道料金／学校、幼稚園、保育所等の遠足、修学旅行、学用品などの費用 学校、幼稚園、保育所等の給食費／公的年金、健康保険料／税金 通勤や通学に使う交通費(バスや電車の運賃など) 【生活必需品購入困難】 ○あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的理由のために家族が必要とする食料(嗜好品は除く)を買えないことがありましたか。 ○あなたのご家庭では、過去1年間に経済的理由のために家族が必要とする衣類(高価な衣服や貴金属・宝飾品は除く)を買えないことがありましたか。 ○あなたのご家庭では、過去1年間に経済的理由のためにお子さんが必要とする文房具や教材(学校指定の制服や靴、部活動の道具)を買えないことがありましたか。	①生活必需品非所有に関する質問について、いずれか1つ以上の項目が回答されている。 ②ライフライン関係費用支払い困難に関する質問についていずれか1つ以上の項目が回答されている。 ③生活必需品購入困難に関する3つの質問のいずれか1つ以上で、「よくあった」または「ときどきあった」と回答されている。 ①～③のいずれかに該当する世帯を、生活困難「有」とし、いずれにも該当しなかった世帯(かつ関連する質問に無回答がなかった世帯)を「無」とした。

■生活困難の状況別にみた子どもの自尊感情と授業の理解度

				N	自分には良いところがあると思うか(%)					学校の授業がよくわかるか(%)				
					そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答・不明	よくわかる	だいたい よくわかる	あまり よくわからない	よくわからない	無回答・不明
生活困難の状況	小学5年生	非相対的貧困世帯	有	64	43.8	35.9	10.9	6.3	3.1	39.1	46.9	9.4	1.6	3.1
			無	698	47.0	38.3	9.5	3.4	1.9	50.4	41.3	4.6	1.0	2.7
		相対的貧困世帯	有	23	39.1	47.8	8.7	4.3	0.0	26.1	43.5	26.1	0.0	4.3
			無	47	44.7	38.3	12.8	2.1	2.1	36.2	48.9	10.6	2.1	2.1
	中学2年生	非相対的貧困世帯	有	84	31.0	46.4	13.1	8.3	1.2	15.5	56.0	21.4	4.8	2.4
			無	661	32.2	40.8	18.3	7.4	1.2	24.5	58.1	13.8	2.4	1.2
		相対的貧困世帯	有	41	24.4	29.3	31.7	12.2	2.4	4.9	43.9	31.7	14.6	4.9
			無	49	32.7	36.7	22.4	8.2	0.0	16.3	53.1	22.4	6.1	2.0

(7) 保護者の進学期待（保護者調査：質問 28）

保護者が子どもにどの程度進学してほしいと考えているかに関する指標です。

自尊感情についても、授業の理解度についても、保護者の進学期待が高い方が肯定的な回答が多くなっています。特に中学2年生の授業の理解度については、保護者の進学期待との関連が特に強くなっており、進学期待による差が、世帯の経済状況による差を大きく上回っています。

■保護者の進学期待に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
○あなたは、お子さんに将来どのくらいまで最終学歴として学ばせたいと思いますか。 中学校／高校／専門学校(高校卒業後に進学) 高等専門学校、短期大学／大学／大学院／その他／わからない	高等教育段階(高等専門学校、短期大学／大学／大学院)を回答したものを「高」、中等教育段階(中学校／高校／専門学校(高校卒業後に進学)を回答したものを「低」とした。

■保護者の進学期待別にみた子どもの自尊感情と授業の理解度

				N	自分には良いところがあると思うか(%)					学校の授業がよくわかるか(%)				
					そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答・不明	よくわかる	よくわかる だいたい	あまり よくわからない	よくわからない	無回答・不明
保護者の進学期待	小学5年生	非相対的貧困世帯	高	572	49.0	36.4	8.9	3.5	2.3	57.3	36.7	3.1	0.3	2.4
			低	172	41.3	41.3	10.5	2.9	4.1	25.0	55.8	10.5	4.7	4.1
		相対的貧困世帯	高	40	52.5	40.0	7.5	0.0	0.0	35.0	55.0	10.0	0.0	0.0
			低	35	37.1	31.4	20.0	5.7	5.7	31.4	37.1	22.9	5.7	2.9
	中学2年生	非相対的貧困世帯	高	533	32.3	43.0	18.0	5.3	1.5	29.8	56.3	10.7	1.5	1.7
			低	190	31.6	35.8	20.0	11.6	1.1	7.9	57.9	26.3	7.9	0.0
		相対的貧困世帯	高	45	26.7	42.2	20.0	11.1	0.0	24.4	51.1	17.8	4.4	2.2
			低	49	30.6	26.5	30.6	10.2	2.0	4.1	40.8	36.7	14.3	4.1

3. 子どもの貧困問題に関する本市の現状と課題について

(1) 経済的な支援について

◆主な調査結果

- ・就学援助について、相対的貧困世帯では、「受けたことがない」と回答した世帯は、小学1年生で約4割、小学5年生、中学2年生で約2割となっています（P30）。
- ・生活保護について、相対的貧困世帯では、受けていると回答した世帯は1割未満となっています（P33）。
- ・生活必需品について、相対的貧困世帯では、3～4割の世帯が経済的な理由で持っていないものがあると回答しています（P35）。また、2～4割の世帯が日常生活に必要な料金等を支払えなかった経験があると回答し（P36）、1～2割の世帯が必要な食料が買えなかった経験がときどき以上あったと回答しています（P37）。
- ・子どもの医療機関の受診等について、相対的貧困世帯では、非相対的貧困世帯の2倍以上の世帯が、病院や診療所を受診した方がよいと思ったのに実際に受診しなかったことがあると回答しています（P40）。その理由として、「時間がなかった」が最も多く、中学2年生では「医療費の支払いが不安だった」も多くなっています（P41）。
- ・子どもにとって将来あると良いと考えられる支援について、相対的貧困世帯とひとり親世帯では、「安い家賃で住める住居」「生活や就学のための給付金や貸付などの経済的援助」といった経済的支援に関する回答が多く（P60）、現在の保護者に必要な支援についても、「住居を探したり、住居の費用を軽減するための支援が受けられること」「一時的に必要な資金が容易に借りられること」といった経済的支援へのニーズが高くなっています（P61）。

◆調査結果に基づく現状と課題

相対的貧困世帯のなかには、生活必需品が不足していたり、ライフライン等の料金の支払い困難、生活必需品の購入困難を経験している世帯が多く存在し、生活を営むうえで経済的に厳しい状況にあることが示されています。また、生活保護を受けている世帯が1割未満であることや、就学援助を受けたことがない世帯、医療費の支払い不安で医療機関の受診困難な世帯が多くなっており、経済的な支援が必要な世帯に十分にいきわたっていない可能性があるため、制度の周知、手続きの簡素化、利用のための支援について検討する必要があります。

また、相対的貧困世帯では、保護者が望む経済的支援のなかでも住居探しや住居の費用軽減への支援が、非相対的貧困世帯と比較して高い割合を示しており、住宅確保への支援の充実が求められています。

検討課題

○住まいの確保の支援

○経済的支援に関する既存制度の周知の徹底、手続きの簡素化、利用支援

(2) 保護者への支援について

◆主な調査結果

- ・保護者の健康状態について、相対的貧困世帯、ひとり親・相対的貧困世帯では、子どもの学年が上がるほど「よい」が少なくなっています（P10）。
- ・相談や緊急時の子どもの預かりなどを援助してくれる人について、相対的貧困世帯とひとり親世帯では、「いない」がやや多くなっています（P11～P13）。
- ・保護者が成人する前の両親との離別や経済的困窮について、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では経験している割合が高く、「親と疎遠になっている（なっていた）」も多くなっています（P14）。
- ・生活費の稼ぎ手について、非相対的貧困世帯では「父親」という回答が9割を超えている一方で、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「母親」が多くなっています（P20）。
- ・母親の就労状況について、ひとり親・相対的貧困世帯では、4～6割が「パート・アルバイト」と回答しているのに対し、ひとり親・非相対的貧困世帯では、4～5割が「正社員、正規職員」と回答しています（P23）。父親については、非相対的貧困世帯では、8割以上が「正社員、正規職員」と回答しています（P24）。
- ・離婚後の養育費について、ひとり親世帯の約6割が「受けたことがない」と回答しています（P34）。
- ・保護者に必要な支援について、相対的貧困世帯とひとり親世帯では、経済的な支援以外では、「離婚や養育費のことなどについて、専門的な相談ができること」「病気や出産、事故などのときに、一時的に子どもを預けられること」が多い傾向にあります（P61）。

◆調査結果に基づく現状と課題

相対的貧困世帯とひとり親世帯では、支援を受けられる人間関係がやや乏しいことが示されています。保護者の親との関係についても、離別・死別や疎遠になっている割合がやや高く、日常的に支援を受けにくく孤立しがちであることが考えられるため、経済的に厳しい状況にある世帯の保護者を孤立させないための取組みが課題と考えられます。

就労面では、生活の稼ぎ手が母親である世帯の多くが非正規雇用であるために、相対的貧困につながっていることが示されており、就職、転職等の情報提供や就労に有利となる資格取得等に対する支援の充実が求められます。あわせて、保護者の就労を支える保育・子育て支援の充実も必要です。

また、養育費については、ひとり親世帯の6割以上が受けていないことから、離婚や養育費に関する相談窓口の充実が課題です。

検討課題

- 経済的に厳しい状況にある世帯の保護者を孤立させないための取組み
- 就労支援の充実と保育・子育て支援の充実
- 離婚、養育費に関する専門的な相談窓口の充実

(3) 子どもの生活の支援について

◆主な調査結果

- ・子どもの普段の生活について、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、朝食を食べている、歯磨きを1日1回以上しているとの回答が少なく（P66～P67）、起床時間、就寝時間については比較的遅くなっています（P65、P69）。また、テレビの視聴やゲームをする時間が比較的長く、勉強する時間が比較的短い傾向にあります（P82～P85）。
- ・子どもの所持品について、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では「自分の部屋」「自分の勉強づくえ」が少なく、「自分の携帯電話、スマートフォン」が多い傾向にあります（P86～P91）。
- ・子どもへの関わりかたについて、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、子どもの食事を作ること、子どもの勉強を見ること、学校生活の話をするなどが少ない傾向にあります（P44～P47）。また、子どもへの関わりかたと子どもの自尊感情や授業の理解度との明確な関連は見られません（P122）が、保護者の教育を重視する意識が高いほど、子どもの授業の理解度について肯定的な回答の割合が高くなっています（P121）。

◆調査結果に基づく現状と課題

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、朝食、歯磨きといった基本的な生活習慣の確立の面でやや課題があると考えられます。また、学習時間が短く、テレビの視聴やゲームの時間が長くなっていることも示されています。加えて、ひとり親世帯では、携帯電話・スマートフォンの所持率が高くなっており、家庭にいる時間が少ない保護者との連絡ツールとして需要が高いことが伺えます。保護者と子どもとの関わりについても、やや少ない傾向があることも示されており、保護者が子どもに関わる時間が十分に取れないため、家庭の教育力が低下していることが考えられます。これらのことから、子ども自身に生活習慣を向上させるための支援や、家庭の教育力を補完する支援が求められます。

検討課題

- 子どもの生活習慣の向上のための支援
- 家庭の教育力の補完のための支援

(4) 学習・進学支援について

◆主な調査結果

- ・学校の授業について、中学2年生の相対的貧困世帯、ひとり親世帯で、理解度が低い子どもが多くなっており(P76)、宿題についても、「している」がやや少なくなっています(P77)。
- ・通塾等について、相対的貧困世帯、ひとり親・相対的貧困世帯では、塾や家庭教師の回答が少なくなっています(P49、P78)。また、通塾等をしている世帯ほど授業の理解度について肯定的な回答が多くなっています(P123)。
- ・進学の希望について、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、保護者、子どもともに「高校まで」が多く、「大学まで」が少なくなっています(P50、P104)。
- ・奨学金や教育ローンの利用希望について、相対的貧困世帯、ひとり親・相対的貧困世帯では、返済義務のない奨学金の回答が多くなっています(P51)。
- ・子どもの就労や親からの独立について、相対的貧困世帯、ひとり親・相対的貧困世帯では、「早く働いてほしい」「早く親から独立してほしい」と考える保護者が多くなっています(P57、P58)。
- ・保護者の進学期待については、家庭の経済状況にかかわらず、高等教育の希望の有無によって子どもの授業の理解度に大きな差が出ています(P127)。

◆調査結果に基づく現状と課題

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、授業の理解度が低い子どもが多くなっています。また、学校を楽しみと思えるかどうかや宿題をしているかどうかなど、学校・学業への前向きな姿勢についても、やや低い傾向があります。進学についても、保護者、子どもともに高等教育を希望することが少なく、また高等教育を希望していない場合には、特に中学2年生で授業の理解度が低くなっています。家庭の状況にかかわらず、学習を保障する学校の取組みには課題があると言えます。

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、経済的に厳しい状況にあることから、通塾等が十分にできないことも、子どもの授業の理解度が低くなる要因の一つだと考えられます。一方で、相対的貧困世帯においても通塾等をしている子どもについては、授業の理解度について肯定的な回答が多くなっており、学校以外の学習支援を受けることで、家庭の経済状況による差を縮めることにつながると考えられます。

奨学金については、相対的貧困世帯では給付型のニーズが高くなっており、給付型の奨学金の拡充も求められます。

検討課題

- 学校教育における家庭環境に左右されない学習保障の取組み
- 学校外での学習支援
- 給付型奨学金の拡充、既存の奨学金の利用支援

（５）多様な体験・経験の場づくりについて

◆主な調査結果

- ・子どもに必要な支援について、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、「安い家賃で住める住居」「生活や就学のための給付金や貸付などの経済的援助」が多い一方、「自然体験や集団遊びなど多様な活動機会の提供」「会社などでの職場体験等の機会の提供」についてはやや少なくなっています（P60）。
- ・部活動の頻度について、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、やや低くなっています（P75）。
- ・文化的な活動や体験について、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、回答が少ない傾向があります（P48、P96）。
- ・子どもの自尊感情（自分には良いところがある）や努力を肯定する姿勢（頑張れば良いことがある）、家族関係（家族は自分を大切にしている）、友人関係（自分は友だちから好かれている）に関する意識について、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では肯定的な回答がやや少なくなっています（P97～P101）。
- ・家庭の経済状況にかかわらず、文化的な活動や体験の多寡と自尊感情には関連が強いことが示されています（P124）。

◆調査結果に基づく現状と課題

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、文化的な活動や体験が全体的に乏しいことが示されています。図書館の利用や地域行事への参加など、経済的な負担を必ずしも伴わないと考えられる活動についても、回答率が低くなっており、経済的な理由以外の背景があると考えられます。一方で、自尊感情をはじめとする子どもの自己肯定の意識もやや低くなっていますが、文化的な活動や体験を多くしている子どもほど、自尊感情が高い傾向が示されています。保護者の意識においては、相対的貧困世帯では経済的な支援のニーズが高く、多様な活動機会や職場体験の機会の提供のニーズはやや低くなっていますが、こうした活動機会の確保も、子どもにとっては重要な支援であることがうかがえます。

経済的に厳しい状況にある世帯が、これらの活動の機会を十分子どもに与えることは、現状では難しいと考えられることから、学校教育・社会教育・子育て支援等の取組みを通じて、多様な体験・経験の場の提供を充実させていくことが求められます。

また、近年注目される子どもの居場所づくりに関する取組みについても、単なる食事の提供だけではなく、こうした多様な体験の場や学習の場、地域における人間関係づくりの場として機能させることができれば、より効果の高い支援になると考えられます。

検討課題

- 子どもが、文化的な活動、学習、地域の世代間交流その他の多様な体験ができる居場所づくり
- 学校をプラットフォームとした地域における子どもを支援するネットワークの構築

(6) ひとり親世帯の支援について

◆主な調査結果

- ・ひとり親世帯の相対的貧困率は、全体で 46.5%となっています。なかでも、母子世帯は 49.2%と、約半数が相対的貧困世帯となっています（P6）。
- ・保護者の帰宅時刻について、ひとり親・相対的貧困世帯では、母親の帰宅時刻は、父親よりも比較的遅い傾向にあります（P27、P28）。
- ・朝食や夕食について、ひとり親世帯の中学2年生では、家庭の経済状況にかかわらず、朝食を摂ることがやや少なく、夕食を子どもだけで摂ることが多くなっています（P66、P68）。
- ・携帯電話・スマートフォンについて、ひとり親世帯の中学2年生では、所持率が高くなっています（P91）。
- ・平日のすごしかたについて、ひとり親世帯の中学2年生では、テレビ・DVD、ゲーム、メール、インターネットに4時間以上費やす子どもが多くなっています（P82～P84）。
- ・家庭の経済状況にかかわらず、ひとり親世帯では、保護者の進学期待が低い傾向があります（P50）。

◆調査結果に基づく現状と課題

ひとり親世帯については、相対的貧困世帯が多く、相対的貧困世帯と共通する課題が多くあることが示されています。そのなかでも、特にひとり親世帯に特有の課題として、家庭における大人の人数が少なく、子どもとの関わりが乏しくなりがちであることや、関連して家庭の教育力が十分に発揮できない環境になりがちであることが考えられます。ひとり親世帯の支援にあたっては、経済的な支援に加え、こうした特有の問題に対応した支援を検討することが課題となります。

また、相対的貧困世帯かどうかにかかわらず、ひとり親世帯では保護者の子どもに対する進学期待が低く、子どもの授業の理解度も低い傾向があり、経済的には一定の水準を確保していたとしても、ひとり親世帯の子どもにとっては困難な状況があることがうかがえます。

検討課題

- ひとり親世帯への経済的支援、就労支援、生活支援
- ひとり親世帯の子どもを対象とした学習・進学支援

（７）貧困の連鎖の複合的な要因について

相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、成人前の貧困の経験等を有する保護者が比較的多くなっており、現在の経済的に厳しい状況の背景として、貧困の連鎖の側面があることがうかがえます。また、本調査の結果を踏まえると、貧困状態が次世代に引き継がれる貧困の連鎖の問題には、経済的な側面だけではなく、家庭の教育・文化的な要因や、人間関係の問題等、複数の相互に関連する要因があると考えられます。

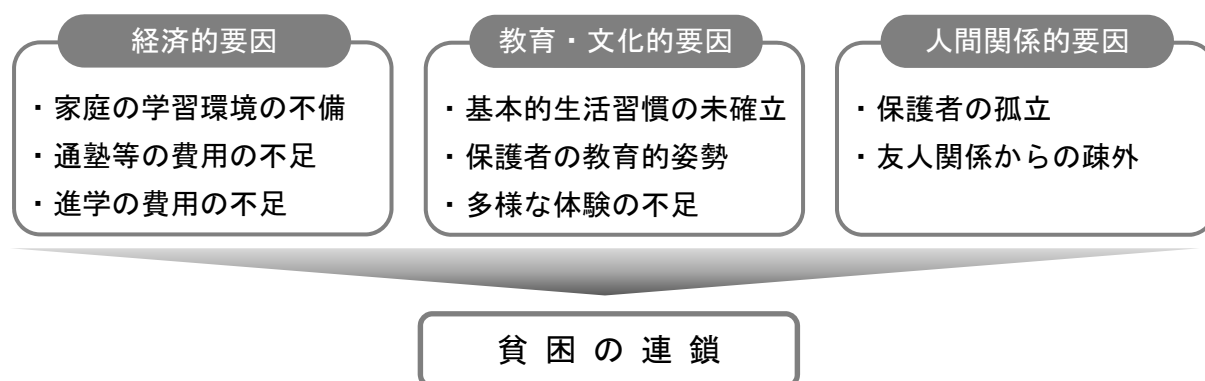
経済面では一般に、家庭での学習環境が十分ではないこと（机や勉強のスペースがない等）、金銭的負担の大きい塾や私立学校、大学に通わせられないことが、将来の所得の格差につながるという連鎖があることがこれまでも指摘されています。本調査においても通塾率や、授業の理解度、勉強づくえの所持率、保護者と子どもの進学希望等において、家庭の経済状況による差が表れています。

次に教育・文化的な要因として、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では、起床・就寝時刻や朝食、歯磨き等の基本的な生活習慣に課題があることが、本調査でも示されています。これは、保護者自身の学歴や、健康状態、就労状況等を背景として、家庭における教育機能が低下していることが要因と考えられます。また、相対的貧困世帯、ひとり親世帯では低くなりがちな、保護者の進学期待や家庭における文化的な経験・体験が、子どもの授業の理解度や自尊感情と関連していることも示されています。一方で、経済的に厳しい状況であっても、保護者が進学期待を高く持つことや、文化的な経験・体験の機会を豊富に持つことで、経済的な不利を克服する可能性も示唆されており、教育・文化的な要因の重要性を示すものとなっています。

人間関係の面では、家庭の貧困を背景として、保護者が社会的に孤立することや、子どもの人間関係が乏しくなることが懸念されます。本調査においても、相対的貧困世帯、ひとり親世帯の保護者について、支援を受けられる人間関係にやや乏しい傾向があることが示されています。

このように、経済的な要因、文化的な要因、人間関係的な要因のそれぞれを考慮することは、貧困の連鎖の問題に取り組むうえで、不可欠であると考えられ、これらの複合的な要因の全体を視野に入れた取組みが課題となります。経済的な支援だけではなく、文化的・教育的支援や人間関係面での支援などに取り組むことで、経済的要因によるマイナスの影響を軽減させることが期待されます。経済的要因だけに視野を限定するのではなく、幅広い観点から支援の充実を図ることが課題です。

■ 貧困の連鎖の要因



加 古 川 市
子どもの生活に関するアンケート調査結果報告書
平成30年3月

加古川市こども部家庭支援課

〒675-8501 加古川市加古川町北在家 2000

電話：079-427-3073

Email: fuk_kodomo@city.kakogawa.lg.jp

